2021年度

経営学研究科
社会科学研究科経営学専攻

授業概要・履修案内

東京都立大学大学院経営学研究科
東京都立大学大学院社会科学研究科

目　　次

Ⅰ　経営学研究科経営学専攻……3

1　博士前期課程……5

（1）経営学プログラム（MBA）……9

（2）経済学プログラム（MEc）……12

（3）ファイナンスプログラム（MF）……15

2　博士後期課程……18

Ⅱ　社会科学研究科経営学専攻……21

1　博士前期課程（高度専門職業人養成プログラム）（MBA）…23

2　博士前期課程（高度金融専門人材養成プログラム）（MF）…27

3　博士後期課程……30

Ⅲ　授業概要……35

1　博士前期課程……35

2　博士後期課程……197

Ⅳ　時間割とkibaco等について……255

Ⅴ　交通機関運休の場合等の授業の取り扱いについて……257

Ⅵ　学生生活の手引き……259

Ⅶ　東京都立大学学位規則（抜粋）……261

Ⅷ　丸の内サテライトキャンパス平面図……266

Ⅰ　経営学研究科経営学専攻

1　博士前期課程

経営学プログラムの科目群

＊表記された科目群は2021年度入学生から適用されます。過年度在学生は各自、入学年度のシラバスに記載された科目群を参照してください。

科目群	授業科目名
A群	経営学 経営組織 ヒューマン･リソース･マネジメント 意思決定 ベンチャービジネス 経営戦略 経営戦略演習 テクノロジー･マネジメント マーケティング･マネジメント マーケティング･サイエンス マネジメント･サイエンスⅠ 統計学基礎 経営分析 管理会計 財務会計
必修	経営学特別演習 研究指導
B群 （一般）	組織行動 マネジメント・サイエンスⅡ 経営数理 ビジネスイノベーション演習 企業経済学 コーポレートファイナンス概論 財務戦略論 経営戦略とリアルオプション 証券投資 ファイナンシャル・プランニング コーポレート・ガバナンス 事業リスクマネジメント タックスマネジメント 経営学特別講義 経営学演習 ミクロ経済学概論 マクロ経済学概論 経済史概論 ゲーム理論 日本経済論 日本経済史 アジア経済史 経済思想史
B群 （経営学 B2）	経営学特別研究 組織理論特別研究・特別演習 ヒューマン・リソース・マネジメント特別研究・特別演習 意思決定特別研究・特別演習 ベンチャービジネス特別研究・特別演習 経営戦略特別研究・特別演習 テクノロジー・マネジメント特別研究・特別演習 マーケティング特別研究・特別演習 マーケティング・サイエンス特別研究・特別演習 統計学特別研究・特別演習 経営科学特別研究・特別演習 企業金融論特別研究・特別演習 会計学特別研究・特別演習 財務会計特別研究・特別演習 管理会計特別研究・特別演習
C群	ミクロ経済学 マクロ経済学 計量経済学 経済数学

科目群	授業科目名
C群	ミクロ経済学演習 マクロ経済学演習 経済史演習 金融論 国際金融論 ミクロ経済学特論 マクロ経済学特論 公共経済学 ミクロ計量経済学 時系列解析 労働経済学 西洋経済史 社会経済史 経済学特別講義 資産運用論 ポートフォリオ理論 実証ファイナンス 債券投資とＡＬＭ オプション理論 期間構造モデル クレジットデリバティブ 上級オプション理論 金融リスク管理概論 市場リスク管理 信用リスク管理 プログラミング基礎 金融数値解法 シミュレーション 確率解析Ⅰ 確率解析Ⅱ 金融における最適化 金融データサイエンス 金融時系列解析 金融経済学 コーポレートファイナンス理論 オプション理論とコーポレートファイナンス アルゴリズム取引 ファイナンス特別講義 金融工学特別講義 経済学特別演習 ファイナンス演習 ファイナンス考究 ミクロ経済学特別研究・特別演習 マクロ経済学特別研究・特別演習 計量経済学特別研究・特別演習 労働経済学特別研究・特別演習 金融論特別研究・特別演習 金融経済学特別研究・特別演習 日本経済論特別研究・特別演習 ゲーム理論特別研究・特別演習 数理統計学特別研究・特別演習 公共経済学特別研究・特別演習 国際金融論特別研究・特別演習 都市環境経済学特別研究・特別演習 財政学特別研究・特別演習 日本経済史特別研究・特別演習 経済思想史特別研究・特別演習 社会経済史特別研究・特別演習 西洋経済史特別研究・特別演習 アジア経済史特別研究・特別演習 金融工学特別研究・特別演習 金融リスク特別研究・特別演習

経済学プログラムの科目群

＊表記された科目群は2021年度入学生から適用されます。過年度在学生は各自、入学年度のシラバスに記載された科目群を参照してください。

科目群	授業科目名
A群	ミクロ経済学 マクロ経済学 計量経済学 経済数学 ミクロ経済学演習 マクロ経済学演習 ミクロ経済学概論 マクロ経済学概論 経済史概論 経済史演習 日本経済史 統計学基礎
必修	経済学特別演習 研究指導
B群 （一般）	金融論 国際金融論 ミクロ経済学特論 マクロ経済学特論 ゲーム理論 公共経済学 日本経済論 ミクロ計量経済学 時系列解析 労働経済学 西洋経済史 アジア経済史 社会経済史 経済思想史 経済学特別講義 企業経済学
B群 （経済学B２）	ミクロ経済学特別研究・特別演習 マクロ経済学特別研究・特別演習 計量経済学特別研究・特別演習 労働経済学特別研究・特別演習 金融論特別研究・特別演習 金融経済学特別研究・特別演習 日本経済論特別研究・特別演習 ゲーム理論特別研究・特別演習 数理統計学特別研究・特別演習 公共経済学特別研究・特別演習 国際金融論特別研究・特別演習 都市環境経済学特別研究・特別演習 財政学特別研究・特別演習 日本経済史特別研究・特別演習 経済思想史特別研究・特別演習 社会経済史特別研究・特別演習 西洋経済史特別研究・特別演習 アジア経済史特別研究・特別演習
C群	経営学 経営組織 ヒューマン・リソース・マネジメント 意思決定 ベンチャービジネス 経営戦略 経営戦略演習 テクノロジー・マネジメント マーケティング・マネジメント マーケティング・サイエンス マネジメント・サイエンスⅠ

科目群	授業科目名
C群	経営分析 管理会計 財務会計 組織行動 マネジメント・サイエンスⅡ 経営数理 ビジネスイノベーション演習 コーポレートファイナンス概論 財務戦略論 経営戦略とリアルオプション 証券投資 経営学特別講義 経営学演習 資産運用論 ポートフォリオ理論 実証ファイナンス 債券投資とＡＬＭ オプション理論 期間構造モデル クレジットデリバティブ 上級オプション理論 金融リスク管理概論 市場リスク管理 信用リスク管理 プログラミング基礎 金融数値解法 シミュレーション 事業リスクマネジメント 確率解析Ⅰ 確率解析Ⅱ 金融における最適化 金融データサイエンス 金融時系列解析 金融経済学 コーポレートファイナンス理論 オプション理論とコーポレートファイナンス アルゴリズム取引 ファイナンシャル・プランニング コーポレート・ガバナンス タックスマネジメント ファイナンス特別講義 金融工学特別講義 経営学特別演習 経営学特別研究 ファイナンス演習 ファイナンス考究 組織理論特別研究・特別演習 ヒューマン・リソース・マネジメント特別研究・特別演習 意思決定特別研究・特別演習 ベンチャービジネス特別研究・特別演習 経営戦略特別研究・特別演習 テクノロジー・マネジメント特別研究・特別演習 マーケティング特別研究・特別演習 マーケティング・サイエンス特別研究・特別演習 統計学特別研究・特別演習 経営科学特別研究・特別演習 企業金融論特別研究・特別演習 会計学特別研究・特別演習 財務会計特別研究・特別演習 管理会計特別研究・特別演習 金融工学特別研究・特別演習 金融リスク特別研究・特別演習

ファイナンスプログラムの科目群

＊表記された科目群は2021年度入学生から適用されます。過年度在学生は各自、入学年度のシラバスに記載された科目群を参照してください。

科目群	授業科目名
A群	資産運用論 ポートフォリオ理論 オプション理論 期間構造モデル 金融リスク管理概論 金融経済学 企業価値論 コーポレートファイナンス理論 確率解析Ⅰ 確率解析Ⅱ 金融数値解法 シミュレーション 金融データサイエンス
必修	ファイナンス演習 ファイナンス考究 研究指導
B群 (一般)	実証ファイナンス 債券投資とＡＬＭ クレジットデリバティブ 上級オプション理論 市場リスク管理 信用リスク管理 オプション理論とコーポレートファイナンス 金融における最適化 プログラミング基礎 金融時系列解析 アルゴリズム取引 ファイナンス特別講義 金融工学特別講義
B群（ファイナンスB2）	金融工学特別研究・特別演習 金融リスク特別研究・特別演習
C群	経営学 経営組織 ヒューマン・リソース・マネジメント 意思決定 ベンチャービジネス 経営戦略 テクノロジー・マネジメント マーケティング・マネジメント マーケティング・サイエンス マネジメント・サイエンスⅠ 管理会計 財務会計 組織行動 マネジメント・サイエンスⅡ ビジネスイノベーション演習 証券投資 経営学特別講義 経営学演習 ミクロ経済学 マクロ経済学 計量経済学 ミクロ経済学演習 マクロ経済学演習 ミクロ経済学概論 マクロ経済学概論 経済史概論 経済史演習 統計学基礎

科目群	授業科目名
C群	金融論 国際金融論 ミクロ経済学特論 マクロ経済学特論 ゲーム理論 公共経済学 日本経済論 ミクロ計量経済学 時系列解析 労働経済学 日本経済史 西洋経済史 アジア経済史 社会経済史 経済思想史 経済学特別講義 企業経済学 事業リスクマネジメント 財務戦略論 コーポレートファイナンス概論 経済数学 経営数理 タックスマネジメント ファイナンシャル・プランニング 経営戦略演習 経営戦略とリアルオプション コーポレート・ガバナンス 経営学特別演習 経済学特別演習 経営学特別研究 組織理論特別研究・特別演習 ヒューマン・リソース・マネジメント特別研究・特別演習 意思決定特別研究・特別演習 ベンチャービジネス特別研究・特別演習 経営戦略特別研究・特別演習 テクノロジー・マネジメント特別研究・特別演習 マーケティング特別研究・特別演習 マーケティング・サイエンス特別研究・特別演習 統計学特別研究・特別演習 経営科学特別研究・特別演習 企業金融論特別研究・特別演習 会計学特別研究・特別演習 財務会計特別研究・特別演習 管理会計特別研究・特別演習 ミクロ経済学特別研究・特別演習 マクロ経済学特別研究・特別演習 計量経済学特別研究・特別演習 労働経済学特別研究・特別演習 金融論特別研究・特別演習 金融経済学特別研究・特別演習 日本経済論特別研究・特別演習 ゲーム理論特別研究・特別演習 数理統計学特別研究・特別演習 公共経済学特別研究・特別演習 国際金融論特別研究・特別演習 都市環境経済学特別研究・特別演習 財政学特別研究・特別演習 日本経済史特別研究・特別演習 経済思想史特別研究・特別演習 社会経済史特別研究・特別演習 西洋経済史特別研究・特別演習 アジア経済史特別研究・特別演習

2021年度丸の内サテライトキャンパス（MBA, MEc, MF）学年暦

	日	月	火	水	木	金	土	行　事　等
4月	28	29	30	31	1	2	3	4月3日　新入生ガイダンス
	4	5	6	7	8	9	10	4月5日　前期・前期Ⅰ　授業開始
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30		4月中～下旬(別途通知)　前期履修申請
5月							1	
	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	5月28日(金)～6月3日(木)　前期Ⅰ　授業終了日(5・6限連続の場合は5限まで)
	30	31						5月28日(金)～6月3日(木)　前期Ⅱ　授業開始日(5・6限連続の場合は6限から)
6月			1	2	3	4	5	
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30				
7月					1	2	3	
	4	5	6	7	8	9	10	7月10日　[MEc][MBA]修士論文等中間審査申請締切
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	7月24日　[MEc][MBA]修士論文等中間審査
	25	26	27	28	29	30	31	7月26日～8月7日(7月29日を除く)　前期補講期間
8月	1	②	③	④	⑤	⑥	⑦	8月10日(火)～9月30日(木)　夏季休業(集中授業期間)
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30	31					
9月				1	2	3	4	
	5	6	7	8	9	10	11	9月11日　[MF]修士論文中間審査申請締切
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	9月24・25日　[MF]修士論文中間審査
	26	27	28	29	30			9月25日　＜9月修了生＞学位授与式
10月						1	2	10月1日　後期・後期Ⅰ　授業開始
	3	4	5	6	7	8	9	10月上～中旬(別途通知)　後期履修申請
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
	31							
11月		1	2	3	4	5	6	
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	11月19日(金)～22日(月)・25日(木)・30日(火)・12月1日(水)　後期Ⅰ　授業終了日(5・6限連続の場合は5限まで)
	21	22	23	24	25	26	27	11月19日(金)～22日(月)・25日(木)・30日(火)・12月1日(水)　後期Ⅱ　授業開始日(5・6限連続の場合は6限から)
	28	29	30					11月下旬～12月上旬　専任教員は入試のため休講日あり(その場合は補講)
12月				1	2	3	4	
	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30	31		12月28日～1月3日　冬季休業
1月							1	
	2	3	4	5	6	7	8	1月4日　後期授業再開
	9	10	11	12	13	14	15	1月11日　修士論文・課題研究論文*(*MBAのみ)提出締切
	16	17	18	19	20	㉑	㉒	1月21・22日、1月27日～2月4日　補講日
	23	24	25	26	㉗	㉘	㉙	
	30	㉛						
2月			①	②	③	④	5	2月5日　修士論文等審査、＜9月修了生＞中間審査
	6	7	8	9	10	11	12	2月5日(土)～3月31日　春季休業(集中講義期間)
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28						
3月			1	2	3	4	5	
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	3月26日　学位記授与式
	27	28	29	30	31			

※ 通常授業日と補講日は白のセル，その他は色付きのセルです。補講日には丸印がついています。
　補講日には別の曜日の授業の補講が入ることもあります。
※ 数字が白抜きの日は休日です。丸の内サテライトキャンパスには入構できません。
※ 変更がある場合は掲示、大学のメール等でお知らせします。必ず所定の掲示板と大学のメールを確認してください。

経営学プログラム（MBA）専任教員一覧

1　専任教員

職	氏　名	研究室	研究室電話（直通）
教　授	浅　野　敬　志	3 階 314	042（677）2329
教　授	桑　田　耕太郎	4 階 415	042（677）2328
教　授	芝　田　隆　志	2 階 231	042（677）2310
教　授	高　尾　義　明	2 階 224	042（677）2314
教　授	竹　田　陽　子	2 階 225	042（677）1829
教　授	長　瀬　勝　彦	4 階 404	042（677）1152
教　授	野　口　昌　良	4 階 418	042（677）2308
教　授	細　海　昌一郎	2 階 233	042（677）2311
教　授	増　山　博　之	4 階 419	042（677）2302
教　授	松　田　千恵子	4 階 406	042（677）2323
教　授	水　越　康　介	2 階 235	042（677）2313
教　授	森　　治　憲	4 階 412	042（677）2325
教　授	山　下　英　明	4 階 413	042（677）2326
准教授	高　橋　勅　徳	3 階 306	042（677）2324
准教授	中　山　厚　穂	4 階 416	042（677）2316
准教授	松　尾　　隆	2 階 236	042（677）1136
准教授	森　口　聡　子	3 階 312	042（677）2321

※ 1　研究室はいずれも南大沢キャンパス 3 号館
※ 2　今年度の授業を担当する教員のみ掲載

2　特任教員

職	氏　名	研究室	研究室電話（直通）
教　授	北　川　哲　雄	—	—

経営学専攻（経営学プログラム）の修了要件

経営学専攻博士前期（修士）課程経営学プログラムを修了するためには、所定の単位を取得したうえで修士論文又は特定の課題についての研究成果（以下「課題研究論文」という）を提出し、最終試験に合格しなければなりません。

学位取得の条件は以下の通りです。修士論文提出者と課題研究論文提出者とでは必要取得単位数が異なるので注意して下さい。

なお、修士論文と課題研究論文の選択は、１年次末に決定される指導教員による指導の過程において行います。

1　修士論文を提出して学位を取得するもの

① A群科目から12単位以上、合計30単位以上を取得
② 経営学特別演習２単位以上及び研究指導４単位（注）を履修し、修士論文を提出

2　課題研究論文を提出して学位を取得するもの

① A群科目から12単位以上、合計36単位以上を取得
② 経営学特別演習２単位以上及び研究指導４単位（注）を履修し、課題研究論文を提出

注．研究指導は半期２単位の計４単位（４単位を超えて履修することはできない）

※ 経営学特別演習（注：経営学演習ではない）及び研究指導は必修科目であり、修了に必要な単位数（合計30単位または36単位）に含まれる。
※ 研究指導は１年次生は履修できない。
※ 一度単位を取得した科目については、再度履修することはできない（研究指導を除く）。

3　専攻に準ずる科目

- 指導教員が教育上有益と認めるときは、10単位を上限として他の研究科の専攻の授業科目又は学部の授業科目を履修し経営学専攻の履修単位に充当することができる。
- 専攻に準ずる科目の履修については、履修前にその科目を担当する教員の許可と経営学研究科教授会の承認を必要とする。

4　科目区分について

必ず、「Ⅲ．授業科目一覧」の**入学年度の授業科目**を参照し、履修に関し不明な点がある場合は、事務担当に相談すること。

経営学プログラム（MBA）授業科目一覧

区分	頁	授業科目名	授業番号	単位	担当教員
A群科目	37, 38	経営学	P0001, P0003	2	桑田 耕太郎
	39	経営組織	P0015	2	高尾 義明
	40	ヒューマン・リソース・マネジメント	P0044	2	初見 康行*
	41	意思決定	P0033	2	長瀬 勝彦
	42	ベンチャービジネス	P0056	2	高橋 勅徳
	43	経営戦略	P0037	2	竹田 陽子
	44	経営戦略演習	P0009	2	松田 千恵子
	45	テクノロジー・マネジメント	P0017	2	松尾 隆
	46	マーケティング・マネジメント	P0006	2	水越 康介
	47	マーケティング・サイエンス	P0004	2	中山 厚穂
	48	マネジメント・サイエンスⅠ	P0018	2	澄田 範奈*
	49	統計学基礎	P0031	2	森 治憲
	50	経営分析	P0012	2	浅野 敬志
	51	管理会計	P0045	2	細海 昌一郎
	52	財務会計	P0049	2	野口 昌良
B群科目	53	組織行動	P0019	2	高尾 義明
	54	マネジメント・サイエンスⅡ	P0034	2	増山 博之
	55	経営数理	P0023	2	山下 英明
	56	ビジネスイノベーション演習	P0039	2	高橋 勅徳
	57	企業経済学	P0026	2	芝田 隆志
	58	コーポレート・ファイナンス概論	P0005	2	中岡 英隆*
	59	財務戦略論	P0008	2	松田 千恵子
	60	経営戦略とリアルオプション	P0002	2	中岡 英隆*
	61	証券投資	P0025	2	坂巻 敏史*
	62	事業リスクマネジメント	P0739	2	吉松 加雄
	63	ファイナンシャルプランニング	P0744	2	橋本 勝則
	64	コーポレート・ガバナンス	P0738	2	北川 哲雄
	65	タックスマネジメント	P0743	2	市野 初芳*
	66	経営学特別講義（戦略経営Ⅰ）	P0054	2	坂本 雅明*
	67	経営学特別講義（企業倫理）	P0032	2	岡本 享二*
	68	経営学特別講義（CSR）	P0035	2	岡本 享二*
	69	経営学特別講義（知的財産法）	P0036	2	溝田 宗司*
	70	経営学特別講義（サステナブル経営と資本市場Ⅰ）	P0087	2	松田・北川・浅野
	71	経営学特別講義（サステナブル経営と資本市場Ⅱ）	P0088	2	松田・北川・浅野
	72	経営学演習（ロジカル・ライティングⅠ）	P0024	2	照屋 華子*
	73	経営学演習（ロジカル・ライティングⅡ）	P0027	2	照屋 華子*
	74	経営学演習（グループ研究Ⅰ）	P0061	2	オムニバス
	75	経営学演習（イノベーション戦略）	P0066	2	竹田 陽子
	115	ミクロ経済学概論	P0206	2	渡辺 隆裕
	116	マクロ経済学概論	P0207	2	宮本 弘暁
	117	経済史概論	P0208	2	岩間・竹内
	123	ゲーム理論	P0211	2	渡辺 隆裕
	124	日本経済論	P0213	2	村田 啓子
	119	日本経済史	P0215	2	小林 延人
	128	アジア経済史	P0217	2	竹内 祐介
	130	経済思想史	P0219	2	高見 典和*
	76, 77	経営学特別研究・組織理論特別演習（＊）	P0500, P0503	2	桑田 耕太郎
	78	組織理論特別研究・特別演習（＊）	P0501, P0502	2	高尾 義明
	79, 80	ヒューマン・リソース・マネジメント特別研究・特別演習（＊）	P0504, P0505	2	初見 康行*
	81	意思決定特別研究・特別演習（＊）	P0506, P0507	2	長瀬 勝彦
	82, 83	ベンチャービジネス特別研究・特別演習（＊）	P0508, P0509	2	高橋 勅徳
	84, 85	経営戦略特別研究・特別演習（＊）	P0510, P0511	2	竹田 陽子
	86	経営戦略特別研究・特別演習（＊）	P0512, P0513	2	松田 千恵子
	87	テクノロジー・マネジメント特別研究・特別演習（＊）	P0514, P0515	2	松尾 隆
	88	マーケティング特別研究・特別演習（＊）	P0516, P0517	2	水越 康介
	89, 90	マーケティング・サイエンス特別研究・特別演習（＊）	P0518, P0519	2	中山 厚穂
	91	統計学特別研究・特別演習（＊）	P0520, P0521	2	森 治憲
	92, 93	経営科学特別研究・特別演習（＊）	P0522, P0523	2	山下 英明
	94, 95	経営科学特別研究・特別演習（＊）	P0524, P0525	2	増山 博之
	96, 97	会計学特別研究・特別演習（＊）	P0530, P0531	2	野口 昌良
	98, 99	財務会計特別研究・特別演習（＊）	P0532, P0533	2	浅野 敬志
	100, 101	管理会計特別研究・特別演習（＊）	P0534, P0535	2	細海 昌一郎
	102	企業金融論 特別研究・特別演習（＊）	P0528, P0529	2	芝田 隆志
必修	103	経営学特別演習（会計学）	P0014	2	浅野・野口・細海
	104	経営学特別演習（マネジメントサイエンス）	P0021	2	増山・芝田・山下・森口
	105	経営学特別演習（ミクロ組織論）	P0022	2	高尾・長瀬
	106	経営学特別演習（マクロ組織論）	P0040	2	桑田・高橋
	107	経営学特別演習（マーケティング）	P0046	2	中山・水越・森
	108	経営学特別演習（経営戦略）	P0047	2	竹田・松尾・松田
		研究指導		2	各教員
C群科目		A群科目・B群科目ならびに必修科目以外の科目（主に経済学プログラム及びファイナンスプログラム提供科目、但し除外科目あり）			

※ 経営学特別演習及び研究指導は必修科目ただし経営学特別演習は原則としてひとつを選択
※ （＊）はB２科目、主に南大沢キャンパスで昼間に開講
※ 今年度の開講科目のみ掲載
※ 経営学プログラムの学生は経営学プログラムのA群から12単位以上、経営学特別演習２単位以上、研究指導４単位を修得しなければならない。
※ *は非常勤講師

経済学プログラム（MEc）専任教員等一覧

1　専任教員

職	氏　名	研究室	研究室電話（直通）
教　授	飯　星　博　邦	2 階 226	042（677）1137
教　授	飯　村　卓　也	2 階 232	042（677）1138
教　授	岩　間　俊　彦	3 階 315	042（677）2317
教　授	田　中　敬　一	3 階 313	042（677）2318
教　授	宮　本　弘　暁	4 階 401	042（677）1815
教　授	村　田　啓　子	4 階 414	042（677）2327
教　授	脇　田　　成	4 階 405	042（677）2307
教　授	渡　辺　隆　裕	4 階 411	042（677）1139
准教授	荒　戸　寛　樹	4 階 403	042（677）2309
准教授	井　澤　　龍	3 階 319	042（677）2291
准教授	小　方　浩　明	3 階 318	042（677）2320
准教授	小　林　延　人	3 階 317	042（677）2319
准教授	竹　内　祐　介	3 階 316	042（677）1151
准教授	松　岡　多利思	2 階 234	042（677）2312
准教授	森　本　脩　平	4 階 417	042（677）2330

※ 1　研究室はいずれも南大沢キャンパス 3 号館
※ 2　今年度の授業を担当する教員のみ掲載

2　兼担教員

職	氏　名	研究室	研究室電話（直通）
教　授	朝　日　ちさと	1 階 107	042（677）3144
准教授	金　子　　憲	1 階 102	042（677）3130

※ 1　研究室はいずれも南大沢キャンパス 2 号館

経営学専攻（経済学プログラム）の修了要件

経営学専攻博士前期課程（経済学プログラム）を修了するためには、以下に定める所定の単位を取得したうえで修士論文を提出し、最終試験に合格しなければなりません。

① 30単位以上を修得しなければならない。
② 経済学プログラムが定めるA群科目から8単位以上、経済学特別演習2単位以上（上限4単位）、研究指導4単位以上（上限6単位）を修得しなければならない。これらは上記の30単位に充当することができる。
③ 上記の30単位に他の研究科の授業科目および学部の授業科目を合計で10単位まで充当することができる。ただし、これらを履修するためには、指導教授が教育上有益と認めたうえで、当該科目の担当教員の許可と経営学研究科教授会の承認が必要である。

※経済学特別演習及び研究指導に関する上限単位数を越えて履修した場合には、その超過単位数は修了要件には充当しない。

経済学プログラム（MEc）授業科目一覧

区分	頁	授業科目名	授業番号	単位	担当教員
A群科目	109	ミクロ経済学	P0200	2	森本脩平
	110	マクロ経済学	P0201	2	松岡多利思
	111	計量経済学	P0202	2	小方浩明
	112	経済数学	P0203	2	田中敬一
	113	ミクロ経済学演習	P0204	2	我妻靖*
	114	マクロ経済学演習	P0205	2	我妻靖*
	115	ミクロ経済学概論	P0206	2	渡辺隆裕
	116	マクロ経済学概論	P0207	2	宮本弘暁
	117	経済史概論	P0208	2	岩間・竹内
	118	経済史演習	P0209	2	岩間・竹内
	119	日本経済史	P0215	2	小林延人
	49	統計学基礎	P0031	2	森治憲
	120	国際金融論	P0224	2	荒戸宏樹
	121	ミクロ経済学特論	P0225	2	飯村卓也
	122	マクロ経済学特論	P0210	2	脇田成
	123	ゲーム理論	P0211	2	渡辺隆裕
	124	日本経済論	P0213	2	村田啓子
	125	ミクロ計量経済学	P0226	2	飯星博邦
	126	労働経済学	P0245	2	宮本弘暁
	127	西洋経済史	P0216	2	井澤龍
	128	アジア経済史	P0217	2	竹内祐介
	129	社会経済史	P0218	2	岩間俊彦
	130	経済思想史	P0219	2	高見典和*
	57	企業経済学	P0026	2	芝田隆志
	131	ミクロ経済学特別研究・特別演習（＊）	P0536, P0537	2	飯村卓也
	132, 133	マクロ経済学特別研究・特別演習（＊）	P0538, P0539	2	脇田成
	134, 135	計量経済学特別研究・特別演習（＊）	P0540, P0541	2	飯星博邦
	136, 137	金融論特別研究・特別演習（＊）	P0542, P0543	2	松岡多利思
	138	金融経済学特別研究・特別演習（＊）	P0544, P0545	2	田中敬一
	139	日本経済論特別研究・特別演習（＊）	P0546, P0547	2	村田啓子
	140, 141	ゲーム理論特別研究・特別演習（＊）	P0548, P0549	2	渡辺隆裕
	142	数理統計学特別研究・特別演習（＊）	P0550, P0551	2	小方浩明
	143	公共経済学特別研究・特別演習（＊）	P0552, P0553	2	森本脩平
	144, 145	国際金融論特別研究・特別演習（＊）	P0554, P0555	2	荒戸寛樹
	146, 147	都市環境経済学特別研究・特別演習（＊）	P0556, P0557	2	朝日ちさと
	148	財政学特別研究・特別演習（＊）	P0558, P0559	2	金子憲
	149, 150	労働経済学特別研究・特別演習（＊）	P0243, P0244	2	宮本弘暁
	151, 152	日本経済史特別研究・特別演習（＊）	P0560, P0561	2	小林延人
	153, 154	社会経済史特別研究・特別演習（＊）	P0575, P0576	2	岩間俊彦
	155, 156	西洋経済史特別研究・特別演習（＊）	P0564, P0565	2	井澤龍
	157, 158	アジア経済史特別研究・特別演習（＊）	P0566, P0567	2	竹内祐介
必修	159	経済学特別演習（マクロ経済学）	P0220	2	村田・脇田・荒戸・松岡
	160	経済学特別演習（ミクロ経済学）	P0221	2	飯村・渡辺・森本
	161	経済学特別演習（計量経済学）	P0222	2	飯星・田中・宮本・小方
	162	経済学特別演習（経済史）	P0223	2	岩間・井澤・小林・竹内
		研究指導		2	各教員
C群科目		A群科目・B群科目ならびに必修科目以外の科目（主に経営学プログラム及びファイナンスプログラム提供科目、但し除外科目あり）			

※　経済学特別演習及び研究指導は必修科目ただし経済学特別演習は原則としてひとつを選択
※　（＊）はB２科目、主に南大沢キャンパスで昼間に開講
※　経済学プログラムの学生は、経済学プログラムのA群科目から８単位以上、経済学特別演習２単位以上（上限４単位）を修得しなければならない。ただし経済学特別演習及び研究指導に関する上限単位数を超えて履修した場合には、その超過単位数は修了要件に充当しない。
※　* は非常勤講師

ファイナンスプログラム（MF）専任教員等一覧

1　専任教員

職	氏　名	研究室	研究室電話（直通）
教　授	浅　野　敬　志	南　3階314	042（677）2329
教　授	足　立　高　徳	研究室03	03（6268）0542
教　授	内　山　朋　規	南　2階237	042（677）2315
教　授	芝　田　隆　志	南　2階231	042（677）2310
教　授	室　町　幸　雄	南　2階223	042（677）2306
教　授	吉　羽　要　直	研究室04	03（6268）0549
准教授	竹　原　浩　太	研究室02	03（6268）0532
准教授	八　木　恭　子	研究室01	03（6268）0529

※南は南大沢キャンパス3号館

2　特任教員

職	氏　名	研究室	研究室電話（直通）
教　授	新　井　富　雄	−	−
教　授	加　藤　康　之	−	−
教　授	高　橋　大　志	−	−
教　授	橋　本　勝　則	−	−
教　授	原　　千　秋	−	−
教　授	林　　高　樹	−	−
教　授	吉　松　加　雄	−	−

経営学専攻（ファイナンスプログラム）修了要件

経営学専攻博士前期課程（ファイナンスプログラム）を修了するためには、次のとおり所定の単位を取得したうえで修士論文を提出し、最終試験に合格しなければなりません。

① A群科目から12単位以上取得
② ファイナンス演習２単位、ファイナンス考究２単位及び研究指導４単位（注１）をすべて取得
③ 合計30単位以上を取得
④ ①～③を満たした上で、修士論文を提出し、最終試験に合格すること

注１．研究指導は、半期２単位の計４単位を取得する必要があります。また研究指導及びファイナンス考究は２年次生のみ履修することができます。

1　専攻に準ずる科目

専攻に準ずる科目とは他の専攻の科目を履修することで、10単位までを経営学専攻の単位に加えることができます。

専攻に準ずる科目の履修については、履修前にその科目を担当する教員の許可と経営学研究科教授会の承認が必要となります。

履修登録にあたっては､掲示板等で案内します。指導教員(一年次生はプログラムディレクター）に相談の上、別途定められた期間内に、事務室に所定の申請書を提出して下さい。

2　科目区分について

科目区分については**入学年度の授業科目**を参照し、履修に関し疑問がある場合は、事務担当に相談して下さい。

ファイナンスプログラム（MF）授業科目一覧

区分	頁	授業科目名	授業番号	単位	担当教員
A群科目	163	資産運用論	P0701	2	加藤康之
	164	ポートフォリオ理論	P0702	2	内山朋規
	165	オプション理論	P0705	2	竹原浩太
	166	期間構造モデル	P0706	2	室町幸雄
	167	金融リスク管理概論	P0709	2	吉羽要直
	168	金融経済学	P0720	2	原千秋
	169	企業価値論	P0736	2	浅野敬志
	170	コーポレートファイナンス理論	P0751	2	新井富雄
	171	確率解析Ⅰ	P0715	2	足立高徳
	172	確率解析Ⅱ	P0716	2	足立高徳
	173	金融数値解法	P0713	2	八木恭子
	174	シミュレーション	P0714	2	八木恭子
	175	金融データサイエンス	P0718	2	林高樹
B群科目	176	実証ファイナンス	P0703	2	内山朋規
	177	債券投資とＡＬＭ	P0704	2	市川達夫*
	178	クレジットデリバティブ	P0707	2	竹原浩太
	179	上級オプション理論	P0708	2	竹原浩太
	180	市場リスク管理	P0710	2	吉羽要直
	181	信用リスク管理	P0711	2	室町幸雄
	182	オプション理論とコーポレートファイナンス	P0721	2	芝田隆志
	183	金融における最適化	P0717	2	吉羽要直
	184	プログラミング基礎	P0712	2	八木恭子
	185	金融時系列解析	P0719	2	林高樹
	186	アルゴリズム取引	P0737	2	足立高徳
	187	ファイナンス特別講義 （証券市場の均衡分析）	P0722	2	原千秋
	188	ファイナンス特別講義 （Bloombergを活用した定量分析）	P0725	2	内山・竹原・室町
	189	ファイナンス特別講義 （金融市場の先端的諸問題）	P0727	2	内山・芝田・室町
	190	ファイナンス特別講義（機械学習）	P0753	2	高橋大志
	191	ファイナンス特別講義（ファイナンス数学）	P0752	2	今井悠人*
	192	金融工学特別研究・特別演習（＊）	P0568,P0569	2	内山朋規
	193	金融リスク特別研究・特別演習（＊）	P0570,P0571	2	室町幸雄
必修	194	ファイナンス演習	P0729	2	浅野・足立・内山・芝田・竹原・室町・八木・吉羽
	195	ファイナンス考究	P0731	2	足立・内山・竹原・室町・八木・吉羽
		研究指導		2	各教員
C群科目	Ａ群科目・Ｂ群科目ならびに必修科目以外の科目（主に経営学プログラム及び経済学プログラム提供科目、但し除外科目あり）				

※　今年度の開講科目のみ掲載
※　（＊）Ｂ２科目、主に南大沢キャンパスで昼間に開講
※　ファイナンスプログラムの学生は、ファイナンスプログラムのＡ群科目から12単位以上、ファイナンス演習２単位、ファイナンス考究２単位、研究指導４単位を修得しなければならない。
※　*は非常勤講師

2　博士後期課程

博士後期課程 2021年度学年暦

入　学　式		4月4日（日）
前期	授業開始	4月7日（水）
	定期健康診断	4月下旬（予定）
	博士学位申請受付（課程博士論文提出）	5月10日（月）
	＊対大阪府立大学定期戦	7月3日（土）～7月4日（日）
	＊夏季休業	7月23日（金）～9月30日（木）
	博士後期課程9月修了者学位授与	後日連絡
後期	授業開始	10月1日（金）
	博士学位申請受付（課程博士論文提出）	10月29日（金）
	＊大学祭（準備・片付を含む）	11月1日（月）～11月4日（木）
	＊冬季授業	12月27日（月）～1月3日（月）
	授業再開	1月4日（火）
	授業終了	2月10日（木）
	＊春季休業	2月11日（金）～3月31日（木）
学位授与式		未　定

注記　＊対大阪府立大学定期戦エール交換日および当日は休講（南大沢キャンパス）
　　＊大学祭期間中は休講（南大沢キャンパス）
　　＊大学入学共通テスト試験の前日および当日は休講（南大沢キャンパス）

博士後期課程修了要件

修了には以下の要件をすべて満たさなければならない。

（a）3年間の在学期間を満たすこと
（b）博士後期課程の授業科目について20単位以上修得すること
（c）「博士候補者（Candidate）」の資格を得ること
（d）学位論文を提出し、最終試験に合格すること

※「博士候補者（Candidate）」の資格等については、詳しくは新入生向け冊子を参照のこと。

博士後期課程教員及び研究分野一覧

◇経営学専攻

浅野　敬志	財務会計論
朝日ちさと	政策評価研究
足立　高徳	数理ファイナンス
飯星　博邦	計量経済学
飯村　卓也	ミクロ経済学
岩間　俊彦	社会経済史
内山　朋規	ファイナンス
桑田耕太郎	経営学
芝田　隆志	ファイナンス工学
高尾　義明	経営学
竹田　陽子	経営戦略論
田中　敬一	数理ファイナンス
長瀬　勝彦	意思決定論
野口　昌良	財務会計論
細海昌一郎	管理会計論
松田千恵子	経営・財務戦略、資本市場論
増山　博之	経営科学
水越　康介	マーケティングマネジメント
宮本　弘暁	労働経済学
村田　啓子	日本経済論
室町　幸雄	金融リスク管理
森　　治憲	統計学
山下　英明	経営科学
吉羽　要直	金融データサイエンス
脇田　　成	理論経済学
渡辺　隆裕	ゲーム理論
荒戸　寛樹	マクロ経済学
井澤　　龍	西洋経済史
小方　浩明	統計学
金子　　憲	財政学
小林　延人	日本経済史
高橋　勅徳	ベンチャービジネス論
竹内　祐介	アジア経済史
竹原　浩太	金融工学
中山　厚穂	マーケティング・サイエンス
西村　孝史	経営学
松尾　　隆	経営戦略論
松岡多利思	理論経済学
森口　聡子	経営科学
森本　脩平	公共経済学
八木　恭子	金融工学

博士後期課程授業科目一覧

頁	授業科目名	授業番号	単位	担当教員
199	経営学特殊研究	P0401	2	桑田耕太郎
200	経営学特殊演習	P0402	2	桑田耕太郎
201	組織理論特殊研究	P0403	2	高尾義明
201	組織理論特殊演習	P0404	2	高尾義明
202	意思決定特殊研究	P0407	2	長瀬勝彦
202	意思決定特殊演習	P0408	2	長瀬勝彦
203	ベンチャービジネス特別研究	P0409	2	高橋勅徳
204	ベンチャービジネス特別演習	P0410	2	高橋勅徳
205	経営戦略特殊研究	P0411	2	竹田陽子
205	経営戦略特殊演習	P0412	2	竹田陽子
206	経営戦略特殊研究	P0413	2	松田千恵子
206	経営戦略特殊演習	P0414	2	松田千恵子
207	マーケティング・サイエンス特殊研究	P0419	2	中山厚穂
208	マーケティング・サイエンス特殊演習	P0420	2	中山厚穂
209	テクノロジー・マネジメント特別研究	P0415	2	松尾隆
209	テクノロジー・マネジメント特別演習	P0416	2	松尾隆
210	マーケティング特別研究	P0417	2	水越康介
210	マーケティング特別演習	P0418	2	水越康介
211	統計学特殊研究	P0421	2	森治憲
211	統計学特殊演習	P0422	2	森治憲
212	経営科学特殊研究	P0423	2	山下英明
213	経営科学特殊演習	P0424	2	山下英明
214	経営科学特殊研究	P0425	2	増山博之
215	経営科学特殊研究	P0426	2	増山博之
216	会計学特殊研究	P0431	2	野口昌良
217	会計学特殊演習	P0432	2	野口昌良
218	財務会計特殊研究	P0433	2	浅野敬志
219	財務会計特殊演習	P0434	2	浅野敬志
220	管理会計特殊研究	P0435	2	細海昌一郎
221	管理会計特殊演習	P0436	2	細海昌一郎
222	ミクロ経済学特殊研究	P0437	2	飯村卓也
222	ミクロ経済学特殊演習	P0438	2	飯村卓也
223	マクロ経済学特殊研究	P0439	2	脇田成
224	マクロ経済学特殊演習	P0440	2	脇田成
225	計量経済学特殊研究	P0441	2	飯星博邦
226	計量経済学特殊演習	P0442	2	飯星博邦
227	金融経済学特殊研究	P0445	2	田中敬一
227	金融経済学特殊演習	P0446	2	田中敬一
228	日本経済論特殊研究	P0447	2	村田啓子
228	日本経済論特殊演習	P0448	2	村田啓子
229	ゲーム理論特殊研究	P0449	2	渡辺隆裕
230	ゲーム理論特殊演習	P0450	2	渡辺隆裕
231	労働経済学特殊研究	P0801	2	宮本弘暁
232	労働経済学特殊演習	P0802	2	宮本弘暁
233	数理統計学特殊研究	P0451	2	小方浩明
233	数理統計学特殊演習	P0452	2	小方浩明
234	公共経済特殊研究	P0453	2	森本脩平
234	公共経済特殊演習	P0454	2	森本脩平
235	国際金融特殊研究	P0455	2	荒戸寛樹
236	国際金融特殊演習	P0456	2	荒戸寛樹
237	都市研究経済学特殊研究	P0457	2	朝日ちさと
237	都市研究経済学特殊演習	P0458	2	朝日ちさと
238	財政学特殊研究	P0459	2	金子憲
238	財政学特殊演習	P0460	2	金子憲
239	日本経済史特殊研究	P0461	2	小林延人
240	日本経済史特殊演習	P0462	2	小林延人
241	アジア経済史特殊研究	P0467	2	竹内祐介
242	アジア経済史特殊演習	P0468	2	竹内祐介
243	金融工学特殊研究	P0469	2	内山朋規
243	金融工学特殊演習	P0470	2	内山朋規
244	金融リスク特殊研究	P0471	2	室町幸雄
244	金融リスク特殊演習	P0472	2	室町幸雄
245	金融リスク特殊研究	P0840	2	吉羽要直
245	金融リスク特殊演習	P0841	2	吉羽要直
246	オプション理論特殊研究	P0473	2	竹原浩太
246	オプション理論特殊演習	P0474	2	竹原浩太
247	社会経済史特別研究	P0838	2	岩間俊彦
248	社会経済史特別演習	P0839	2	岩間俊彦
249	西洋経済史特殊研究	P0465	2	井澤龍
250	西洋経済史特殊演習	P0466	2	井澤龍
251	金融論特殊研究	P0443	2	松岡多利思
251	金融論特殊演習	P0444	2	松岡多利思
252	企業金融論特殊研究	P0429	2	芝田隆志
252	企業金融論特殊演習	P0430	2	芝田隆志
253	数理ファイナンス特殊研究	P0478	2	足立高徳
253	数理ファイナンス特殊演習	P0479	2	足立高徳
254	金融数値解析法特殊研究	P0475	2	八木恭子
254	金融数値解析法特殊演習	P0476	2	八木恭子

※　今年度の開講科目のみ掲載

Ⅱ　社会科学研究科経営学専攻

II

1　博士前期課程

高度専門職業人養成プログラム専任教員一覧

1　専任教員

職	氏　名	研究室	研究室電話（直通）
教　授	浅　野　敬　志	3 階 314	042（677）2329
教　授	桑　田　耕太郎	4 階 415	042（677）2328
教　授	芝　田　隆　志	2 階 231	042（677）2310
教　授	高　尾　義　明	2 階 224	042（677）2314
教　授	竹　田　陽　子	2 階 225	042（677）1829
教　授	長　瀬　勝　彦	4 階 404	042（677）1152
教　授	野　口　昌　良	4 階 418	042（677）2308
教　授	細　海　昌一郎	2 階 233	042（677）2311
教　授	増　山　博　之	2 階 227	
教　授	松　田　千恵子	4 階 406	042（677）2323
教　授	水　越　康　介	2 階 235	042（677）2313
教　授	森　　治　憲	4 階 412	042（677）2325
教　授	山　下　英　明	4 階 413	042（677）2326
准教授	高　橋　勅　徳	3 階 306	042（677）2324
准教授	中　山　厚　穂	4 階 416	042（677）2316
准教授	松　尾　　隆	2 階 236	042（677）1136
准教授	森　口　聡　子	3 階 312	042（677）2321

※1　研究室はいずれも南大沢キャンパス 3 号館
※2　今年度の授業を担当する教員のみ掲載

2　特任教員

職	氏　名	研究室	研究室電話（直通）
教　授	北　川　哲　雄	—	—

経営学専攻（高度専門職業人養成プログラム）の修了要件

経営学専攻博士前期（修士）課程高度専門職業人養成プログラムを修了するためには、所定の単位を取得したうえで修士論文又は特定の課題についての研究成果（以下「課題研究論文」という）を提出し、最終試験に合格しなければなりません。

学位取得の条件は以下の通りです。修士論文提出者と課題研究論文提出者とでは必要取得単位数が異なるので注意して下さい。

なお、修士論文と課題研究論文の選択は、１年次末に決定される指導教員による指導の過程において行います。

1　修士論文を提出して学位を取得するもの

① 第Ⅰ群科目から12単位以上、合計30単位以上を取得
② 経営学特別演習２単位以上及び研究指導４単位（注１）を履修し、修士論文を提出
③ 第Ⅲ群科目（注２）を８単位まで含めることができる。

2　課題研究論文を提出して学位を取得するもの

① 第Ⅰ群科目から12単位以上、合計36単位以上を取得
② 経営学特別演習２単位以上及び研究指導４単位（注１）を履修し、課題研究論文を提出
③ 第Ⅲ群科目（注２）を８単位まで含めることができる。

注１．研究指導は半期２単位の計４単位
平成28年度入学生から研究指導は４単位を履修上限とする。

２．第Ⅲ群科目とは、以下の科目をさす。
・マクロ経済学
・高度金融専門人材養成プログラム開講科目(但しファイナンス特別講義(コーポレートファイナンス)、ファイナンス演習、ファイナンス考究、研究指導は除く)
・研究者養成プログラム（南大沢キャンパス）開講科目（但し研究指導は除く）
・経営学研究科経済学プログラム開講科目（但し経済学特別演習、研究指導は除く）

※ 経営学特別演習（注：経営学演習でない）及び研究指導は必修科目であり、修了に必要な単位数（合計30単位または36単位）に含まれる。
※ 研究指導は１年次生は履修できない。
※ 一度単位を取得した科目については、再度履修することはできない（研究指導を除く)。

3　専攻に準ずる科目

- 専攻に準ずる科目とは他の専攻の科目であり、10単位を上限として経営学専攻の単位に加えることができる。
- 専攻に準ずる科目の履修については、履修前にその科目を担当する教員の許可と社会科学研究科教授会の承認を必要とする。

4　科目区分について

必ず、「Ⅲ．授業概要」の**入学年度の授業科目**を参照し、履修に関し不明な点がある場合は、事務担当に相談すること。

高度専門職業人養成プログラム用授業科目一覧

区分	頁	授業科目名	授業番号	単位	担当教員
第Ⅰ群科目	37	経営学特論	P003	2	桑田 耕太郎
	43	経営戦略特論	P037	2	竹田 陽子
	44	経営戦略特別演習	P009	2	松田 千恵子
	39	経営組織特論	P015	2	高尾 義明
	41	意思決定特論	P033	2	長瀬 勝彦
	45	テクノロジー・マネジメント特論	P017	2	松尾 隆
	58	コーポレート・ファイナンス特論	P005	2	中岡 英隆*
	48	マネジメント・サイエンス特論Ⅰ	P018	2	澄田 範奈*
	46	マーケティング・マネジメント特論	P006	2	水越 康介
	47	マーケティング・サイエンス特論	P004	2	中山 厚穂
	57	企業経済学基礎特論	P026	2	芝田 隆志
	50	経営分析特論	P012	2	浅野 敬志
	51	管理会計特論	P045	2	細海 昌一郎
	53	財務会計特論	P049	2	野口 昌良
	61	証券投資特論	P025	2	坂巻 敏史*
	49	経営データ分析特論	P031	2	森 治憲
第Ⅱ群科目	53	組織行動特論	P019	2	高尾 義明
	40	ヒューマン・リソース・マネジメント特論	P044	2	初見 康行*
	42	ベンチャービジネス特論	P056	2	高橋 勅徳
	56	ビジネスイノベーション特別演習	P039	2	高橋 勅徳
	54	マネジメント・サイエンス特論Ⅱ	P034	2	山下 英明
	64	コーポレート・ガバナンス	P738	2	北川 哲雄
	55	経営数理特論	P023	2	山下 英明
	62	事業リスクマネジメント	P739	2	吉松 加雄
	72	ロジカル・ライティングⅠ	P024	2	照屋 華子*
	73	ロジカル・ライティングⅡ	P027	2	照屋 華子*
	70	経営学演習（サスティナブル経営と資本市場Ⅰ）	P087	2	松田・北川
	71	経営学演習（サスティナブル経営と資本市場Ⅱ）	P088	2	松田・北川・浅野
	74	経営学演習（グループ研究Ⅰ）	P061	2	高尾 義明
	59	経営学演習（財務戦略）	P008	2	松田 千恵子
	69	経営学演習（知的財産法）	P036	2	溝田 宗司*
	60	経営学演習（経営戦略とリアルオプション）	P002	2	中岡 英隆*
	67	経営学演習（企業倫理）	P032	2	岡本 享二*
	68	経営学演習（CSR特論）	P035	2	岡本 享二*
	66	経営学演習（戦略経営Ⅰ）	P054	2	坂本 雅明*
	75	経営学演習（イノベーション戦略）	P066	2	竹田 陽子
	103～108	経営学特別演習		2	各教員
		研究指導		2	各教員
第Ⅲ群科目		研究者養成プログラム（南大沢キャンパス）、高度金融専門人材養成プログラム及び経済学プログラム開講科目、但し除外科目あり			

※　経営学特別演習及び研究指導は必修科目
※　今年度の開講科目のみ掲載
※　*は非常勤講師

2　博士前期課程

高度金融専門人材養成プログラム専任教員等一覧

1　専任教員

職	氏　名	研究室	研究室電話（直通）
教　授	浅　野　敬　志	南　3 階314	042（677）2329
教　授	足　立　高　徳	研究室03	03（6268）0542
教　授	内　山　朋　規	南　2 階237	042（677）2315
教　授	芝　田　隆　志	南　2 階231	042（677）2310
教　授	室　町　幸　雄	南　2 階223	042（677）2306
教　授	吉　羽　要　直	研究室04	03（6268）0549
准教授	竹　原　浩　太	研究室02	03（6268）0532
准教授	八　木　恭　子	研究室01	03（6268）0529

※南は南大沢キャンパス 3 号館

2　特任教員

職	氏　名	研究室	研究室電話（直通）
教　授	新　井　富　雄	−	−
教　授	加　藤　康　之	−	−
教　授	高　橋　大　志	−	−
教　授	橋　本　勝　則	−	−
教　授	原　　千　秋	−	−
教　授	林　　高　樹	−	−
教　授	吉　松　加　雄	−	−

経営学専攻（高度金融専門人材養成プログラム）修了要件

経営学専攻博士前期課程（高度金融専門人材養成プログラム）を修了するためには、次のとおり所定の単位を取得したうえで修士論文を提出し、最終試験に合格しなければなりません。

① 第Ⅰ群科目から12単位以上取得
② ファイナンス演習２単位、ファイナンス考究２単位及び研究指導４単位（注１）をすべて取得
③ 合計30単位以上を取得（注２）
④ ①～③を満たした上で、修士論文を提出し、最終試験に合格すること

注１．研究指導は、半期２単位の計４単位を取得する必要があります。また研究指導及びファイナンス考究は２年次生のみ履修することができます。
注２．第Ⅲ群科目を８単位まで含めることができます。第Ⅲ群科目は、「高度専門職業人養成プログラム」開講科目のうち、経営学特別演習と研究指導を除いたものです。

1　専攻に準ずる科目

専攻に準ずる科目とは他の専攻の科目を履修することで、10単位までを経営学専攻の単位に加えることができます。

専攻に準ずる科目の履修については、履修前にその科目を担当する教員の許可と社会科学研究科教授会の承認が必要となります。

履修登録にあたっては、掲示板等で案内します。指導教員（一年次生はプログラムディレクター）に相談の上、別途定められた期間内に、事務室に所定の申請書を提出して下さい。

2　科目区分について

科目区分については**入学年度の授業科目**を参照し、履修に関し疑問がある場合は、事務担当に相談して下さい。

高度金融専門人材養成プログラム用授業科目一覧

区分	頁	授業科目名	授業番号	単位	担当教員
第Ⅰ群科目	163	資産運用論	P701	2	加藤康之
	164	ポートフォリオ理論	P702	2	内山朋規
	176	実証ファイナンス	P703	2	内山朋規
	177	債券投資とＡＬＭ	P704	2	市川達夫*
	165	オプション理論	P705	2	竹原浩太
	166	期間構造モデル	P706	2	室町幸雄
	178	クレジットデリバティブ	P707	2	竹原浩太
	179	上級オプション理論	P708	2	竹原浩太
	167	金融リスク管理概論	P709	2	吉羽要直
	180	マーケットリスク管理	P710	2	吉羽要直
	181	信用リスク管理	P711	2	室町幸雄
	50	経営分析特論	P012	2	浅野敬志
	59	経営学演習（財務戦略）	P008	2	松田千恵子
	62	事業リスクマネジメント	P739	2	吉松加雄
	184	プログラミング基礎	P712	2	八木恭子
	173	金融数値解法	P713	2	八木恭子
	174	シミュレーション	P714	2	八木恭子
第Ⅱ群科目	171	確率解析	P715	2	足立高徳
	172	上級確率解析	P716	2	足立高徳
	183	金融における最適化	P717	2	吉羽要直
	175	金融データサイエンス	P718	2	林　高樹
	185	金融時系列解析	P719	2	林　高樹
	186	アルゴリズム取引	P737	2	足立高徳
	168	金融経済学	P720	2	原　千秋
	182	ファイナンス特別講義(コーポレートファイナンス)	P721	2	芝田隆志
	60	経営学演習（経営戦略とリアルオプション）	P002	2	中岡英隆*
	63	ファイナンシャル・プランニング	P744	2	橋本勝則
	64	コーポレート・ガバナンス	P738	2	北川哲雄
	65	タックスマネジメント	P743	2	市野初芳*
	187	ファイナンス特別講義(証券市場の均衡分析)	P722	2	原　千秋
	188	ファイナンス特別講義 (Bloombergを活用した定量分析)	P725	2	内山・竹原・室町
	192	金融工学特別講義・特別講義（＊）	P548, P549	2	内山朋規
	193	金融リスク特別講義・特別講義（＊）	P511, P512	2	室町幸雄
必修	194	ファイナンス演習	P729	2	浅野・足立・内山・芝田・竹原・室町・八木・吉羽
	195	ファイナンス考究	P731	2	足立・内山・竹原・室町・八木・吉羽
		研究指導		2	各教員
第Ⅲ群科目		第Ⅰ群科目・第Ⅱ群科目ならびに必修科目以外の科目（主に高度専門職業人養成プログラム提供科目、但し除外科目あり）			

※　今年度の開講科目のみ掲載
※　社会科学研究科の「経営分析特論」「経営学演習（財務戦略）」「経営学演習（経営戦略とリアルオプション）」はそれぞれ経営学研究科の「企業価値論」「財務戦略論」「経営戦略とリアルオプション」に該当します。
※　（＊）Ｂ２科目、主に南大沢キャンパスで昼間に開講
※　高度金融専門人材養成プログラムの学生は、高度金融専門人材養成プログラムの第Ⅰ群科目から12単位以上、ファイナンス演習２単位、ファイナンス考究２単位、研究指導４単位を修得しなければならない。
※　* は非常勤講師

3　博士後期課程

社会科学研究科経営学専攻
博士後期課程2021年度学年暦

入　学　式		4月4日（日）
前期	授業開始	4月7日（水）
	定期健康診断	4月下旬（予定）
	博士学位申請受付（課程博士論文提出）	**後日連絡**
	＊対大阪府立大学定期戦	7月3日（土）～7月4日（日）
	＊夏季休業	7月23日（金）～9月30日（木）
	博士後期課程9月修了者学位授与	後日連絡
後期	授業開始	10月1日（金）
	博士学位申請受付（課程博士論文提出）	**後日連絡**
	＊大学祭（準備・片付を含む）	11月1日（月）～11月4日（木）
	＊冬季休業	12月27日（月）～1月3日（月）
	授業再開	1月4日（火）
	授業終了	2月10日（木）
	＊春季休業	2月11日（金）～3月31日（木）
学位授与式		未　定

注記　＊対大阪府立大学定期戦エール交換日および当日は休講（南大沢キャンパス）
＊大学祭期間中は休講（南大沢キャンパス）
＊大学入学共通テストの前日および当日は休講（南大沢キャンパス）

研究者養成プログラム教員及び研究分野一覧

◇経営学専攻

浅野　敬志	財務会計論
朝日ちさと	政策評価研究
足立　高徳	数理ファイナンス
飯星　博邦	計量経済学
飯村　卓也	ミクロ経済学
岩間　俊彦	社会経済史
内山　朋規	ファイナンス
桑田耕太郎	経営学
芝田　隆志	ファイナンス工学
高尾　義明	経営学
竹田　陽子	経営戦略論
田中　敬一	数理ファイナンス
長瀬　勝彦	意思決定論
野口　昌良	財務会計論
細海昌一郎	管理会計論
松田千恵子	経営・財務戦略、資本市場論
増山　博之	経営科学
水越　康介	マーケティングマネジメント
宮本　弘暁	労働経済学
村田　啓子	日本経済論
室町　幸雄	金融リスク管理
森　　治憲	統計学
山下　英明	経営科学
吉羽　要直	金融データサイエンス
脇田　　成	理論経済学
渡辺　隆裕	ゲーム理論
荒戸　寛樹	マクロ経済学
井澤　　龍	西洋経済史
小方　浩明	統計学
金子　　憲	財政学
小林　延人	日本経済史
高橋　勅徳	ベンチャービジネス論
竹内　祐介	アジア経済史
竹原　浩太	金融工学
中山　厚穂	マーケティング・サイエンス
西村　孝史	経営学
松尾　　隆	経営戦略論
松岡多利思	理論経済学
森口　聡子	経営科学
森本　脩平	公共経済学
八木　恭子	金融工学

博士後期課程授業科目一覧

頁	授業科目名	授業番号	単位	担当教員
199	経営学特殊講義	P623	2	桑田耕太郎
200	経営学特殊講義	P624	2	桑田耕太郎
201	組織理論特殊研究	P596	2	高尾義明
201	組織理論特殊研究	P597	2	高尾義明
202	組織理論特殊研究	P574	2	長瀬勝彦
202	組織理論特殊研究	P575	2	長瀬勝彦
203	経営学特殊講義	P627	2	高橋勅徳
204	経営学特殊講義	P628	2	高橋勅徳
205	経営戦略特殊研究	P673	2	竹田陽子
205	経営戦略特殊研究	P674	2	竹田陽子
206	経営戦略特殊研究	P469	2	松田千恵子
206	経営戦略特殊研究	P470	2	松田千恵子
207	マーケティング特殊研究	P582	2	中山厚穂
208	マーケティング特殊研究	P583	2	中山厚穂
209	経営戦略特殊研究	P639	2	松尾隆
209	経営戦略特殊研究	P640	2	松尾隆
210	組織理論特殊研究	P582	2	水越康介
210	組織理論特殊研究	P583	2	水越康介
211	統計学特殊研究	P570	2	森治憲
211	統計学特殊研究	P571	2	森治憲
212	経営科学特殊研究	P590	2	山下英明
213	経営科学特殊研究	P591	2	山下英明
214	経営科学特殊研究	P659	2	増山博之
215	経営科学特殊研究	P660	2	増山博之
216	会計学特殊研究	P653	2	野口昌良
217	会計学特殊研究	P654	2	野口昌良
218	財務会計特殊研究	P609	2	浅野敬志
219	財務会計特殊研究	P610	2	浅野敬志
220	会計学特殊研究	P641	2	細海昌一郎
221	会計学特殊研究	P642	2	細海昌一郎
222	ミクロ経済学特殊研究	P605	2	飯村卓也
222	ミクロ経済学特殊研究	P606	2	飯村卓也
223	マクロ経済学特殊研究	P611	2	脇田成
224	マクロ経済学特殊研究	P612	2	脇田成
225	計量経済学特殊研究	P615	2	飯星博邦
226	計量経済学特殊研究	P616	2	飯星博邦
227	金融経済学特殊研究	P598	2	田中敬一
227	金融経済学特殊研究	P599	2	田中敬一
228	経済学特殊研究（日本経済論）	P568	2	村田啓子
228	経済学特殊研究（日本経済論）	P569	2	村田啓子
229	ゲーム理論特殊研究	P578	2	渡辺隆裕
230	ゲーム理論特殊研究	P579	2	渡辺隆裕
233	統計学特殊研究	P566	2	小方浩明
233	統計学特殊研究	P567	2	小方浩明
234	公共経済特殊研究	P667	2	森本脩平
234	公共経済特殊研究	P668	2	森本脩平
235	国際金融特殊研究	P592	2	荒戸寛樹
236	国際金融特殊研究	P593	2	荒戸寛樹
237	経済学特殊研究	P604	2	朝日ちさと
237	経済学特殊演習	P638	2	朝日ちさと
238	経済学特殊演習	P572	2	金子憲
238	経済学特殊演習	P573	2	金子憲
239	日本経済史特殊研究	P607	2	小林延人
240	日本経済史特殊研究	P608	2	小林延人
241	アジア経済史特殊研究	P647	2	竹内祐介
242	アジア経済史特殊研究	P648	2	竹内祐介
243	金融工学特殊研究	P613	2	内山朋規
243	金融工学特殊研究	P614	2	内山朋規
244	金融リスク特殊研究	P576	2	室町幸雄
244	金融リスク特殊研究	P577	2	室町幸雄
248	西洋経済史特殊研究	P619	2	井澤龍
249	西洋経済史特殊研究	P620	2	井澤龍
250	金融特殊研究	P643	2	松岡多利思
250	金融特殊研究	P644	2	松岡多利思
251	企業金融論特殊研究	P455	2	芝田隆志
251	企業金融論特殊研究	P456	2	芝田隆志
252	数理ファイナンス特殊研究	P400	2	足立高徳
252	数理ファイナンス特殊演習	P401	2	足立高徳

※　今年度の開講科目のみ掲載

東京都立大学大学院学則（抜粋）及び履修について

1　目　的

東京都立大学大学院は広い視野に立って、専門分野に関する専門的な学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、都民の生活と文化の向上及び発展に寄与することを目的とする。

2　課　程

大学院に博士課程を置く。博士課程は、これを前期２年の課程（博士前期課程）及び後期３年の課程（博士後期課程）に区分し、博士前期課程は、修士課程として取扱うものとする。

3　社会科学研究科の教育研究上の目的

社会科学研究科博士前期課程は、広い視野に立って社会科学の精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を養うことを目的とする。

社会科学研究科博士後期課程は、社会科学の各分野において、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

4　学年・修業年限・在学年限

学年は、前期に入学するものにあっては４月１日から翌年３月31日までとし、後期に入学するものにあっては10月１日から翌年９月30日までとする。

博士前期課程の標準修業年限は２年とし､博士後期課程の標準修業年限は３年とする。

博士前期課程の在学期間は４年を、博士後期課程の在学期間は６年を超えることができない。

5　修了要件

博士前期課程の学生は、２年の在学期間を満たし、正規の授業を受け、博士前期課程専攻所定の授業科目について30単位以上を習得し、さらに学位論文を提出し、かつ、最終試験を受けなければならない。

前項の場合において、指導教授が教育上有益と認めるときは、30単位のうち10単位以内に限り、当該研究科のほかの専攻の授業科目若しくは他の研究科の専攻の授業科目又は学部の授業科目を履修し、これを充当することができる。

博士後期課程の学生は、３年の在学期間を満たし、正規の授業を受け、博士後期課程専攻所定の授業科目について20単位以上を習得し、更に学位論文を提出し、かつ、最終試験を受けなければならない。

6　休学／復学／退学

休　学

①疾病その他やむ得ない事由のため引き続き６か月以上就学することができない者は、その事由を具し、保証人連署の上学長に願い出てその許可を得て休学することができる。

②病気を事由とする休学願には医師の診断書を添付しなければならない。

③休学は、原則として１年以内とする。ただし、特別の事情がある場合には引き続き許可を願い出ることができる。
④休学期間は課程ごとに通算して３年を超えることができない。
⑤休学期間は修業年限により在学すべき年数に算入しない。ただし３ ヶ月以内に復学した場合は、教授会の判断によりこの規定を適用しないことがある。

復　学

①休学期間が満了する時は、学長に復学を願い出なければならない。
②休学期間中であっても休学事由がなくなったときは学長の許可を得て復学することができる。
③休学期間が満了してもなお復学を願い出ない者は、これを除籍する。

退　学

①疾病その他やむ得ない事由で退学しようとする者は、その事由を詳記し、保証人連署の上、学長に願い出てその許可を得なければならない。

7　履修方法

学生は、入学当初に、指導を受けようとする教授（指導教授）の指定を受ける。

学生は、毎年度当初に、その学年に履修しようとする授業科目につき、予め指定された方式に従い受講を申請し、その承認を得なければならない。

履修申請関係

社会科学研究科教授会の承認が必要な事項

①専攻に準ずる事項

博士前期課程（修士課程）修了に必要な 30 単位のうち 10 単位以内に限り、社会科学研究科の他の専攻・分野の授業科目若しくは他の研究科の専攻の授業科目又は学部の授業科目を履修し、これを充当することができる。

②教育職員免許又は学芸員資格取得を目的として、学部科目の授業を履修する場合

「学部授業履修手続（大学院学生用）」により、申請すること。必要書類の配布は４月上旬、受付は４月中旬（掲示板に注意すること）。

その他

①関連科目

指導教授が必要と認め、社会科学研究科の他の専攻の授業科目若しくは他の研究科の専攻の授業科目又は学部の授業科目の履修を指定した場合の単位は、課程修了の単位外の扱いとなる。

②教育職員免許又は学芸員資格取得以外で、学部科目の授業を履修する場合は、一般の科目等履修生として出願すること（有料）。

2021年度の履修申請・確認

後日、掲示等によりお知らせします。博士前期課程（研究者養成プログラム）の学生は履修承認表による申請、博士前期課程（高度専門職業人養成プログラム及び高度金融専門人材養成プログラム）・博士後期課程の学生はWeb（CAMPUS SQUARE for WEB）による申請となります。

Ⅲ 授 業 概 要

（博士前期課程）

- 経営学研究科　　経営学専攻
- 社会科学研究科　　経営学専攻

2018年度以降入学生	経営学	P0001	経営学A	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学特論	P003	高度専門職業人Ⅰ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	桑田　耕太郎		夏季集中	―	―	

①授業方針・テーマ	経営学は現代産業社会の基礎的構成要素である企業を対象とし、企業およびそのベースとなっている産業社会の構造や行動のメカニズムを解明する学問です。この授業では、M2学生以上で過去に「経営学」を履修していない学生を対象とし、企業の外部環境への適応と、内部統合・経営管理の主要なトピックスについて、具体的な事例をひきつつ、経営学の各論（経営戦略、経営組織、マーケティングなど）が，全体としてどのような関係にあるか、経営学的な思考様式を学ぶことを目的としています。 この授業は，M2以上の学生を対象とした講義です。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営学の各論（経営戦略、経営組織、マーケティングなど）を学習した学生を対象とし、それらが企業の成長や発展にとって互いにどのように関係しているのか、ジェネラリストとしての経営者の視点から分析する能力を身につけることを目標とする。
③授業計画・内容 授業方法	Ⅰ経営学の全体像を把握するフレームワーク 第1・2回　企業経営と組織の分析枠組み 第3・4回　組織の概念と経営者の役割、意思決定の概念とプロセス Ⅱ　経営行動の分析―デザインパースペクティブ 第5・6回　経営戦略のデザイン 第7・8回　競争優位の獲得 第9・10回　経営組織構造のデザイン 第11・12回　組織の中の人間と管理 Ⅲ　企業成長と経営政策 第13回　企業の成長と発展 第14・15回　現代企業の諸課題
④授業外学習	授業に必要な資料や課題の配布は、kibakoを通じて行うので、授業前に必ず熟読しおくこと。 授業は参考文献を読んでいることを前提に進める。
⑤テキスト・参考書等	テキスト：特に指定しないが、随時紹介する。桑田耕太郎・田尾雅夫『組織論』有斐閣は事前に読んでおくことが望ましい。 参考文献：伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社 A. D. チャンドラー『組織は戦略に従う』ダイヤモンド社 C. I. バーナード『経営者の役割』ダイヤモンド社
⑥成績評価方法	随時おこなうレポート（50%）および授業への貢献（50%）による
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	質問、相談、アポイントメントは、メール<kkuwada@tmu.ac.jp>等を活用して行う。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	経営戦略、経営組織論、ヒューマンリソースマネジメント、経営行動論、マーケティングなどを専攻する学生にとっては、特に重要な導入科目である。

2018年度以降入学生	経営学	P0003	経営学A	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	―	―	―	―		
担当教員	桑田　耕太郎		前期Ⅰ	土曜日	3、4時限	

①授業方針・テーマ	経営学は現代産業社会の基礎的構成要素である企業を対象とし、企業およびそのベースとなっている産業社会の構造や行動のメカニズムを解明する学問です。この授業では、ビジネススクール入学前に、特に経営学のトレーニングを受けていない学生を主要な対象として、企業の外部環境への適応と、内部統合・経営管理の主要なトピックスについて、具体的な事例をひきつつ、経営学の基礎知識と経営学的な思考様式を学ぶことを目的としています。 この授業は、2021年度入学生（M１）向けの講義です。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営学は現代産業社会の基礎的構成要素である企業を対象とし、企業およびそのベースとなっている産業社会の構造や行動のメカニズムを解明する学問です。この授業では、企業の外部環境への適応と、内部統合・経営管理の主要なトピックスについて、具体的な事例をひきつつ、経営学の基礎知識と経営学的な思考様式を学ぶことを目的としています。
③授業計画・内容 授業方法	Ⅰ経営学の基本的フレームワーク 第１回　なぜ経営学を学ぶのか 第２回　企業と経営 第３回　組織の概念と経営者の役割 第４回　意思決定の概念とプロセス Ⅱ　経営行動の分析―デザインパースペクティブ 第５・６回　経営戦略のデザイン 第７・８回　競争優位の獲得 第９・10回　経営組織構造のデザイン 第11・12回　組織の中の人間と管理 Ⅲ　企業成長と経営政策 第13回　企業の成長と発展 第14・15回　現代企業の諸課題
④授業外学習	授業に必要な資料や課題の配布は、kibakoを通じて行うので、授業前に必ず熟読しおくこと。 授業は参考文献を読んでいることを前提に進める。
⑤テキスト・参考書等	テキスト：特に指定しないが、随時紹介する。桑田耕太郎・田尾雅夫『組織論』有斐閣は事前に読んでおくことが望ましい。 参考文献：伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社 A. D. チャンドラー『組織は戦略に従う』ダイヤモンド社 C. I. バーナード『経営者の役割』ダイヤモンド社
⑥成績評価方法	随時おこなうレポート（50%）および授業への貢献（50%）による
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	質問、相談、アポイントメントは、メール<kkuwada@tmu.ac.jp>等を活用して行う。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	これまで経営学を学んだことのない学生に、特に推奨する 経営戦略、経営組織論、ヒューマンリソースマネジメント、経営行動論、マーケティングなどを専攻する学生にとっては、特に重要な導入科目である。

2018年度以降入学生	経営組織	P0015	経営学A	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営組織特論	P015	高度専門職業人Ⅰ	高度金融人材Ⅲ		2単位
担当教員	高尾　義明		前期	火曜日		5時限

①授業方針・テーマ	個人に還元できない組織の創発特性をよりよく理解するために、組織を巨視（マクロ）的な視座から捉えるマクロ組織論を中心に、組織についての理論を紹介することを通じて、経営と組織の関係についての考察を深めていきます。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	「組織の時代」である現代において組織に何らかのかたちで関わっていない人はいませんが、自らの経験にのみ依拠した持論だけで組織を捉えている人が少なくありません。そこで、本講義では、理論に基づいて組織の創発的側面について理解を深めるとともに、組織の有効性に影響を与える要因を分析するための知識の獲得を目標とします。
③授業計画・内容 授業方法	第1回：イントロダクション 第2回：組織のイメージと定義 第3回：意思決定の調整とコミュニケーション 第4回：合理的システムとしての官僚制とその逆機能 第5回：組織構造のデザイン 第6回：自生的システムとしての社会的ネットワークと組織文化 第7回：組織プロセス 第8回：イノベーションと組織 第9回：組織学習とそのジレンマ 第10回：両利き組織 第11回：組織間関係・ネットワーク 第12回：組織変動としての同型化 第13回：官僚制再考 第14回：組織の成立条件に立ち戻る 第15回：総括ディスカッション 【授業方法】文献の発表、ディスカッション、グループワークを組み合わせて授業を行います。
④授業外学習	毎回、リーディング・アサイメントを事前に読んで授業に臨んでください。また、毎回事前課題の提出を求めます。
⑤テキスト・参考書等	教科書 高尾義明（2019）『はじめての経営組織論』有斐閣 テキストと併用する各回のリーディング・アサイメントを事前に配布します。 参考書（授業の履修にあたって購入する必要はありませんが、適宜参照すると理解が深まると思います） 桑田耕太郎・田尾雅夫（2010）『組織論 補訂版』有斐閣 金井壽宏（1999）『経営組織』日本経済新聞社
⑥成績評価方法	成績評価方法発表・発言などによる授業に対する積極的貢献（85%）および学期末レポート（15%）によって評価します（詳細は第1回に説明します）。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは特に設定しませんが、直接質問したい場合は随時受付しますので、事前にメールでアポイントメントをとってください。 【連絡先】ytakao@tmu.ac.jp
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	ヒューマン・リソース・マネジメント	P0044	経営学A	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	ヒューマン・リソース・マネジメント特論	P044	高度専門職業人Ⅱ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	初見　康行*		前期	土曜日	1、2時限	

①授業方針・テーマ	この授業では、日本の人事に欠けていることが多い戦略人材マネジメントの考え方を身につけることを重視します。戦略人材マネジメントとは、企業の競争力を高め、企業業績に連結する経営活動の一環として人材マネジメントを捉える視点です。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	人材マネジメント論の基礎的な概念・枠組み・理論を学習し、それらの概念や枠組みを実際の企業や組織に応用することで、最終的には、人事管理システムの分析・評価ができるようになることを目的とします。 また、他社の「ベストプラクティス」を探ることで満足してしまうのではなく、自らの会社で何が起きているのかを推論する力を養うことを目的とします。
③授業計画・内容 授業方法	＜前後の入れ替えや内容変更の可能性があります＞ 1　授業の説明と参加者の確認：人材マネジメントとは何か？ 2　人的資源管理の変遷① 3　人的資源管理の変遷②・戦略人材マネジメント（SHRM）① 4　戦略人材マネジメント（SHRM）② 5　戦略人材マネジメント（SHRM）③ 6　ケース分析①：小林製薬 7　人事部の役割① 8　人事部の役割②・能力開発① 9　能力開発② 10　能力開発③ 11　ケース分析②：ローソン 12　人材ポートフォリオ・ダイバーシティ 13　グローバル人的資源管理① 14　グローバル人的資源管理②（ケース分析③：コマツインドネシア） 15　本科目のまとめ 最終レポート：フィールドワークに基づく個人レポート
④授業外学習	毎回、該当するテーマに関連する論文、ブックチャプター、雑誌記事などが配布されるので、それを事前に読んでおくこと。また、ケース分析については、事前に論文を読み、レポートを作成したうえで持参することが求められる（ケース分析の授業が終了した後での提出は不可）。
⑤テキスト・参考書等	テキスト・参考書等 1）kibaco上に配布するリーディングパッケージ（詳しくは初回に説明：kibacoに掲載） 2）ケース（個人で購入をして下さい） ＜参考書＞ 守島基博（2004）『人材マネジメント入門』日本経済新聞社。
⑥成績評価方法	1）フィールドワークに基づく個人レポート（40%） 2）ケース分析①・②に対する個人レポート、2つ（全部で60%：内訳①30%、②30%） ※ケース分析③（コマツインドネシア）は成績評価に含まない
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは特に設定しないので、必要があれば、電子メールでアポイントメントを取ってください。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	1．新型コロナウィルスの感染拡大に伴い、今後シラバスの内容が変更される可能性があります。講義内でも告知しますが、必ずkibacoを参照するようにしてください。 2．授業で扱うケースは、著作権が保護された上で販売されているため、各自でBookparkから購入をしてください。http://www.bookpark.ne.jp/about/partner.asp 3．欠席の連絡は、授業開始前までにお願いします。授業終了後の連絡は認められません。同様に、2つあるケースレポートも、授業開始前までに提出をしてください。授業終了後の提出は認められませんので注意して下さい。

2018年度以降入学生	意思決定	P0033	経営学A	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	意思決定特論	P033	高度専門職業人Ⅰ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	長瀬　勝彦		前期	水曜日	5時限	

①授業方針・テーマ	人間の意思決定について、行動意思決定論に立脚して講ずる。意思決定とは物事を決めることである。学生が食堂で注文の料理を決めるような日常の意思決定もあれば、進学や就職、転職、結婚など人生の一大事の意思決定もある。また企業などの組織の中では、経営者をはじめとするすべての構成員が職務上のさまざまな意思決定を下している。この講義では、人間の意思決定がどのようなプロセスでおこなわれているのが、何にどのように影響を受けるのかを議論する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	人間の意思決定のありかたは一般人の素朴なイメージとはだいぶ異なっている。生身の人間の意思決定は機械的で単純な損得計算ではなく、進化や学習を通じて獲得したさまざまな癖（バイアスやヒューリスティック）がある。この講義では数多くのバイアスとヒューリスティックを議論する。それらの意味内容を学びながら人間の意思決定の特徴について深く理解することがこの講義の目標である。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容（主な項目）】 ※授業期間内（試験期間を除く）の授業は以下のように計画している。ただし授業回数と項目番号は必らずしも一致しない。 1．イントロダクション 2．「成功要因」の神話と現実 3．規範的アプローチの特徴と限界 4．直観、無意識、感情 5．主観と客観 6．データの収集と分析 7．確率認知のバイアス 8．未来予測と投資の意思決定 9．市場への参入とM&Aの意思決定 10. 市場からの撤退と事業売却の意思決定 11. 利己心と意思決定 12. 返報性 13. コミットメントと一貫性 14. 社会的証明と権威 15. 希少性 【授業方法】 その時点での大学授業方針により対面もしくはオンラインでおこなう。
④授業外学習	毎回の授業について、教科書『意思決定のマネジメント』の電子版（各種あるが、大学生協版であればマーカーを引くなどの学習状況が教員から閲覧できる）を使用しての予復習を推奨する。随時課題を出す。
⑤テキスト・参考書等	項目11までの教科書は『意思決定のマネジメント』（長瀬勝彦［著］、東洋経済新報社、2008年）の電子版である。 項目12以降の教科書は『影響力の武器［第三版］：なぜ、人は動かされるのか』（ロバート・B・チャルディーニ［著］、社会行動研究会［訳］、誠信書房、2014年）である（※授業開始の前に新版が出版された場合はそちらを使用する可能性がある）。 参考書は『行動意思決定論』（ベイザーマン＆ムーア[著]、長瀬勝彦[訳]、白桃書房、2011年）、『あなたがお金で損をする本当の理由』（長瀬勝彦[著]、日本経済新聞社、2010年）、その他随時指示する。 随時kibaco経由で資料を配布する。
⑥成績評価方法	期末試験（出題範囲は授業の内容すべてと教科書の全範囲）が50%、課題や授業への関与が50%の比率で評価する。期末試験が実施できない場合などは変更の可能性がある。変更はkibacoで通知する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーはメール等による事前予約制として随時おこなう。メールでの質問も受け付ける。 連絡先：nagase@tmu.ac.jp
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	関連する学問的な知識は前提としない。ただし人間の心理についての学術的な興味と、日常の知識に束縛されない論理的な思考力が求められる。

2018年度以降入学生	ベンチャービジネス	P0056	経営学A	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	ベンチャービジネス特論	P056	高度専門職業人Ⅱ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	高橋　勅徳		前期	土曜日	1時限	

①授業方針・テーマ	ベンチャービジネスに関する研究は、この10年の間に、単に新奇性の高い事例を記述する研究から、明確な理論的フレームワークと調査方法論を備えた研究領域として、急速に発展しています。そこには、制度派組織論をはじめとした組織論の最先端の議論や、社会構成主義、言説分析、アクターネットワークセオリーといった方法論的展開のエッセンスが含まれています。 そこで本講義では、近年のベンチャービジネスに関する最先端の研究成果を踏まえた上で、起業やイノベーションに関する研究論文を作成する上で必要な、学説史と方法論について、必読文献の精読を通じて学んでいくことにします。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	この講義では、ベンチャービジネスをテーマに論文を作成する上で必要な、理論と調査方法論を身につけることを目標とする
③授業計画・内容 授業方法	授業計画・内容・方法 この講義では、企業家研究の各議論について、下記のテーマに基づいた文献の精読を行い、講義形式でレクチャーを行う。 ① ガイダンス：企業家研究のビッグストーリー ② 企業家の動機の源泉 ③ 企業家とネットワーク ④ 企業家による正当化 ⑤ 企業家による法規制の利用 ⑥ 企業家の差別化戦略 ⑦ 一つの完成形としての進化論モデル ⑧ 企業家概念の広がり①：移民企業家 ⑨ 企業家概念の広がり②−1 ：社内企業家 ⑩ 企業家概念の広がり②−2 ：社内ベンチャーの管理 ⑪ 企業家概念の広がり③：社会企業家 ⑫ まとめ：企業家研究のフロンティア 授業方法 授業方法 基本的に対面講義で行う予定である。ただし2021年度については新型コロナウィルスの感染拡大への対応のため、本講義ではZoomを利用した遠隔講義を実施します。https://zoom.us/jp-jp/meetings.htmlにアクセスし、アカウントを取得しておくこと。オンラインで講義を行う際は案内状の送付をkibacoを通じて行うので、Kibacoへの登録と確認を忘れないようにお願いします。
④授業外学習	授業外学習 各回の課題テキストを熟読の上、当日の講義に臨むこと。
⑤テキスト・参考書等	桑田耕太郎・松嶋登・高橋勅徳（編）『制度的企業家』有斐閣 高橋勅徳・木村隆之・石黒督朗『ソーシャル・イノベーションを理論化する：切り拓かれる社会企業家の新たな実践』文眞堂 講義に際して必要なテキスト・参考書については、その都度指定する。
⑥成績評価方法	出席（10%）、授業への参加（30%）および期末課題（60%）にもとづいて評価を行う。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーについては、メール（misanori@tmu.ac.jp）でスケジュールを調整の上、実施する。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	経営戦略	P0037	経営学A	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営戦略特論	P037	高度専門職業人Ⅰ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	竹田　陽子		前期Ⅰ	金曜日	5、6時限	

①授業方針・テーマ	経営戦略の主要理論を、グループワーク、文献討議、事例研究を通じて実践と結びつけて学びます。ある企業がどのような範囲で事業を営み、どのような付加価値を生み出すのか。利潤獲得のために他社とどのように競い、協力するのか。自社にしかないものは何であり、これから何ができるようになりたいのか。今はまだ存在しない新しい付加価値を生み出すにはどうしたらよいのか、について議論します。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営戦略に関する主要な理論を理解し、学んだ概念を企業や社会で起こっている諸問題にあてはめて分析できるようになること、さらには、社会実践において自らフレームワークを構築する力をつけることを目標とします。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画】各回は5・6限連続です。 第1回　われわれはどのような存在であるのか 垂直統合、多角化、事業ドメイン 第2回　利潤獲得の位置どり：ポジショニング・アプローチ 業界構造、基本戦略、価格戦略、製品差別化 第3回-1　われわれにしかないものは何か：資源アプローチ リソース・ベースド・ビュー 第3回-2　企業間のインタラクション：ゲーム・アプローチ ゼロサムゲームと協力ゲーム 第4回　ビジネス・エコシステム 企業間の対立と協調、プラットフォーム戦略 第5回　変革する力：動的能力アプローチ 動的能力、組織革新、組織学習、技術革新、創発と創造 第6回　発表会 グループワークの発表、期末レポートの中間発表 【授業方法】 各回に講義のほか、グループワーク、文献討議があります。 新型コロナ感染状況と履修者数により、オンライン授業、ハイブリッド授業、対面授業のいずれかでおこないます。授業方法は、学期のはじめにお知らせしますが、状況変化により学期の途中で変更される場合があります。 上記は予定です。変更する可能性があります。
④授業外学習	毎回、事前課題やグループワーク、文献討議の予習が必要です。 期末課題は、各自で計画的に準備をすすめて下さい。
⑤テキスト・参考書等	討議用の教材は、事前に配布します。参考文献は随時紹介します。
⑥成績評価方法	平常（事前課題、授業貢献、グループ発表など）60%、期末課題（レポート）40%
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは特に設定しませんが、質問等はkibacoの掲示板、あるいはメール（ytakeda@tmu.ac.jp）で受けつけます。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	今後また変更がある場合は kibaco を通じてお知らせします。 授業方法（オンライン、ハイブリッド、対面）の詳細も kibaco に掲示しますのでそちらをご覧ください。

2018年度以降入学生	経営戦略演習	P0009	経営学A	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営戦略特別演習	P009	高度専門職業人Ⅰ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	松田　千恵子		後期Ⅱ	火曜日	5、6時限	

①授業方針・テーマ	本演習は、ケースメソッドによって進められる。企業の具体的な事例を通じて、企業経営と資本市場との間にある諸問題を経営者としての立場から考え、経営人材として必要な知見を身に付ける。参加者間で討議をしながら理解を深めていく。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ストラテジー、ファイナンス、ガバナンスの知識を企業の実務、経営において活用できるようになることを目的とする。特にM&Aなどの事例においては、企業戦略、事業戦略、企業価値評価、財務戦略、コーポレートガバナンスなど企業にとって重要なあらゆる問題が関係してくるため、企業経営における総合力を試すことができる。そうした事例を多面的な視点から理解できるようになる。
③授業計画・内容 授業方法	1．イントロダクションー事業・財務・組織を統合して考える 2．企業分析と戦略評価の手法（1）ー市場進化の方向性と競合のメカニズム、競争優位性の所在 3．企業分析と戦略評価の手法（2）ー企業経営者の視点・投資家の視点 4．企業経営と資本市場（1）ー会社の値段は幾らなのか・その格付けは正しいか 5．企業経営と資本市場（2）ーM&Aを通じた持続的成長の追求と利益相反への備え 6．企業経営と資本市場（3）ー全社戦略とコングロマリット・プレミアム／ディスカウント 7．企業統治と情報開示・グループガバナンスと経営管理の展開 8．総括ーESG投資の流れと企業の経済的・社会的責任 ※グループワークが中心となるため、本授業は2時限連続で行う。
④授業外学習	事前に必要資料を読み、課題の準備を行った上で授業に参加のこと。 内外の企業経営や資本市場動向について、常に関心を持ってみておいてほしい。
⑤テキスト・参考書等	テキスト 松田千恵子『グループ経営入門 第四版』税務経理協会、2019年 松田千恵子『ESG経営を強くするコーポレートガバナンスの実践』日経BP社、2018年 その他、必要に応じてパワーポイント等の資料を提示する。参考書等は演習中に適宜指示する。
⑥成績評価方法	演習中のレポートやプレゼンテーションの作成、および演習への貢献度を6：4で評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	授業前後の時間、メール等の活用いずれも可。事前にメールでのアポイントを取得することにより、随時面談も受け付ける。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	財務戦略論を受講していることが望ましい。 本科目は、金融機関や企業等における実務経験を持つ教員により行われる。

2018年度以降入学生	テクノロジー・マネジメント	P0017	経営学A	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	テクノロジー・マネジメント特論	P017	高度専門職業人Ⅰ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	松尾　隆		後期	土曜日	3時限	

①授業方針・テーマ	技術は企業マネジメント、企業戦略の双方にとって、重要な資源であるとともに、企業行動に制約をもたらす。本講義では、そうした技術とマネジメント、戦略との関係を取り上げる。特に、プラットフォーム論、ビジネス・エコシステム論を、その前提となる緒理論を含めて理解する。毎回の講義では、1、2本の論文を取り上げ、それについての発展的な議論を行う。そのため、事前にその回のテーマに即したレポートを提出してもらう。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	テクノロジー・マネジメントに関する基本的内容と今日的トピックを理解し、現実の企業行動の分析に適用することを目標とする。プラットフォームやエコシステムなど、今日的な現象を踏まえて、技術戦略を策定することができるようになる。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画】 （1）オリエンテーション ・技術・市場・組織 イノベーションについて （2）産業の生成とイノベーション （3）イノベーションはどのように生まれるのか？ （4）イノベーションの浸透・普及 （5）イノベーションと競争優位 技術と競争力について （6）コスト （7）品質 （8）スピード （9）トヨタ生産方式 (10) 製品開発 現代的な話題 (11) アーキテクチャ (12) デファクト・スタンダード (13) プラットフォーム (14) オープン・イノベーション (15) イノベーション・エコシステム
④授業外学習	事前に配布する文献を読み、レポートを作成する
⑤テキスト・参考書等	特に教科書は指定せず、毎回、文献を配布する。多くは研究論文を取り上げる予定なので、基礎知識に不安がある場合は、延岡健太郎『ＭＯＴ［技術経営］入門』日本経済新聞社などを事前に読んでおくと良い。
⑥成績評価方法	毎回のレポートの内容と講義中の発言による
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	講義の前後、あるいはメールでアポイントを取ってください
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	マーケティング・マネジメント	P0006	経営学A	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	マーケティング・マネジメント特論	P006	高度専門職業人Ⅰ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	水越　康介		前期	火曜日	6時限	

①授業方針・テーマ	マーケティング・マネジメントは、顧客との関係の創造と維持を目的とする、市場志向の活動である。本講義では、マーケティング･マネジメントとしてマーケティングの基本的な枠組みを理解するとともに、研究上の論点を探ることを目標とする。 本講義では、事前グループワーク、講義内での報告・ディスカッション、および各自レポート作成・提出を一つのサイクルとする。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	本講義では、マーケティングの基本的な枠組みの理解、および、マーケティング研究上の主要な論点を学ぶことができる。
③授業計画・内容 授業方法	1．オリエンテーション、およびグループ設定 2．市場を作り出す企業活動 3．価値形成のマネジメント 4．価値実現のマネジメント 5．マーケティング資源配分と事業の定義 6．消費者行動の理解 7．競争構造の理解 8．取引関係の理解 9．プロセスとしての競争と産業のライフサイクル 10. チャネルシステムのマネジメント 11. 顧客関係のマネジメント 12. ブランドのマネジメント ※講義内容は初回オリエンテーションの状況などをもとに、変更の可能性がある。
④授業外学習	予習、復習、報告準備、レポート作成など
⑤テキスト・参考書等	石井淳蔵・栗木契・嶋口充輝・余田拓郎（2013)『ゼミナール マーケティング入門 第2版』日本経済新聞社。 池尾恭一・青木幸弘・南知恵子・井上哲浩（2010)『マーケティング』有斐閣。 Kotler,Philip & Kevin Lane Keller, Marketing Management 13e, Pearson Education,Inc.,2009. Solomon,Michael R.,Consumer Behavior: Buying, Having, and Being, 11e, Pearson Education,Inc.,2014. その他授業内に適宜指示。
⑥成績評価方法	授業報告、およびレポート
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	授業中に提示するメールアドレスに連絡をし、予約をとること。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	マーケティング・サイエンス	P0004	経営学A	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	マーケティング・サイエンス特論	P004	高度専門職業人Ⅰ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	中山　厚穂		後期	水曜日	5時限	

①授業方針・テーマ	現在の情報社会において、求められている能力の一つは、データの背後に存在している関係や傾向を読み解くための分析力です。特に、客観的なデータにもとづいた分析力がグローバルで情報があふれる社会において重要視されています。よって、本講義では、市場におけるマーケティング現象を理解するための代表的なモデルと、マーケティング意思決定に利用される方法論について学び、効果的な意思決定を行うための方法を身につけることを目指します。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	事例と例題通じて、どのように各手法がSTP戦略やマーケティング・ミックスなどを立案するために活用されるのかについて体験することを目標とします。また、講義を通じて、市場におけるマーケティング現象をどのように読み解くことができるのかということについての理解を深めるとともに、データ分析を通じて客観性をもって論証するための数学的な論証能力を身につけることを目標とします。
③授業計画・内容 授業方法	第1回　ガイダンス：マーケティング・サイエンスとは 第2回　データ解析の基礎1（視覚化と計量化） 第3回　データ解析の基礎2（散布図と相関係数） 第4回　データ解析の基礎3（実習） 第5回　市場反応分析 第6回　市場反応分析（回帰モデル） 第7回　市場反応分析（回帰モデル）の実習1 第8回　市場反応分析（回帰モデル）の実習2 第9回　市場セグメンテーションとは 第10回　市場セグメンテーション（クラスター分析）の実習1 第11回　市場セグメンテーション（クラスター分析）の実習2 第12回　市場の発見と知覚マップとは 第13回　市場の発見と知覚マップ（因子分析）の実習1 第14回　市場の発見と知覚マップ（因子分析）の実習2 第15回　まとめ 実習では、フリーの統計ソフトウェアRを用いた演習と、分析結果についてのディスカッションを行う予定です。
④授業外学習	講義での実習のための準備、実習課題、レポート課題を適宜設定する予定である。
⑤テキスト・参考書等	【テキスト】 島崎哲彦（編著）・日本マーケティング・リサーチ協会（監修）・中山厚穂・大竹延幸・鈴木芳雄（著）「マーケティング・リサーチに従事する人のためのデータ分析・解析法」学文社、2020。 【参考文献】 ［1］照井伸彦・佐藤忠彦「現代マーケティング・リサーチ－市場を読み解くデータ分析」有斐閣、2013。 ［2］朝野熙彦「入門多変量解析の実際」、講談社サイエンティフィク、2000。 ［3］古川一郎・守口剛・阿部誠「マーケティング·サイエンス入門」有斐閣アルマ、2011。
⑥成績評価方法	講義への出席、発表の内容、討論への参加程度、研究レポートにより評価します。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	毎週水曜日20：00～21：00をオフィスアワーに設定するので、質問等があれば事前にメールでアポイントメントをとるようにして下さい。これ以外の時間帯に担当教員に会いたい場合も同様に事前にメールでアポイントメントをとって下さい。またメールによる質問も随時受け付けます。 連絡先：atsuho@tmu.ac.jp
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	履修にあたっては、高校レベルの数学と学部教養レベルの統計学についての基礎知識が前提知識として必要になります。

2018年度以降入学生	マネジメント・サイエンスⅠ	P0018	経営学A	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	マネジメント・サイエンス特論Ⅰ	P018	高度専門職業人Ⅰ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	澄田　範奈*		前期	木曜日	5時限	

①授業方針・テーマ	情報技術が支える経営活動において、各現場での短期的、オペレーショナルな問題に対する意思決定から、中長期的な戦略的レベルの課題への意思決定に及ぶまで、様々な意思決定が存在する。これらの意思決定では、科学的方法に基づく合理的な意思決定を導く経営科学（マネジメント・サイエンス）が重要な役割を果たしている。本講義では、経営科学の手法のうち、最適化技術を中心に紹介する。物流、在庫管理、SCM、スケジューリング、プロジェクト管理における意思決定での最適化（最小コスト、最大利益、不公平感最小化の計算など）を取り上げ、最適化技術による優位な意思決定の事例と、最適化アルゴリズムによる具体的な計算方法について説明する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営科学における最適化技術とその周辺分野について、モデリング・定式化から、ソフトウェアによる求解について学習する。学習者はこの講義を通じて以下の知識や能力を習得することを目標とする。 1）最適化アルゴリズムによる優位な意思決定の事例（物流、スケジューリング、プロジェクト管理における意思決定での最適計算、最小コスト、最大利益など） 2）グラフ理論の基礎とグラフによる問題のモデル化 3）ネットワーク計画（最短路問題、最大流問題など） 経営戦略を科学的に決定することの理解を深め、実際の問題を数理モデルにモデル化し、求解する能力、オペレーションズ・リサーチの手法、解法の手間を評価する方法を身に着けることができる。 数学・数理が実際の社会と繋がっていて有用なものであるという一般的な理解と感覚を身につけることができる。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 1．講義ガイダンス、経営科学における最適化技術の位置づけ 2．最適化問題による数理モデル化（1）線形計画問題 3．最適化問題による数理モデル化（2）整数計画問題 4．最適化問題、最適化アルゴリズムの分類と計算複雑性理論 5．最適化問題を解くアルゴリズム 6．最適化ソルバー（ソフトウェア） 7．グラフ理論の基礎 8．ネットワーク最適化（1）最短路問題と最短路問題を解くダイクストラ法 9．ネットワーク最適化（2）最大流問題と最大流問題を解く増加道法 10. ネットワーク最適化（3）最大流問題の応用例 11. ネットワーク最適化（4）最小費用流問題と最小費用流問題を解く負閉路消去法 12. 実問題のモデリングと求解プロセスの演習 13. まとめと講評 【授業方法】 講義形式を基本とするが、講義の間に簡単な例題や課題を示し、学生の理解を確認しながら講義を進める。講義内容の詳細を補う解説、より発展的な話題を扱う記事などをkibaco上に資料の形で用意し、自主的な学習の手助けとする。
④授業外学習	用意された資料を講義の前に目を通してテーマを把握する（予習）。講義の直後に再度、資料と出題された例題・課題で講義内容を確実に理解する（復習）。 kibaco上に提示される発展的な話題については、各自の興味に応じて自主的に取り組む。授業の内容に関連して出題される演習課題に取り組み、レポートを提出する（数回程度）。
⑤テキスト・参考書等	レジュメをテキストとして用いる。 【参考書】 ［1］松井泰子、根本俊男、宇野毅明『入門オペレーションズ・リサーチ』東海大学出版、2008 ［2］久保幹雄『組合せ最適化とアルゴリズム（インターネット時代の数学シリーズ）』共立出版、2000 ［3］繁野麻衣子『ネットワーク最適化とアルゴリズム（応用最適化シリーズ）』朝倉書店、2010 ［4］Ravindra K. Ahuja、Thomas L. Magnanti、James B. Orlin『Network Flows: Theory, Algorithms, and Applications』Prentice Hall、1993
⑥成績評価方法	個人レポートと講義中の課題により評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	質問は随時メールで受け付ける。状況によりZoomでの面談にも応じる。メールアドレスは、授業中に周知する。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	【前提知識】 高校程度の数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ）を用いる。 簡単な例を用いて出来るだけ平易な解説を行い、学生がこれらの手法の本質と最適化問題によるモデリングの有用性を理解できるよう心がける。

2018年度以降入学生	統計学基礎	P0031	経営学A	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営データ分析特論	P031	高度専門職業人Ⅰ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	森　治憲		前期	水曜日	6時限	

①授業方針・テーマ	取り上げる内容は授業計画に書いた標準的なトピックである。ただし、受講者の多くが文科系学部出身であり、統計学の勉強を優先できないという事情を考慮して、この授業では分析能力の習得を目的とはしない。与えられた問題に対して分析が適切かどうかを判断し、その結果を正しく理解するための能力を身に付けることを目的とする。ここが標準的な統計学の授業と異なる点である。簡単な演習も行うため、母平均の検定などの初等的な分析は自力でできるようになるはずだが、例えば「複雑な確率モデルをベイズ推定する」ことはまず無理である。ここは注意してほしい。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	統計学を用いた分析結果を理解し、活用するための能力。
③授業計画・内容 授業方法	授業計画 1．1次元のデータ：度数分布表とヒストグラム、代表値と散らばりの尺度 2．2次元のデータ：分割表と散布図、相関関係と相関係数 3．記述統計学としての回帰分析 4．推定の考え方 5．確率変数 6．母集団分布と推定 7．仮説検定の考え方 8．仮説検定の理論 記述統計学（1次元のデータから記述統計学としての回帰分析まで）については反転授業とする。推測統計学（推定の考え方から）は通常の講義とします。 毎回数人の学生をランダムに指名して質問に答えてもらいます。
④授業外学習	この授業で学習する内容は最初から最後まですべて繋がっています。理解するためには毎回の復習が不可欠です。
⑤テキスト・参考書等	講義ノートや練習問題はkibacoを用いて配布します。 参考書としては拙著「経営統計」(新世社）を挙げておく。講義ノートはこの本を要約したものである。
⑥成績評価方法	授業への参加状況を基に評価します。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	質問は授業終了後に受け付けます。メールでも随時受け付けます。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	高校レベルの数学（文系数学）を理解していることが望ましい。

2018年度以降入学生	経営分析	P0012	経営学A	経済学C	ー	2単位
2017年度以前入学生	経営分析特論	P012	高度専門職業人Ⅰ	高度金融人材Ⅰ	2単位	
担当教員	浅野　敬志		前期	月曜日	6時限	

①授業方針・テーマ	スチュワードシップ・コード、伊藤レポート（2.0含む）、コーポレートガバナンス・コードが公表され、わが国のガバナンス改革が加速し、資本コストを意識した経営、機関投資家によるエンゲージメント（目的を持った対話）、社外取締役によるモニタリングなど、企業外部者の論理が反映されやすい経営やガバナンス体制が構築されようとしている。ROE、ROA、資本コストなどの会計指標（KPI）を企業価値の視点から再確認するとともに、これらを意識した経営やガバナンス体制が企業価値の向上や日本経済の再生にとって望ましいのかどうかを検討する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	アベノミクスの三大ガバナンス改革であるスチュワードシップ・コード、伊藤レポート（2.0を含む）、コーポレートガバナンス・コードについて企業価値の視点から理解を深めるとともに、企業外部者の論理が反映されやすい経営やガバナンス体制の是非について、自ら仮説を立て、検証できるようになること。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 1．なぜ企業価値評価が必要か？ 2．企業価値の評価方法（1） 3．企業価値の評価方法（2） 4．企業価値評価の実践（1） 5．企業価値評価の実践（2） 6．会計指標（KPI）と企業価値評価 7．機関投資家のガバナンス改革と企業価値（スチュワードシップ・コード） 8．企業のガバナンス改革と企業価値（コーポレートガバナンス・コード） 9．現金保有と企業価値 10．資本構成と企業価値 11．株主還元策と企業価値 12．インセンティブと企業価値 13．エンゲージメント（企業と投資家の対話）と企業価値 14．ESG（環境、社会、ガバナンス）と企業価値 15．まとめ 【授業方法】 講義、グループディスカッションを組み合わせて授業を行う。
④授業外学習	リーディング・アサインメントを事前に読み授業に臨むこと。
⑤テキスト・参考書等	スティーブン・ペンマン『アナリストのための財務諸表分析とバリュエーション』（有斐閣、2018年） ラッセル・ランドホルム、リチャード・スローン『企業価値評価』（マグロウヒル・エデュケーション、2015年） スティーブン・ボーゲル『日本経済のマーケットデザイン』（日本経済新聞社、2018年） 浅野敬志『会計情報と資本市場：変容の分析と影響』（中央経済社、2018年） 伊藤邦雄『新・企業価値評価』（日本経済新聞、2014年） 手島直樹『ROEが奪う競争力』（日本経済新聞社、2015年） 柳良平『ROE革命の財務戦略』（中央経済社、2015年） 菊地正俊『日本株を動かす外国人投資家の設け方と発想法』（日本実業出版社、2017年） 水口剛『ESG投資』（日本経済新聞社、2017年） 日本証券アナリスト協会『価値向上のための対話』（日本経済新聞出版社、2017年） 池尾和人・幸田博人『日本経済再生25年の計』（日本経済出版社、2017年） その他、企業価値評価やガバナンスに関する書籍・論文
⑥成績評価方法	ディスカッション（40%）、レスポンスペーパー（30%）、期末レポート（30%）によって評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	授業後をオフィスアワーとする。また、メールによる質問も随時受け付ける。 【連絡先】 takasano@tmu.ac.jp
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	ファイナンスプログラムの学生は受講できない。

2018年度以降入学生	管理会計	P0045	経営学A	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	管理会計特論	P045	高度専門職業人Ⅰ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	細海　昌一郎		後期	土曜日	3時限	

①授業方針・テーマ	管理会計は企業内部の経営者に対して経営管理に必要な経済的情報を提供することを目的とした会計といえますが、その主要な役割は大きく2つに分けられます。1つは、合理的な経営上の意思決定を行えるようにする役割であり、もう1つは、意思決定されたことが達成されるようにコントロールする役割です。 本講義では、こうした意思決定や業績評価に有効な管理会計技法のうち代表的なものをとり上げ、数値例を用いて解説・検討します。具体的には、管理会計の基礎を概説したのち、CVP分析、予算管理、分権組織の業績評価、業務的意思決定、戦略的意思決定、財務情報分析などを取り上げ、その基礎と応用について解説・検討する予定です。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	本講義を履修することによって、受講者は企業活動を客観的な会計数値で分析・評価する基本的な能力を身に付け、企業活動の改善点や目標を明確することが期待されます。
③授業計画・内容 授業方法	① イントロダクション：講義内容の概略 ② 管理会計の基礎 ③ CVP分析（1）：利益計画とCVP分析 ④ CVP分析（2）：固定費の意義と管理 ⑤ CVP分析（3）：感度分析、CVP分析その他の論点 ⑥ CVP分析（4）：原価分解 ⑦ 予算管理（1）：予算管理の基礎、製造間接費予算、売上高予算 ⑧ 予算管理（2）：予算実績差異分析、予算管理の行動科学的課題、予算管理の弊害と新たな潮流 ⑨ 分権化と業績測定（1）：業績管理の基礎、事業部の業績管理指標（BSC等を含む） ⑩ 分権化と業績測定（2）：EP(EVA）と業績管理、内部振替価格、ミニプロフィットセンター（MPC） ⑪ 業務的意思決定（1）：業務的意思決定の基礎、最適セールス・ミックス ⑫ 業務的意思決定（2）：在庫管理の基礎、経済的発注量（EOQ）とJIT、スループット会計 ⑬ 戦略的意思決定（1）：戦略的意思決定の基礎、DCF法による投資プロジェクトの評価方法 ⑭ 戦略的意思決定（2）：不確実性下の投資意思決定 ⑮ 財務情報分析：企業価値評価法の基礎 ※講義の内容・順序を一部変更することがあります。
④授業外学習	・毎回の講義内容と演習課題について、よく復習しておいてください。
⑤テキスト・参考書等	・テキストは、特に指定しません（レジュメ配布）。 ・以下、参考文献を示します（講義レジュメの作成に使用）。 青木雅明『管理会計』同文館出版、2005。 石塚博司共著『意思決定の財務情報分析』国元書房、1985。 大塚宗春『意思決定会計講義ノート』税務経理協会、2008。 加藤勝康・豊島義一『Q&A管理会計入門』同文館出版、2003。 小林健吾『体系予算管理』東京経済情報出版、2003。 小林・伊藤・清水・長谷川『スタンダード管理会計第2版』東洋経済新報社、2017。 佐藤紘光・齋藤正章『改訂新版管理会計』放送大学教育振興会、2006。 知野雅彦・日高崇介『予算管理の進め方』日本経済新聞出版社、2007。 平岡・大野・井出・細海『原価計算・工業簿記演習第3版』創成社、2003。 望月・細海編著『原価会計の基礎』創成社、2021。 門田安弘編著『管理会計レクチャー〔基礎編〕、〔上級編〕』税務経理協会、2008。 山根節『新版ビジネス・アカウンティング－MBAの会計管理－』中央経済社、2008。 Higgins, Robert C., Analysis for Financial Management, McGraw-Hill, Inc, 2003. Horngren, C.T., G.Foster, S.M.Datar, Cost Accounting –A Managerial Emphasis, Prentice-Hall, 2006. Horngren, C.T, G.L.Sundem, W.O.Stratton, Introduction to Management Accounting, Prentice-Hall, 2002. Shim,Jae K.,and Joel G.Siegel,Modern Cost Management & Analysis,Barron's Business Library, 2000. Shim, Jae K., and Joel G.Siegel, Budgeting Basics and Beyond Second Edition, John Wiley &Sons, Inc, 2005.
⑥成績評価方法	・講義参加度と演習課題に基づいて評価します。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	・オフィスアワー：原則として木曜日6時限目としますので、質問等があれば研究室（3-233）に来てください。 ・連絡先：hosomi@tmu.ac.jp
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	・本講義では受講者の理解を深めるため、毎回、講義内容についてひと通り解説したのち、PCを用いた演習を行う予定です。 ・基本的な企業会計の知識と基本的なPCの能力を前提にして行います。 ・PC演習用データを配布します。

2018年度以降入学生	財務会計	P0049	経営学A	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	財務会計特論	P049	高度専門職業人Ⅰ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	野口　昌良		前期	水曜日	5時限	

①授業方針・テーマ	優良企業（組織）の選別にあたっては、企業業績に関する情報を提供する公表財務諸表を中心にして分析が行われる。開示された情報を正確に把握するためには、財務諸表の機能と構造を十分に理解することが必要になる。この講義では、国際財務報告基準（International Financial Reporting Standards；IFRS）の内容を中心に、現代社会において財務諸表が果たす役割について考察し、その機能と構造を理解することを目標とする。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	1．企業業績に関する情報を提供する財務諸表の機能と構造を理解することができる。 2．1．をベースにして財務諸表を作成・分析する能力を修得できる。 3．1．および2．をベースにして国際財務報告基準（International Financial Reporting Standards；IFRS）の内容を理解することができる。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 新型コロナウィルスによる休講措置のため、期末試験も含めて13回の講義に代えて編成する。 1．財政状態計算書 2．損益計算書および包括利益計算書 3．キャッシュフロー計算書 4．連結財務諸表 5．棚卸資産会計 6．中間試験 7．固定資産会計 8．金融商品会計 9．退職給付会計 10．税効果会計 11．収益認識 12．企業結合会計 13．定期試験・解説 【授業方法】 講義は基本Zoom（グループミーティングアプリ）を使用したオンラインで実施する。各学生は必要な機材を準備したうえで講義に参加すること。5月の授業開始前に、e-learningシステムkibacoの「資料」リンクに掲記してある「授業計画」および「イントロダクション」を一読しておくこと。 講義を中心とした授業を実施するが、適宜ディスカッション（一部グループワークの形式も取り入れる予定）も実施して、学生の理解度を確認しながら、到達目標に必要な知識の修得に努める。講義は、概念等について説明を行った後に、演習問題（exercise）を解くかたちでその計算方法の修得に努める。 期央に中間試験を実施する。状況によっては、中間試験および期末試験もオンラインで実施することがある。
④授業外学習	【授業外学習】 事前配布するハンドアウトおよび演習問題（exercise）その他資料の予習・復習が必要となる。
⑤テキスト・参考書等	【テキスト】 教科書は指定しないが、e-learningシステムkibacoを通じて講義資料を配布するので、事前に学習しておくこと。 【参考書等】 Donald E. Kieso, Jerry J. Weygandt, Terry D. Warfield, Intermediate Accounting: IFRS Edition, 3rd Edition, Wiley.
⑥成績評価方法	基本的に定期試験のスコアに準拠して評価するが、適宜実施するディスカッションもクオリティに応じて評価する。 評価のウェイトは定期試験のスコアを70%、ディスカッションの内容を30%とする予定である。 定期試験は、到達目標に照らして、財務諸表の機能と構造に関する知識を通じて、財務諸表を作成・分析する能力を修得できているか否かを確認するために実施する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	【オフィスアワー】 メールによる質問を受け付ける。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	【他の授業科目との関連性】 さしあたっては特別な前提知識を必要としない。

2018年度以降入学生	組織行動	P0019	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	組織行動特論	P019	高度専門職業人Ⅱ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	高尾　義明		後期	火曜日	5時限	

①授業方針・テーマ	組織行動論の考察対象は、組織における人間行動及び集団行動です。組織行動論はミクロ組織論と呼ばれることもあるように、微視（ミクロ）的な視座から組織を捉えます。本講義では、組織行動論の代表的な概念について理論的に解説するとともに、それらの応用の可能性について検討を行います。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	本講義で修得できる理論枠組みは、組織における人間行動・集団行動の説明・予測・方向付けに役立てることができます。また、組織のメンバーとしてどのように組織とかかわり、ふるまうべきかを内省する手がかりとなる枠組みの獲得を目指します。
③授業計画・内容 授業方法	第1回：イントロダクション 第2回：ワーク・モチベーション 第3回：職務設計とジョブクラフティング 第4回：組織における公正 第5回：組織市民行動 第6回：リーダーシップとフォロワーシップ 第7回：リーダーシップ開発 第8回：経験学習 第9回：組織社会化 第10回：コミュニケーション 第11回：集団行動とチーム 第12回：組織と個人の関係 第13回：組織とキャリア 第14回：ポジティブ組織行動 第15回：総合ディスカッション 【授業方法】文献の発表、ディスカッション、グループワークを組み合わせて授業を行います。
④授業外学習	毎回、リーディング・アサイメントを事前に読んで授業に臨んでください。また、毎回事前課題の提出を求めます。
⑤テキスト・参考書等	各回のリーディング・アサイメントを事前に配布します。 参考書（授業の履修にあたって購入する必要はありませんが、適宜参照すると理解が深まると思います） ・鈴木竜太・服部泰宏（2018）『組織行動』有斐閣
⑥成績評価方法	発表・発言などによる授業に対する積極的貢献（85%）および学期末レポート（15%）によって評価します（詳細は第1回に説明します）。
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	オフィスアワーは特に設定しませんが、直接質問したい場合は随時受付しますので、事前にメールでアポイントメントをとってください。 【連絡先】ytakao@tmu.ac.jp
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	マネジメント・サイエンスⅡ	P0034	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	マネジメント・サイエンス特論Ⅱ	P034	高度専門職業人Ⅱ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	増山　博之		前期	火曜日	5時限	

①授業方針・テーマ	本講義はマルコフ解析および行列解析の基礎理論とその応用について講述する。マルコフ解析とは、マルコフモデルによる不確実な現象の理解と評価に加え、そのための数理手法の開発を目的とする応用確率論の一分野である。また、行列解析とは、行列の構造（成分自身およびその配置の数学的性質）利用し、行列ノルムや、行列関数、連立方程式、固有値・固有ベクトル、行列分解などについての理解の深化と、それらに係る数値計算法の開発を目的とする線型代数学の一分野である。マルコフ解析と行列解析は、経営科学、経済学、工学の諸分野に渡り幅広い応用を有しているが、本講義では、その中から特に経営科学と関連のある代表的な応用例を紹介する。なお、行列解析については、非負行列に関する理論と応用に重きをおく。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	マルコフ解析、ならびに、非負行列を中心とする行列解析の基礎理論を習得し、経営科学と関連のある応用例について理解を深める。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 1．確率論の基礎（確率空間、確率変数、分布関数、期待値） 2．離散時間マルコフ連鎖①（推移確率行列、既約性、周期） 3．離散時間マルコフ連鎖②（停止時刻、強マルコフ性、再帰性） 4．離散時間マルコフ連鎖③（定常測度、定常分布、可逆分布） 5．離散時間マルコフ連鎖④（定常分布と正再帰性、安定条件） 6．離散時間マルコフ連鎖⑤（カップリングと極限分布） 7．保険会社の破産確率 8．マルコフ連鎖モンテカルロ法 9．行列解析①（行列の基礎概念） 10. 行列解析②（行列ノルムとスペクトル半径） 11. 行列解析③（正行列の絶対値最大固有値） 12. 行列解析④（既約非負行列の絶対値最大固有値、冪乗法） 13. 行列解析⑤（定常線形反復法） 14. PageRankによるランキング 15. レイティング手法 【授業方法】 講義資料（スライド形式）を用いて講義を行うが、補足説明を適宜板書する。
④授業外学習	講義資料および自身のノートを用いて講義内容を復習する。 授業の内容に関連して出題される課題に取り組み、レポートを提出する。
⑤テキスト・参考書等	【テキスト】 テキストは使用しない。講義資料を配布する。 【参考書】 ・Pierre Bremaud,“Markov Chains: Gibbs Fields, Monte Carlo Simulation and Queues,” 2nd ed., Springer, 2020 ・尾畑伸明「確率モデル要論 ―確率論の基礎からマルコフ連鎖へ―」牧野書店、2012 ・山本 哲朗「別冊数理科学 行列解析の基礎」サイエンス社、2010 ・齋藤正彦「数学講義 行列の解析学」東京図書、2017 ・A.N. Langville・C.D. Meyer(著)、岩野 和生・黒川 利明・黒川 洋（翻訳)「Google PageRankの数理 ―最強検索エンジンのランキング手法を求めて―」共立出版、2009
⑥成績評価方法	出席状況とレポート課題（3回程度）により評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	質問がある場合は、前日までに必ずメールでアポイントメントをとること（メールでの質問も可)。 メールアドレスは、授業中に周知する。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	微分積分、線形代数、確率論の基礎事項を一通り習得していることが望ましい。

2018年度以降入学生	経営数理	P0023	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営数理特論	P023	高度専門職業人Ⅱ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	山下　英明		後期	金曜日	5時限	

①授業方針・テーマ	機械学習の数理的な側面に重点をおいて概説する。講義では基本的にテキストに沿って説明するが、テキストに含まれていない重要な話題であるサポートベクターマシンとニューラルネット（深層学習）についても講義する。機械学習では、統計学や最適化の数学が多用されるので、それらについて、適宜、基礎的なことを整理して呈示する。また、最適化ソフトウェアの利用法についての基礎事項を説明する。数式のもつ本質的な意味をできるだけ図や言葉で伝えるようにし、今後の研究活動や実務において、機械学習の考え方が活かせるような形を目指す。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	科学的方法論として近年進展の著しい機械学習について、その枠組みと考え方を理解し、さらに機械学習の基礎を成す数理的基礎を理解する。その過程で、数式の読み解き方などの基本的な技術も学習する。また、最適化ソフトウェアを使うための基礎的な技術を習得する。それによって、研究活動や実務における数理的解析力と問題解決力を習得する。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 1．ガイダンス、機械学習へのイントロダクション 2．最小2乗法（線形回帰、正規方程式） 3．機械学習の基礎概念（汎化能力、過学習、交差確認） 4．最尤推定法（確率分布、期待値、正規分布、推定量） 5．最適化の基礎1（線形計画、勾配法、凸関数） 6．パーセプトロン（分類、オンライン学習、確率勾配法） 7．ロジスティック回帰 8．最適化の基礎2（双対問題、双対性） 9．サポートベクターマシーン（概要、定式化、カーネル法） 10. Excelによる機械学習の演習1 11. ROC曲線 12. ニューラルネット：深層学習 13. Excelによる機械学習の演習2 14. k平均法（クラスタリング、教師なし学習） 15. ベイズ推定（ベイズの定理、事前分布、事後分布） 【授業方法】 テキストの要点をまとめたスライドによる講義形式を基本とするが、講義の間に簡単な例題や課題を示し、学生の理解を確認しながら講義を進める。テキストに含まれない内容については、講義資料を用意する。また、発展的な話題を扱った資料を用意し、自主的な学習の手助けとする。スライド、講義資料はkibacoから利用できる形とする。
④授業外学習	講義の前にテキストに目を通してテーマを把握する（予習）。講義の直後に、テキストと資料を読んで講義内容を確実に理解する（復習）。各自の興味に応じて、自主的に、kibacoに用意された資料を利用して、発展的な内容を理解する。授業の内容に関連して出題される課題に取り組み、レポートを提出する。
⑤テキスト・参考書等	【テキスト】 ・中井悦司：ITエンジニアのための機械学習理論入門、技術評論社、2015。 【機械学習の参考書】 ・中川裕志：機械学習、丸善出版、2015。 ・竹内一郎、烏山昌幸：サポートベクトルマシン、講談社、2015。 ・岡谷貴之：深層学習、講談社、2015。 ・松尾豊：人工知能は人間を超えるか、KADOKAWA、2015。 ・荒木雅弘：フリーソフトではじめる機械学習入門、森北出版、2014。 ・Excelでわかる機械学習超入門、技術評論社、2019。 【統計学の参考書】 ・杉山将：機械学習のための確率と統計、講談社、2015。 【最適化の参考書】 ・寒野善博、最適化手法入門、講談社、2019。 ・田村明久、村松正和：最適化法、共立出版、2002。 ・藤澤克樹、後藤順哉、安井雄一郎：Excelで学ぶＯＲ、オーム社、2011。
⑥成績評価方法	出席状況とレポート課題により評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	授業内容の質問については、まず質問者がメールで教員に連絡し、必要があれば教員が面談の日時を質問者と相談の上設定する方式をとる。 【連絡先】hideak@tmu.ac.jp
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	【前提知識】 統計学と最適化理論の基礎事項を一通り習得していることが望ましい。

2018年度以降入学生	ビジネスイノベーション演習	P0039	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	ビジネスイノベーション特別演習	P039	高度専門職業人Ⅱ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	高橋　勅徳		後期	土曜日	1、2時限	

①授業方針・テーマ	これまでビジネスイノベーションは、まったく新しいテクノロジーやアイディアの下でイノベーションを主導する、特殊なパーソナリティの持ち主たる企業家と共に語られてきました。確かに、巷間に溢れる雑誌・新聞・TVからの情報を見聞きする限り、ビジネスイノベーションとはそのような現象として理解できるかもしれません。 しかしながら、そのように現象を捉えてしまうと、ベンチャービジネスとは通常のビジネス実践から乖離した、特殊な存在となります。しかし、イノベーションを実現するためには、単なるテクノロジー／アイディアや企業家の有無という問題ではなく、顧客、同業他社、関係会社、銀行など様々な主体と関係を取り結び、自社にとって有利な方向へと導いていく社会関係のマネジメントが求められます。そこでこの講義では、ケーススタディと当事者の講演を通じて、イノベーションのマネジメントを学んでいきます。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	この講義では、ベンチャー企業の創出、新技術／サービスの普及、既存企業（行政組織を含む）のイノベーションのプラクティカルな知識を、具体的なケーススタディに基づくディスカションを通じて通じて学びます。
③授業計画・内容 授業方法	授業計画・内容・方法 この講義は隔週2コマ連続で開講します。1コマ目に検討するベンチャー企業についてのケースディスカッションを行い、2コマ目にケースに取り上げた企業経営者による講演とディスカッションを実施します。本年度の出講予定者は現在調整中のため、2020年度の出講者を参考までに記載します。2021年度の出講者については、8月末頃を目処に掲示しますので、ご確認をお願いします。 第一回　ガイダンス+リーディングセミナー 第二回　株式会社ソラシドエア マネジャー 大野裕輝「組織文化を利用した緩やかな組織統制－株式会社S社の組織文化変革プロジェクト」 第三回　「株式会社みやじ豚による6次産業化とブランド構築：株式会社みやじ豚 代表取締役社長 宮治勇輔 第四回　「地域の時間と働き方改革に対応した職場設計」国東時間株式会社 代表取締役社長 松岡勇樹 第五回　「社内ベンチャーを作動させる管理者のマネジメント」ネスレ日本株式会社 人事総務本部 トレーニング＆ラーニングユニット マネジャー 木村 俊成 第六回　「アプリビジネスにおけるビジネスモデルの作り方」株式会社Paddle 代表取締役 井手悠志 第七回　期末グループワーク 第八回　期末グループワーク 第九回　期末グループワーク報告会 授業方法 基本的に対面講義で行う予定である。ただし2021年度については新型コロナウィルスの感染拡大への対応のため、本講義ではZoomを利用した遠隔講義を実施します。https://zoom.us/jp-jp/meetings.htmlにアクセスし、アカウントを取得しておくこと。オンラインで講義を行う際は案内状の送付をkibacoを通じて行うので、Kibacoへの登録と確認を忘れないようにお願いします。
④授業外学習	授業外学習 講義に先立って配布するケーススタディを熟読の上、出講企業の事前調査を行い質問項目をまとめておくこと。
⑤テキスト・参考書等	テキスト・参考書については、必要に応じてその都度指定する。
⑥成績評価方法	ディスカッションへの参加（20%）および議論への貢献度（20%）、期末グループワーク（40%）による。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーについては、メール（misanori@tmu.ac.jp）でスケジュール調整の上、適宜実施する。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	原則隔週で2コマ連続の、変則開催とします。

2018年度以降入学生	企業経済学	P0026	経営学B	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	企業経済学基礎特論	P026	高度専門職業人Ⅰ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	芝田　隆志		後期	火曜日	6時限	

①授業方針・テーマ	本講義では、ミクロ経済学の観点から、企業の経営活動について考える。本講義を通じて、ミクロ経済学における企業の利潤最大化問題において、仮定された強い前提条件を緩和し、その結果として生じる経済メカニズムについて概説する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	●習得できる知識は、ビジネススクールで必要とされる経済学の知識である ●企業間の戦略的相互依存関係を考慮に入れた企業の戦略や意思決定方法などの考え方を習得する
③授業計画・内容 授業方法	1．イントロダクション（経済学とは、ミクロ経済学とマクロ経済学） 2．生産者行動理論（利潤最大化） 3．生産者行動理論（供給関数） 4．生産者行動理論（まとめ） 5．消費者行動理論（効用最大化問題） 6．消費者行動理論（需要関数、異時点間の最適消費問題） 7．市場分析（市場需要関数、市場供給関数、部分均衡、一般均衡、余剰） 8．厚生経済学の基本定理（厚生経済学の第1命題、税、政府介入） 9．市場の失敗（外部性、公共財、自然独占） 10. 不完全競争市場（売手独占、買手独占、双方独占） 11. 不完全競争市場（寡占、コミットメント、フォーク定理） 12. 情報の非対称性（エージェンシー理論、逆選択、モラルハザード） 13. 学生によるプレゼンテーション 14. 学生によるプレゼンテーション 15. 学生によるプレゼンテーション
④授業外学習	●各講義に対する演習問題を自宅学習すること ●練習問題や宿題において需要関数や供給関数などをEXCELにて描写する演習を取り入れる。EXCELの基本操作については各自で自宅学習しておくこと。
⑤テキスト・参考書等	テキスト：指定しない 講義資料を各自ダウンロードすること。 参 考 書：神取道宏、2014、ミクロ経済学の力、日本評論社 他の参考文献については講義中に指示する
⑥成績評価方法	発表と宿題（平常点含む）による総合評価
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	火曜17：50－18：20（メールにて事前予約すること）
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	コーポレートファイナンス概論	P0005	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	コーポレート・ファイナンス特論	P005	高度専門職業人Ⅰ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	中岡　英隆*		前期	月曜日	5時限	

①授業方針・テーマ	企業のグローバル化が進み、日本企業においても国内外でのM&A戦略が経営上の最重要課題となっている。こうした企業の戦略的な投資や企業価値創造に関わる意思決定には、オプション理論を取り入れた最新の企業価値評価の手法が不可欠である。本講義では、伝統的なコーポレート・ファイナンスの基礎を概観した上で、会社法や契約、ビジネスモデルに織り込まれたオプションの仕組みを解き明かして、オプション理論を活用した投資戦略や株主価値、負債価値、資産価値、信用リスクの評価の手法を学ぶ。そして、その実践的な応用を目指して、まずは投資の意思決定や資金調達に関する演習を行い、さらに、ケース・ワークにより企業の財務分析を行った上で、オプション理論を用いた企業価値、負債コスト,デフォルト確率などを測定する演習を行う。また、最前線の企業活動のケースを読み解きながら、ファイナンスや経営資源、コーポレートガバナンスの視点から、マネジメントによる企業価値創造力やM&Aに対する市場の評価を理論的・実証的に分析し、M&Aの戦略・経済性について洞察を深める。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	伝統的なコーポレート・ファイナンスとコーポレート・ガバナンスやResource-Based Viewの経営戦略論などの視点を融合して、投資の意思決定や資金調達の方法、およびオプション理論を活用した投資戦略や株主価値、負債価値、資産価値、信用リスクの評価の手法を学ぶことにより、不確実性下における企業価値の評価やM&A戦略、マネジメントの価値創造力についての洞察力・実践力を高め、論理的思考力、総合的問題解決力を高める。さらに、ケース・ワークによる演習を通じて情報活用能力を高めるため、実際の企業買収や買収防衛策など最前線の企業活動にフォーカスして、自身でWebデータの収集や有価証券報告書の分析を行い、それらのデータとオプション評価モデルを使って投資戦略や企業価値、信用リスクの評価ができるようになることを目指す。また、マネジメントによる企業価値創造力やM&Aに対する市場の評価を理論的に分析し、実際のケースを通じてM&Aの戦略・経済性についての洞察を深めて、総合的問題解決力を高める。
③授業計画・内容 授業方法	① M&Aの経済性と事業価値 ② 資本構成と配当政策 ③ 企業金融とガバナンス論 ④ M&A戦略と経営資源 ⑤ ポートフォリオ理論と市場の効率性 ⑥ オプションと企業価値 ⑦ 離散時間モデルとリスク中立化法 ⑧ Mertonモデルと負債・資産の市場価値・信用リスク評価 ⑨ 演習「TBSの買収防衛策と株主価値・負債価値・信用リスク」 ⑩ 演習「買収対象企業の財務分析」（ホットなM&A事例を取り上げます） ⑪ 演習「市場データに基づく負債・資産価値・信用リスクの測定」 ⑫ 事例研究「日本の優秀企業の株主価値・負債価値・qレシオ」 ⑬ 事例研究「マネジメントの経営価値創造力とイベントスタディ」
④授業外学習	① 演習問題やレポート課題を自宅学習すること。 ② 本講義では、演習問題やレポート課題において、基本的なファイナンス理論の手法やオプション・モデルなどのExcel演習を取り入れる。Excelの基本操作については、各自で自宅学習しておくこと。 ③ 授業の際の不明な点や高校数学・統計の基礎知識について、授業中に示された参考文献などで自宅学習すること。
⑤テキスト・参考書等	［テキスト］毎回配布のレジュメによる。 ［参考文献］ ［1］中岡英隆［2009］、「企業における資源開発事業の統合リスク評価」『ジャフィー・ジャーナル：ベイズ統計学とファイナンス』日本金融・証券計量・工学学会、179-205、朝倉書店。 ［2］中岡英隆［2011］、「マネジメントの価値創造力とM&Aの評価」『ジャフィー・ジャーナル：バリュエーション』日本金融・証券計量・工学学会、114-133、朝倉書店。 ［3］リチャード・ブリーリー、スチュワート・マイヤーズ、藤井真理子他訳［2002］、『コーポレート・ファイナンス 上・下』日経BP社。 ［4］木島正明、中岡英隆、芝田隆志［2008］、『リアルオプションと投資戦略』朝倉書店。 ［5］ミシェル・クルーイ、ダン・ガライ、ロバート・マーク、三浦良造他訳［2004］、『リスクマネジメント』共立出版。
⑥成績評価方法	出席状況および授業への参加姿勢と課題発表・レポートにより評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	① 授業終了後 ② 授業開始前（メールにて事前予約をすること）
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	概ね文系レベルの数学とExcelの知見を前提とする。 授業のレジュメやレポート課題、授業のオンライン化などの通知は、kibacoを通じて連絡するので、事前にkibacoを必ず参照すること。

2018年度以降入学生	財務戦略論	P0008	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学演習（財務戦略）	P008	高度専門職業人Ⅱ	高度金融人材Ⅰ	2単位	
担当教員	松田　千恵子		後期Ⅰ	火曜日	5、6時限	

①授業方針・テーマ	今日の経営環境においては、事業の意思決定はファイナンスを無視して行い得るものではなく、また財務的な意思決定には事業状況への深い洞察が益々必要とされている。経営戦略及びコーポレートファイナンス双方の理論を有機的に結びつけ、統合された知識に基づき、実践的な経営判断を行っていくことは、これからの経営者にとって必須の能力である。 この授業では、こうした問題意識に基づき、経営人材として必要な財務戦略、資本市場の動向とその背景の理解に主眼におき、実践的なコーポレートファイナンスの活用と、その経営戦略との関係性を考える。 具体的には、まず財務分析等の基礎を確認したうえで、経営の意思決定において必須のコーポレートファイナンスの核となる考え方を俯瞰する。それをベースに、企業の財務戦略の主要な論点と近年増えつつあるM&Aや投資家対応に関する主要な論点につき、実践的なケースを通じて考察を深める。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	企業経営と財務の結びつきを理解したうえで、以下の知識・能力を身に付けることを目的とする。①企業の実績及び企業価値を数字で具体的に理解できるようになる。②具体的な事例で資本コストの推定や企業価値の推定ができるようになる。③実際の企業の経営行動を企業価値の観点から理解・説明することができるようになる。
③授業計画・内容 授業方法	1．イントロダクション：企業を巡る環境変化ー財務が分からなければ経営はできない 2．企業価値の評価と向上（1）ー財務分析と指標の意味 3．企業価値の評価と向上（2）ー将来予測とキャッシュフロープロジェクション 4．コーポレートファイナンスの要諦（1）ー企業に対する期待収益率とその実現 5．コーポレートファイナンスの要諦（2）ー最適資本構成と信用リスク 6．コーポレートファイナンスの実践（3）ー現在価値と企業及び投資の評価 7．資本政策（出資）における理論と実務ーIPO、M&A、LMBO、投資ファンド 8．負債政策（融資）における理論と実務ー銀行借入、社債、格付、ターンアラウンド ※実例を多く取り上げながら行うため、2時限連続の講義とする。
④授業外学習	授業の準備としての課題は適宜指示する。 その他、主要企業の経営や資本市場の動きに常に関心を持ち、内外メディアを通じてフォローしておいてほしい。
⑤テキスト・参考書等	教科書 ・松田千恵子『コーポレートファイナンス実務の教科書』日本実業出版社、2017年 ・その他、各回パワーポイント等の資料をKibacoにアップするので、各自用意のこと。 参考書 ・リチャード・ブリーリー・スチュワート・マイヤーズ・フランクリン・アレン（著）、藤井 眞理子・国枝 繁樹（翻訳）『コーポレート ファイナンス（第10版）上・下』日経BP社、2014年 ・ロバート・C・ヒギンス（著）、グロービス・マネジメント・インスティテュート（翻訳）『ファイナンシャル・マネジメント 改訂3版---企業財務の理論と実践』、ダイヤモンド社、2002年 ・その他、授業中に適宜指示する。
⑥成績評価方法	期末試験（レポート提出）結果、及び授業への貢献度を6：4にて評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	授業前後の時間、メール等の活用いずれも可。事前にメールでのアポイントを取得することにより、随時面談も受け付ける。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	特に無し。簿記会計及び財務分析の基本が分かっていればより望ましいが、必須ではない。 本科目は、金融機関や企業における実務経験を持つ教員により行われる。

2018年度以降入学生	経営戦略とリアルオプション	P0002	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学演習 (経営戦略とリアルオプション)	P002	高度専門職業人Ⅱ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	中岡　英隆*		後期	月曜日	5時限	

①授業方針・テーマ	企業の経営は、不確実性下における戦略的な投資や企業価値創造に関わる様々なオプションに対する戦略的意思決定である。シナリオプランニングは、こうした観点から、近未来に起こり得る社会の構造的変化が自社にもたらすチャンス・危機を事前に描き出し、そのシナリオをstory tellingという形で組織内に共有して、構造変化に対して戦略的かつ俊敏に対応できる組織能力を育む為の経営手法である。本講義では、この米国経営者に最もポピュラーな経営手法の一つと言われているシナリオプランニングをグループ・ワークによる演習を通じて実践的に体得することを目指す。また、金融のオプション理論を実物資産の評価に拡張したリアルオプションは、不確実性下における戦略のフレキシビリティを評価できる最新の経営科学として、経営戦略や投資戦略、M&A戦略などに対するマネジメントの意思決定の最適化に不可欠な経営手法と言っても過言ではない。本講義では、最前線の企業活動のケースを通じて、優れたグローバル企業の経営戦略のデザインを洞察し、その中に織り込まれているオプションの仕組みについて実践的かつ直観的な理解を深めながら、オプション理論の基礎を直観的に理解し、リアルオプションの分析のフレームワークと実際の解法を習得する。そして、不確実性下におけるマネジメントの意思決定をサポートするための二つの重要な方法論であるシナリオプランニングとリアルオプションの融合という文脈において、新しいマネジメントの手法を洞察する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	本講義では、シナリオプランニングとリアルオプションという二つの経営手法の新たな融合を目指して、まずシナリオプランニングの方法を学んだ上で、グループワークによる演習を通じてシナリオプランニングの実践的な体得を図る。演習では、対象企業および産業に関する広範なデータ・スキャニングと情報活用能力が求められ、グループ・ワークを通じてコミュニケーション能力、論理的思考力、総合的問題解決能力が高められる。次に、リアルオプションについては、まず優れたグローバル企業のケースを通じて、リアルオプションがどのように企業の経営戦略のデザインに織り込まれているのかを概観し、Excel演習により事例に基づくオプション戦略の評価を行いながら、リアルオプションの基本的な仕組みの直観的な理解と、それを応用したビジネス戦略の本質的な仕組みについての洞察力を高める。これらを通じて、オプション理論の基本的な考え方の直観的な理解が促され、それを踏まえてリアルオプションの分析の理論的な基礎と、実際に意思決定の最適解を導くための解法が順を追って習得される。また、代表的な企業戦略の応用問題についてのケース・スタディを行いながら、リアルオプションの基本理論のさらなる直観的な理解を深め、不確実性下の企業戦略オプションに対するマネジメントの意思決定の最適化を考察することを通じて、論理的思考力、総合的問題解決力が高められる。最後に、シナリオプランニングとリアルオプションの融合という文脈において、新しいマネジメントの手法を洞察する。
③授業計画・内容 授業方法	① 不確実性下の経営戦略と投資の意思決定 ② 創発的戦略とシナリオプランニング ③ 戦略のデザインとリアルオプション ④ NPV法とリアルオプション ⑤ 離散時間モデルとリスク中立化法 ⑥ シナリオプランニング・グループ演習 ⑦ 離散時間モデルのExcel演習 ⑧ シナリオプランニング・グループ演習 ⑨ 確率積分と伊藤の公式 ⑩ シナリオプランニング演習結果グループ発表 ⑪ リアルオプションの基本モデル（新規参入戦略） ⑫ 基本モデルにおける意思決定の最適化 ⑬ 撤退戦略の最適化（プラズマテレビ事業の最適撤退戦略） ⑭ 操業停止・再開の最適化戦略 ⑮ 多品種少量生産戦略の最適化（スイッチング・オプション）
④授業外学習	①演習問題やレポート課題を自宅学習すること。 ②シナリオ・プランニングのグループ・ワークでは、対象企業に関してのデータ・スキャニングやグループ・メンバーとの情報交換、シナリオ作成、プレゼン資料作成を自宅で行うこと。また、必要に応じて、グループ・メンバーが集まり、ドライビングフォースの洞察やシナリオ・マトリクスの構築をグループ・ワークにより行うこと。 ③授業の際の不明な点や高校数学・統計の基礎知識について、授業中に示された参考文献などで自宅学習すること。また、Excelの基本操作については、各自で自宅学習しておくこと。
⑤テキスト・参考書等	[テキスト] 毎回配布のレジュメによる。 [参 考 書] 木島正明、中岡英隆、芝田隆志［2008］、『リアルオプションと投資戦略』朝倉書店。（毎回易しいレジュメにして配布予定） [参考文献] ［1］キース・ヴァン・デル・ハイデン［1998］、グロービス監訳、『シナリオ・プランニング』ダイヤモンド社。 ［2］マーサ・アムラム、ナリン・クラティラカ、石原雅行他訳［2001］、『リアル・オプション』東洋経済新報社。 ［3］トム・コープランド、ウラジミール・アンティカロフ、栃本克之監訳［2002］、『決定版リアル・オプション』東洋経済新報社。 ［4］Dixit, A.K. and R.S. Pindyck (1994), Investment under Uncertainty, Princeton University Press.
⑥成績評価方法	出席状況および授業への参加姿勢と課題発表・レポートにより評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワー： ①授業終了後 ②授業開始前（メールにて事前予約をすること）
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	概ね文系レベルの数学とExcelの知見を前提とする。 授業のレジュメやレポート課題、授業のオンライン化などの通知は、kibacoを通じて連絡するので、事前にkibacoを必ず参照すること。

2018年度以降入学生	証券投資	P0025	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	証券投資特論	P025	高度専門職業人Ⅰ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	坂巻　敏史*		後期	月曜日	5、6時限	

①授業方針・テーマ	本講義では、証券投資・資産運用に関する基本概念・理論の習得に加え、証券投資に関するリスク管理、ミクロ・マクロ経済分析などのより実践的な課題についても学習の対象とする。特に、ポートフォリオ投資のあり方、リスクリターン分析の枠組み、投資戦略、リスク指標などの項目を重点的に扱う。また、最近の動きにも触れ、より深い理解を促す。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	証券投資に関する基礎的な概念やツールの理解、実践的な活用能力の向上を目指す。 特に、具体的な証券投資の場面において、リスクリターンのバランスをどのようにアプローチし決定するかに、役立つ知識や考え方の習得を重視する。
③授業計画・内容 授業方法	本講義で取り上げる範囲は、先ず、証券投資理論の基礎、標準的な投資戦略の知識や分析の枠組みに触れる。加えて、発展的な話題として、金融リスク管理や最近注目されている投資戦略などの話題も扱う。 講義の効果を高めるために、ディスカッションへの参加を期待する。また、具体的な数値例に基づく計算課題などの複数回のレポート提出を予定している。 各講義の主な内容は以下の通りである： ①ー②　証券投資のリターンとリスク、効用理論、ポートフォリオと分散投資 ③ー④　平均分散モデル、ポートフォリオの最適化、効率的市場仮説、分離定理、リスクプレミアム、ベータ ⑤ー⑥　資本資産評価モデル（CAPM）、 投資戦略（アルファ、アクティブ運用、インデックス運用）、 裁定価格理論（APT）、マルチファクターモデル ⑦ー⑧　アセットアロケーション、ポートフォリオのリスク特性、計算 ⑨ー⑩　株式価値評価モデル、計算 ⑪ー⑫　債券分析 ⑬ー⑭　デリバティブズ ⑮　行動ファイナンス ※可能であれば、リスクベースポートフォリオ、スマートベータ、ETF、ファクター投資なども扱う
④授業外学習	必要に応じて指示します。
⑤テキスト・参考書等	（参考書） 小林・芹田「新・証券投資論Ⅰ」（日本経済新聞出版社）2009年第1版 伊藤・荻島・諏訪部「新・証券投資論Ⅱ」（日本経済新聞出版社）2009年第1版 ツヴィ・ボディー「インベストメント 上・下」（日本経済新聞出版社）2010年第8版 井出・高橋「ビジネスゼミナール 証券分析入門（ビジネス・ゼミナール）」（日本経済新聞出版社）2005年 その他、必要に応じて、資料を配布します。
⑥成績評価方法	講義中の議論への貢献・参加姿勢、課題・レポートの提出に基づく評価
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは特に設定しませんが、直接質問したい場合は随時受付しますので、授業前後のタイミングでアポイントメントを取って下さい。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	証券金融分析の基礎の理解、初歩的な統計学・数学の理解があることが望ましい。 統計ソフトを用いた課題を行うことがある（具体的なツールについてはその都度指示する）。

2018年度以降入学生	事業リスクマネジメント	P0739	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	事業リスクマネジメント	P739	高度専門職業人Ⅱ	高度金融人材Ⅰ	2単位	
担当教員	吉松　加雄		前期	土曜日	4時限	

①授業方針・テーマ	近年、企業を取り巻く環境の変化のスピードは加速傾向にあり、その結果、各企業が直面するリスクが急速に増加かつ多様化している。一方で、これらのリスクを適切に管理できる仕組みや仕掛けなどの整備は追いついておらず、企業内での対応は急務となっている。特に、昨年来世界が直面する新型コロナウイルス感染拡大に伴う企業経営上の危機管理（クライシスマネジメント）は一段と高まってきた。本講義では、リスクの識別・評価・対応、あるいはコントロールおよびリスクファイナンスといった狭義のリスクマネジメントに留まらず広く、リスクを取ってリターンを求める企業の投資行動や経営管理のあり方、さらには利害関係者への説明責任といった内容も含め、経営者として考えるべきリスクテイクとそのマネジメントについて取り扱う。講義及び実際の企業を題材にしたケースメソッドを取り入れて進める。 なお、リスク事象の時事性を重視し、講義期間中に社会や企業経営において、重大なリスク事象が発生した際には、適宜授業計画の見直しを行うことがある。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営者、経営幹部及び経営管理スタッフに求められる企業経営上のリスクマネジメントに関するフレームワークの理解及び重要な知識の習得をスタートに多岐に亘る多数のリスク事例について学ぶ。その結果、リスクマネジメントに関する感性を高め、適確な経営判断により実戦（実践）的にリスクを回避し、リスクに対処する能力を身につけ向上させる。更に、予防法的なアプローチとしてリスクマネジメントの具体的な仕組みとプロセス構築の提言を行う実践力を習得する。
③授業計画・内容 授業方法	企業経営に関わるリスクマネジメントに関し下記のテーマを取り扱う。 ①　リスクマネジメントのフレームワーク ②　ガバナンスとコンプライアンス ③　経営戦略とリーダーシップ ④　戦略転換と企業変革 ⑤　コロナ危機対応 ⑥・⑦　グループ発表（第1ラウンド） ⑧　日本企業のグローバル化 ⑨　M&AとPMI(買収後の統合)I ⑩　M&AとPMI(買収後の統合)II ⑪・⑫　グループ発表（第2ラウンド） ⑬　企業経営者による授業内講演（東証一部上場企業社長による講演を調整中） ⑭　グループ発表のフィードバックと討議 ⑮　事業リスクマネジメント全般討議 【授業方法】 実戦（実践）力要請を目的として、企業の経営会議に相当するクラス環境の中で、授業テーマについて積極的なチャレンジ精神を持って発言し授業（擬似「経営会議」）に貢献することが期待されます。
④授業外学習	企業経営上のリスクに係わる感性を高め、実戦（実践）的なリスクマネジメント力及び対応力を習得するため自主研究によるレポート作成とグループワークによるケーススタディ。
⑤テキスト・参考書等	テキスト パワーポイント資料を各回配布予定 参考書 ［1］亀井 利明［原著］上田 和勇［編著]「リスクマネジメントの本質」同文館出版、2017年 ［2］ジョン・P・コッター（著)、梅津 祐良（訳)「企業変革力」日経BP社、2002年 ［3］伊藤 邦雄（著)「危機を超える経営」日本経済新聞出版社、2011年 ［4］浅川 和宏（著)「グローバル経営入門」日本経済出版社、2003年 ［5］亀井 克之（著)「決断力によるリスクマネジメント」ミネルヴァ書房、2017年 他、講義中に適宜紹介する。
⑥成績評価方法	①レポート（最終講義から1週間以内を提出期限予定)、②グループワーク、③クラスデイスカッショッンへの貢献度を①：②：③＝3：4：3のウエイトで評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	個人あるいはグループによる個別の質問は、①メールおよび②メールによる事前連絡による授業後（或いは、オンライン）に受け付ける。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	時事性を重視し、講義開始までに社会や企業経営において、重大なリスク事象が発生した際には、適宜授業計画の見直しを行うことがある。

2018年度以降入学生	ファイナンシャル・プランニング	P0744	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	ファイナンシャル・プランニング	P744	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅱ	2単位	
担当教員	橋本　勝則		後期	水曜日（隔週）	5、6時限	

①授業方針・テーマ	グローバル企業における実務家としての長年の経験を織り交ぜ、事業活動をキャッシュフローに落とし込むことによる意思決定のための実践的な将来キャッシュフローモデリングのプロセスを学びます。事業活動を将来キャッシュフローに落とし込む為には事業活動そのもののキャッシュフローへの影響を理解し、そしてその事業活動を取巻くリスクの影響の大きさと頻度を考えることから始めます。 また、事業活動の基礎となる企業のミッション、ビジョン、コアバリューとその為の戦略的事業ポートフォリオマネジメント、その判断材料となる管理会計や経営指標、そして企業のコアコンピテンシーとしての技術力、組織力のたな卸しについてもデュポン社の事例等を通じて学びます。 さらにグローバル企業での経験談で文化、考え方、そしてアプローチの仕方の違い等を授業内容に織り交ぜることによりグローバルで活躍できる知恵も学べます。 全体の構成は以下の様で、出来るだけ実践的で双方向のインタラクティブな内容で楽しく学べる相互啓発型の授業を目指します。 1．ミッション、ビジョン、コアバリューの考え方と事例研究による会社の方向性・目指す姿を理解します。 2．地球規模のメガトレンドと自社のコンピテンシー・技術力・組織力のたな卸しによる戦略的ポートフォリオマネジメントを理解します。 3．戦略的ポートフォリオマネジメントを評価する管理会計と経営指標を理解します。 4．戦略的ポートフォリオマネジメントを遂行するコーポレートオフィサーの役割とグローバルグループ経営について理解します。 5．COSO-ERMに代表されるリスクマネジメントそのものの考え方を理解します。 6．各種事業活動（マーケティング、セールス、サプライチェーン、プロキュアメント等）の理解とそれらに伴うリスクを理解します。 7．上記の学習を基礎知識として将来キャッシュフローモデリングを学習します。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	実務上何かとありがちな意思決定に影響を及ぼす しがらみ、熱意、バイアス、精神論を排除し、事業活動を客観的に数字に置き換えて考える説得力ある経営感覚の能力を取得することが出来ます。そのためには広範囲にわたる事業活動とそれぞれのキャッシュフローへの影響の理解とそれを取巻くリスクを理解します。その上でリスクの影響度とリスクの頻度に対するセンシティビティーの重要性、絶えずワーストケースのシナリオも意識することが学習できます。結果として、それらをすべて将来キャッシュフローの予測に落とし込むことが出来る能力を身に付け、事業活動における包括的で論理的な透明性を持った意思決定のプロセスを習得することを到達点とします。
③授業計画・内容 授業方法	以下は主な項目で初回に回毎の詳細を発表します。 ①　全体の流れの説明と到達目標と受講者の学習したい期待値の確認 ②③④　ミッション、ビジョン、コア・バリュー（含む事例研究） ⑤⑥⑦　デュポン社事例研究（戦略的事業ポートフォリオ、組織、経営指標、コーポレートガバナンス） ⑧⑨　ワールドクラスの経営 ⑩　前半の学びの振り返り ⑪⑫　リスクマネジメント ⑬⑭　将来キャッシュフローモデリング ⑮　事例研究とクラスディスカション
④授業外学習	必要に応じて授業の資料や課題の配賦は、kibacoを通じて事前に行います。 事例研究は出来る限り受講者の実際のケースに沿った将来キャッシュフローモデリングを行います。
⑤テキスト・参考書等	『ワールドクラスの経営』ダイヤモンド社 その他、随時紹介します。
⑥成績評価方法	①　期末レポートとしての将来キャッシュフローモデリング（50%） ②　クラスディスカションへの貢献度（50%） 発言力も身に付けられるように意識的にクラスディスカションの比率を高めにして、インタラクティブなクラスを目指します。グローバルでは発言力が試される機会が多々あり、発言がないと賛成なのか反対なのかはたまた議論に参加してないと否定的に見られます。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは特に設定しませんが、授業中には聞きづらい個別の質問等は大歓迎です。 F2Fのアポイントや質問はメール経由でアレンジ可能です。メールアドレスは最初の授業でシェアーします。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	コーポレート・ガバナンス	P0738	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	コーポレート・ガバナンス	P738	高度専門職業人Ⅱ	高度金融人材Ⅱ	2単位	
担当教員	北川　哲雄		前期	水曜日	5時限	

①授業方針・テーマ	2014年に発表された日本版スチュワードシップ・コードと2015年に発表されコーポレートガバナンス・コード（いわゆるダブルコード）によって日本企業のコーポレートガバナンスは大きく変容を遂げた。企業行動に与えた影響も計り知れないものがある。功罪半ばといった評価が妥当ではないか。本講義においてはダブルコード制定の源流となった英国のコーポレートガバナンスの変遷を辿るとともに独特の変化を遂げつつある日本のガバナンスシステムの歪みを描出してみたいと思う。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	コーポレートガバナンスシステムの内外の状況を把握するとともに、システム設計の目標が如何にあるべきかを探ることにより、今後のコーポレートガバナンス・コードの特性ついて受講生各人が鋭い問題意識を持てるようにすることを目的とする。
③授業計画・内容 授業方法	授業計画・内容　授業方法 1　企業観とコーポレートガバナンスの関係 （小生の最近書いた論考を皆さんにみてもらいどのような問題意識を講師がもっているかを判断し興味があれば履修してください） 2　コーポレートガバナンスコードとは何か（1）歴史 3　コーポレートガバナンスコードとは何か（2）制度 4　英国のダブルコードの意義 5　2020年SSC改訂の意義 6　2021年CGC改訂の意義 7　ESGの視点と企業価値創造プロセス 8　経営陣・取締役会の役割 9　建設的対話とは何か 10　統合報告書の役割とアナリストの役割 11　『東証コーポレートガバナンス報告書2020』からみえてくるもの 12　CASE（1）ヘッジファンドアクティビストとの攻防 13　CASE（2）ESG投資家との攻防 14　学生のテーマ研究中間発表（1） 15　学生のテーマ研究中間発表（2） [授業方法]
④授業外学習	多くの会において考書・参考文献の指定個所を精読しておいてもらい議論すべき課題につき小レポートを提出（KIBACOに）してもらう。
⑤テキスト・参考書等	初回時に主要参考資料を指示する。
⑥成績評価方法	普段の小レポートおよび発言、中間発表の内容。さらに中間発表を踏まえ提出されら最終レポートの内容を総合して判断する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	随時受け付ける。但し事前にメールにてご連絡ください（t_kitagawa@pop02.odn.ne.jp）。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	経営学・ファイナンス系科目の基礎科目である。

2018年度以降入学生	タックスマネジメント	P0743	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	タックスマネジメント	P743	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅱ	2単位	
担当教員	市野　初芳*		前期	金曜日	6時限	

①授業方針・テーマ	タックスマネジメントは、企業戦略を立案するうえで重要な要素として位置づけられている。それは、企業が、法人税を「コスト」の1つとして認識し、税引後利益の最大化を目的として対策を講じているからである。この授業では、法人税を初めて学ぶ学生を対象とし、法人税の基本的な仕組みや重要な論点について解説する。また、企業を取り巻く国際課税の現状について解説し、この領域で、いま何が問題となっているかを理解する。さらに、タックスマネジメントの視点から、各論点に関する問題点や課題等について検討し、判例等を参照しながら理解を深めていきたい。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	達成目標は、①法人税の基本的な仕組みや考え方を理解する。②タックスマネジメントの視点から、法人税における特に重要な論点について検討し、問題点を明らかにする。③国際課税の現状を理解し、今後の課題について検討する。
③授業計画・内容 授業方法	《授業計画・内容》 第1回：オリエンテーション 第2回：わが国税制と法人税 第3回：法人税の基本的な計算構造①所得計算の仕組み 第4回：法人税の基本的な計算構造②益金の理解 第5回：法人税の基本的な計算構造③損金の理解と原価・費用・損失 第6回：法人税における評価損益の取扱い 第7回：売上原価の計算プロセスと棚卸資産の評価 第8回：減価償却の税務 第9回：役員給与等の取扱いについて 第10回：寄附金・交際費等について 第11回：引当金・貸倒損失について 第12回：課税所得・税額の計算 第13回：グループ法人税制のポイント整理 第14回：国際課税の現状と課題 第15回：授業の総括
④授業外学習	毎回のテーマの復習に時間をかけていただきたい。
⑤テキスト・参考書等	第1回の授業で説明いたします。
⑥成績評価方法	授業への出席状況および最終レポートにもとづき総合的に評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	特定の質問時間は設定しないが、質問がある場合はその都度対応したい。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	この授業は、法人税を初めて学ぶ学生を対象とした内容であるため、税理士、公認会計士、米国公認会計士、証券アナリスト等の有資格者は履修をご遠慮ください。また、財務会計の知識が前提となるため、財務会計を含む会計科目を履修していることが望ましい。

2018年度以降入学生	経営学特別講義（戦略経営Ⅰ）	P0054	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学演習（戦略経営Ⅰ）	P054	高度専門職業人Ⅱ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	坂本　雅明*		夏季集中	ー	ー	

①授業方針・テーマ	経営戦略が戦略の内容を対象にするのに対し、戦略経営では戦略プロセス（策定-実行-評価）を対象にします。戦略経営という言葉は馴染みが薄いかもしれませんが、米国ではStrategic Managementという題名で、多数のテキストが出版されています。 戦略経営Ⅰでは、戦略の策定プロセスを扱います。戦略に関する理論や分析ツールについて、個別には理解している人は多いと思いますが、それでは戦略を策定することはできません。それらが策定プロセスの中で統合されなければなりません。何をどの順番で使うか、またどんな情報をインプットしてどう分析し、次工程のために何をどのような形でアウトプットにするかを理解する必要があります。もちろん、戦略策定プロセスは企業によって異なりますし、業種・業態によっても変わります。ここではどの企業でも必要になる最も汎用的なプロセスを紹介します。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	企業の経営企画担当者やコンサルタントにとって必要な戦略策定メソッドを学びます。レクチャーを聞いて単に理解するだけではなく、ケース演習等を通じて再現可能なレベルで習得することを目指します。 戦略論のレクチャーはいたしますが、それを理解・深耕することは本コースの目的ではありません。実務で応用できるようになることを目的としています。
③授業計画・内容 授業方法	戦略策定プロセスを便宜的にいくつかのフェーズに分け、各フェーズでは講義の後に、ケーススタディーによってアウトプットしていただきます。ケースは事前課題として取り組んでいただきます。ただし1時間程度で完了する分量です。 授業当日は、初めに講義をした後に4人程度のグループ・ディスカッションを行い（Zoomのブレイクアウト機能を使います）、その後全体討議をいたします。そして最後に再び講義を行います。講義とケースディスディスカッションの割合はおおよそ2：1です。 ●使用ケース プラス、村田製作所、ローム、パイオニア、協働型ロボット、その他架空企業のケース等を予定。市販のケースではなく、目的に合わせた情報を盛り込んだ作成したオリジナルケースです。すべてこちらで用意しますので、購入・準備いただく必要はありません。 ●授業内容 01－02（第1日目）環境分析：外部・内部分析 03－04（第1日目）事業機会の検討：3C分析、事業コンセプト、重要成功要因 05－06（第2日目）市場戦略の策定：顧客・競合分析、差別化戦略 07－08（第2日目）競争戦略の策定：業界構造分析、競争戦略、協調戦略 09－10（第3日目）利益モデルの検討：経済性、利益構造、マネタイズ 11－12（第3日目）内部システム：ビジネスシステム、BSC、戦略マップ 13－14（第4日目）企業戦略の策定：PPM、ドメイン、シナジー 15－16（第4日目）総合分析：総合的なケース分析 ※土曜日に4コマ連続で開催します。開催日は8/14、8/21、8/28、9/4。
④授業外学習	毎回、事前にケーススタディーに取り組んでいただきます。 授業終了後には、『事業戦略策定ガイドブック』の該当ページで復習いただきます。
⑤テキスト・参考書等	●テキスト レジュメとケースを用意します。また、下記書籍で補足します。 坂本雅明（2016）『事業戦略策定ガイドブック』同文舘出版。 配布講義開始以前には読まないようお願いします。毎回の授業で予習もしくは復習する章を指示します。 ●参考書 坂本雅明（2021）『事業戦略実践ガイドブック』同文舘出版。 授業で使用することはしませんが、授業内容を補完するものです。
⑥成績評価方法	3コマを超える欠席をしないことが最低条件です。 その上で、宿題、授業中の発言を考慮して成績を付けます。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	sakamoto.tmu@gmail.com
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	戦略策定に関する幅広い知識を体系的に学ぶことができますので、M1での受講をお勧めします。 前提知識は不要です。基本的知識はすべて説明します。また難しい理論は使いません。理論を深く学びたい方は、経営戦略論で補完してください。 何よりも出席を心がけてください。また遅刻も控えてください。毎回の授業は教育効果を考えて1日のスケジュールを設計しています。会社業務の関係で授業開始時間に間に合わないことがはっきりされている方は、履修は難しいと思います。働きながら通われる方に対して酷かもしれませんが、授業の品質を保つためです。どうかご理解ください。

2018年度以降入学生	経営学特別講義（企業倫理）	P0032	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学演習（企業倫理）	P032	高度専門職業人Ⅱ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	岡本　享二*		前期	月曜日	5時限	

①授業方針・テーマ	米国MBAプログラムの傾向として「環境/社会（CSR）問題に関連するBusiness Ethicsは欠かせない」と言われている。当講座ではBusiness Ethics に関する世界動向を的確にとらえながら、企業と社会の間に生じる倫理問題を幅広く検証していく。 先進国と発展途上国との、いわゆる南北問題の主因である「行き過ぎた金融資本主義」、地球温暖化問題に代表される「グローバルな環境問題」、我が国では見過されがちな児童労働、難民、貧困などの「国際的な社会問題」、後を絶たない国内の「企業事故/不祥事」、食料の確保と生産量拡大を狙った「遺伝子組み換え問題」など、興味深い具体例を示しながら、現在の企業倫理を説いて行く。 Sharing Economyが現実となった21世紀の社会変革期においては、従来の規則に従って企業倫理を守るという（Reactiveな対応）よりも、企業自らが自主的に環境/社会（CSR）問題に配慮してゆく企業倫理の姿勢（Proactiveな対応）が重要となってきた。 GAFAに代表される巨大なPlatformerの倫理問題、Roboticsにおける人間vs機械の倫理問題など、激変する社会構造に対して「企業倫理」はどうあるべきかを超えて、どう働きかけるか、Proactiveな倫理論を展開する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	・企業倫理は従来の道徳や社会規範の範疇を越えて、CSR（企業の社会的責任）で扱われているグローバルな環境問題と社会問題を抜きには語ることができない。当講座では最新のCSR情報を踏まえながら、俯瞰的かつ企業の現実に則した倫理論を展開していく。 ・AIやIoTに代表される最新科学技術の発展により、あらゆるモノがガラス張りになる傾向にある。「時代の変化」に気付かず、Business Ethicsに遅れをとると、「社会の要請」を見過ごし、マーケットからの退場を強いられることになる。 ・企業の事故/不祥事の事例を取り上げて、背景にある倫理観の欠如、だれも責任を取ろうとしない社会風潮、生半可な対応策で何度も繰り返される不祥事の事例を検証する。その上で、倫理問題を単なる道徳や哲学で片付けるのではなく、ビジネスとして明確に事象をとらえ、具体的な解決策を提示していく。 ・「SCM（サプライチェーン・マネジメント）」や「遺伝子組み換え」に関する最新情報も企業倫理の観点から提供しているのもこの講座の特徴である。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容（スケジュールの概要）】 （1）オリエンテーション（講座の全体像の紹介とガイダンス） （2）「最新のTechnology」と企業倫理の関係性、および今後の動向 （3）国際社会と企業倫理（CSR Matrixと企業倫理の関係） （4）欧米や日本の江戸時代に学ぶ企業倫理 （5）地球温暖化/生物多様性に関する倫理問題 （6）企業不祥事の検証と対応策①（不祥事の事例研究） （7）企業不祥事の検証と対応策②（不祥事の背景と原因） （8）企業不祥事の検証と対応策③（Holistic Management System） （9）第4次産業革命（Industry4.0）と企業倫理 (10) 企業と社会問題（どう倫理観を持って対応するか） (11) 先進国の消費問題とエシカル購入 (12) 自然資本主義、ブルーエコノミー、Biomimicryの動向 (13) 金融資本主義の限界と企業倫理のあり方 (14) 遺伝子組み換え作物開発の現状と倫理問題 (15) 企業経営に活かす「企業倫理の変遷と今後の動向」 【授業方法】 講義は双方向コミュニケーションになるように、講師からの講義と、皆さんからの研究成果を発表していただきながらディスカッションを行う。授業内容に沿って課題が提供される（3～4回）ので調査/研究して、次回の講義で発表していただく。 講義録は原則としてコピーを配布する。発表レポートはkibacoに掲載する。受講生には、出身母体（企業や組織）を念頭に入れて、ご自身の考えをまとめていただくことをお願いしている。
④授業外学習	予習として関連書物のReading Assignmentをお願いし、内容をレポートにまとめていただくことがある。 また、講座の中で各人に2～3回提出を求める課題が予復習になるので、真摯に取り組んでいただきたい。 課題は主にインターネットや専門書によって調査/研究してパワーポイント、またはレポートにまとめていただく。多くの課題に関して、過去の受講生の成果を参考資料として提供できるので、時間節約の一助になると思う。
⑤テキスト・参考書等	基本的には最新の資料を毎回の講義時に配布する。 「進化するCSR」岡本享二 著 JIPMソリューション 「CSR入門」岡本享二 著 日経文庫 「次世代CSRとESD」岡本享二（共著）ぎょうせい 「農業生物資源の利用と将来」農業生物資源研究所 丸善プラネット 「エシカル購入」山本良一・中原秀樹 編著 環境新聞社
⑥成績評価方法	出席日数、授業中の発表/討論、課題リポートの内容による。 ・配点の目安は出席（40%）、発表/討論（30%）、課題レポート（30%）。 ・期末試験はしないで総合的に評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	早めに教室に入っているので講義前にも質問を受け付けている。 もちろん、講義中や終了後にも自由に質問をしていただきたい。 ・連絡先：kyojibm@icloud.com
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	・後期の『CSR』と合わせて学ぶと効果が大である。 ・提供する資料は講座を終えると一冊の本ができるほどのボリュームとなる。

2018年度以降入学生	経営学特別講義（CSR）	P0035	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学演習（CSR特論）	P035	高度専門職業人Ⅱ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	岡本　享二*		後期	月曜日	5時限	

①授業方針・テーマ	21世紀の企業は経済的な成長と共に、環境/社会（CSR）問題への対応が幅広く求められている。CSR(企業の社会的責任）は1990年代初頭に欧州から始まり、今や先進国のみならず、途上国においても環境悪化や労働/人権問題の高まりから強い関心を示している。CSRの推進は国際基準やGuidelineによる従来のReactiveな対応から、最新科学技術（AI、IoTなど）の発展と共に、経営の根幹にCSRを据えることで企業の競争優位を確立するProactiveな対応が主流になりつつある。Proactiveな対応を加速させたのがAI/IoTに代表される最新科学技術によるThe ZERO Marginal Cost Society、Sharing Economy、Circular Economyと呼ばれる社会の変革である。 当講座ではCSRの根本原因である資本主義の問題点から国際基準/Guidelineに沿った対応を俯瞰した上で、最新の企業対応を社会の変革と合わせて学んでいく。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	・近年の最新科学技術（AIやIoT）の発展によって、どのような「時代の変化」が起こり、どのような「社会の要請」が起こってきたかが理解できる。 ・環境問題と企業との関わり、複雑な社会問題と企業の対応、またそれらの根源とも言える「行き過ぎた金融資本主義」についても時代を追って学ぶ。 ・CSRにはISO26000、AA1000、GRI、IIRCなどの国際基準やガイドラインがある。それらの内容、起源、効果などを学ぶ。これらをReactiveな対応と称し、最先端のProactiveな対応とは何かに焦点を当てていく。 ・「時代の変化」による最新科学技術が可能にした3つの社会改革（The ZERO Marginal Cost Society、Sharing Economy、Circular Economy）が企業の環境/社会問題に対するProactiveな対応への鍵であり、当講座の最重要テーマである。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容（スケジュールの概要)】 （1）オリエンテーション（講座の全体像の紹介とガイダンス） （2）Technologyの発展とBusinessの変化（従来のCSRと今後のCSRの俯瞰） （3）CSRの基本概念と環境/社会問題（3つのKey ChartsとCSR Matrix） （4）CSR Matrixと各種国際基準/Guideline （5）CSR/SDGsの根本要因である資本主義の問題点を問う （6）経済学的視点とParadigm Shift(従来の経済学/経済学者の所業） （7）経済と社会の両立を目指したKarl Polanyiと宇沢弘文の業績 （8）最新科学技術が可能にした3つの変革と環境負荷の低減 （9）最新科学技術と新たな社会-The ZERO Marginal Society- (10) 最新科学技術と新たな社会-Sharing Economy、Circular Society- (11) CSRのReactive対応とProactive対応（Reactive Stage vs Proactive Stage ） (12) CSR/SDGs先端企業の事例発表（メルカリ、丸井G、ABEJA、他） (13) 最新科学技術と企業の事例発表（GAFAM） (14) 2021～2030年の企業の変遷と在り方（企業倫理と未来） (15) この講座の振り返りと職場での活かし方 【授業方法】 テーマごとに講師が講義を行った上で、各テーマに関して課題を提供する。 その回答として受講生には当講座の中で各人3～4回の発表機会を設ける。 課題はCSRに関する普遍的なテーマもあれば、各人の所属企業（組織）の状況を踏まえて発表していただく場合もある。 科学技術も社会構造も急速に変化している環境下にあっては、多くの企業の状況を知ることで、環境/社会（CSR）課題の解決の糸口が見えてくる。 講義資料は原則としてコピーを配布する。発表レポートはkibacoに掲載する。 目新しい内容やテーマが多いので、復習をお願いしている。講座中、各人に3～4回提出を求める課題が予復習になるので、真摯に取り組んでいただきたい。課題は主にインターネットや専門書によって調査/研究してパワーポイント、またはレポートにまとめていただく。多くの課題に関して、過去の受講生の成果を参考資料として提供できるので、時間節約の一助になると思う。
④授業外学習	目新しい内容やテーマが多いので、復習をお願いしている。講座中、各人に3～4回提出を求める課題が予復習になるので、真摯に取り組んでいただきたい。課題は主にインターネットや専門書によって調査/研究してパワーポイント、またはレポートにまとめていただく。多くの課題に関して、過去の受講生の成果を参考資料として提供できるので、時間節約の一助になると思う。
⑤テキスト・参考書等	基本的には最新の資料を毎回の講義時に配布する。 「進化するCSR」岡本享二著 JIPMソリューション 「CSR入門」岡本享二著 日経文庫 「次世代CSRとESD」岡本享二（共著）ぎょうせい
⑥成績評価方法	出席日数、授業中の発表/討論、課題リポートの内容による。 ・配点の目安は出席（40%）、発表/討論（30%）、課題レポート（30%）。 ・期末試験はしないで総合的に評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	早めに教室に入っているので講義前にも質問を受け付けている。 もちろん、講義中や終了後にも自由に質問をしていただきたい。 ・連絡先：kyojibm@icloud.com
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	・前期の『企業倫理論』と合わせて学ぶと効果が大である。 ・講座を終えると一冊の本ができるほどの内容（ボリューム）となる。

2018年度以降入学生	経営学特別講義（知的財産法）	P0036	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学演習（知的財産法）	P036	高度専門職業人Ⅱ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	溝田　宗司*		後期	金曜日	6時限	

①授業方針・テーマ	日本の競争力が損なわれて久しい。日本が競争力を取り戻すにはどうすればよいか。 担当教員は、新卒時は日立製作所知財部に始まり、現在は特許権侵害訴訟を主な業務内容とする弁護士であり、社会人生活のほとんどを特許を使った紛争の間で生きてきた。紛争には、勝ち負けがつきまとい、それ故、その勝ち負けの理由を考えることも多い。 負ける企業は何が悪いんだろうか。日本が競争力を取り戻すヒントもそこに隠されているように思う。負ける企業は、ひとことでいえば「特許」を理解していないように思う。もちろん、「特許」という用語を新聞の紙面等で見ない日はないし、「そのくらい分かっているよ」という人も多いだろう。しかし、そうではなく、本質的に「理解」していない。例えば、少し前に越後製菓と佐藤食品工業が切り餅の侵害訴訟で世間を賑わせた。結果は佐藤の負けだ。会社の規模でいえば、両者ともそれほど変わらないし、負けた佐藤もそれなりの数の特許を保有していた。少なくとも「そのくらい分かっているよ」というレベル以上に特許をわかっていたことは明らかだ。 ではなぜ佐藤は負けたのか。 もちろん、判決文を読めば負けたことの直接的な理由はわかる。しかし、重要なのはそうではなく、佐藤の何が悪かったのだろうか。 また、最近までは、ベンチャー企業の躍進が著しかった。特許庁などの取組みを見れば分かるが、とりわけ技術系ベンチャーにとっては、特許取得というのは重要視されてきた。もっとも、投資を受けながらでなければビジネスを継続できないベンチャーがほとんどだと思うが、コロナの影響を受けて選別が確実に始まっている。今後、こうしたベンチャーが増加すると思うが、その際に特許というのはどのように考えるのか。ベンチャーにおける特許というのは、コロナの前後で、その取扱いが変わるのだろうか。 日本の競争力の源泉は「技術」である、いや「技術」であったことは確かである。技術を保護するものが特許であるが、この技術に基づく競争力が損なわれたことには、このような特許に対する「理解」不足がその一因となっているのだと考えている。 本講義では、特許法の基礎・特許業界の構造を概説し、その後、担当教員が実務で経験した事例をベースとした特許戦略の基礎を概説する。 講義をしっかりと理解できれば上記の問題には自ずと答えられよう。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	・知的財産法（主に特許法）の基礎 法律のみならず実務的な視点で解説する ・特許戦略の基礎
③授業計画・内容 授業方法	第1回、第2回：知財法の概説 第3回から第10回：知財法及び知財実務の基礎 第11回以降：特許戦略 講義の進行に応じて、柔軟に変更する。
④授業外学習	なし
⑤テキスト・参考書等	特になし。教員がテキストの代わりとなるスライドを用意する。 もっとも、特許に関する記事などには目を通したり、ネットで得られるレベルの知識は身につけて置くことが必須。また、池井戸潤の「下町ロケット」を見ておくとイメージをつかみやすいので、講義前に読んでおくことをおすすめする。 担当教員が知財の実務家であることから、講義のレベルは相当に高いと思ってよい。したがって、履修するのであれば、この程度の事前インプットはしておくこと。
⑥成績評価方法	出席2割、講義への貢献3割、レポート5割 ただし、三回以上の欠席は不可とする。15分以上の遅刻は欠席扱い。 レポートのテーマは、「知的財産と経営」
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	適宜メールされたい。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	経営学特別講義 （サステナブル経営と資本市場Ⅰ）	P0087	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学演習 （サステナブル経営と資本市場Ⅰ）	P087	高度専門職業人Ⅱ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	北川　哲雄、浅野　敬志、松田　千恵子		夏季集中	―	―	

①授業方針・テーマ	本講座はダブルコードによる機関投資家による企業へのエンゲージメント、今急速に隆盛化してきたESG投資について理解を深めるとともに、対応を迫られる企業のサステナビリティ活動、ガバナンスシステムの高度化について触れる。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	現実に活躍するESGアナリスト、機関投資家側のガバナンス・オフィサー、（企業側）サステナブル・オフィサーになるための基礎的な知識を身に着ける。
③授業計画・内容 授業方法	＜授業計画・内容＞ サステナブル経営と資本市場Ⅰ－ESG投資と企業へのエンゲージメント 1．オリエンテーション－ガバナンス革命と資本市場 2．ESG評価とESG投資（1）－概論 3．ESG評価とESG投資（2）ESG―インテグレーション 4．ESG評価とESG投資（3）インパクト投資 5．企業によるサステナビリティ情報開示（1）－日本企業の情報開示の歴史 6．企業によるサステナビリティ情報開示（2）－サステナビリティ情報開示とは 7．企業によるサステナビリティ情報開示（3）－開示情報から投資情報へ 8．機関投資家によるスチュワードシップ活動（1）－ガバナンス革命 9．機関投資家によるスチュワードシップ活動（2）－議決権行使 10. 機関投資家によるスチュワードシップ活動（3）－スチュワードシップ活動 11. 総括と今後の課題提示 12. 投資家による企業へのエンゲージメント活動（ケース研究1） 13. 投資家による企業へのエンゲージメント活動（ケース研究2） 14. 投資家による企業へのエンゲージメント活動（ケース研究3） 15. 投資家による企業へのエンゲージメント活動（ケース研究4） 授業方法 担当教員による方向づけを行いつつ、第一線に実務に関わる方々（ガバナンス・オフィサー、ESGアナリスト、企業のサステナビリティ・オフィサー等）を招いて講義を進める。毎回前もってリーディングアサイメントを指定する。12回目以降は実際の企業事例に触れながら、学生によるプレゼンテーションを実施し、各回ごとに専門家の評価も受けられる形とする。
④授業外学習	2回目以降の授業においては、予めリーディングアサイメントを提示し各回提出してもらう。
⑤テキスト・参考書等	テキストはないが、参考資料はその都度前もって指定する。
⑥成績評価方法	数回出すレポートの内容とケース研究によるプレゼンテーションの内容評価。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	面談は事前にメールにて連絡の上、丸の内サテライトオフィスにて適宜受け付ける。その他、メール等による質問も可。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	経営学系、ファイナンス系の多くの科目に関連性を持ちロールプレーイングも含む実践的な科目である。 実務経験豊富な教授陣により構成される。 本講義は、公益社団法人日本証券アナリスト協会（*）の厚意により寄附講義として実施される。 (*) 同協会は「認定アナリスト（CMA）」資格の認定を行っています。 投資の意思決定に必要な深く幅広い知識・スキルを持つ人材へのニーズは、金融界のみならず様々なビジネス分野で高まっています。CMAは、こうしたニーズに応えられる金融・資本市場のプロです。

2018年度以降入学生	経営学特別講義 （サステナブル経営と資本市場Ⅱ）	P0088	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学演習 （サステナブル経営と資本市場Ⅱ）	P088	高度専門職業人Ⅱ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	北川　哲雄、浅野　敬志、松田　千恵子		後期	木曜日	5時限	

①授業方針・テーマ	今、資本市場にとって育成が急務と言われる優秀なIRオフィサーにとって必要な基礎知識・スキルを育成することを目的とする。すなわち企業内で言えば従来の組織で言うIR部（コーポレートコミュニケーション部）に留まらず、広報部、経営企画部、社長室、財務部、の職務にも繋がりむしろそれらを束ねる企業の官房長官的な役割を担う人材（＝次世代のIRオフィサー）の育成を狙っている。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	IRオフィサーの基本業務、フェア・ディスクロジャー、アニュアル・レポート、投資家のタイプとエンゲージメント、投資家向け説明会の意義等、最近のトピックスも取り上げる。次世代のIRオフィサーとしての基礎的素養を身に付ける。と同時にIRオフィサーがコミュニケーション対象とするアナリストやファンドマネジャーの活動にも触れる。多くの第一線で活躍中のゲスト講師に来ていただく。
③授業計画・内容 授業方法	＜授業計画・内容＞ サステナブル経営と資本市場Ⅱ－現代コーポレートコミュニケーション論 1．オリエンテーション－インベスター・リレーションズの基礎 2．資本市場におけるアナリストの役割） 3．バイサイドアナリストの行う企業評価の実際 4．財務情報の作成と分析（1） 5．財務情報の作成と分析（2） 6．IRオフィサーの世界（1）－IR表彰企業の事例：不二製油（昨年の事例：以下同） 7．IRオフィサーの世界（2）－IR表彰企業の事例：ダイキン工業 8．IRオフィサーの世界（3）－IR表彰企業の事例：オムロン 9．IRオフィサーの世界（4）－IR表彰企業の事例：丸井グループ 10. エンゲージメントとは何か 11. パブリック・リレーションズとインベスター・リレーションズ 12. コミュニケーションの実際 13. IRのケース研究（1） 14. ＩＲのケース研究（2） 15. ＩＲのケース研究（3） 授業方法 担当教員による講義のほかに重要なテーマについては実務に携わる第一線の方々（ＩＲオフィサー、アナリスト等）を招いて講義を進める。毎回前もってリーディングアサイメントを指定する。13回目以降は実際の企業事例に触れながら、学生によるチームプレゼンテーションを実施し、各回ごとに専門家の評価も受けられる形とする。
④授業外学習	2回目以降の授業においては予めリーディングアサイメントを提示し各回提出してもらう。
⑤テキスト・参考書等	参考書 佐藤淑子（監修）『ＩＲベーシックブック ＩＲオフィサーのための基礎情報 2019-2020年版』（日経事業出版センター）
⑥成績評価方法	数回出すレポートの内容と13回目と14回目の発表会の内容評価。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	面談は事前にメールにて連絡いただければ、適宜受け付ける。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	経営学系、ファイナンス系の多くの科目に関連性を持ちロールプレーイングも含む実践的な科目である。 実務経験豊富な教授陣により構成される。 本講義は、日本IR協議会の寄附に基づき設定される講義である。

2018年度以降入学生	経営学演習 （ロジカル・ライティングⅠ）	P0024	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	ロジカル・ライティングⅠ	P024	高度専門職業人Ⅱ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	照屋　華子*		前期	木曜日	5、6時限	

①授業方針・テーマ	リモートワークの浸透により、ロジカル・ライティング―論理的に分かりやすく書くこと―が一層重要となっています。この授業では、ロジカル・ライティングの基本手法を学び、トレーニングを進めます。 ビジネスの実務では、メッセージを論理的に分かりやすく、しかも速く伝わるように書くスキルが不可欠です。特に、このスキルは、多様な人材が効果的に協働するうえで必須のものです。組織のリーダーには、論理的に分かりやすく伝え合うスキルを、チームや組織全体に浸透させて情報共有や意思決定の実効を上げるといった視点が必要です。 ロジカル・ライティングは、トレーニングで体得できる「技術」です。授業では、実践的な演習でトレーニングに取り組みます。 ビジネス・ライティングの技術を磨きたい方はもちろん、研究活動のためのライティング力アップ、あるいは組織としての伝えるスキルの向上に関心のある方の参加も歓迎します。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	1．ロジカル・ライティングの基本手法を体系的に習得します。 ・ビジネス文書の基本の型を理解する。 ・文書の目的を、正しく設定したうえで、読み手にも納得感があるように示すことができる。 ・目的に合ったメッセージを、ロジカル・シンキングを活用して、論理的に分かりやすく構成できる。 ・構成したメッセージを正確に、速く伝わるように表現できる。 2．自分のライティングの練習ポイントを具体的につかみ、それを意識して日々の文書作成に取り組むことを目指します。
③授業計画・内容 授業方法	＜テーマ＞ 第1回：オリエンテーションと伝える前の準備 ・授業のねらいとロジカル・ライティングの全体像 ・文書の「基本の型」と目的志向で書くために必要な習慣 第2回：メッセージの組み立て（1）－本論＜思考の整理＞ ・メッセージの材料のグループ化と切り口の設定－MECEの活用 ・So What?の抽出と言語化－So What?/Why So?の整理 第3回：メッセージの組み立て（2）－本論＜論理構成＞ ・論理の基本構造 ・論理パターン「並列型・解説型」 ・構造ボックスを用いた論理構成の進め方 第4回：メッセージの表現（1）－組み立ての視覚化 ・メッセージの組み立てと記述スタイルの関係 ・要点が速く伝わる「組み立ての視覚化」のテクニック 第5回：メッセージの組み立て（3）－導入部と結び ・文書の冒頭「導入部」の役割と要素 ・文書の最終部「結び」の役割と要素 第6回：メッセージの表現（2）－組み立てを支える日本語表現 ・正確に伝えるための基本動作 ・具体的、簡潔、論理的なことばの使い方 第7・8回：基本手法のまとめと活用 ・ドラフトの確認ポイント ・総合的な演習 ・口頭説明への活用 ※ 授業の進捗状況によって、予定変更もあり得ます。 ＜授業方法＞ 各回、講義で解説した内容を演習で実践・確認します。 ・演習は基本的に個人ワークですが、グループ・クラス討議も組み合わせます。 ・演習のアウトプットはクラスで共有します。 ・授業を丸の内キャンパスで行う場合も、第2回以降の演習には各自、極力PCを使って取り組んでいただきたいと考えています。詳細は第1回のオリエンテーションで説明します。
④授業外学習	・各回、テキストの該当箇所を事前リーディングして参加していただきます。 ・授業の進行によって、演習の一部を次回への宿題にすることもあり得ます。
⑤テキスト・参考書等	＜テキスト＞照屋華子著『ロジカル・ライティング』（東洋経済新報社）、および各回の配布資料 ＜参 考 書＞照屋華子著『ロジカル・シンキング練習帳』（東洋経済新報社）、照屋華子・岡田恵子著『ロジカル・シンキング』（東洋経済新報社）、野矢茂樹著『大人のための国語ゼミ』（山川出版社）その他、必要に応じて指定します。
⑥成績評価方法	課題・期末課題の成績を70%、授業への貢献を30%で評価します。 ・期末課題とは別に、理解度を確認するための課題を2回ないし3回出題します。 ・課題・期末課題は、文書作成もしくはメッセージの構成を予定しています。授業で取り上げた構成・表現のポイントが反映されているかどうかを評価します。 ・授業への貢献は、討議や演習結果の共有に積極的であったかどうかを評価します。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	・オフィスアワーは、授業後の時間帯とします。 ・質問はメールでも受け付けます。メールアドレスは初回授業でお伝えします。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	どなたでも履修できます。

2018年度以降入学生	経営学演習 （ロジカル・ライティングⅡ）	P0027	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	ロジカル・ライティングⅡ	P027	高度専門職業人Ⅱ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	照屋　華子*		後期	木曜日	5、6時限	

①授業方針・テーマ	この授業は、ロジカル・ライティング―論理的に、分かりやすく書くこと―の実践コースです。 ワード形式かパワーポイント形式か、文書かメールか、ビジネスに直接使うものか否かなど、ビジネス・パーソンが作成する文書は多様です。授業では、ビジネス・ライティングで扱う主な文書タイプを取り上げ、特に重要な組み立て・表現のポイントについて理解を深めます。 1回目には、前期「ロジカル・ライティングⅠ」で学ぶ、ロジカル・ライティングの基本手法を概説・確認します。 2回目以降は、文書タイプごとに小演習と文書作成演習に取り組みます。 ロジカル・ライティングの実践力を磨きたい方の参加を期待します。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	1．ワード形式の報告書や提案書、パワーポイント形式の資料、ビジネスメール、記事・論文を取り上げ、それぞれについて2点を学びます。 ・構成・表現上、ロジカル・ライティングの基本手法の特に何が重要か ・基本手法に加えて必要な視点は何か 2．ドラフトを構成・表現の両面で推敲するセルフ・エディティングの手順とポイントを学びます。 3．部下・後輩のライティングにアドバイスする際の着眼点を理解します。
③授業計画・内容 授業方法	第1回：オリエンテーションと基本手法の概説 ・授業のねらい ・ロジカル・ライティングの基本手法（前期の復習） 第2回：報告書の作成（ワード形式） ・「論理の基本構造」による構成の勘所－簡明さと具体性の担保 ・「組み立ての視覚化」記述スタイルの活用 第3回：報告書の要旨の作成（パワーポイント形式） ・So What?を明示するパワーポイント資料のポイント ・要旨シートの作成と勘所 第4回：提案書の作成（ワード形式・パワーポイント形式） ・「空・雨・傘」のストーリー構成の勘所－提案の根拠と一貫性の明示 ・提案の要旨のチェック・ポイント ・提案の導入部に必要な要素 第5回：記事・論文の作成（ワード形式） ・原稿作成のプロセスと「構成シート」の作成 ・「段落」記述スタイルの活用－組み立てを明示する段落の作り方 ・主要な接続表現と使い方 第6回：ビジネスメールの作成 ・「見て分かる」メールの要件 ・好感度の高い日本語表現の使い方－敬意と当事者意識の表し方、トーンと語感の選択 第7・8回：セルフ・エディティング ・読み手の視点でドラフトを見直す「セルフ・エディティング」の手順 ・構成のエディティングの要点 ・表現のエディティングの要点 ※ 授業の進捗状況によって、予定変更もあり得ます。 ＜授業方法＞ 各回、講義で解説した内容を演習で実践・確認します。 ・演習は基本的に個人ワークですが、グループ・クラス討議も組み合わせます。 ・演習のアウトプットはクラスで共有します。 ・授業を丸の内キャンパスで行う場合も、演習には各自、極力PCを使って取り組んでいただきたいと考えています。詳細は第1回授業のオリエンテーションで説明します。
④授業外学習	・各回、テキストの該当箇所を事前リーディングして参加していただきます。 ・授業の進行によって、演習の一部を次回への宿題にすることもあり得ます。
⑤テキスト・参考書等	＜テキスト＞照屋華子著『ロジカル・ライティング』（東洋経済新報社）、および各回の配布資料 ＜参 考 書＞照屋華子著『ロジカル・シンキング練習帳』（東洋経済新報社）、照屋華子・岡田恵子著『ロジカル・シンキング』（東洋経済新報社）、中村明著『日本語 語感の辞典』（岩波書店）、石黒圭著『接続詞の技術』（実務教育出版）、石黒圭著『語彙力を鍛える 量と質を高めるトレーニング』（光文社新書）、石黒圭著『段落論』（光文社新書）その他、必要に応じて指定します。
⑥成績評価方法	課題・期末課題の成績を70%、授業への貢献を30%で評価します。 ・期末課題とは別に、理解確認のための課題を2回ないし3回出題します。 ・課題・期末課題は、文書作成もしくはメッセージの構成を予定しています。授業で取り上げた構成・表現のポイントが反映されているかどうかを評価します。 ・授業への貢献は、討議や演習結果の共有に積極的であったかどうかを評価します。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	・オフィスアワーは、授業後の時間帯とします。 ・質問はメールでも受け付けます。メールアドレスは初回授業でお伝えします。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	どなたでも履修できます。「ロジカル・ライティングⅠ」を未修の方は、テキスト『ロジカル・ライティング』を通読してご参加下さい。

2018年度以降入学生	経営学演習（グループ研究Ⅰ）	P0061	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学演習（グループ研究Ⅰ）	P061	高度専門職業人Ⅱ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	高尾　義明		前期Ⅱ	土曜日	3、4時限	

①授業方針・テーマ	経営学の多様なアプローチを一望し、研究法の基礎を学ぶ。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	「経営戦略」、「マーケティング」、「経営組織・ＨＲＭ・意思決定」の各分野について、研究法の基礎を習得する。
③授業計画・内容 授業方法	初回に研究とは何かについて一般的な講義をし、そのあとに「経営組織・ＨＲＭ・意思決定」、「経営戦略」、「マーケティング」の各分野の研究手法について担当教員が交代で講義する。後半は、いくつかの課題が与えられ、受講生は課題ごとにグループに編成される。グループごとに課題について文献研究をおこない、最終回では報告会で報告して教員がコメントする。
④授業外学習	講義においては事前課題や事後課題が出されることがある。グループ研究においては授業時間外の打ち合わせや作業が必須となる。
⑤テキスト・参考書等	随時案内する。
⑥成績評価方法	授業への貢献、研究報告等による。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	各回の授業の内容については各担当教員が質問を受け付ける。履修に関する質問等は高尾が受け付ける。 【連絡先】ytakao@tmu.ac.jp
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	１年次生を対象とした科目である。「経営戦略」、「マーケティング」、「経営組織・ＨＲＭ・意思決定」のプロジェクトに所属する１年次生は履修することが望ましい。

2018年度以降入学生	経営学演習（イノベーション戦略）	P0066	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学演習（イノベーション戦略）	P066	高度専門職業人Ⅱ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	竹田　陽子		前期Ⅱ	金曜日	5、6時限	

①授業方針・テーマ	この演習では、急激な技術進化に直面した企業の経営戦略、組織とエコシステムの革新、新しい付加価値創造についてとりあげます。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	急激な技術進化に直面してもぶれないで自ら経営戦略を構築出来るようになること、さらに、単に分析するだけでなく、今までにない価値を生み出すスキルを体得することを目指します。
③授業計画・内容 授業方法	1．誰がイノベーションを起こすのか 2－1．破壊的技術 2－2．モジュール化と産業構造 3．デジタル化の本質とビジネスモデル 4．ユーザーの理解と共創 5．ビジネスとエコシステムのデザイン 6．発表会 （授業のスケジュールは予定です。変更があり得ます。） ＜授業方法＞ 新型コロナ感染状況と履修者数により、オンライン授業、ハイブリッド授業、対面授業のいずれかでおこないます。授業方法は、学期のはじめにお知らせしますが、状況変化により学期の途中で変更される場合があります。
④授業外学習	毎週、リーディングや事前課題、グループワークを授業外におこなう必要があります。
⑤テキスト・参考書等	授業中に配布、紹介します。
⑥成績評価方法	平常（グループワーク＋個人授業貢献）70%　期末発表30%
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは特に設定しませんが、質問等はkibacoの掲示板、あるいはメール（ytakeda@tmu.ac.jp）で受けつけます。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	経営戦略を受講していることが望ましい。 今後また変更がある場合は kibaco を通じてお知らせします。 授業方法（オンライン、ハイブリッド、対面）の詳細も kibaco に掲示しますのでそちらをご覧ください。

2018年度以降入学生	経営学特別研究	P0500	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学特別講義	P558	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	桑田　耕太郎		前期	金曜日	5、6時限	

①授業方針・テーマ	企業の戦略行動と組織のダイナミックな関係について研究する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	企業行動のダイナミクスを理解するための、組織の学習やイノベーションのメカニズムに関する基礎知識を習得し、理論的な論文を作成する能力の養成を目的とする。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画】 1．経営戦略、組織学習、イノベーション、サイエンス・イノベーションに関する基礎的文献、最近の先端研究に関する論文を輪読する。 2．参加者の研究テーマにそって、論文の執筆をおこなう。 【授業方法】 1．文献の輪読、ディスカッションを通じて、理解を深める。 2．参加者の論文執筆を促し、授業内で進捗状況を報告してもらい、それに対して指導を行う。 【授業外学習】 授業で取り上げる文献はもちろん、各自の研究テーマにそった文献の精読、論文執筆に必要なデータの収集・整理、論文の執筆をおこなうことが求められる。
④授業外学習	輪読のために指定した文献以外に、関係する文献を読み、様々な角度から議論できるよう準備しておくこと。
⑤テキスト・参考書等	Academy of Management, Human Relations, Organization Scienceなど最先端の文献 組織学習、サイエンス・イノベーションに関する文献をそれぞれ取り上げる。
⑥成績評価方法	報告・ディスカッションを通じた授業への貢献と、論文の執筆状況によって評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	【オフィスアワー】メールにて事前にアポイントメントを取って下さい。質問等がある場合には、kkuwada@tmu.ac.jpにメールして下さい。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	経営戦略、経営組織に関する基礎科目を履修していることが望ましい。

2018年度以降入学生	組織理論特別演習	P0503	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学特別講義	P559	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ		2単位
担当教員	桑田　耕太郎		後期	金曜日		5、6時限

①授業方針・テーマ	企業の戦略行動と組織のダイナミックな関係について研究する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	企業行動のダイナミクスを理解するための、組織の学習やイノベーションのメカニズムに関する基礎知識を習得し、理論的な論文を作成する能力の養成を目的とする。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画】 1．経営戦略、組織学習、イノベーション、サイエンス・イノベーションに関する基礎的文献、最近の先端研究に関する論文を輪読する。 2．参加者の研究テーマにそって、論文の執筆をおこなう。 【授業方法】 1．文献の輪読、ディスカッションを通じて、理解を深める。 2．参加者の論文執筆を促し、授業内で進捗状況を報告してもらい、それに対して指導を行う。 【授業外学習】 授業で取り上げる文献はもちろん、各自の研究テーマにそった文献の精読、論文執筆に必要なデータの収集・整理、論文の執筆をおこなうことが求められる。
④授業外学習	輪読のために指定した文献以外に、関係する文献を読み、様々な角度から議論できるよう準備しておくこと。
⑤テキスト・参考書等	Academy of Management, Human Relations, Organization Scienceなど最先端の文献 組織学習、サイエンス・イノベーションに関する文献をそれぞれ取り上げる。
⑥成績評価方法	報告・ディスカッションを通じた授業への貢献と、論文の執筆状況によって評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	【オフィスアワー】メールにて事前にアポイントメントを取って下さい。質問等がある場合には、kkuwada@tmu.ac.jpにメールして下さい。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	経営戦略、経営組織に関する基礎科目を履修していることが望ましい。

2018年度以降入学生	組織理論特別研究	P0501	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	組織理論特別講義	P531	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	高尾　義明		前期	火曜日	4時限	

①授業方針・テーマ	組織理論・組織行動論を中心に、経営組織論の文献を講読する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営組織論の古典的文献を踏まえつつ、最新のジャーナルを講読することを通じて、古典と最新のリサーチ・クエスチョンの連続性／非連続性を理解するとともに、研究方法論の変化を把握することを本講義の目的とする。
③授業計画・内容 授業方法	経営組織論の古典的文献（たとえば、Simon[1997] など）を取り上げた後に、ジャーナル論文の講読に移る。講読する論文は受講生の研究テーマを踏まえて決定するが、Academy of Management Review/Journal、Organization Science、Journal of Organizational Behaviorなどの英文ジャーナル掲載論文を主に取り上げる。 【授業方法】文献の発表及びそれに基づくディスカッションによって授業が行われる。
④授業外学習	毎回、リーディング・アサイメント（講読文献）を精読して授業に臨むことが求められる。
⑤テキスト・参考書等	講読する文献及び参考書は都度指定する。
⑥成績評価方法	文献講読における発表（75%）及びディスカッションへの貢献（25%）をもとに総合的に評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	【オフィスアワー】オフィスアワーは特に設定しないが、直接質問したい場合は随時受け付けるので、事前にメールでアポイントメントを取ること。 【連絡先】ytakao@tmu.ac.jp
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	組織理論特別演習	P0502	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	組織理論特別講義	P532	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	高尾　義明		後期	火曜日	4時限	

①授業方針・テーマ	組織理論・組織行動論を中心に、経営組織論の文献を講読する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営組織論の古典的文献を踏まえつつ、最新のジャーナルを講読することを通じて、古典と最新のリサーチ・クエスチョンの連続性／非連続性を理解するとともに、研究方法論の変化を把握することを本講義の目的とする。
③授業計画・内容 授業方法	講読する論文は受講生の研究テーマを踏まえて決定するが、Academy of Management Review/Journal、Organization Science、Journal of Organizational Behaviorなどの英文ジャーナル掲載論文を主に取り上げる。 【授業方法】文献の発表及びそれに基づくディスカッションによって授業が行われるが、ディスカッションを重視した授業となる。
④授業外学習	毎回、リーディング・アサイメント（講読文献）を精読して授業に臨むことが求められる。
⑤テキスト・参考書等	講読する文献及び参考書は都度指定する。
⑥成績評価方法	文献講読における発表（50%）及びディスカッションへの貢献（50%）をもとに総合的に評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは特に設定しないが、直接質問したい場合は随時受け付けるので、事前にメールでアポイントメントを取ること。 【連絡先】ytakao@tmu.ac.jp
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	ヒューマン・リソース・マネジメント特別研究	P0504	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	組織理論特別講義	P529	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	初見　康行*		前期	水曜日	6時限	

①授業方針・テーマ	将来的に研究者を志向する者を対象に人的資源管理論および組織行動論に関する文献を輪読する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	人的資源管理論が引き起こす様々な現象を説明するためには、現象間の因果を推論するための理論の蓄積が欠かせない。人的資源管理論は、そうした理論的な枠組みの多くを組織行動論に依拠している。そこでこの授業では、人的資源管理論の分野で定番とされている論文と比較的新しい論文を読むことで人的資源管理論の現時点における到達点を知り、それらがどのような理論枠組みから説明されているのかを知ることを目的とする。
③授業計画・内容 授業方法	基本的には毎回1本（1章）のペースで論文・テキストの輪読をすすめる。 具体的には、経営学の主要な学術雑誌に掲載された論文およびジャーナルに掲載された論文を輪読していくことで論文を読む力を養う。そのため、受講者は事前に次回予定されている論文について内容を理解した上で授業に臨むこと。 具体的に以下のようなジャーナルに掲載されている論文、もしくはブックチャプターを指す。 Academy of Management Journal、Journal of Management、Research in Personnel and Human Resource Management、Research in Organizational Behavior、Human Relations、Human Resource Management、International Journal of Human Resource Management,、Organization Sciene、Journal of Applied Psychology、組織科学、日本経営学会誌、日本労働研究雑誌、経営行動科学誌、日本労務学会誌等
④授業外学習	輪読予定の論文について予め読み、必要に応じてメモやレジュメを作成し、授業で議論ができるようにしておくこと。
⑤テキスト・参考書等	現時点では、Human Resource ManagementとOrganizational Behaviorに関する論文、またその周辺領域の論文を読む予定であるが、受講者と相談しながら決める。
⑥成績評価方法	発表及びディスカッションへの貢献度をもとに総合的に評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーについては、事前連絡の上、スケジュールを調整し随時受け付ける。 連絡先については、第1回講義時に伝える。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	1．新型コロナウィルスの感染拡大に伴い、今後シラバスの内容が変更される可能性がある。講義内でも告知するが、必ずkibacoを参照すること。 2．前期・後期の授業では最低1回ずつそれぞれ自分が取り組んでいる研究テーマについて発表してもらう予定である。

2018年度以降入学生	ヒューマン・リソース・マネジメント特別演習	P0505	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	組織理論特別講義	P530	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	初見　康行*		後期	水曜日	6時限	

①授業方針・テーマ	将来的に研究者を志向する者を対象に人的資源管理論および組織行動論に関する文献を輪読する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	人的資源管理論が引き起こす様々な現象を説明するためには、現象間の因果を推論するための理論の蓄積が欠かせない。人的資源管理論は、そうした理論的な枠組みの多くを組織行動論に依拠している。そこでこの授業では、人的資源管理論の分野で定番とされている論文と比較的新しい論文を読むことで人的資源管理論の現時点における到達点を知り、それらがどのような理論枠組みから説明されているのかを知ることを目的とする。
③授業計画・内容 授業方法	基本的には毎回1本（1章）のペースで論文・テキストの輪読をすすめる。 具体的には、経営学の主要な学術雑誌に掲載された論文およびジャーナルに掲載された論文を輪読していくことで論文を読む力を養う。そのため、受講者は事前に次回予定されている論文について内容を理解した上で授業に臨むこと。 具体的に以下のようなジャーナルに掲載されている論文、もしくはブックチャプターを指す。 Academy of Management Journal、Journal of Management、Research in Personnel and Human Resource Management、Research in Organizational Behavior、Human Relations、Human Resource Management、International Journal of Human Resource Management,、Organization Sciene、Journal of Applied Psychology、組織科学、日本経営学会誌、、日本労働研究雑誌、経営行動科学誌、日本労務学会誌等
④授業外学習	輪読予定の論文について予め読み、必要に応じてメモやレジュメを作成し、授業で議論ができるようにしておくこと。
⑤テキスト・参考書等	現時点では、Human Resource ManagementとOrganizational Behaviorに関する論文、またその周辺領域の論文を読む予定であるが、受講者と相談しながら決める。
⑥成績評価方法	発表及びディスカッションへの貢献度をもとに総合的に評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーについては、事前連絡の上、スケジュールを調整し随時受け付ける。 連絡先については、第1回講義時に伝える。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	1．新型コロナウィルスの感染拡大に伴い、今後シラバスの内容が変更される可能性がある。講義内でも告知するが、必ずkibacoを参照すること。 2．前期・後期の授業では最低1回ずつそれぞれ自分が取り組んでいる研究テーマについて発表してもらう予定である。

2018年度以降入学生	意思決定特別研究	P0506	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	組織理論特別講義	P509	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	長瀬　勝彦		前期	水曜日	2時限	

①授業方針・テーマ	行動意思決定論に関する研究
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	行動意思決定論の主な概念と、そのそれぞれが導出された諸研究について深く理解し、また批判できるようになること。
③授業計画・内容 授業方法	文献講読を中心に進行する。
④授業外学習	次回の授業で扱う英語論文の要約とその論文への批判的なコメントを作成する。
⑤テキスト・参考書等	原則として行動意思決定論に関する英文の研究論文を使用する。
⑥成績評価方法	提出されたレポートや授業のディスカッションへの参加などで評価する。試験はおこなわない。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	原則として火曜6限をオフィスアワーに設定する。ただしメールもしくは授業前後の直接の申し出による予約制とする。メールでの質問も受け付ける。 【連絡先】nagase@tmu.ac.jp
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	学部レベルの行動意思決定論の知識があることを受講の条件とする。

2018年度以降入学生	意思決定特別演習	P0507	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	組織理論特別講義	P510	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	長瀬　勝彦		後期	水曜日	2時限	

①授業方針・テーマ	行動意思決定論に関する研究
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	行動意思決定論の主な概念と、そのそれぞれが導出された諸研究について深く理解し、また批判できるようになること。
③授業計画・内容 授業方法	文献講読を中心に進行する。
④授業外学習	次の授業で扱う英語論文の要約とその論文への批判的なコメントを作成する。
⑤テキスト・参考書等	原則として行動意思決定論に関する英文の研究論文を使用する。
⑥成績評価方法	提出されたレポートや授業のディスカッションへの参加などで評価する。試験はおこなわない。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	原則として火曜6限をオフィスアワーに設定する。ただしメールもしくは授業前後の直接の申し出による予約制とする。メールでの質問も受け付ける。 【連絡先】nagase@tmu.ac.jp
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	学部レベルの行動意思決定論の知識があることを受講の条件とする。

2018年度以降入学生	ベンチャービジネス特別研究	P0508	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学特別講義	P562	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	高橋　勅徳		前期	金曜日	5、6時限	

①授業方針・テーマ	企業家研究に基づいた研究論文を作成する上で必要な、理論的系譜と調査方法論について、必読文献の精読を通じて学んでいく。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営組織論、企業家研究に関する必読文献および先端的研究に関する知識と、これらの知見に基づいてフィールドワークを実践するための方法論について、学ぶことを目標とする。
③授業計画・内容 授業方法	授業内容 桑田・松嶋・高橋（編）『制度的企業家』の輪読および、論文執筆に向けた研究進捗の報告を中心に指導を行う。 授業計画 第1回　ガイダンス 第2回　『制度的企業家』第1章の輪読 第3回　『制度的企業家』第2章の輪読 第4回　『制度的企業家』第3章の輪読 第5回　『制度的企業家』第4章の輪読 第6回　『制度的企業家』第5章の輪読 第7回　研究進捗状況報告 第8回　『制度的企業家』第6章の輪読 第9回　『制度的企業家』第7章の輪読 第10回　『制度的企業家』第8章の輪読 第11回　『制度的企業家』第9章の輪読 第12回　『制度的企業家』第10章の輪読 第13回　『制度的企業家』第11章の輪読 第14回　『制度的企業家』第12章の輪読 第15回　研究進捗状況報告
④授業外学習	各講義で、指定されたテキストの章を熟読し、A4用紙2ページ程度のレジュメを作成して講義に臨むこと。
⑤テキスト・参考書等	桑田・松嶋・高橋（編）『制度的企業家』、および必要に応じてその都度指定する。
⑥成績評価方法	授業への出席30%、報告プレゼンの完成度30%、期末レポート40%の割合で評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーについては、misanori@tmu.ac.jpに連絡の上、スケジュールを調整し随時受け付ける。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	特になし

2018年度以降入学生	ベンチャービジネス特別演習	P0509	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学特別講義	P563	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ		2単位
担当教員	高橋　勅徳		後期	金曜日		5、6時限

①授業方針・テーマ	企業家研究に基づいた研究論文を作成する上で必要な、理論的系譜と調査方法論について、必読文献の精読を通じて学んでいく。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営組織論、企業家研究に関する必読文献および先端的研究に関する知識と、これらの知見に基づいてフィールドワークを実践するための方法論について，学ぶことを目標とする。
③授業計画・内容 授業方法	授業内容 バーニー・G. グレイザー・アンセルム・L. ストラウス（著）『データ対話型理論の発見―調査からいかに理論をうみだすか』の輪読および、論文作成に向けた研究進捗報告を行う。 授業計画 第1回　ガイダンス 第2回　『データ対話型理論の発見―調査からいかに理論をうみだすか』第1章の輪読 第3回　『データ対話型理論の発見―調査からいかに理論をうみだすか』第2章の輪読 第4回　『データ対話型理論の発見―調査からいかに理論をうみだすか』第3章の輪読 第5回　『データ対話型理論の発見―調査からいかに理論をうみだすか』第4章の輪読 第6回　『データ対話型理論の発見―調査からいかに理論をうみだすか』第5章の輪読 第7回　研究進捗状況報告 第8回　『データ対話型理論の発見―調査からいかに理論をうみだすか』第6章の輪読 第9回　『データ対話型理論の発見―調査からいかに理論をうみだすか』第7章の輪読 第10回　『データ対話型理論の発見―調査からいかに理論をうみだすか』第8章の輪読 第11回　『データ対話型理論の発見―調査からいかに理論をうみだすか』第9章の輪読 第12回　『データ対話型理論の発見―調査からいかに理論をうみだすか』第10章の輪読 第13回　『データ対話型理論の発見―調査からいかに理論をうみだすか』第11章の輪読 第14回　研究進捗状況報告 第15回　研究進捗状況報告
④授業外学習	授業外学習 各回の課題テキストを当日までに熟読すること。 輪読の担当者は、1時間程度の報告レジュメを用意すること。
⑤テキスト・参考書等	バーニー・G. グレイザー・アンセルム・L. ストラウス（著）『データ対話型理論の発見―調査からいかに理論をうみだすか』および、必要に応じてその都度指定する。
⑥成績評価方法	授業への出席30%、報告プレゼンの完成度30%、期末レポート40%の割合で評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーについては、misanori@tmu.ac.jpに連絡の上、スケジュールを調整し随時受け付ける。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	特になし

2018年度以降入学生	経営戦略特別研究	P0510	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営戦略特別講義	P675	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	竹田　陽子		前期	火曜日	3時限	

①授業方針・テーマ	経営戦略論を中心として、最新または代表的な研究論文と研究方法論のテキストを読みながら、ジャーナル掲載論文の分析をおこない、理論の構築と研究方法論について学ぶ。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	学術研究のための理論構築とリサーチデザインの方法論を身につける
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・授業方法】 研究方法論のテキストと主要ジャーナルに掲載された最新論文または各分野の代表的な論文を交互に読み、ジャーナル掲載論文の分析（論文の構成と全体の論理の流れ、理論構築、リサーチデザイン、各種の研究手法の詳細、理論・実務へのインプリケーション）をおこなう。 題材とする研究論文の掲載誌としては、 Academy of Management Journal Strategic Management Journal Organization Scienceなど 研究方法論のテキストとしては Saunders et al. “Research Methods for Business Students” Pearson Buchanan and Bryman eds. “The SAGE Handbook of Organizational Research” Sage など
④授業外学習	大学院研究レベルになると教員は大まかな方向性を示すだけで、受講生の授業外学習が主になると言って過言ではない。受講生が主体的に考え活動し、授業に貢献する姿勢が求められる。
⑤テキスト・参考書等	上記参照
⑥成績評価方法	授業貢献50%、期末レポート（文献レビュー論文）50%
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	オフィスアワーは特に設定しないが、質問等あれば個別にメール（ytakeda@tmu.ac.jp）で連絡すること。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	今後また変更がある場合は kibaco を通じてお知らせします。 オンライン授業になった場合の授業方法の詳細も kibaco に 掲示しますのでそちらをご覧ください

2018年度以降入学生	経営戦略特別演習	P0511	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営戦略特別講義	P676	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	竹田　陽子		後期	火曜日	2時限	

①授業方針・テーマ	経営戦略論を中心として、最新または代表的な研究論文と研究方法論のテキストを読みながら、ジャーナル掲載論文の分析をおこない、理論の構築と研究方法論について学び、研究計画書を作成する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	学術研究のための理論構築とリサーチデザインの方法論を身につける
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・授業方法】 前期にひきつづき、研究方法論のテキストと主要ジャーナルに掲載された最新論文または各分野の代表的な論文を交互に読み、ジャーナル掲載論文の分析（論文の構成と全体の論理の流れ、理論構築、リサーチデザイン、各種の研究手法の詳細、理論・実務へのインプリケーション）をおこなう。 題材とする研究論文の掲載誌としては、 Academy of Management Journal Strategic Management Journal Organization Scienceなど 研究方法論のテキストとしては Saunders et al. “Research Methods for Business Students” Pearson Buchanan and Bryman eds. “The SAGE Handbook of Organizational Research” Sage など 学期の終わりには受講者自身の研究課題で文献レビューを含む研究計画書を作成する。
④授業外学習	大学院研究レベルになると教員は大まかな方向性を示すだけで、受講生の授業外学習が主になると言って過言ではない。受講生が主体的に考え活動し、授業に貢献する姿勢が求められる。
⑤テキスト・参考書等	上記参照
⑥成績評価方法	授業貢献50%、期末レポート（研究計画書）50%
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは特に設定しませんが、質問等はメール（ytakeda@tmu.ac.jp）で受けつけます。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	経営戦略特別研究	P0512	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営戦略特別講義	P560	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	松田　千恵子		前期	土曜日	1時限	

①授業方針・テーマ	本講義は、研究手法の理解、および学会等における研究内容発表の推進に重点を置きながら進められる。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	受講者の積極的な参加によって、経営戦略、財務戦略を中心とした経営学分野における研究を深め、学会等での研究発表や学会誌への論文投稿など具体的な活動を行っていくための知見を身に付けることを目的とする。
③授業計画・内容 授業方法	＜事業計画＞ 受講者の関心に合わせて決定する。 ＜授業方法＞ 毎回、事前に定められた内容に関し、講義、発表、ディスカッション等を行う。
④授業外学習	各自の研究計画を主体的に進めていくことが求められる。学会等における研究内容発表についても奨励する。
⑤テキスト・参考書等	講義中に適宜指示する。
⑥成績評価方法	講義への積極的な参加、ディスカッション等への貢献を総合的に評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	授業前後の時間、メール等の活用いずれも可。事前にメールでのアポイントを取得することにより、随時面談も受け付ける。オンラインでの面談等も行う。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	丸の内サテライトオフィスにて開講予定である。オンラインの活用も行う。

2018年度以降入学生	経営戦略特別演習	P0513	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営戦略特別講義	P561	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	松田　千恵子		後期	土曜日	1時限	

①授業方針・テーマ	本講義は、研究手法の理解、および学会等における研究内容発表の推進に重点を置きながら進められる。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	受講者の積極的な参加によって、経営戦略、財務戦略を中心とした経営学分野における研究を深め、学会等での研究発表や学会誌への論文投稿など具体的な活動を行っていくための知見を身に付けることを目的とする。
③授業計画・内容 授業方法	＜事業計画＞ 受講者の関心に合わせて決定する。 ＜授業方法＞ 毎回、事前に定められた内容に関し、講義、発表、ディスカッション等を行う。
④授業外学習	各自の研究計画を主体的に進めていくことが求められる。学会等における研究内容発表についても奨励する。
⑤テキスト・参考書等	講義中に適宜指示する。
⑥成績評価方法	講義への積極的な参加、ディスカッション等への貢献を総合的に評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	授業前後の時間、メール等の活用いずれも可。事前にメールでのアポイントを取得することにより、随時面談も受け付ける。オンラインでの面談等も行う。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	丸の内サテライトオフィスにて開講予定である。オンラインの活用も行う。

2018年度以降入学生	テクノロジー・マネジメント特別研究	P0514	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営戦略特別講義	P632	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	松尾　隆		前期	土曜日	1時限	

①授業方針・テーマ	技術戦略に関する最新の理論文献を輪読する
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	技術戦略の新しい展開に関する理解を深め、自らの研究の指針とする。
③授業計画・内容 授業方法	毎回、文献を指定して、それを輪読し、参加者で検討する。 主にStrategic Management Journal等の論文雑誌から課題文献を選択する。 （事前に文献を精読することが必要となる）
④授業外学習	文献を読み、論点をまとめてくること
⑤テキスト・参考書等	別途指示する。
⑥成績評価方法	講義への参加、課題への取組、講義中の発言などにより評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	講義の前後、またはメールでアポイントメントをとること
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	特になし

2018年度以降入学生	テクノロジー・マネジメント特別演習	P0515	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営戦略特別講義	P633	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	松尾　隆		後期	土曜日	1時限	

①授業方針・テーマ	技術戦略に関する最新の理論文献を輪読する
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	技術戦略の新しい展開に関する理解を深め、自らの研究の指針とする。
③授業計画・内容 授業方法	毎回、文献を指定して、それを輪読し、参加者で検討する。 主にStrategic Management Journal等の論文雑誌から課題文献を選択する。 （事前に文献を精読することが必要となる） 参加者の興味に応じたテーマで文献サーベイを行う
④授業外学習	文献を読み、論点をまとめてくること
⑤テキスト・参考書等	別途指示する。
⑥成績評価方法	講義への参加、課題への取組、講義中の発言などにより評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	講義の前後、またはメールでアポイントメントをとること
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	特になし

2018年度以降入学生	マーケティング特別研究	P0516	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	組織理論特別講義	P535	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	水越　康介		前期	水曜日	2時限	

①授業方針・テーマ	マーケティング論、マーケティング方法論
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	マーケティング論の理論体系の習得
③授業計画・内容 授業方法	マーケティング論に関する専門書、研究論文の精読、および批判的考察
④授業外学習	予習、復習、レポート作成など
⑤テキスト・参考書等	授業内に適宜指示
⑥成績評価方法	授業態度および試験
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	授業中に提示するメールアドレスに連絡をし、予約をとること
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	マーケティング特別演習	P0517	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	組織理論特別講義	P536	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	水越　康介		後期	水曜日	2時限	

①授業方針・テーマ	マーケティング論、マーケティング方法論
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	マーケティング論の理論体系の習得
③授業計画・内容 授業方法	マーケティング論に関する専門書、研究論文の精読、および批判的考察
④授業外学習	予習、復習、レポート作成など
⑤テキスト・参考書等	授業内に適宜指示
⑥成績評価方法	授業態度および試験
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	授業中に提示するメールアドレスに連絡をし、予約をとること
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	マーケティング・サイエンス特別研究	P0518	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	マーケティング・サイエンス特別講義	P517	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	中山　厚穂		前期	木曜日	3時限	

①授業方針・テーマ	現在の情報社会において、求められている能力の一つは、データの背後に存在している関係や傾向を読み解くための分析力です。特に、客観的なデータにもとづいた分析力がグローバルで情報があふれる社会において重要視されています。よって、本講義では、市場におけるマーケティング現象を理解するための代表的なモデルと、マーケティング意思決定に利用される方法論について学び、効果的な意思決定を行うための方法を身につけることを目指します。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	事例と例題通じて、どのように各手法がSTP戦略やマーケティング・ミックスなどを立案するために活用されるのかについて体験することを目標とします。また、講義を通じて、市場におけるマーケティング現象をどのように読み解くことができるのかということについての理解を深めるとともに、データ分析を通じて客観性をもって論証するための数学的な論証能力を身につけることを目標とします。
③授業計画・内容 授業方法	第1回　ガイダンス：マーケティング・サイエンスとは 第2回　市場反応分析とは1：散布図と相関係数（入門） 第3回　市場反応分析とは1：散布図と相関係数（応用） 第4回　市場反応分析とは1：散布図と相関係数（実習） 第5回　市場反応分析とは2：単回帰分析（入門） 第6回　市場反応分析とは2：単回帰分析（応用） 第7回　市場反応分析とは2：単回帰分析（実習） 第8回　市場反応分析とは3：回帰分析（入門） 第9回　市場反応分析とは3：回帰分析（応用） 第10回　市場反応分析とは3：回帰分析（実習） 第11回　市場反応分析とは4：非集計データの分析（入門） 第12回　市場反応分析とは4：非集計データの分析（応用） 第13回　市場反応分析とは4：非集計データの分析（実習） 第14回　市場反応分析：総括 第15回　まとめ
④授業外学習	講義での実習のための準備、実習課題、レポート課題を適宜設定する予定である。
⑤テキスト・参考書等	【テキスト】 ［1］島崎哲彦（編著）・中山厚穂（著）・大竹延幸（著）・鈴木芳雄（著）「マーケティング・リサーチに従事する人のためのデータ分析・解析法」学文社、2020。 ［2］照井伸彦・佐藤忠彦「現代マーケティング・リサーチ－市場を読み解くデータ分析」有斐閣、2013。 【参考文献】 ［1］朝野熙彦「入門多変量解析の実際」、講談社サイエンティフィク、2000。 ［2］古川一郎・守口剛・阿部誠「マーケティング·サイエンス入門」有斐閣アルマ、2011。 ［3］豊田裕貴「ポジショニングの理論と実践」講談社、2013。
⑥成績評価方法	講義への出席、発表の内容、討論への参加程度、研究レポートにより評価します。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	毎週、木曜日12：00～13：00をオフィスアワーに設定するので、質問等があれば事前にメールでアポイントメントをとるようにして下さい。これ以外の時間帯に担当教員に会いたい場合も同様に事前にメールでアポイントメントをとって下さい。またメールによる質問も随時受け付けます。 連絡先：atsuho@tmu.ac.jp
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	履修にあたっては、高校レベルの数学と学部教養レベルの統計学についての基礎知識が前提知識として必要になります。

2018年度以降入学生	マーケティング・サイエンス特別演習	P0519	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	マーケティング・サイエンス特別講義	P518	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	中山　厚穂		後期	木曜日	3時限	

①授業方針・テーマ	現在の情報社会において、求められている能力の一つは、データの背後に存在している関係や傾向を読み解くための分析力です。特に、客観的なデータにもとづいた分析力がグローバルで情報があふれる社会において重要視されています。よって、本講義では、市場におけるマーケティング現象を理解するための代表的なモデルと、マーケティング意思決定に利用される方法論について学び、効果的な意思決定を行うための方法を身につけることを目指します。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	事例と例題通じて、どのように各手法がSTP戦略やマーケティング・ミックスなどを立案するために活用されるのかについて体験することを目標とします。また、講義を通じて、市場におけるマーケティング現象をどのように読み解くことができるのかということについての理解を深めるとともに、データ分析を通じて客観性をもって論証するための数学的な論証能力を身につけることを目標とします。
③授業計画・内容 授業方法	第1回　ガイダンス：マーケティング・サイエンスとは 第2回　データ解析の基礎1（視覚化と計量化） 第3回　データ解析の基礎2（散布図と相関係数） 第4回　データ解析の基礎3（実習） 第5回　市場反応分析 第6回　市場反応分析（回帰モデル） 第7回　市場反応分析（回帰モデル）の実習1 第8回　市場反応分析（回帰モデル）の実習2 第9回　市場セグメンテーションとは 第10回　市場セグメンテーション（クラスター分析）の実習1 第11回　市場セグメンテーション（クラスター分析）の実習2 第12回　市場の発見と知覚マップとは 第13回　市場の発見と知覚マップ（因子分析）の実習1 第14回　市場の発見と知覚マップ（因子分析）の実習2 第15回　まとめ 実習では、フリーの統計ソフトウェアRを用いた演習と、分析結果についてのディスカッションを行う予定です。
④授業外学習	講義での実習のための準備、実習課題、レポート課題を適宜設定する予定である。
⑤テキスト・参考書等	【テキスト】 ［1］島崎哲彦（編著）・中山厚穂（著）・大竹延幸（著）・鈴木芳雄（著）「マーケティング・リサーチに従事する人のためのデータ分析・解析法」学文社 ［2］照井伸彦・佐藤忠彦「現代マーケティング・リサーチ－市場を読み解くデータ分析」有斐閣、2013。 【参考文献】 ［1］朝野熙彦「入門多変量解析の実際」、講談社サイエンティフィク、2000。 ［2］古川一郎・守口剛・阿部誠「マーケティング･サイエンス入門」有斐閣アルマ、2011。 ［3］豊田裕貴「ポジショニングの理論と実践」講談社、2013。
⑥成績評価方法	講義への出席、発表の内容、討論への参加程度、研究レポートにより評価します。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	毎週、木曜日12：00～13：00をオフィスアワーに設定するので、質問等があれば事前にメールでアポイントメントをとるようにして下さい。これ以外の時間帯に担当教員に会いたい場合も同様に事前にメールでアポイントメントをとって下さい。またメールによる質問も随時受け付けます。 連絡先：atsuho@tmu.ac.jp
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	履修にあたっては、高校レベルの数学と学部教養レベルの統計学についての基礎知識が前提知識として必要になります。

2018年度以降入学生	統計学特別研究	P0520	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	統計学特別講義	P505	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	森　治憲		前期	金曜日	2時限	

①授業方針・テーマ	数理統計学の理論とその応用
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	数理統計学の理論と、そこで学習する様々な手法を現実の問題に応用する能力。
③授業計画・内容 授業方法	数理統計学に関する専門書の輪読が中心となる。ただし、必要に応じて講義も行う。
④授業外学習	毎回の復習は必須である。発表者が予習をするのは当然だが、担当になっていない受講者も予習をすることが望ましい。
⑤テキスト・参考書等	一回目の授業で受講者と相談して決める。
⑥成績評価方法	出席状況と授業での発表内容を総合的に評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	質問は授業終了後に受け付けます。金曜日5時限をオフィスアワーとする。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	本講座は統計学の入門ではない。学部レベルの統計学の知識を有していることが前提である。

2018年度以降入学生	統計学特別演習	P0521	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	統計学特別講義	P506	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	森　治憲		後期	金曜日	2時限	

①授業方針・テーマ	数理統計学の理論とその応用
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	数理統計学の理論と、そこで学習する様々な手法を現実の問題に応用する能力。
③授業計画・内容 授業方法	数理統計学の文献を輪読する。
④授業外学習	毎回の復習は必須である。発表者が予習をするのは当然だが、担当になっていない受講者も予習をすることが望ましい。
⑤テキスト・参考書等	一回目の授業で受講者と相談して決める。
⑥成績評価方法	出席状況と授業での発表内容を総合的に評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	質問は授業終了後に受け付けます。金曜日5時限をオフィスアワーとする。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	本講座は統計学の入門ではない。学部レベルの統計学の知識を有していることが前提である。

2018年度以降入学生	経営科学特別研究	P0522	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営科学特別講義	P525	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	山下　英明		前期	水曜日	3時限	

①授業方針・テーマ	待ち行列は、あるサービスに対して客が待つ現象で、店舗・病院でのサービスだけでなく、工場の生産ライン、情報ネットワーク、道路交通等でも発生する。待ち行列理論は、待ち行列を確率論に基づいた数理モデルとして表し、待ち時間等の特性を解明する理論である。本講義では、テキストの理論展開、証明等をフォローすることにより、待ち行列理論やその計算手法を理解するとともに、実際の待ち行列現象のモデル化についても学ぶ。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	待ち行列理論の学習を通して、論理的思考力を養うとともに、確率モデルを本質的に理解し、解析する能力を身につける。 実際の待ち行列現象のモデル化を通して、不確定な要因を含むシステムに対する問題解決能力を養う。 テキストの内容をわかり易く発表し、質問に対して的確に回答することにより、コミュニケーション能力を身につける。
③授業計画・内容 授業方法	第1回～第11回　反転授業 授業時間内では、前もって学習してきたテキストの内容についての質問に対し、教員が回答することによって理解を深める。講義内容に関する課題について解答を導く時間も設ける。授業時間後には、授業で学習した方法についての演習問題を解き、次の授業において解答を確認し、理解を深める。 1．イントロダクション、待ち行列モデル 2．リトルの公式 3．再生過程 4．確率過程 5．出生死滅過程 6．M/M/1待ち行列モデル 7．離散マルコフ連鎖 8．相型分布を用いた待ち行列モデル 9．準出生死滅過程 10．待ち行列ネットワーク 11．非マルコフモデル 第12回～第13回　学生発表中心の授業 テキストにある実際のシステムの解析例について発表し、討論する。 ハンバーガーショップの待ち行列モデル かんばん方式による在庫管理 コールセンターのリソース設定 無線LANの性能評価
④授業外学習	反転授業では、授業前にテキストを熟読し、理解できなかった点を明確にして授業に出席する。 毎回、授業で学習した解法についての演習問題を課す。このうち、2週間に1度程度提出を義務づける。 学生発表中心の授業では、テキストの内容を理解し、分かり易く発表する準備を行う。
⑤テキスト・参考書等	テキスト：塩田茂雄他『待ち行列理論の基礎と応用』共立出版（2014） 参 考 書：尾崎敏治『確率モデル入門』朝倉書店（1996） 森雅夫、宮沢政清他『オペレーションズ・リサーチⅡ』朝倉書店（1989） 森雅夫、松井知己『オペレーションズ・リサーチ』朝倉書店（2004） 尾崎俊治『確率モデル入門』朝倉書店 1996。 L.クラインロック（手塚慶一他訳）『待ち行列システム理論（上下）』マグロウヒル好学社 1978。 豊田秀樹『マルコフ連鎖モンテカルロ法』朝倉書店 2008。 牧本直樹『ビジネスへの確率モデルアプローチ』朝倉書店 2006。 宮沢政清、『確率と確率過程』近代科学社 1993。
⑥成績評価方法	授業での質疑応答、授業中の発表、課題によって評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	授業内容の質問については、まず質問者がメールで教員に連絡し、必要があれば教員が面談の日時を質問者と相談の上設定する方式をとる。 【連絡先】hideak@tmu.ac.jp
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	初歩的な確率過程論を修得していることが必要である。

2018年度以降入学生	経営科学特別演習	P0523	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営科学特別講義	P526	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	山下　英明		後期	水曜日	3時限	

①授業方針・テーマ	この講義では、経営科学、オペレーションズ・リサーチの簡単な事例や最近の事例研究をサーベイし、経営科学が実社会にどのように役立っているかを学習することを目的とする。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営科学の理論的解析について本質的に理解し、論理的思考力を身につける。 経営戦略を科学的に決定することの理解を深め、実際の問題を確率モデルにモデル化し、総合的問題思考力を身につける。 テキストの内容をわかり易く発表し、質問に対して的確に回答することにより、コミュニケーション能力を身につける。
③授業計画・内容 授業方法	第1回～第14回 上記の目的で選定した解説記事、研究論文などを受講生に割り当て、授業中は受講生各自がその内容について解説する輪読方式を採用する。 （1）総論、待ち行列窓口の最適サービス配分 （2）線形計画問題：物資の輸送を例として 発見的解法：収集/配送経路問題への適用 （3）最適配置の理論：都市施設の場所について グラフ・ネットワーク・OR （4）大規模施設の混雑現象 （5）生産システムにおけるさまざまな待ち （6）キャッシュのモデル化とその応用 （7）待ち行列理論の応用：コールセンター （8）ゲーム理論を用いたねじれ国会分析 （9）DEAを用いたプロ野球投手の評価 (10) 大学業務におけるシフトスケジューリング (11) 機関車の基地内留置計画 (12) 鉄道の通勤利用モデルと混雑緩和策 (13) 列車ダイヤ乱れ時の再スケジューリングアルゴリズム (14) 施設容量を考慮した救急医療施設の最適配置 第15回　学生発表の授業 各自が実際の問題を経営科学の手法を用いて分析することを想定しモデル化を行い、 その内容を発表し、討論する。
④授業外学習	割り当てられた解説記事の発表を準備するとともに、他の受講生が発表する記事についてはあらかじめ熟読し、不明な部分を明らかにしておくことが求められる。
⑤テキスト・参考書等	テキスト：上記の解説記事、研究論文を教材として用いる。出典は以下の通り。 （2）～（3）、（7）～（10）：オペレーションズ・リサーチ、vol.54, no.12, 2009。 （4）～（6）：オペレーションズ・リサーチ、vol.49, no.7, 2004。 (11)：オペレーションズ・リサーチ、vol.55, no.2, 2010。 参 考 書：高井英造、真鍋龍太郎『問題解決のためのオペレーションズ・リサーチ入門』日本評論社 2000。 高橋幸雄、森村英典『混雑と待ち』朝倉書店 2001。 福島雅夫『数理計画入門』朝倉書店 1996。 伏見正則『確率と確率過程』朝倉書店 2004。 牧本直樹『ビジネスへの確率モデルアプローチ』朝倉書店 2006。 森雅夫、松井知己『オペレーションズ・リサーチ』朝倉出版 2004。 森雅夫、宮沢政清他『オペレーションズ・リサーチⅡ 意思決定モデル』朝倉書店 1989。 森雅夫、森戸晋他『オペレーションズ・リサーチⅠ 数理計画モデル』朝倉書店 1991。 森戸晋、逆瀬川浩『システムシミュレーション』朝倉書店 2000。
⑥成績評価方法	授業での質疑応答、授業中の発表、課題によって評価する。
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	授業内容の質問については、まず質問者がメールで教員に連絡し、必要があれば教員が面談の日時を質問者と相談の上設定する方式をとる。Zoomでの面談にも対応します。 【連絡先】hideak@tmu.ac.jp
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	初歩的な確率過程論を修得していることが必要である。

2018年度以降入学生	経営科学特別研究	P0524	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営科学特別講義	P657	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	増山　博之		前期	金曜日	3時限	

①授業方針・テーマ	この講義では、マルコフ解析について学習する。マルコフ解析は、経営科学や工学の諸分野に渡る幅広い応用をもつ。例えば、マルコフ連鎖の定常分布に関する理論と数値計算法は、サービスシステム、情報通信システム、在庫システム、生産システムといった不確実性システムの時間平均的な性能評価に利用される。また、極限分布への収束速度に関する理論は、遺伝的アルゴリズムや、シミュレーティッド・アニーリング、機械学習などで用いられるMCMC法といった、確率的アルゴリズムの性能解析に用いられる。他にも、グループを構成するヒト・モノ・情報に関する「重要度」や「序列」の定量化にもマルコフ連鎖の理論が応用されている。具体例としては、広告の貢献度分析、ランキング（Googleページランク）などが挙げられる。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	マルコフモデリングによる理論解析と性能評価指標の数値計算法について理解を深め、不確実性を考慮した意思決定やシステムの性能評価への応用力を習得する。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 学生の興味を考慮し、以下のテーマに関するテキストを選定する。 ・構造化マルコフ連鎖の解析と数値計算法 ・マルコフ連鎖を中心とする確率過程論 ・マルコフ解析とその応用 【授業方法】 マルコフ連鎖や関連する確率モデルのテキストあるいは論文を輪読し、数式の導出過程、定理の証明、応用例について議論する。また、適宜、テキストの章末問題などを課題とし、理解の確認と知識の定着を図る。
④授業外学習	発表者は、輪読における担当箇所を予習して内容を整理するだけなく、適宜、参考書や論文などを参照し、予備知識も含めてレジュメを作成することが求められる。特に、数式の導出過程、および証明の「行間」を埋める補足説明の記載は必須である。他の受講生も、テキストの内容を予習し、理解できなかった点を事前に整理しておく必要がある。また、すべての受講生は授業の後、輪読した内容の復習に加え、議論の結果得られた知見について整理し、検討することが望まれる。
⑤テキスト・参考書等	・G. Latouche and V. Ramaswami,“Introduction to Matrix Analytic Methods in Stochastic Modeling,”ASA-SIAM, 1999. ・Dario A. Bini and Guy Latouche,“Numerical Methods for Structured Markov Chains,”Oxford Science Publications, 2005 ・Pierre Bremaud,“Markov Chains: Gibbs Fields, Monte Carlo Simulation and Queues,” 2nd ed. , Springer, 2020 ・森村英典・高橋幸雄「マルコフ解析」日科技連、1979 ・尾畑伸明「確率モデル要論 ―確率論の基礎からマルコフ連鎖へ―」牧野書店、2012
⑥成績評価方法	授業への出席状況、課題への取り組み、発表の内容、および、発表に関する討論への参加状況などによって評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	質問がある場合は、前日までに必ずメールでアポイントメントをとること（メールでの質問も可）。 メールアドレスは、授業中に周知する。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	経営科学特別演習	P0525	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営科学特別講義	P658	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	増山　博之		後期	金曜日	3時限	

①授業方針・テーマ	この講義では、マルコフ解析について学習する。マルコフ解析は、経営科学や工学の諸分野に渡る幅広い応用をもつ。例えば、マルコフ連鎖の定常分布に関する理論と数値計算法は、サービスシステム、情報通信システム、在庫システム、生産システムといった不確実性システムの時間平均的な性能評価に利用される。また、極限分布への収束速度に関する理論は、遺伝的アルゴリズムや、シミュレーティッド・アニーリング、機械学習などで用いられるMCMC法といった、確率的アルゴリズムの性能解析に用いられる。他にも、グループを構成するヒト・モノ・情報に関する「重要度」や「序列」の定量化にもマルコフ連鎖の理論が応用されている。具体例としては、広告の貢献度分析、ランキング（Googleページランク）などが挙げられる。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	マルコフモデリングによる理論解析と性能評価指標の数値計算法について理解を深め、不確実性を考慮した意思決定やシステムの性能評価への応用力を習得する。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 学生の興味を考慮し、以下のテーマに関するテキストを選定する。 ・構造化マルコフ連鎖の解析と数値計算法 ・マルコフ連鎖を中心とする確率過程論 ・マルコフ解析とその応用 【授業方法】 マルコフ連鎖や関連する確率モデルのテキストあるいは論文を輪読し、数式の導出過程、定理の証明、応用例について議論する。また、適宜、テキストの章末問題などを課題とし、理解の確認と知識の定着を図る。
④授業外学習	発表者は、輪読における担当箇所を予習して内容を整理するだけなく、適宜、参考書や論文などを参照し、予備知識も含めてレジュメを作成することが求められる。特に、数式の導出過程、および証明の「行間」を埋める補足説明の記載は必須である。他の受講生も、テキストの内容を予習し、理解できなかった点を事前に整理しておく必要がある。また、すべての受講生は授業の後、輪読した内容の復習に加え、議論の結果得られた知見について整理し、検討することが望まれる。
⑤テキスト・参考書等	・G. Latouche and V. Ramaswami,“Introduction to Matrix Analytic Methods in Stochastic Modeling,”ASA-SIAM、1999. ・Dario A. Bini and Guy Latouche,“Numerical Methods for Structured Markov Chains,”Oxford Science Publications、2005 ・Pierre Bremaud,“Markov Chains：Gibbs Fields、Monte Carlo Simulation and Queues,”2nd ed.、Springer、2020 ・森村英典・高橋幸雄「マルコフ解析」日科技連、1979 ・尾畑伸明「確率モデル要論 ―確率論の基礎からマルコフ連鎖へ―」牧野書店、2012
⑥成績評価方法	授業への出席状況、課題への取り組み、発表の内容、および、発表に関する討論への参加状況などによって評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	質問がある場合は、前日までに必ずメールでアポイントメントをとること（メールでの質問も可）。 メールアドレスは、授業中に周知する。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	会計学特別研究	P0530	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	会計学特別講義	P651	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	野口　昌良		前期	水曜日	3時限	

①授業方針・テーマ	公会計イノベーションの理解に必要と思われる知識・分析視点の修得を目標とする。これから自身の研究手法を確立しようと考えている博士前期課程の学生には強固な礎を整備するための一助として、すでに一定の手法を身につけている博士後期課程の学生にはその幅を拡張するための一助として、本講義を活用してもらいたい。公会計研究の手引書からセレクトしたいくつかの論文をとりあげ、基礎的な知識・分析手法の修得に努めた後に、PA, PAR, JPAM, AOS、MAR, FAM等に掲載された諸論文を検討することによってその研究方法を理解してもらいたい。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	1．公会計研究に必要と思われる知識・分析視点を修得することができる。 2．1．をベースにした公会計研究・分析手法を修得することができる。 3．1．および2．をベースにした論文作成方法を修得することができる。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 新型コロナウィルスによる休講措置のため、12回の講義に代えて編成する。指定したテキストの構成は次のとおり。10. 以降はパブリック・セクターに関する現在進行中の研究テーマに該当する。 1．Defining the Concepts 2．The History of Performance Management 3．Performance Measurement 4．Incorporation of Performance Information 5．The Use of Performance Information 6．Users 7．Non-use 8．The Effects of Using Performance Information 9．The Future of Performance Management 10. NSW's Integrated Planning & Reporting 11. NHS's Cost Improvement Programme 12. DBH's Strategic Plan 【授業方法】 講義は基本Zoom（グループミーティングアプリ）を使用したオンラインで実施する。各学生は必要な機材を準備したうえで講義に参加すること。5月の授業開始前に、指定したテキストの「introduction」の箇所を一読しておくこと。指定したテキストおよび論文の内容に関する、履修学生によるプレゼンテーションとディスカッションを中心とした授業を実施するが、適宜レポート課題（一部グループワークの形式も取り入れる予定）も実施して、学生の理解度を確認しながら、到達目標に必要な知識の修得に努める。
④授業外学習	【授業外学習】 指定したテキストの内容の予習・復習（レポート課題の実施を含む）が必要となる。
⑤テキスト・参考書等	【テキスト】 Dooren, W. V., Bouckaert, G. and Halligan, J.（2010）Performance Management in the Public Sector（Routledge Masters in Public Management）, Routledge. 【参考書等】 適宜指示する予定である。
⑥成績評価方法	プレゼンテーション（60%）とディスカッション（40%）のクオリティに基づいて評価する。レポート課題が提示された場合は、プレゼンテーションに加算するかたちで調整する。 到達目標に照らして、公会計イノベーションに関する必要な知識を修得しているか否かが重要な評価ポイントとなる。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	【オフィスアワー】 メールによる質問を受け付ける。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	【他の授業科目との関連性】 学部レベルの財務会計に関する知識を前提にディスカッションを実施するため、そうした知識の事前修得が望ましい。

2018年度以降入学生	会計学特別演習	P0531	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	会計学特別講義	P652	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	野口　昌良		後期	水曜日	3時限	

①授業方針・テーマ	パブリック・セクターにおける業績評価の理解に必要と思われる知識・分析視点の修得を目標とする。これから自身の研究手法を確立しようと考えている博士前期課程の学生には強固な礎を整備するための一助として、すでに一定の手法を身につけている博士後期課程の学生にはその幅を拡張するための一助として、本講義を活用してもらいたい。公会計研究の手引書からセレクトしたいくつかの論文をとりあげ、基礎的な知識・分析手法の修得に努めた後に、PA, PAR, JPAM, AOS、MAR, FAM等に掲載された諸論文を検討することによってその研究方法を理解してもらいたい。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	1．パブリック・セクターにおける業績評価の理解に必要と思われる知識・分析視点を修得することができる。 2．1.をベースにした公会計研究・分析手法を修得することができる。 3．1.および2.をベースにした論文作成方法を修得することができる。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 指定したテキストの構成は次のとおり。 1．Introduction: Using Public Sector Performance Information 2．Nothing New Under the Sun? Change and Continuity in the Twentieth-Century Performance Movements 3．Advocacy and Learning: An Interactive-Dialogue Approach to Performance Information Use 4．Performance Information and Performance Steering: Integrated System or Loose Coupling? 5．Performance Measurement Beyond Instrumental Use 6．Comparing Performance across Public Sectors 7．Hitting the Target and Missing the Point? Developing an Understanding of Organizational Gaining 8．Performance Management Systems: Providing Accountability and Challenging Collaboration 9．Determinants of Performance Information Utilization in Political Decision Making 10. UK Parliamentary Scrutiny of Public Service Agreements: A Challenge Too Far? 11. Performance Information and Educational Policy Making 12. Rational, Political and Cultural Uses of Performance Monitors: The Case of Dutch Urban Policy 13. Reporting Public Performance Information: The Promise and Challenges of Citizen Involvement 14. Publishing Performance Information: An Illusion of Control? 15. Epilogue: The Many Faces of Use 【授業方法】 講義は基本Zoom（グループミーティングアプリ）を使用したオンラインで実施する。各学生は必要な機材を準備したうえで講義に参加すること。 指定したテキストおよび論文の内容に関する、履修学生によるプレゼンテーションとディスカッションを中心とした授業を実施するが、適宜レポート課題（一部グループワークの形式も取り入れる予定）も実施して、学生の理解度を確認しながら、到達目標に必要な知識の修得に努める。
④授業外学習	【授業外学習】 指定したテキストの内容の予習・復習（レポート課題の実施を含む）が必要となる。
⑤テキスト・参考書等	【テキスト】 Dooren, W. V. and de Walle, S. V.（eds.）（2008）Performance Information in the Public Sector: how it is used, Basingstoke : Palgrave Macmillan. 【参考書等】 適宜指示する予定である。
⑥成績評価方法	プレゼンテーション（60%）とディスカッション（40%）のクオリティに基づいて評価する。レポート課題が提示された場合は、プレゼンテーションに加算するかたちで調整する。 到達目標に照らして、パブリック・セクターにおける業績評価を理解するのに必要な知識を修得しているか否かが重要な評価ポイントとなる。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	【オフィスアワー】 水曜日の4時限目とするが、メールによる質問も受け付ける。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	【他の授業科目との関連性】 学部レベルの財務会計に関する知識を前提にディスカッションを実施するため、そうした知識の事前修得が望ましい。

2018年度以降入学生	財務会計特別研究	P0532	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	財務会計特別講義	P544	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	浅野　敬志		前期	月曜日	4時限	

①授業方針・テーマ	IFRS(国際財務報告基準）適用の影響について検討する。IFRSの適用後、会計処理や情報開示における経営者の裁量余地が増えている。経営者は裁量余地が拡大するなかで、どのような会計目的に基づき、どのような私的選択（会計処理選択、情報開示選択）を行うのか。また経営者の私的選択を考慮してもなお、IFRSの適用が会計目標を達成するような会計情報を供給しているのか。国内外の先行研究のレビューを通じて、これらの疑問に対する客観的かつ公平な議論を行う。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	IFRS適用の影響について、主に資本市場の視点から理解を深めるとともに、上記の疑問に対する仮説を自ら立て、検証できるようになること。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 会計情報の変容の実態とその影響に関する書籍・論文を取り上げ、それらを題材にディスカッションする。 1．オリエンテーション 2．IFRS適用の背景 3．IFRSの特徴 4．IFRS採用企業のケース分析 5．IFRSが財務報告の質に及ぼす影響（1） 6．IFRSが財務報告の質に及ぼす影響（2） 7．IFRSが資本市場に及ぼす影響（1） 8．IFRSが資本市場に及ぼす影響（2） 9．IFRSが企業の意思決定に及ぼす影響 10. IFRSがコーポレートガバナンスに及ぼす影響（1） 11. IFRSがコーポレートガバナンスに及ぼす影響（2） 12. IFRS研究のリサーチデザイン（1） 13. IFRS研究のリサーチデザイン（2） 14. IFRS研究のリサーチデザイン（3） 15. まとめ 【授業方法】 書籍・論文の輪読やディスカッションを通じて授業を行う。
④授業外学習	リーディング・アサインメントを事前に読み、授業に臨むこと。
⑤テキスト・参考書等	1．スコット著『財務会計の理論と実証』(中央経済社、2008年） 2．パレプ・ヒーリー・バーナード著『企業分析入門（第2版)』(東京大学出版会、2007年） 3．柴健次・薄井彰・須田一幸編著『現代のディスクロージャー－市場と経営を革新する－』(中央経済社、2008年） 4．伊藤邦雄・桜井久勝責任編集『会計情報の有用性』(中央経済社、2013年） 5．George,E.T., Xi Li, and L.Shivakumar, 'A Review of the IFRS Adoption Literature,' Review of Accounting Studies 21, 2016. など
⑥成績評価方法	出席状況、授業態度、発表内容などを総合的に勘案して評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	授業後をオフィスアワーとする。また、メールによる質問も随時受け付ける。 【連絡先】 takasano@tmu.ac.jp
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	講義形式ではなく、演習形式で授業を進めるが、必要に応じて講義形式の授業をすることもある。

2018年度以降入学生	財務会計特別演習	P0533	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	財務会計特別講義	P545	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	浅野　敬志		後期	月曜日	4時限	

①授業方針・テーマ	近年出版された会計ファイナンス関係の書籍・学術雑誌から、参加者の問題関心に即した論文を取り上げ、その内容や分析手法について参加者全員で議論する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	会計ファイナンスについて最新の研究動向（内容、分析手法）を理解できるようになる。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 会計ファイナンスに関する論文を取り上げ、それらを題材に内容と分析手法について議論する。 参考までに、ヨーロッパ会計学会（European Accounting Association）は年次大会（Annual Congress）において研究発表を以下の12カテゴリーに分類している。 ① 監査（Auditing） ② 会計教育（Accounting Education） ③ 財務分析（Financial Analysis） ④ 財務報告（Financial Reporting） ⑤ 会計とガバナンス（Accounting and Governance） ⑥ 会計史（History） ⑦ 学際的/批判的（Interdisciplinary/Critical） ⑧ 会計情報システム（Accounting and Information Systems） ⑨ 管理会計（Management Accounting） ⑩ 公会計（Public Sector Accounting and Not-for-Profit Accounting） ⑪ 社会環境会計と会計倫理（Social and Environment Accounting, and Ethical Issues in Accounting） ⑫ 税務（Taxation） 【授業方法】 書籍・論文の輪読や議論を通じて授業を行う。
④授業外学習	リーディング・アサインメントを事前に読み、授業に臨むこと。
⑤テキスト・参考書等	＊海外の主要な会計・ファイナンス雑誌 The Accounting Review, Journal of Accounting Research, Journal of Accounting and Economics, Review of Accounting Studies, Contemporary Accounting Research, Accounting Organization and Society, Journal of Finance, Journal of Financial Ecnomicsなど ＊国内の主要な会計・ファイナンス雑誌 『會計』、『企業会計』、『産業経理』、『会計・監査ジャーナル』、『証券アナリストジャーナル』、学会の査読誌（日本経済会計学会『現代ディスクロージャー』など）
⑥成績評価方法	出席状況、授業態度、発表内容などを総合的に勘案して評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	授業後をオフィスアワーとする。また、メールによる質問も随時受け付ける。 【連絡先】 takasano@tmu.ac.jp
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	講義形式ではなく、演習形式で授業を進めるが、必要に応じて講義形式の授業をすることもある。

2018年度以降入学生	管理会計特別研究	P0534	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	管理会計特別講義	P634	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	細海　昌一郎		前期	土曜日	3時限	

①授業方針・テーマ	本研究では、隣接諸科学とも関連する管理会計の新たな研究分野の英語論文や研究書を講読しながら、実証的研究方法の理解と実践を目指します。特に、知的資本（intellectual capital）の研究に関連する英語論文や研究書の講読を中心とします。また、マルチレベル分析（multilevel analysis）などの近年の研究手法についても検討します。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	本研究では、管理会計の領域で近年注目されている知的資本研究等に関連する英語論文等を中心に取り上げて講読することによって、研究を実践する能力を養うことが期待されます。また、そうした研究で用いられている実証的研究方法を理解し、実際に、修士論文等の論文作成に役立てることを目標としています。
③授業計画・内容 授業方法	具体的には、次のような英文ジャーナルや研究書の中から知的資本や研究手法に関連する英語論文を選択し購読する予定です。また、テキスト・参考書等であげている研究手法に関する研究書から選択することもあります。 [List of Journals] ABACUS：A Journal of Accounting and Business Studies Accounting and Business Research Journal of Accounting and Organizational Change Journal of Accounting Research Journal of Applied Accounting Research Journal of Business Finance and Accounting Journal of Intellectual Capital Journal of Management Accounting Research Qualitative Research in Accounting and Management
④授業外学習	・取り上げた論文や課題についてよく復習しておいてください。
⑤テキスト・参考書等	[1]Alan Bryan and Emma Bell（2011）Business Research Methods 3rd Edition, Oxford University Press. [2]John Buglear(2014)Practical Statistics,Kogan page. [3]Joop Hox(2003)Multilevel Analysis Techniques and Applications, Lawrence Erlbaum Associates, Publishers.
⑥成績評価方法	・英語論文やテキストにより管理会計の研究方法について検討しますが、その発表内容等により評価します。
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	・オフィスアワー：原則として木曜日6時限目としますので、質問等があれば研究室（3-233）に来てください（ただし、新型コロナウイルスの感染拡大で、前期はメール等により連絡を取りたいと思います）。 ・連絡先：hosomi@tmu.ac.jp
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	・管理会計を専攻とする学生以外の履修も歓迎します。また、取り上げる英語論文等により、具体的な実証的研究方法を演習形式で検討することがあります。 ※演習の内容を一部変更することがあります（新型コロナウイルスの影響で流動的なため）。

2018年度以降入学生	管理会計特別演習	P0535	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	管理会計特別講義	P635	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	細海　昌一郎		後期	土曜日	4時限	

①授業方針・テーマ	管理会計では、理論と実務の乖離の原因を究明したり、ある管理会計技法が企業業績に与える影響を検証したりといった研究が行われますが、近年、その研究方法において実証的研究方法の重要性が増しています。 すなわち、財務会計を含む会計学の領域では、会計の原理や技術的特徴のあるべき姿を探求する規範的研究も必要ですが、現行の会計実務を一応肯定的に受け止めてその背後にある理論から仮説を設定し、その存在理由を説明するために統計手法を用いて行う実証的研究の重要性が増しています。また、こうした傾向は会計学研究に限ったことではないと思われます。 そこで、本演習では、こうした認識を前提に、論文作成に役立つ研究方法としてよく用いられる統計的手法について、PCを用いた演習形式で理解を深めることを目的としています。 なお、前述のように、こうした傾向は会計学研究に限ったことではないと思われますので、研究方法や実務の参考にしたいと考えている会計学専攻以外の学生の参加も歓迎します。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	本演習では、修士論文作成を念頭に、代表的な実証的研究手法について検討し、研究の実践に役立てることを目的としています（ただし、すべての手法の検討はできないので、より高度な研究手法については各自検討されたい）。
③授業計画・内容 授業方法	[主な内容] （1）実証的研究方法の基礎 （2）記述統計 （3）統計的検定 （4）回帰分析 （5）その他多変量解析 ※本演習では実証的研究手法の基礎について概説したのち、Rなどの統計ソフトの利用を前提とした実践的な内容を検討します。
④授業外学習	・毎回の講義内容と演習課題について、よく復習しておいてください。
⑤テキスト・参考書等	・レジュメを配布して行います。 [参考文献] [1] 逸見功著『統計ソフトR超入門』講談社、2018。 [2] 川端・岩間・鈴木『Rによる多変量解析入門』オーム社、2019。 [3] 鈴木功一監訳『ビジネス統計学（上）(下)』ダイヤモンド社、2007。 [4] ダン・レメニイ他著『社会科学系大学院生のための研究の進め方ー修士・博士論文を書くまえにー』同文館出版、2002。 [5] 長島・石田・李著『Rで統計を学ぼう! 文系のためのデータ分析入門』中央経済社、2018。 [6] 永吉希久子著『行動科学の統計学』共立出版、2016。 [7] 山田・杉澤・井村共著『Rによるやさしい統計学』オーム社、2008。 [8] Malcolm, Smith, Research Methods in Accounting 2nd Edition, SAGE, 2012.
⑥成績評価方法	・演習参加度と演習課題等に基づいて評価します。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	・オフィスアワー：原則として木曜日6時限目としますので、質問等があれば研究室（3-233）に来てください（事前に、下記連絡先に連絡頂ければ幸いです）。 ・連絡先：hosomi@tmu.ac.jp
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	・PCの基本的な能力を前提にして行います。

2018年度以降入学生	企業金融論特別研究	P0528	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	企業金融特別講義	P537	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	芝田　隆志		前期	月曜日	1時限	

①授業方針・テーマ	本講義では、企業金融に関するテキストおよび論文を輪読する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	習得できる知識はファイナンス理論および金融工学の手法である。到達目標は、最先端の論文を読み、独創性に富んだ新しい論文を執筆できる能力を養うことにある。
③授業計画・内容　授業方法	ファイナンス理論について、基礎的な事項から最先端の研究に至るまで、テキストおよび論文を輪読する。 1　イントロダクション 2－15　輪読
④授業外学習	輪読する文献を予め読んでおくこと
⑤テキスト・参考書等	受講者と相談の上で決定する
⑥成績評価方法	毎回の輪読における平常点
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	月曜12：00－13：00(メールにて事前に予約をすること)
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	企業金融論特別演習	P0529	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	企業金融特別講義	P538	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	芝田　隆志		後期	火曜日	2時限	

①授業方針・テーマ	本講義では、企業金融に関するテキストおよび論文を輪読する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	習得できる知識はファイナンス理論および金融工学の手法である。到達目標は、最先端の論文を読み、独創性に富んだ新しい論文を執筆できる能力を養うことにある。
③授業計画・内容　授業方法	ファイナンス理論について、基礎的な事項から最先端の研究に至るまで、テキストおよび論文を輪読する。 1　イントロダクション 2－15　輪読
④授業外学習	輪読する文献を予め読んでおくこと
⑤テキスト・参考書等	受講者と相談の上で決定する
⑥成績評価方法	毎回の輪読における平常点
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	月曜12：00－13：00(メールにて事前に予約をすること)
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	経営学特別演習（会計学）	P0014	経営学必修（選択）	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学特別演習	P014	高度専門職業人Ⅱ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	細海　昌一郎、浅野　敬志、野口　昌良		後期	土曜日	2時限	

①授業方針・テーマ	会計学研究に必要と思われる基礎知識の修得を目標とする。会計学研究の手引書からセレクトしたいくつかの論文をとりあげ、基礎的な知識・手法の修得に努めた後に、学術雑誌に掲載された論文を検討することによってその実践方法を理解してもらいたい。また、実証的分析方法の基礎の習得も目指す。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	1．会計学研究に必要と思われる基礎知識を修得することができる。 2．1．をベースにした会計学研究の分析手法を修得することができる。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 本特別演習の主な内容は次のとおり。 1．ガイダンス 2．研究テーマについて 4．理論・文献・仮説の設定 5．実証的分析方法の基礎 6．統計ソフトによる演習 7．修士論文作成の際の注意点 8．博士課程の学生等による研究の具体例 【授業方法】 講義は基本Zoom（グループミーティングアプリ）を使用したオンラインで実施する。各学生は必要な機材を準備したうえで講義に参加すること。 履修学生によるプレゼンテーションとディスカッションを中心とした授業を実施するが、演習課題（一部グループワークやPC演習も取り入れる予定）も実施して、学生の理解度を確認しながら、到達目標に必要な知識の修得に努める。
④授業外学習	参考書やレジュメ等の内容の予習・復習（演習課題の実施を含む）が必要となる。
⑤テキスト・参考書等	【テキスト】 特に指定しません。適宜レジュメ等を配布します。 【参考書】 マルコム・スミス著／平松一夫監修『会計学の研究方法』中央経済社、2015年。
⑥成績評価方法	プレゼンテーション、ディスカッション、演習課題のクオリティに基づいて評価する。 到達目標に照らして、会計学研究に関する基礎的知識を修得しているか否かが重要な評価ポイントとなる。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	【オフィスアワー】 各担当教員によって異なるが、メールによる質問も受け付ける。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	【他の授業科目との関連性】 学部レベルの会計学に関する知識を前提にディスカッションも実施するため、そうした知識の事前修得が望ましい。

2018年度以降入学生	経営学特別演習 （マネジメントサイエンス）	P0021	経営学必修 （選択）	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学特別演習	P021	高度専門職業人Ⅱ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	芝田　隆志、山下　英明、 増山　博之、森口　聡子		後期	水曜日	5時限	

①授業方針・テーマ	実社会における経営科学をテーマとし、経営科学、オペレーションズ・リサーチの事例研究や最近の研究動向をサーベイする。 解説記事、研究論文などを受講生に割り当て、授業中に受講生各自がその内容について解説する輪読方式を採用する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	以下を習得することを目的とする。 1．経営科学が実社会においてどのように役立っているか 2．オペレーションズ・リサーチ、数理計画による経営上の問題の解決法、意思決定能力 3．数理モデル化の技術
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画】 1．実社会におけるオペレーションズ・リサーチ 2．数理モデルとシミュレーション 3．待ち行列理論（1）混雑現象 4．待ち行列理論（2）キャッシュのモデル化 5．待ち行列理論（3）コールセンター 6．数理計画を用いた意思決定 7．計算機（コンピュータ）による求解と計算複雑度 8．線形計画問題（1）解法 9．線形計画問題（2）生産計画への応用 10. グラフ理論とネットワーク計画（1）ロジスティクス 11. グラフ理論とネットワーク計画（2）都市計画とネットワークデザイン 12. 組合せ最適化（1）施設配置計画 13. 組合せ最適化（2）シフトスケジューリング 14. 組合せ最適化（3）発見的解法、メタヒューリスティクス 15. 在庫管理とSCM 【授業方法】 解説記事、研究論文などを受講生に割り当て、授業中に受講生各自がその内容について解説する輪読方式を採用する。演習に対する発表も求める。
④授業外学習	テキスト・論文の担当者は、本質的な内容を理解し、わかりやすく説明できる（講義ができる）ように準備をしてくること。
⑤テキスト・参考書等	上記の解説記事、研究論文を教材として用いる。教材は配付する。
⑥成績評価方法	授業中の発表、平常の理解度、レポートに基づいて評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	授業内容の質問については、まず質問者がメールで教員に連絡し、必要があれば教員が面談（Zoomの場合もあり）の日時を質問者と相談の上設定する方式をとる。各教員のメールアドレス等、詳しくは初回の授業において説明する。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	【前提知識】 マネジメント・サイエンスⅠ、Ⅱを履修済みであることが望ましい。

2018年度以降入学生	経営学特別演習 （ミクロ組織論）	P0022	経営学必修 （選択）	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	―	―	―	―	―	
担当教員	高尾　義明、長瀬　勝彦		後期	水曜日	6時限	

①授業方針・テーマ	行動意思決定論、組織行動論、及びそれらの関連領域（ヒューマン・リソース・マネジメントなど）で修士論文／課題研究論文を執筆する予定の学生を対象に、当該領域についての知識を深めるとともに、これらの分野を研究する方法論について解説することで、それぞれの学生が論文のテーマを絞り込んでいくことを目的とする。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	・受講生が当該領域についての学術的かつ独自の問題意識を見出し、修士論文／課題研究論文の土台を作ることを到達目標とする。 ・文献講読でのディスカッションを通じて、研究を進展させるために不可欠なアカデミック・コミュニケーションを円滑に行う能力を身につけることができる。
③授業計画・内容 授業方法	前半の授業（第2回～第8回）では、基礎的な論文や専門書籍のチャプターを1コマ当たり1～2本（チャプター）講読し、それに基づくディスカッションを行う。後半の授業（第10～第14回）では、研究テーマにより特化した文献講読などを予定している。 【授業計画】 第1回　ガイダンス・受講生の関心発表 第2回　文献輪読（レビュー論文） 第3回　文献輪読（組織行動論1） 第4回　文献輪読（組織行動論2） 第5回　文献輪読（組織行動論3） 第6回　文献輪読（行動意思決定論1） 第7回　文献輪読（行動意思決定論2） 第8回　文献輪読（行動意思決定論3） 第9回　研究計画中間報告 第10回　文献輪読（行動意思決定論／組織行動論に分かれて実施） 第11回　文献輪読（同上） 第12回　文献輪読（同上） 第13回　文献輪読（同上） 第11章　文献輪読（同上） 第14回　文献輪読（同上） 第15回　研究計画報告
④授業外学習	毎回の文献を事前に講読してくること、輪読の発表を担当する際には文献のレジュメ（要約）を作成することなどが求められる。
⑤テキスト・参考書等	講読する文献については、受講生の研究関心を踏まえて都度連絡する。 以下は、手元にあると参考になる書籍である（購入の必要があるかどうかは第1回の授業で指示する）。 ベイザーマン＆ムーア［著］長瀬勝彦［訳］(2011)『行動意思決定論：バイアスの罠』白桃書房。 経営行動科学学会（2011）[編]『経営行動科学ハンドブック』中央経済社。
⑥成績評価方法	授業への参加、発表の担当をはじめとした積極的貢献と、修士論文等の問題意識や方向性が明確になっているかどうかをもとに評価する。
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	オフィスアワーは特に設定しないが、直接質問したい場合は随時受付するので、事前にメールでアポイントメントを取ること。 【連絡先】高尾（ytakao@tmu.ac.jp）、長瀬（nagase@tmu.ac.jp）
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	【他の授業科目との関連性】「意思決定」、「組織行動」、「経営組織」から1科目以上を履修済み（または履修中）であることが望ましい。 【その他】資料は、原則としてkibaco(web上）にアップする。

2018年度以降入学生	経営学特別演習 （マクロ組織論）	P0040	経営学必修 （選択）	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	―	―	―	―	―	
担当教員	高橋　勅徳、桑田　耕太郎		後期	土曜日	1、2時限	

①授業方針・テーマ	組織理論（マクロ組織論、制度派組織論、組織変革等）で修士論文等を執筆する予定の学生を対象に、基礎的な文献を 学習しつつ、論文のテーマを絞り込んでいくことを目的とする。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	組織理論（マクロ組織論、制度論、組織変革論）の基礎的文献に関する知識を習得すると共に、修士論文等を作成の研究計画の策定していくことを到達目標とする。
③授業計画・内容 授業方法	本講義では、マクロ組織論、制度派組織論、組織変革論の古典の輪読を行うと共に、修士論文作成を前提とした研究計画の報告会を行う。 授業計画 第1回　ガイダンス 第2回　研究計画報告 第3回　研究計画報告 第4回　輪読 第5回　輪読 第6回　研究計画報告 第7回　研究計画報告 第8回　輪読 第9回　輪読 第10回　研究計画報告 第11回　研究計画報告 第12回　輪読 第13回　輪読 第11章　研究計画報告 第14回　研究計画報告 第15回　研究計画報告 授業外学習 各回の課題テキストを当日までに熟読すること。 輪読および研究計画報告の担当者は、報告レジュメを用意すること。
④授業外学習	研究計画に沿って、各自参考文献をよく読んでおくこと。
⑤テキスト・参考書等	随時指定する。 各自の問題意識に応じて必要文献を紹介するので、随時相談に来ること。
⑥成績評価方法	修士論文等の問題意識や方向性が明確になっているかどうかを評価する。
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	【オフィスアワー】メールにて事前にアポイントメントを取って下さい。質問等がある場合には、misanori@tmu.ac.jpもしくはkkuwada@tmu.ac.jpにメールして下さい。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	原則として、ビジネスイノベーション特別演習の授業と変則交代で開講するため、開講日程に十分注意するこ と。2コマ連続授業であるため、欠席しないで授業に積極的に参加すること。

2018年度以降入学生	経営学特別演習 （マーケティング）	P0046	経営学必修 （選択）	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学特別演習	P046	高度専門職業人Ⅱ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	中山　厚穂、森　治憲、水越　康介		後期	土曜日	4時限	

①授業方針・テーマ	演習では、主にマーケティング論に関する問題認識の醸成を目的として、先行研究を読み解くとともに、研究方針の検討を行います
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	消費者行動論、マーケティング論、マーケティング・サイエンスなどの研究のための基礎的知識の獲得を目的とします
③授業計画・内容 授業方法	①先行研究の輪読と分析（例） ・各ジャーナルに掲載されている関連する先行研究 ・実習に関する課題 ②研究方針の検討 ※具体的な内容については、参加者との打ち合わせを元に修正する。
④授業外学習	輪読のための準備や実習課題などを自宅学習の課題として設定する
⑤テキスト・参考書等	授業中に適宜提示する
⑥成績評価方法	出席状況と、報告・発表内容によって総合的に評価する
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	授業中に提示するメールアドレスにて予約を取り調整する
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	マーケティング・マネジメント特論、マーケティング・サイエンス特論、マーケティング・サイエンス特別演習を受講していることが望ましい。

2018年度以降入学生	経営学特別演習（経営戦略）	P0047	経営学必修（選択）	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学特別演習	P047	高度専門職業人Ⅱ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	竹田　陽子、松尾　隆、松田　千恵子		後期	土曜日	4時限	

①授業方針・テーマ	経営学特別演習は、演習参加者の問題意識の醸成、研究課題の深掘、研究方法論の習得、研究計画書の精緻化を目的として開講する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	文献レビューと概念構築、量的研究の方法論、質的研究の方法論についての実習を行い、自身の研究の指針とする。
③授業計画・内容 授業方法	①　オリエンテーション（研究に向かうマインドセット）（松尾） ②　研究領域の決定と既存研究のサーベイ（松尾） ③　研究領域のマップ作成（松尾） ④　キー論文の精読（松尾） ⑤　研究テーマ、仮説の決定（松尾） ⑥　リサーチデザイン（竹田） ⑦　質的研究・概念構築実習（竹田） ⑧　質的研究・概念構築実習（竹田） ⑨　質的研究・概念構築実習発表（竹田） ⑩　リサーチデザインのまとめ（竹田） ⑪　研究計画作成にあたっての具体的なポイント（松田） ⑫　経営戦略分野における研究手法：定量分析の基礎（１）ーイベントスタディ、パフォーマンススタディ等（松田） ⑬　経営戦略分野における研究手法：定量分析の基礎（２）ーケーススタディ等（松田） ⑭　経営戦略分野における研究手法：定量分析の基礎（３）ーインタビュー、アンケート等（松田） ⑮　研究計画の発表とディスカッション（松田） 授業外学習 授業で出される個別課題の準備のほか、自分自身の研究計画を精緻化する作業を継続しておこなう必要がある
④授業外学習	授業で出される個別課題の準備のほか、自分自身の研究計画を精緻化する作業を継続しておこなう必要がある
⑤テキスト・参考書等	・適宜パワーポイント等の資料を使用することがある ・その他、参考書としては以下の通り。 ［1］楠木建『ストーリーとしての競争戦略論』東洋経済新報社 ［2］藤本隆宏他『ビジネスアーキテクチャ』有斐閣 ［3］吉原英樹他『日本企業の多角化戦略』日本経済新聞社 ［4］ロバート・C・ヒギンズ『新版 ファイナンシャル・マネジメント ― 企業財務の理論と実践』ダイヤモンド社 ［5］ティム・コラー他『企業価値評価 第5版【上】【下】』ダイヤモンド社 ［6］松田千恵子『グループ経営入門 第4版』税務経理協会 ［7］松田千恵子『コーポレートファイナンス実務の教科書』日本実業出版社 ［8］森田果『実証分析入門』日本評論社 ［9］G.キング他『社会科学のリサーチ・デザイン―定性的研究における科学的推論』勁草書房 [10] 久米郁男『原因を推論する 政治分析方法論のすゝめ』有斐閣 [11] R.イン『ケース・スタディの方法』千倉書房 [12] 藤本隆宏他『経営学研究法』有斐閣 [13] 山本勲『実証分析のための計量経済学』中央経済社 [14] 久保拓弥『データ解析のための統計モデリング入門』岩波書店 [15] 田村正紀『リサーチデザイン』白桃書房 ほか
⑥成績評価方法	課題の発表内容とディスカッション参加度により評価する
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは特に設けていませんが、質問等はメールでアポイントメントをとってください。 教員のメールアドレスは授業中に伝えます。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	経営戦略論、経営戦略演習、経営学演習（上記担当教員による）のいずれかの講義を受講していること 今後また変更がある場合は kibaco を通じてお知らせします。 オンライン授業になった場合の授業方法の詳細も kibaco に掲示しますのでそちらをご覧ください。

2018年度以降入学生	ミクロ経済学	P0200	経営学C	経済学A	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	ミクロ経済学	P678	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	森本　脩平		前期Ⅰ	月曜日	5、6時限	

①授業方針・テーマ	消費者および生産者の最適化行動の理論、交換経済および生産経済の一般均衡分析について講義を行う。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	消費者および生産者行動、交換経済と生産経済の一般均衡分析の標準的な理論を習得し、かつ、ミクロ経済学の分析手法に慣れることを目標とする。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画】以下の内容を講義する。 1．技術 2．利潤最大化 3．利潤関数 4．費用最小化 5．費用関数 6．選好 7．効用最大化 8．支出最小化 9．間接効用関数と支出関数 10. 需要関数と補償需要関数 11. 交換（1） 12. 交換（2） 13. 生産（1） 14. 生産（2） 15. 試験と解説 【授業方法】講義を中心に授業を行う。
④授業外学習	講義内容の復習を行い、教科書の練習問題に取り組むこと。
⑤テキスト・参考書等	教科書：Hal R. Varian, Microeconomic analysis, 3rd ed., W.W.Norton
⑥成績評価方法	試験により評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	メール等でアポイントメントをとって下さい。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	ミクロ経済学演習（P0204）を併せて履修してください。

2018年度以降入学生	マクロ経済学	P0201	経営学C	経済学A	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	マクロ経済学	P671	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	松岡　多利思		前期Ⅱ	月曜日	5、6時限	

①授業方針・テーマ	マクロ経済学の基本モデルであるソローモデル、新古典派成長モデル、世代重複モデルについて講義する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	・マクロ経済学および隣接分野に関する学術論文を読み自力でマクロ経済分析を行うために必要な基本概念について理解する。 ・各モデルにおける仮定の重要性と、そこから生じる結果の相違やモデルの限界・拡張の可能性についても理解する。
③授業計画・内容 授業方法	《授業計画・内容》 【第1回】ガイダンス・ソローモデル（1） 【第2回】ソローモデル（2） 【第3回】ソローモデル（3）：人的資本とデータ 【第4回】新古典派成長モデル（1）：効率的配分 【第5回】新古典派成長モデル（2）：市場均衡 【第6回】新古典派成長モデル（3）：財政政策 【第7回】世代重複モデル（1） 【第8回】世代重複モデル（2）：動学的非効率性 【第9回】世代重複モデル（3）：財政政策 【第10回】内生成長理論：AKモデル（1） 【第11回】内生成長理論：AKモデル（2） 【第12回】その他のトピックス 【第13回】期末試験 《授業方法》 講義形式で行う。 使用言語は原則として日本語。 ただし、配布資料や板書は必要に応じて英語を用いることがある。
④授業外学習	【復習】講義内容を復習し、Problem Setの練習問題を、木曜5限「マクロ経済学演習」までに解いておくこと。
⑤テキスト・参考書等	【テキスト】 Acemoglu, D.（2009）Introduction to Modern Economic Growth, Princeton University Press. 【参考書】 二神孝一（2012）『動学マクロ経済学 成長理論の発展』、日本評論社。 Barro, R. and X. Sala-i-Martin（2004）Economic Growth, 2nd ed., MIT Press. （バロー・サライマーティン（2006）『内生的経済成長論I, II』、九州大学出版会。） Ljungqvist, L. and T. J. Sargent（2018）Recursive Macroeconomic Theory, 4th ed., MIT Press. Blanchard, O. J. and S. Fischer（1989）Lectures on Macroeconomics, MIT Press. （ブランチャード・フィッシャー（1999）『マクロ経済学講義』、多賀出版。）
⑥成績評価方法	期末試験100%で評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	特定の時間は設定しないが、質問がある場合は授業後、もしくはメールにて受け付けます。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	・経済学プログラム科目「経済数学」「ミクロ経済学」の内容を前提として講義を行う。 ・「マクロ経済学演習」をあわせて受講すること。

2018年度以降入学生	計量経済学	P0202	経営学C	経済学A	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	計量経済学	P679	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	小方　浩明		前期Ⅱ	火曜日	5、6時限	

①授業方針・テーマ	計量経済学は、経済学で学ぶ理論・数理モデルの妥当性を、統計学で学ぶ手法（主に回帰分析）によって検証する学問です。本講義ではそのような計量経済学の基礎を解説します。また理論的な理解だけでなく、R(統計ソフトウェア）によるコンピューター実習も行う予定です。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	・計量経済学の基本的項目である古典的線形回帰モデルによる方法を理解できる。 ・時系列データやパネルデータの解析などの発展的内容を理解できる。 ・Rを使い、計量経済学の手法によるデータ分析ができる。
③授業計画・内容 授業方法	シラバス執筆時点において、以下のトピックを扱う予定です（進捗状況等により多少の変更はあるかもしれません)。 ・Simple regression model ・Multiple regression model ・Heteroscedasticity ・Time series data method ・Panel data method 授業はスライドを用いて行う予定です。
④授業外学習	与えられた資料を授業前に読み、大まかな内容を理解してから授業に臨んでください。
⑤テキスト・参考書等	Wooldridge, J. M.（2016）Introductory Econometrics: A Modern Approach, Cengage Learning, 6 th ed. Heiss, F.（2016）Using R for Introductory Econometrics, Createspace Independent Pub. <http://www.URfIE.net>
⑥成績評価方法	レポートにより評価します。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは特に設定しないので、質問などがある場合はメールでアポイントメントを取ってください。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	・コンピュータ実習として「R」を利用する予定です。 ・本科目は、後期に実施予定の「経済学特別演習（計量経済学)」の前提科目です。

2018年度以降入学生	経済数学	P0203	経営学C	経済学A	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経済数学	P680	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	田中　敬一		前期Ⅰ	火曜日	5、6時限	

①授業方針・テーマ	大学院の経済学のコースワークの学習に必要な数学の概念と手法について微分と行列を中心に講義する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ミクロ経済学で用いる制約付き最適化問題の解法を習得することを目的とする。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画】 講義ノートに沿って講義する。 1．論理、集合、極限 2．関数の連続性、微分 3．連立方程式、行列の演算、逆行列 4．行列の基本変形、行列式 5．一次独立、階数 6．固有値・固有ベクトル 7．多変数関数の微分、全微分、方向微分 8．陰関数定理、逆関数の微分 9．演習（1） 10. 最適化問題、1階条件・2階条件 11－12. 制約付き最適化問題、Lagrange法 13. 包絡線定理、Lagrange乗数 14. 応用（Ramseyモデル） 15. 演習（2）
④授業外学習	課題を2－3回課す。
⑤テキスト・参考書等	講義ノートを配付する。 参考書：Simon, Blume 'Mathematics for Economists'
⑥成績評価方法	提出された課題により評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	アポイントメント もしくは 授業前後
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	学部文系数学で扱う微分の知識（1変数関数の微分、積・合成関数の微分、最大化の1階条件・2階条件 等）を前提とする。これらは入学前の3月のMath Campでも扱う。

2018年度以降入学生	ミクロ経済学演習	P0204	経営学C	経済学A	ファイナンスC	1単位
2017年度以前入学生	ミクロ経済学演習	P681	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	1単位	
担当教員	我妻　靖		前期Ⅰ	木曜日	5時限	

①授業方針・テーマ	練習問題を解くことを通じて、ミクロ経済学への理解度を高める。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ミクロ経済学をしっかりと学ぶには、練習問題を解くことが効果的と言われています。本演習では、ミクロ経済学（授業番号P0200）で学んだ知識を確かなものにするために、同授業の教科書にある練習問題に取り組み、このことを実践します。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画】 ミクロ経済学（P0200）の授業計画に沿って行います。各回の内容は、そちらのシラバスをご覧ください。 【授業方法】 演習時間内では要点の要約と例題や宿題の解法を示します。
④授業外学習	教科書の練習問題や宿題に取り組むこと。
⑤テキスト・参考書等	教科書：Hal R. Varian, Microeconomic analysis, 3rd ed., W.W.Norton
⑥成績評価方法	宿題提出状況によって評価します。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	メール等でアポイントメントをとって下さい。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	ミクロ経済学（P0200）を併せて受講して下さい。

2018年度以降入学生	マクロ経済学演習	P0205	経営学C	経済学A	ファイナンスC	1単位
2017年度以前入学生	マクロ経済学演習	P682	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	1単位	
担当教員	我妻　靖		前期Ⅱ	木曜日	5時限	

①授業方針・テーマ	「マクロ経済学」の講義に連動して、問題演習を行う。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	問題演習を通して、マクロ経済学の基本モデルへの理解を深める。
③授業計画・内容 授業方法	<<授業計画・内容>> 【第1回】ソローモデル 【第2回】ソローモデル 【第3回】新古典派成長モデル 【第4回】新古典派成長モデル 【第5回】世代重複モデル 【第6回】内生成長理論 （受講者の関心や理解度に応じて変更する場合がある） <<授業方法>> 授業は日本語。提出する解答は日本語でも英語でも良い。 オンラインで行います。
④授業外学習	事前に問題を配布するので、授業までに解いておくこと。
⑤テキスト・参考書等	【教科書】 問題を配布するので、教科書は指定しない。 【参考書】 大学院経済学プログラム科目「マクロ経済学」に準ずる。
⑥成績評価方法	演習問題に対する解答の質などの出来栄えや授業への貢献度に応じて評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	質問がある場合は授業後またはメールにてアポイントメントを取ること。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	大学院経済学プログラム科目「マクロ経済学」を合わせて受講すること。

2018年度以降入学生	ミクロ経済学概論	P0206	経営学B	経済学A	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	ミクロ経済学概論	P683	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	渡辺　隆裕		前期	金曜日	6時限	

①授業方針・テーマ	本講義は、学部でミクロ経済学を履修していない者を想定し、ミクロ経済学の概略を伝えることを目的としています。経済学プログラムのコア科目である「ミクロ経済学」だけでも、大学院レベルのミクロ経済学を十分に学ぶことが可能と考えていますが、数式による理論展開と解を求めるため技術的な部分が強調されがちなミクロ経済学の講義だけでは、初学者にとっては理論の全体像が見えにくく、不足点も多いと考えられます。 本講義は、細かさや厳密さを排して。概略を伝えることに徹することで、ミクロ経済学のイメージを掴んでもらうことをテーマとします。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ミクロ経済学の基本的な考え方を理解することです。消費者や生産者の経済活動について理解すると共に、完全競争市場の概念とその働きについて理解します。また市場に任せておくだけでは必ずしも効率的な資源配分を達成できない市場の失敗と呼ばれる現象や、政府の役割について理解を深めることが到達目標です。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画】 1回　イントロダクション 2回　人々の意思決定、市場経済と政府の役割、一国全体の経済活動（生産性、インフレ、貨幣供給、雇用、景気循環） 3回　財・サービスと貨幣の流れ、財・サービス市場、労働・資本などの生産要素市場、生産可能性フロンティア 4回　交換の利益 5回　市場における需要と供給の作用：需要（消費者のモノに対する需要） 6回　市場における需要と供給の作用：供給（生産者のモノの供給） 7回　市場における需要と供給の作用：均衡（市場における価格と取引量） 8回　需要、供給、および政府の政策：弾力性 9回　需要、供給、および政府の政策：価格規制 10回　需要、供給、および政府の政策：税金 11回　消費者、生産者、市場の効率性：消費者余剰、生産者余剰 12回　消費者、生産者、市場の効率性：市場の効率性、税と効率・公平 13回　市場の失敗：外部性と市場の非効率性 14回　市場の失敗：外部性に対する公共政策・当事者間による解決法 15回　まとめ 【授業方法】大学の講義方針と受講者の希望を踏まえて、対面とするかオンライン講義とするかを決定します・現在のところオンライン講義を予定しています。詳細はkibacoにて連絡します。 【授業外学習】講義内容の復習を行い、テキストの練習問題や宿題に取り組むこと。
④授業外学習	テキストを出版している東洋経済新報社の提供する「クラウドキャンパス」と呼ばれるe-learningシステムによって、毎回宿題が出題されます。
⑤テキスト・参考書等	テキスト：N・グレゴリー・マンキュー［著］、足立英之、石川城太、小川英治、地主敏樹、中馬宏之、柳川隆［訳］、『マンキュー入門経済学（第2版）』東洋経済新報社、2014年 参 考 書：N・グレゴリー・マンキュー［著］、足立英之、石川城太、小川英治、地主敏樹、中馬宏之、柳川隆［訳］、『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編（第3版）』東洋経済新報社、2013年
⑥成績評価方法	「クラウドキャンパス」と呼ばれるe-learningシステムによって、毎回宿題が出題され、この宿題の達成率によって評価されます。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは特に設けませんが、質問は積極的に受けつけます。 メール、kibacoでアポイントメントを取って下さい。 講義前後の時間を使い、質問に答える予定です。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	マクロ経済学概論	P0207	経営学B	経済学A	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	マクロ経済学概論	P684	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	宮本　弘暁		前期	金曜日	5時限	

①授業方針・テーマ	大学でマクロ経済学を履修していない学生、理解度に不安のある学生のためにマクロ経済学の概論を講義する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	・経済情勢をマクロ的観点から考察できる ・より進んだマクロ経済分析を学ぶための基礎知識や、基本的なモデルの直観的意味を得る
③授業計画・内容 授業方法	《授業計画・内容》 【第1回】ガイダンス 【第2回】マクロ経済学のデータ 【第3回】国民所得：どこから来て何処へ行くのか 【第4回】貨幣システムとインフレーション 【第5回】開放経済 【第6回】失業と労働市場 【第7回】景気変動へのイントロダクション 【第8回】総需要I：IS-LMモデルの構築 【第9回】総需要I：IS-LMモデルの構築（続き） 【第10回】総需要II：IS-LMモデルの応用 【第11回】開放経済再考：マンデル-フレミング・モデル 【第12回】インフレーションと失業の短期的トレードオフ 【第13回】経済成長I 【第14回】経済成長II 【第15回】まとめと期末試験 （以上の計画はあくまで予定です。受講者の水準・理解度・要望等により変更される可能性があります。） 《授業方法》 講義形式で行う。使用言語は日本語。
④授業外学習	予習：教科書を読んで疑問点を明確にしておくこと。 復習：教科書および講義資料を読んで理解を深めること。また数回出される課題を解くこと。
⑤テキスト・参考書等	【教科書】 N・グレゴリー・マンキュー『マンキュー マクロ経済学I 基本篇』第4版、2017年。 N・グレゴリー・マンキュー『マンキュー マクロ経済学II 応用篇』第4版、2018年。
⑥成績評価方法	課題20%、期末試験80%の割合で評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	特定の時間は設定しないが、質問がある場合は遠慮なくメールでアポイントメントを取ること。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	・中学校の課程までの数学の知識（四則演算・1次関数・2次関数など）は前提とする。 ・今後また変更がある場合は kibaco を通じてお知らせします。オンライン授業になった場合の授業方法の詳細も kibaco に掲示しますのでそちらをご覧ください。

2018年度以降入学生	経済史概論	P0208	経営学B	経済学A	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経済史概論	P685	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	岩間　俊彦、竹内　祐介		前期	水曜日	6時限	

①授業方針・テーマ	この授業では、日本や日本を取り巻く世界の経済社会の歴史的歩みについて講義する。そして、過去・現在・未来の経済社会を相互に関連づけながら、経済社会の歴史の意義について考える。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	・経済社会の歴史に関する基本的な知識や思考方法を習得する。 ・過去の経済社会と現在の経済社会を相互に比較しながら考える複眼的視点を養う。 ・市場、資本主義、グローバル化について、日本や世界の歴史や思想という視点から理解する力を養う。
③授業計画・内容 授業方法	前半部（第1～6回）は、経済史的なものの見方と、世界の経済社会の歴史について講義する。後半部（第7～12回）は、日本および東アジアの経済成長の特質について比較史の視点から講義する。 ＜授業計画・内容＞ 1　ガイダンス　経済史や思想史は「役に立ちますか」? 2　経済社会の起源　農業の誕生と経済社会をめぐる諸問題 3　資本主義経済の形成　農業、商業、工業 4　産業革命の衝撃　工業 5　グローバル化の起源と衝撃　サービス業 6　現代の課題　ジェンダーと社会主義・資本主義 7　前半、授業のまとめ、再度、経済史は「役に立ちますか」? 8　「東アジアの奇跡」とは 9　勤勉革命径路の成立 10　労働集約型工業化の成立と展開 11　資源節約型径路の発見 12　東アジア・中東・世界経済 13　南アジア型経済発展径路の特質 14　グローバリゼーションのなかの東アジア 15　授業のまとめ 【授業方法】 配布資料にもとづき、黒板（ホワイトボード）やスライドを使って解説します。原則として、授業時間の最後の20分程度は質疑応答や議論の時間とする予定です。状況により、kibacoやその他の方法（オンライン等）により授業を行う場合があるので、kibaco等で確認を行ってください。
④授業外学習	指定の資料やテキストおよび参考書を用いた予習と復習。
⑤テキスト・参考書等	第1～7回は、事前に資料をkibacoで公開します。参考書として、ロバート・C・アレン『なぜ豊かな国と貧しい国が生まれたのか』NTT出版 第8～14回の参考書：杉原薫2020『世界史のなかの東アジアの奇跡』名古屋大学出版会
⑥成績評価方法	授業への参加（授業態度、授業への貢献、演習内容）50%　期末レポート50% kibaco等も確認してください。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	【岩間】 初回授業で説明します。kibaco等も参照してください。 【竹内】 授業の前後の時間、もしくはメールでも質問を受け付けます。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	経済史演習	P0209	経営学C	経済学A	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経済史演習	P686	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	岩間　俊彦、竹内　祐介		前期	木曜日	6時限	

①授業方針・テーマ	この授業では、テキストを読解・参照しながら、参加者同士での議論を通じて、経済史を学ぶ意義やその視角・方法論の変遷、また歴史研究の分析に不可欠な資料（史料）についての理解を深めることを狙いとする。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	・経済史についての多様な思考方法を習得する。 ・資料（史料）の意味や利用方法および調査方法を習得する。 ・以上を通じて、経済史、経済学史・思想史についてのレポート・論文を書く基礎的な能力を習得する。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 1　　ガイダンス 2　　経済史認識の展開 3－4　外国経済史の視角 5－6　関連文献の読解 7　　外国経済史の資料を読む 8－10　日本経済史の視角 11－12　史料を読む（文献資料） 13－14　史料を読む（統計資料） 15　　講義のまとめ
④授業外学習	・指定のテキストを事前に読み、疑問点・論点を考えてくること。 ・授業で紹介された種々の学説について文献に目を通したり、資料（史料）を実際に検索・調査・収集したりすることを通じて、期末レポートの作成準備をすること。
⑤テキスト・参考書等	・テキストは初回授業時に指示します。 ・参考書　石井寛治・原朗・武田晴人編［2010］『日本経済史 6 日本経済史研究入門』東京大学出版会。 その他、授業の際に適宜参考文献を指定します。
⑥成績評価方法	授業への参加（授業態度、授業への貢献、演習内容）50%　期末レポート50% レポート課題については授業中に指示します。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	【岩間】 初回授業で説明します。kibaco等も参照してください。 【竹内】 授業の前後の時間、もしくはメールでも質問を受け付けます。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	日本経済史	P0215	経営学B	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	日本経済史	P692	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	小林　延人		前期	水曜日	5時限	

①授業方針・テーマ	近世後期～現在に至るまで（19～21世紀）の日本経済史を扱う。本授業では、経済史の応用的な方法論を学ぶとともに、修士論文の執筆に向けた準備をする。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	・先行研究を正確に理解し、通説として受け入れられている歴史的事実を知識として習得するとともに、先行研究を批判的に検討する姿勢を学ぶ。 ・文献や重要語句の意味を自身で検索し、また短い期間で論文の主旨や問題点を析出する訓練を積むことで、修士論文執筆の上で必要な基礎的技能を身につけることができる。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 第1回　近世日本の制度的基盤 第2回　幕府財政 第3回　開港に伴う経済構造の変容 第4回　近世後期の貨幣制度 第5回　明治維新と維新政府の経済政策 第6回　松方財政 第7回　地方自治と農村経済 第8回　官営事業と殖産興業政策 第9回　産業革命論 第10回　日清戦後経営 第11回　戦間期の日本経済 第12回　戦時統制経済 第13回　戦後復興 第14回　高度経済成長 第15回　現代日本経済 【授業方法】 ・基本は対面授業の形態をとる。 ・対面で参加できない履修者がいる場合に限り、対面授業と同時にzoomによる映像配信を行う（リアルタイム型）。 ・zoomのミーティングIDとコードは、kibacoに掲示する。 ・主として講義形式で授業を実施するが、あらかじめリーディングリストを配布し、課題論文を提示する。 ・講義を行う前後に、課題論文・講義内容を踏まえた短時間のディスカッションを行う。
④授業外学習	参加者には毎回、課題論文に対するコメントを用意してもらう。事前に課題論文を講読していることを前提として授業を進める。
⑤テキスト・参考書等	リーディングリストを配布し、課題論文を提示する。
⑥成績評価方法	議論への参加〔30%〕、期末報告〔70%〕 ・期末報告については、適切に課題が設定されているか、先行研究と関連付けて課題が説明されているか、史料的根拠に立脚して自身の見解を述べているか等を評価項目とし、構成と論理性を重視して評価する。 ・参加者にはパワーポイントやKeynote等でスライド資料を作成することを求める。
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	【オフィスアワー】 原則として授業前後の時間に設定する。メールで事前に連絡すること。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	日本経済史に関わる修士論文を執筆する学生対象の授業であるが、それ以外の学生の参加も広く認める。

2018年度以降入学生	国際金融論	P0224	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	ー	ー	ー	ー	ー	
担当教員	荒戸　寛樹		後期	月曜日	6時限	

①授業方針・テーマ	国際金融論・国際マクロ経済学の主要なトピックスについて講義する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	・国際金融論・国際マクロ経済学における研究の文脈を掴む。 ・上記文脈を踏まえた上で、研究課題を発見することができるようになる。
③授業計画・内容 授業方法	以下のトピックスについて講義する予定。 1．PPPパズル 2．交換経済の2国モデル 3．生産経済の2国モデル 4．国際間リスクシェアリングとBackus-Smithパズル 5．不完備市場とポートフォリオ・バランス・モデル 6．現在価値モデルとその実証 7．マネタリーモデルとその実証 8．External balanceモデルとその実証 9．Meese & Rogoffのサンプル外予測 10. Exchange-Rate Disconnectパズル 11. 異質情報モデルと外国為替市場の情報効率性 12. 逐次取引モデル
④授業外学習	・課された演習問題を解く。 ・リーディングリストに挙げられている論文を読む。
⑤テキスト・参考書等	主に以下の文献を基に講義する。 【参考書】 Evans, M. D. D.（2011）Exchange Rate Dynamics, Princeton University Press. Friedman, B. M. and M. Woodford（ed.）（2010）Handbook of Monetary Economics, Vol. 3, North-Holland, Elsevier. Gopinath, G., E. Helpman and K. Rogoff（ed.）（2014）Handbook of International Economics, Vol. 4, North-Holland, Elsevier. James, J., I. W. Marsh and L. Sarno（ed.）（2012）Handbook of Exchange Rates, John Wiley & Sons. Mark, N. C.（2001）International Macroeconomics and Finance：Theory and Econometric Methods, John Wiley & Sons. Obstfeld, M. and K. Rogoff（1996）Foundations of International Macroeconomics, MIT Press. Uribe, M. and S. Schmitt-Grohé（2017）Open Economy Macroeconomics, Princeton University Press. また、重要論文を列挙したリーディングリストを配布する。
⑥成績評価方法	期末レポートにより評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	授業の前後もしくはメールにて受け付ける。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	大学院経済学プログラム科目「ミクロ経済学」「マクロ経済学」「計量経済学」「経済数学」を履修済み、あるいはそれと同等の能力を前提とする。

2018年度以降入学生	ミクロ経済学特論	P0225	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	―	―	―	―	―	
担当教員	飯村　卓也		後期	月曜日	6時限	

①授業方針・テーマ	テーマ：寡占理論。この授業では、ミクロ経済理論の主要な構成部分の一つである、ゲーム理論を用いた寡占価格理論の基礎に関する講義を行う。特に、ナッシュ均衡として捉えられる種々の寡占市場モデルにおける均衡の存在、一意性、安定性、比較静学を中心に講義を行う。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	均衡の存在、一意性、安定性、比較静学に関する幅広い知識を学び、その応用力をつけることが授業の目的であり、到達目標である。
③授業計画・内容 授業方法	以下の内容を各2～4回の予定で講義を行う。 1－2　寡占モデルの種類と概要 3－6　数量競争の寡占モデルに関する議論 7－10　価格競争の寡占モデルに関する議論 11－14　多段階ゲームで記述される寡占モデルに関する議論 15　まとめ
④授業外学習	授業内容の復習を行うこと。課題に取り組むこと。
⑤テキスト・参考書等	テキスト：指定しない。授業中に文献を指示する。 参 考 書：Vives, X., Oligopoly Pricing: Old Ideas and New Tools, The MIT Press, 2001 Mas-Collel et al. Microeconomic Theory, Oxford University Press, 1995 Varian, H., Microeconomic Analysis, 3rd edition, W. W. Norton, 1992.
⑥成績評価方法	レポートにより評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	【オフィスアワー】メールでアポイントメントを取ってください。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	特に前提科目は設けないが、ミクロ経済学とゲーム理論の知識があることが望ましい。

2018年度以降入学生	マクロ経済学特論	P0210	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	マクロ経済学特論	P687	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	脇田　成		後期	水曜日	5時限	

①授業方針・テーマ	本講義は大学院レベルのマクロ経済学を概説しながら、日本経済への適応を模索する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	講義ではいくつかの著書に沿って、現在のマクロ経済学と日本経済の関連を展望する。
③授業計画・内容 授業方法	以下は動学的なトピックスに力点を置いた場合であり、受講生の興味に会わせて適宜変更する。 第1回　ケインズ経済学と新古典派的マクロ経済学：マクロ経済学の課題と歴史 学部レベルのマクロ経済学の復習と近年のマクロ経済学の発展を概観した後、数学ならびにエコノメトリックスの最低限に解説を加える。ただしこれらの準備の不充分なものは必ず先立って補充しておくこと。 第2回　基本的動学モデル1：新古典派最適成長理論·RBCモデルと時間を通じた選択 第3回　基本的動学モデル2：世代重複モデルと高齢化·少子化 以上が一般均衡動学モデルの基礎であり、また変分法·DP·MPなどの動学的最適化理論の解説は動学モデルに即して適宜行う。このあと部分均衡的な動学モデルを検討する。以下の諸モデルは実証分析が盛んな分野でもあることに注意。 第4回　主体均衡分析1：家計の通時的最適化と消費関数の理論：高すぎる株式収益率のパズル 第5回　主体均衡分析2：企業の通時的最適化と投資関数の理論：タイミングを決める理論 以上を基礎編とする。さらに応用編として、時間の許す限り 第6回　新ケインジアン経済学と協調の失敗：財市場における不完全競争と名目価格硬直性 第7回　契約とサーチの理論：労働市場と実質賃金硬直性の理論 第8回　貨幣と信用の諸モデル·金融仲介ならびに国際金融：日本のバブルの物語 第9回　内生的成長理論：ますます富める国と貧しいままの国 第10回　カオスと複数均衡 第11回　マクロ経済政策分析：ゲーム理論の応用 第12回　マクロ経済学と実証分析：非定常時系列分析 第13回　マクロ経済学と日本的労働慣行 第14回　マクロ経済学と日本的経済システム 第15回　期末試験と解説 の講義も行う予定。なお詳細な講義予定·文献リストは講義の初回に配布する。 授業外学習　テキストをよく読むこと
④授業外学習	テキストをよく読むこと
⑤テキスト・参考書等	教科書：脇田成（2018）『日本経済15講』新生社。 脇田成（1998）『マクロ経済学のパースペクティブ』日本経済新聞社。
⑥成績評価方法	授業での発表により評価
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	質問は随時受け付けるのでメールでアポイントを取ること
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	受講希望者はテキストを調整するのでwakita@tmu.ac.jpに第1回の授業前に前もってメールすること 授業外学習　テキストをよく読むこと

2018年度以降入学生	ゲーム理論	P0211	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	ゲーム理論	P688	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	渡辺　隆裕		後期	火曜日	5時限	

①授業方針・テーマ	大学院の経済学で必要となるゲーム理論の知識を身につけ、習得する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	以下についての基本的な知識を習得することを目標とする：戦略形ゲームと展開形ゲーム、戦略の支配とナッシュ均衡、クールノー競争とベルトラン競争、情報集合と展開形ゲームの戦略形ゲームへの変換、混合戦略、不完備情報ゲームの戦略形と展開形。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画】 第1回　ガイダンス、ゲーム理論の歴史、ゲームの分類 第2回　講義のための数学準備、戦略形ゲームの定義 第3回　戦略の支配と支配戦略、支配された戦略の繰り返し削除 第4回　ナッシュ均衡、代表的なゲームを知る（囚人のジレンマ、瀬戸際戦略、コーディネーションと両性の戦い、タカハトゲーム、マッチングペニー） 第5回　支配されないナッシュ均衡 第6回　クールノー競争とベルトラン競争 第7回　混合戦略 第8回　展開形ゲーム（1）：完全情報の展開形ゲームとバックワードインダクション、一般の展開形ゲーム 第9回　展開形ゲーム（2）：戦略形ゲームへの変換、展開形ゲームを解く、部分ゲーム完全均衡 第10回　展開形ゲーム（3）：部分ゲーム完全均衡つづき、不確実性のある展開形ゲーム 第11回　不完備情報ゲーム（1）：不完備情報ゲームの戦略形 第12回　不完備情報ゲーム（2）：ベイズの定理 第13回　不完備情報ゲーム（3）：不完備情報ゲームの展開形とシグナリング（1） 第14回　不完備情報ゲーム（4）：不完備情報ゲームの展開形とシグナリング（2） 第15回　まとめ 【授業方法】 板書を中心に、ときにはスライドを用いて講義を行う。 自作のテキストを用いて講義を行う。（第3回、第4回はスライドを用いる）
④授業外学習	宿題を5回程度出題する。受講者はkibacoのwebテストにて、それを解き提出する。 受講者は配布資料と参考書を用いて、予習や復習を行う必要がある。
⑤テキスト・参考書等	【テキスト】 自作のテキストを用いる。また、以下の参考書を用いて学習を深める必要がある。 【参考書】 （1）渡辺隆裕、ゼミナールゲーム理論入門、日本経済新聞社、2008。 （2）S. Taldes, Game Theory：An Introduction, Princeton University Press, 2012. （3）岡田章、ゲーム理論 新版、有斐閣、2012。 ゲーム理論を学んだことがない者は、少なくとも（1）の講義に該当部分を読んでおく必要がある。可能であれば講義と並行して、（2）によって学習を進めると良い。更に詳しくゲーム理論を学びたいものは（3）を読むと良い。
⑥成績評価方法	宿題を中心に、授業中の態度と演習によって評価をする。 なお、授業態度、理解度、参加者の人数によっては、期末試験を行うことがある。 宿題は、レポートとkibacoを用いた演習を予定。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは特に設けませんが、質問は積極的に受けつけます。 メール、kibacoでアポイントメントを取って下さい。 講義前後の時間を使い、質問に答える予定です。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	日本経済論	P0213	経営学B	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	日本経済論	P690	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	村田　啓子		後期	水曜日	5時限	

①授業方針・テーマ	経済学の理論を実体経済に応用するためには、理論、データ、制度を踏まえた論考が必要となります。本講義では、基礎的な経済学の概念や分析手法を用いて、現代日本経済の動向とその背景を理解するとともに、実施された政策や問題点についても学ぶことにより、実体経済について自らの問題意識を持ちつつ主体的に考えていく能力を養い、併せて自らの研究課題について鳥瞰的な視野からも思考する能力の育成を目指します。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	日本経済の現状と課題及びそれらに関する基本データを理解した上で批判的に検討・分析するための能力を育成し、併せて論文執筆のための研究課題の選定・論考能力を向上させる。
③授業計画・内容 授業方法	（以下は現時点で想定しているもの。日本経済の現況や受講生の状況等を踏まえ変更の可能性があります。第1回で説明します。） 1．概論 2．日本の経済成長と景気循環 3．変化する労働市場（1） 4．変化する労働市場（2） 5．家計の消費と貯蓄行動 6．設備投資と企業行動の変化 7．物価とデフレーション 8．金融システムと金融政策（1） 9．金融システムと金融政策（2） 10. 財政システムと財政政策（1） 11. 財政システムと財政政策（2） 12. 少子高齢化と社会保障 13. 格差問題を考える 14. 総括
④授業外学習	配布されたレジュメや講義内容、参考書をもとに、自身の学習・研究目的を踏まえ予習・復習を行う。
⑤テキスト・参考書等	レジュメを配布（kibacoにUP）するほか、参考文献は講義で紹介する。 【参考書】小峰隆夫・村田啓子「最新 日本経済入門（第6版）」2020年、日本評論社
⑥成績評価方法	平常点、小テスト、および期末試験（またはレポート）により総合的に判定します。第1回講義で説明します。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	メールまたは講義後
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	ミクロ計量経済学	P0226	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	ー	ー	ー	ー	ー	
担当教員	飯星　博邦		後期	土曜日	1時限	

①授業方針・テーマ	本講義では、計量経済学で学んだ行列表現および回帰モデルの推定法（一般化最小2乗法（GLS)、一般化積率法（GMM)、最尤法（MLE)、操作変数法）を土台として、ミクロ（個票）データを対象としたより発展的な計量経済学的な推定法を学習する。 具体的には、まず線形回帰モデルであるパネルデータ分析を取り扱う。ここで、固定効果と変量効果、さらにこの検定法であるハウスマン検定を学習する。つぎに、最尤推定法を利用した非線形モデルを取り扱う。ここでは、従属変数が2項であるロジットモデル、プロビットモデル（その応用モデルであるトービットモデル)、さらに生存時間分析、カウントデータ分析を学習する。最後に、因果推論（政策評価推定法）としてよく利用される傾向スコア法、マッチング法、回帰不連続デザイン、差分の差分を取り上げる。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	・計量経済学で学んだ行列表現および回帰モデルの推定法（一般化最小2乗法（GLS)、一般化積率法（GMM)、最尤法（MLE)、操作変数法）の復習 ・パネルデータ分析。固定効果と変量効果、その検定法であるハウスマン検定 ・非線形回帰モデル。2項モデル（ロジットモデル、プロビットモデル)、その応用モデルであるトービットモデル、生存時間分析、カウントデータ分析 ・因果推論（政策評価推定法)。傾向スコア法、マッチング法、回帰不連続デザイン、差分の差分。
③授業計画・内容 授業方法	1回　計量経済学の復習1：(一般化最小2乗法（GLS)、一般化積率法（GMM)） 2回　計量経済学の復習2：(最尤法（MLE)、操作変数法） 3回　パネルデータ分析1：固定効果 4回　パネルデータ分析2：変量効果 5回　パネルデータ分析3：ハウスマン検定 6回　非線形回帰モデル1：2項モデル（ロジットモデル） 7回　非線形回帰モデル2：2項モデル、プロビットモデル 8回　非線形回帰モデル3：トービットモデル 9回　非線形回帰モデル4：生存時間分析、カウントデータ分析 10回　非線形回帰モデル5：カウントデータ分析 11回　因果推論（政策評価推定法）1：傾向スコア法 12回　因果推論（政策評価推定法）2：マッチング法 13回　因果推論（政策評価推定法）3：回帰不連続デザイン、 14回　因果推論（政策評価推定法）4：差分の差分。 15回　試験と解説
④授業外学習	テキストと参考章に基づく予習と復習。さらに、講義中に出題される課題（ミクロデータを対象した統計ソフトのプログラミングとデータ分析）の取り組み。
⑤テキスト・参考書等	教科書 [1] 西山・新谷・川口・奥井（2019)『計量経済学』有斐閣 [2] 末石（2015)『計量経済学：ミクロデータ分析へのいざない』日本評論社 [3]Cameron, Trivedi（2009）Microeconometrics using Stata, Stata Press 参考書 [1] ayashi,（2000）Econometrics, Princeton Univ. Press [2] ameron, Trivedi（2005）Microeconometrics, Cambridge Univ. Press なお、適宜、各講義で参考とすべき論文についてはリーディングリストを配布する。
⑥成績評価方法	期末試験（60%）および レポート（40%）
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	初回講義時に説明する。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	計量ソフトウェアとして「Stata」を利用する。 「Stata」は次のURLのように学生版があります。https：//www.lightstone.co.jp/stata/price_stu.html 講義形式は 基本 オンライン講義とする。

2018年度以降入学生	労働経済学	P0245	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	―	―	―	―	―	
担当教員	宮本　弘暁		後期	火曜日	5時限	

①授業方針・テーマ	This is a graduate course in labor economics. The course presents theories and empirical facts of labor markets. The course mainly focuses on aggregate labor market performance such as unemployment, wage determination, worker reallocation, and productivity. This course emphasizes the connection between theories and practice. Topics include : labor demand, labor supply, search theory, job creation and destruction, worker reallocation, unemployment, wage determination, human capital investment, and labor market policies. The course also covers issues facing the Japanese labor market. There will be both theoretical exercises and numerical assignments.
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	The purpose of this course is to familiarize students with the techniques and models of aggregate dynamic economics. In this course we will spend a fair amount of time developing techniques for dynamic analysis and applying the results to the study of traditional macro labor economic questions. We will also learn how to perform some numerical calibration and simulation by using DYNARE.
③授業計画・内容 授業方法	Outline of the course : ・Lecture 1 : Search and Matching Model ・Lecture 2 : Mortensen and Pissarides Model ・Lecture 3 : Growth and Unemployment (I) ・Lecture 4 : Robot revolution and the labor market ・Lecture 5 : On the Job Search Model ・Lecture 6 : Business cycle and Unemployment (I) ・Lecture 7 : Midterm exam ・Lecture 8 : Estimation of Search and Matching Model ・Lecture 9 : Real Business Cycle Model - Basics ・Lecture 10 : Real Business Cycle Model – Application ・Lecture 11 : Business cycle and Unemployment (II) ・Lecture 12 : Fiscal stimuli and Unemployment ・Lecture 13 : Monetary policy and Unemployment ・Lecture 14 : Worker and job flows ・Lecture 15 : Final exam
④授業外学習	TBA
⑤テキスト・参考書等	We will use a variety of different sources. There are no required textbooks, but the course uses the following as recommend textbook. Pissarides, Christopher A., Equilibrium Unemployment Theory, 2 nd edition, 2000, MIT Press.
⑥成績評価方法	Grades will be based on two things, exams and problem sets. There will be one midterm and a cumulative final. Problem sets count for 10% of your final grade and exams count for the remaining 90% (the midterm 40% and the final exam 50%) The midterm and final exam will be held in class.
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	TBA
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	Even though we will discuss the basic material in class, it is absolutely necessary that you are familiar with basic notions of calculus, optimization and probability and statistics. This is a graduate course in economics.

2018年度以降入学生	西洋経済史	P0216	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	西洋経済史	P693	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	井澤　龍		後期	火曜日	6時限	

①授業方針・テーマ	西洋経済史・グローバル経済史の代表的なテキストの研究成果を批判的に読み込み、近年の経済史研究における研究成果の吸収と、研究動向の把握を行います。また、論文執筆（特に経済史系）に必要な調査法、リサーチ・デザインについて学びます。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	・経済史研究をおこなう上での基礎的素養の習得 ・近年の西洋経済史・グローバル経済史研究成果の把握 ・社会科学系・人文学系学術論文作成のための方法論の習得
③授業計画・内容 授業方法	※コロナ対応等により、授業の実施場所・成績評価の仕方などが変わります。 Online シ ラ バ ス、kibaco、　教 員HP（https://sites.google.com/site/ryoizawahome/lecture/lecture2021）の確認をお願いします。 テキスト・学術誌の輪読を行います。発表者を決め、テキストの各章を要約し、疑問点・論点を提示してもらいます。それらに基づいて、参加者同士で議論をし、理解を深めます。 学術誌の輪読にあたっては、受講者の関心に従って論文を選びます。 なお、テキストに関しては、教員が示すのはあくまで例です。受講生の関心を聴取しながら、テキストあるいは論文の選定を第1回目で行います。 1．授業ガイダンス 2．【テキスト 序章】序 章 グローバル化の経済史 3．【テキスト 第1章】グローバル化以前の世界経済（～15世紀） 4．【テキスト 第2章】グローバル化の開始（16世紀） 5．【テキスト 第3章】危機の時代（17世紀） 6．【テキスト 第4章】近世経済の成立（18世紀） 7．【テキスト 第5章】工業化の開始と普及 8．【テキスト 第6章】ヒト・モノ・カネの移動の拡大と制度的枠組みの変化 9．【テキスト 第7章】植民地体制の変容とラテンアメリカ、アジアの工業化 10.【テキスト 第8章】工業化の新しい波と世界大戦 11.【テキスト 第9章】世界大恐慌とグローバル化の停滞 12.【テキスト 第10章】再始動するグローバル化 13.【テキスト 第11章】グローバル化と開発 14.【テキスト 第12章】加速するグローバル化 15.【テキスト 終章】グローバル化の行方
④授業外学習	受講者は、テキスト・論文を事前に読み、発表する場合は、発表準備を行ってください。
⑤テキスト・参考書等	河崎信樹・村上衛・山本千映『グローバル経済の歴史』有斐閣アルマ、2020年。
⑥成績評価方法	平常点（発表の水準、授業中の参加姿勢等）により評価します。
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	初回に説明します。前日までにメールで予約してください（ryoizawa@tmu.ac.jp）。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	履修する場合には、必ず初回授業に参加してください。

2018年度以降入学生	アジア経済史	P0217	経営学B	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	アジア経済史	P694	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	竹内　祐介		後期	金曜日	6時限	

①授業方針・テーマ	アジア経済史のテキストを批判的に検討することが目的。アジア内の経済関係および各地域の比較というアプローチから、アジア各国史ではない、地域横断的なアジア経済史像を検討する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	・経済史研究をおこなう上での基礎的素養の習得 ・国際交流に不可欠な、日本とアジア・世界とのかかわりについての理解を歴史的・経済的側面から深めること
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 第1回　ガイダンス 第2回　東アジアにおける近世 第3回　東アジアの開国・開港と再編成 第4回　中国伝統経済の変容1870～1890年代 第5回　日本の産業革命と東アジア 第6回　【復習】近世～近代初期の東アジア経済 第7回　日本帝国の経済発展と農業1914年～1937年 第8回　日本帝国の工業発展1914年～1937年 第9回　中国近代経済の形成1895～1937年 第10回　【復習】両大戦間期の東アジア経済 第11回　中国地域経済と日中戦争 第12回　日本帝国の膨張・解体と東アジアの復興 第13回　人民中国の成立と富国への道のり 第14回　日本・台湾・韓国の高度成長 第15回　【復習】戦時・戦後期の東アジア経済 ＊指定テキスト各章を扱う（復習回を除く各回のタイトルはそれぞれテキストの章題に対応している） 【授業方法】 テキストの輪読をおこなう。毎回発表者を決め、テキストを要約し、疑問点・論点を提示してもらう（発表はパワーポイントでおこなう）。それらにもとづいて、参加者同士で議論をし、理解を深める。追加の調査を指示する場合もある。
④授業外学習	テキストの該当範囲を事前に読んでくる。発表者は発表の準備（パワーポイントで作成）をする。
⑤テキスト・参考書等	堀和生・木越義則2020『東アジア経済史』日本評論社
⑥成績評価方法	平常点50%（特に論点・疑問点の準備内容と議論への参加度合いを重視する。） レポート50%（テーマは授業中に指示する）
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	授業の前後の時間、もしくはメールでも質問を受け付けます。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	社会経済史	P0218	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	社会経済史	P695	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	岩間　俊彦		後期	月曜日	5時限	

①授業方針・テーマ	社会理論、文化理論に依拠した歴史的分析方法について学びます。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	社会理論（社会構造、社会的行為、社会関係 等）、文化理論と歴史分析方法に基づいて、歴史研究を実証的にすすめる方法を習得します。
③授業計画・内容 授業方法	テキストにもとづいて、以下の計画にて行う予定です。履修者にはテキストの講読等を課すことがあります。 1　授業の案内 2　歴史化された理論1 3　歴史化された理論2 4　叙述 1 5　叙述 2 6　文化 1 7　文化 2 8　権力 1 9　権力 2 10　近代性 1 11　近代性 2 12　アイデンティティ 1 13　アイデンティティ 2 14　理論化された歴史 1 15　理論化された歴史2、授業のまとめ
④授業外学習	授業前に、テキストを予習したうえで、授業後、要点を確認・整理し、必要に応じて、関連する参考文献を参照しつつ、課題を準備してください。
⑤テキスト・参考書等	テキスト　S. Gunn, History and Cultural Theory (2006). 参 考 書　S. Gunn (ed.), Research Methods for History, 2nd ed. (2016)、バーク『歴史学と社会理論 第2版』慶應義塾大学出版会、バーク『文化史とは何か 増補改訂版』法政大学出版局、グルディ／アーミテイジ『これが歴史だ！』刀水書房
⑥成績評価方法	授業への参加（授業態度、授業への貢献、演習内容、5割）と課題提出（5割）によります。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	質問等のためのオフィスアワーは、初回に説明します。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	経済思想史	P0219	経営学B	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経済思想史	P696	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	高見　典和*		後期	金曜日	5時限	

①授業方針・テーマ	近年の欧米での経済学史研究を解説します。直接には、近年の研究を参照して執筆した担当講師の著作に依拠します。（専門分野の知識・理解、論理的思考力）
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	現在の数理的計量的経済学の直接の起源は、20世紀半ばの一連の数理経済学者の研究にあります。かれらがどのような知的背景をもち、どのような経済学を目指したかを見ることで、経済学は完成された知識ではなく、つねに新しい視点を取り入れてきた学問であることが理解できます。（専門分野の知識・理解、論理的思考力）
③授業計画・内容 授業方法	担当講師の著作を用いて、計量経済学、ゲーム理論、行動経済学、IS-LMモデル、成長理論それぞれの誕生や発展の経緯にかんして議論をします。
④授業外学習	受講者数に応じて変更する可能性はありますが、あらかじめ資料を読んで質問を用意してもらいます。
⑤テキスト・参考書等	野原慎司・沖公祐・高見典和 著、『経済学史――経済理論誕生の経緯をたどる』（日本評論社）
⑥成績評価方法	授業への貢献50%、レポート50%（専門分野の知識・理解、論理的思考力）
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	原則として、毎週木曜2限をオフィスアワーに設定します。質問がある場合は、オンラインで対応します。前日17時までに必ずメールで予約をしてください。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	ミクロ経済学特別研究	P0536	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	ミクロ経済学特別講義	P540	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	飯村　卓也		前期	火曜日	2時限	

①授業方針・テーマ	中級から上級のミクロ理論を学ぶ。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ミクロ理論の内容とともに、よく使われる分析技術の習得を目標にする。
③授業計画・内容 授業方法	消費者・生産者の最適化行動から市場均衡に至るまで、標準的な理論を体系的に学んでゆく。 【授業方法】講義と演習により行う。
④授業外学習	【授業外学習】次回の授業範囲を予習しておくこと。
⑤テキスト・参考書等	Varian, H. Microeconomic Analysis, 3rd ed., Norton
⑥成績評価方法	取り組み方、達成度など、総合的に見て判断する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	【オフィスアワー】 毎週金曜5限の時間帯
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	履修する人は初回授業の時間に必ず出席のこと。

2018年度以降入学生	ミクロ経済学特別演習	P0537	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	ミクロ経済学特別講義	P541	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	飯村　卓也		後期	火曜日	2時限	

①授業方針・テーマ	中級から上級のミクロ理論を学ぶ。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ミクロ理論の内容とともに、よく使われる分析技術の習得を目標にする。
③授業計画・内容 授業方法	消費者・生産者の最適化行動から市場均衡に至るまで、標準的な理論を体系的に学んでゆく。 【授業方法】講義と演習により行う。
④授業外学習	【授業外学習】次回の授業範囲を予習しておくこと。
⑤テキスト・参考書等	Varian, H. Microeconomic Analysis, 3rd ed., Norton
⑥成績評価方法	取り組み方、達成度など、総合的に見て判断する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	【オフィスアワー】 毎週金曜5限の時間帯
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	履修する人は初回授業の時間に必ず出席のこと。

2018年度以降入学生	マクロ経済学特別研究	P0538	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	マクロ経済学特別講義	P546	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	脇田　成		前期	木曜日	1時限	

①授業方針・テーマ	本講義は大学院レベルのマクロ経済学を概説する。なお受講者は学部レベルのマクロ経済学を理解し、初歩の線形代数·静学的最適化問題の理解が必須である。これらの準備の不十分なものは学部レベルの教科書 などで講義に先立って補充しておくこと。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	講義では教科書に沿って、能率良く現在のマクロ経済学を展望するが、単位取得のためには計算問題の宿題ならびに課題を課す。
③授業計画・内容 授業方法	第1回　ケインズ経済学と新古典派的マクロ経済学：マクロ経済学の課題と歴史 学部レベルのマクロ経済学の復習と近年のマクロ経済学の発展を概観した後、数学ならびにエコノメトリックスの最低限に解説を加える。ただしこれらの準備の不充分なものは必ず先立って補充しておくこと。 第2回　基本的動学モデル1：新古典派最適成長理論·RBCモデルと時間を通じた選択 第3回　基本的動学モデル2：世代重複モデルと高齢化·少子化 以上が一般均衡動学モデルの基礎であり、また変分法·DP·MPなどの動学的最適化理論の解説は動学モデルに即して適宜行う。このあと部分均衡的な動学モデルを検討する。以下の諸モデルは実証分析が盛んな分野でもあることに注意。 第4回　主体均衡分析1：家計の通時的最適化と消費関数の理論：高すぎる株式収益率のパズル 第5回　主体均衡分析2：企業の通時的最適化と投資関数の理論：タイミングを決める理論 以上を基礎編とする。さらに応用編として、時間の許す限り 第6回　新ケインジアン経済学と協調の失敗：財市場における不完全競争と名目価格硬直性 第7回　契約とサーチの理論：労働市場と実質賃金硬直性の理論 第8回　貨幣と信用の諸モデル·金融仲介ならびに国際金融：日本のバブルの物語 第9回　内生的成長理論：ますます富める国と貧しいままの国 第10回　カオスと複数均衡 第11回　マクロ経済政策分析：ゲーム理論の応用 第12回　マクロ経済学と実証分析：非定常時系列分析 第13回　マクロ経済学と日本的労働慣行 第14回　マクロ経済学と日本的経済システム 第15回　期末試験と解説 の講義も行う予定。なお詳細な講義予定·文献リストは講義の初回に配布する。 授業外学習　テキストをよく読むこと
④授業外学習	授業外学習　テキストをよく読むこと
⑤テキスト・参考書等	教科書：脇田成（1998）『マクロ経済学のパースペクティブ』日本経済新聞社。 参考書：Blanchard, O. J., and S. Fischer, Lectures on Macroeconomics, (MIT Press, 1989). Lucas R. E., Jr., Models of Business Cycles, Oxford：Basil Blackwell, 1987(邦訳「マクロ経済学のフロンティア」清水訳東洋経済新報社)。 岩井克人·伊藤元重編（1994）『現代の経済理論』東京大学出版会。
⑥成績評価方法	期末試験70%　宿題30%
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは木曜4限 質問は随時受け付けるのでメールでアポイントを取ること
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	受講希望者はテキストを調整するのでwakita@tmu.ac.jpに第1回の授業前に前もってメールすること オフィスアワーは木曜4限 質問は随時受け付けるのでメールでアポイントを取ること

2018年度以降入学生	マクロ経済学特別演習	P0539	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	マクロ経済学特別講義	P547	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	脇田　成		後期	木曜日	1時限	

①授業方針・テーマ	本講義は大学院レベルのマクロ経済学を概説し、問題演習並びに関連論文の輪読を行う。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	講義では教科書に沿って、能率良く現在のマクロ経済学を展望するが、単位取得のためには計算問題の宿題ならびに課題を課す。
③授業計画・内容 授業方法	第1回　ケインズ経済学と新古典派的マクロ経済学：マクロ経済学の課題と歴史 学部レベルのマクロ経済学の復習と近年のマクロ経済学の発展を概観した後、数学ならびにエコノメトリックスの最低限に解説を加える。ただしこれらの準備の不充分なものは必ず先立って補充しておくこと。 第2回　基本的動学モデル1：新古典派最適成長理論·RBCモデルと時間を通じた選択 第3回　基本的動学モデル2：世代重複モデルと高齢化·少子化 以上が一般均衡動学モデルの基礎であり、また変分法·DP·MPなどの動学的最適化理論の解説は動学モデルに即して適宜行う。このあと部分均衡的な動学モデルを検討する。以下の諸モデルは実証分析が盛んな分野でもあることに注意。 第4回　主体均衡分析1：家計の通時的最適化と消費関数の理論：高すぎる株式収益率のパズル 第5回　主体均衡分析2：企業の通時的最適化と投資関数の理論：タイミングを決める理論 以上を基礎編とする。さらに応用編として、時間の許す限り 第6回　新ケインジアン経済学と協調の失敗：財市場における不完全競争と名目価格硬直性 第7回　契約とサーチの理論：労働市場と実質賃金硬直性の理論 第8回　貨幣と信用の諸モデル·金融仲介ならびに国際金融：日本のバブルの物語 第9回　内生的成長理論：ますます富める国と貧しいままの国 第10回　カオスと複数均衡 第11回　マクロ経済政策分析：ゲーム理論の応用 第12回　マクロ経済学と実証分析：非定常時系列分析 第13回　マクロ経済学と日本的労働慣行 第14回　マクロ経済学と日本的経済システム 第15回　期末試験と解説 の講義も行う予定。なお詳細な講義予定·文献リストは講義の初回に配布する。 授業外学習　テキストをよく読むこと
④授業外学習	テキストをよく読むこと
⑤テキスト・参考書等	教科書：脇田成（1998）『マクロ経済学のパースペクティブ』日本経済新聞社。 参考書：Blanchard, O. J., and S. Fischer, Lectures on Macroeconomics,（MIT Press, 1989）. Lucas R. E., Jr., Models of Business Cycles, Oxford：Basil Blackwell, 1987（邦訳「マクロ経済学のフロンティア」清水訳東洋経済新報社）。 岩井克人·伊藤元重編（1994）『現代の経済理論』東京大学出版会。
⑥成績評価方法	期末試験70%　宿題30%
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは木曜4限（メールでアポイントを取ること）
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	受講希望者はテキストを調整するのでwakita@tmu.ac.jpに第1回の授業前に前もってメールすること

2018年度以降入学生	計量経済学特別研究	P0540	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	計量経済学特別講義	P550	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	飯星　博邦		前期	火曜日	2時限	

①授業方針・テーマ	本科目では、大学院の修士課程で履修すべき計量経済学の基本的項目について扱う。具体的には、線形回帰モデルの推定と検定の行列計算を中心に、非線形モデルの推定法である一般化モーメント法（GMM）や最尤推定法に敷衍する。また、理論的な理解だけでなく、実際にデータ分析ができるように、Stata, MATLAB、Rなどの計量ソフトウェアの利用法についても講義していく予定である。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	・計量経済学の基本的項目である古典的線形回帰モデルの小標本と大標本の性質を理解できる。 ・非線形モデルに拡張できるGMM（一般化モーメント法）と最尤法の推定法や検定法、漸近的特性が理解できる。 ・Sata, MATLABやRなどの計量ソフトウェアを使い、古典的線形回帰モデル、GMM、最尤法によるデータ分析ができる。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 各回の講義予定は教科書であるAngrist and Pischke（2009）Mostly Harmless Econometrics、ならびにHayashi（2000）Econometricsに基づき、以下のとおりであるが、講義の進捗状況により、前後する場合がある。 1回　ランダム化比較実験と因果推論 2回　回帰モデルと欠落変数バイアス、変数選択 3回　回帰分析と因果推論 4回　古典的線形回帰モデル（OLS）とその行列表現（OLSの小標本の特性#1） 5回　OLSにおける仮説検定、最尤法とGMM（OLSの小標本の特性#2） 6回　大標本理論（大数の法則と中心極限定理） 7回　大標本理論（OLS推定値での漸近分布） 8回　大標本理論（仮説検定） 9回　大標本理論（不均一分散） 10回　GMM（一般化モーメント法）と操作変数法 11回　GMM（一般化モーメント法）の大標本理論 12回　GMM（一般化モーメント法）尤度比検定 13回　GMM（一般化モーメント法）の不均一分散 14回　GMM（一般化モーメント法）と同時方程式体系 15回　試験と解説
④授業外学習	【授業外学習】 毎回の講義ノートはあらかじめEラーニングシステム「KIBACO」にアップロードするので、教科書と合わせて予習しておくこと。また、レポートとして、教科書にある演習問題と計量ソフトウェア「Matlab」もしくは「R」を利用したデータ分析の出題を行う。
⑤テキスト・参考書等	教科書 ［1］Angrist and Pischke（2009）Mostly Harmless Econometrics, Princeton Univ. Press ［2］Hayashi（2000）Econometrics, Princeton Univ. Press 参考書 ［3］西山・新谷・川口・奥井（2019）計量経済学、有斐閣
⑥成績評価方法	講義中に出題するレポート2題（50%）および期末試験（50%）により評価を行う。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーについては、初回の講義で案内する予定である。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	・計量ソフトウェアとして「Stata」「Matlab」「R」の3つを利用する。 レポートでは3つのうち1つを選択すること。 ・本科目は、後期に実施予定の「経済学特別演習（計量経済学）」の前提科目である。

2018年度以降入学生	計量経済学特別演習	P0541	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	計量経済学特別講義	P551	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	飯星　博邦		後期	火曜日	2時限	

①授業方針・テーマ	本科目では、大学院の修士課程で履修すべき計量経済学の基本的項目について扱う。具体的には、線形回帰モデルの推定と検定の行列計算を中心に、非線形モデルの推定法である一般化モーメント法（GMM）や最尤推定法に敷衍する。また、理論的な理解だけでなく、実際にデータ分析ができるように、Stata, MATLAB、Rなどの計量ソフトウェアの利用法についても講義していく予定である。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	・計量経済学の基本的項目である古典的線形回帰モデルの小標本と大標本の性質を理解できる。 ・非線形モデルに拡張できるGMM（一般化モーメント法）と最尤法の推定法や検定法、漸近的特性が理解できる。 ・Sata, MATLABやRなどの計量ソフトウェアを使い、古典的線形回帰モデル、GMM、最尤法によるデータ分析ができる。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 各回の講義予定は教科書であるAngrist and Pischke（2009）Mostly Harmless Econometrics, ならびにHayashi（2000）Econometricsに基づき、以下のとおりであるが、講義の進捗状況により、前後する場合がある。 1回　ランダム化比較実験と因果推論 2回　回帰モデルと欠落変数バイアス、変数選択 3回　回帰分析と因果推論 4回　古典的線形回帰モデル（OLS）とその行列表現（OLSの小標本の特性#1） 5回　OLSにおける仮説検定、最尤法とGMM（OLSの小標本の特性#2） 6回　大標本理論（大数の法則と中心極限定理） 7回　大標本理論（OLS推定値での漸近分布） 8回　大標本理論（仮説検定） 9回　大標本理論（不均一分散） 10回　GMM（一般化モーメント法）と操作変数法 11回　GMM（一般化モーメント法）の大標本理論 12回　GMM（一般化モーメント法）尤度比検定 13回　GMM（一般化モーメント法）の不均一分散 14回　GMM（一般化モーメント法）と同時方程式体系 15回　試験と解説
④授業外学習	【授業外学習】 毎回の講義ノートはあらかじめEラーニングシステム「KIBACO」にアップロードするので、教科書と合わせて予習しておくこと。また、レポートとして、教科書にある演習問題と計量ソフトウェア「Matlab」もしくは「R」を利用したデータ分析の出題を行う。
⑤テキスト・参考書等	教科書 ［1］Angrist and Pischke（2009）Mostly Harmless Econometrics, Princeton Univ. Press ［2］Hayashi（2000）Econometrics, Princeton Univ. Press 参考書 ［3］西山・新谷・川口・奥井（2019）計量経済学、有斐閣
⑥成績評価方法	講義中に出題するレポート2題（50%）および期末試験（50%）により評価を行う。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーについては、初回の講義で案内する予定である。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	・計量ソフトウェアとして「Stata」「Matlab」「R」の3つを利用する。 レポートでは3つのうち1つを選択すること。 ・本科目は、後期に実施予定の「経済学特別演習（計量経済学）」の前提科目である。

2018年度以降入学生	金融論特別研究	P0542	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	金融特別講義	P636	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	松岡　多利思		前期	水曜日	4時限	

①授業方針・テーマ	本講義では、貨幣経済学（マネタリー・エコノミックス）に関するテキストおよび論文を講義・輪読する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	習得できる知識は動学的一般均衡の枠組みで貨幣の役割や金融政策の効果等を分析する手法である。到達目標は、最先端の論文を読み、独自性のある新しい論文を執筆できる能力を養うことにある。
③授業計画・内容 授業方法	貨幣理論についてのテキストおよび論文を輪読する。基礎的な事項から最先端の研究に至るまで、包括的に扱う予定である。 初回：イントロダクション 初回以降は講義および参加者による輪読で進める。
④授業外学習	授業内容の予習と復習。
⑤テキスト・参考書等	■Modeling Monetary Economics, 4th Edition, by B.Champ, S. Freeman, and J. Haslag, Cambridge University Press ■Money, Payments, and Liquidity, 2nd Edition, by G. Rocheteau and E. Nosal, The MIT Press.
⑥成績評価方法	取り組み方、達成度など総合的に判断する。
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	オフィスアワーは木曜日3限。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	経済学プログラム科目「マクロ経済学」「ミクロ経済学」「経済数学」「計量経済学」を全て履修済みか、それと同等の知識を持っていること。 今後また変更がある場合は kibaco を通じてお知らせします。オンライン授業になった場合の授業方法の詳細も kibaco に掲示しますのでそちらをご覧ください。

2018年度以降入学生	金融論特別演習	P0543	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	金融特別講義	P637	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	松岡　多利思		後期	水曜日	4時限	

①授業方針・テーマ	本講義では、貨幣経済学（マネタリー・エコノミックス）に関するテキストおよび論文を講義・輪読する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	習得できる知識は動学的一般均衡の枠組みで貨幣の役割や金融政策の効果等を分析する手法である。到達目標は、最先端の論文を読み、独自性のある新しい論文を執筆できる能力を養うことにある。
③授業計画・内容 授業方法	貨幣理論についてのテキストおよび論文を輪読する。基礎的な事項から最先端の研究に至るまで、包括的に扱う予定である。 初回：イントロダクション 初回以降は講義および参加者による輪読で進める。
④授業外学習	授業内容の予習と復習。
⑤テキスト・参考書等	■Modeling Monetary Economics, 4th Edition, by B.Champ, S. Freeman, and J. Haslag, Cambridge University Press ■Money, Payments, and Liquidity, 2nd Edition, by G. Rocheteau and E. Nosal, The MIT Press.
⑥成績評価方法	取り組み方、達成度など総合的に判断する。
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	オフィスアワーは木曜日3限。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	経済学プログラム科目「マクロ経済学」「ミクロ経済学」「経済数学」「計量経済学」を全て履修済みか、それと同等の知識を持っていること。 今後また変更がある場合は kibaco を通じてお知らせします。 オンライン授業になった場合の授業方法の詳細も kibaco に掲示しますのでそちらをご覧ください。

2018年度以降入学生	金融経済学特別研究	P0544	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	金融経済学特別講義	P533	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	田中　敬一		前期	火曜日	1時限	

①授業方針・テーマ	ファイナンスに必要な確率解析を修得するとともに、関連トピックスで代表的な論文等を輪読する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ファイナンスに必要な確率解析
③授業計画・内容 授業方法	【授業内容】 テキスト・論文の輪読 関心のある論文を選び、その内容を報告する。 分野としては デリバティブ、金利期間構造モデル、クレジットリスク、リスク管理 等である。 必要に応じてテキストに挙げた書籍の輪読もしくは講義を行う。
④授業外学習	論文発表の準備
⑤テキスト・参考書等	Nunno et al., Malliavin Calculus for Levy Processes with Applications to Finance Touzi, Optimal Stochastic Control, Stochastic Target Problems, and Backward SDE
⑥成績評価方法	発表および授業への貢献度により評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	アポイントメント
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	金融経済学特別演習	P0545	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	金融経済学特別講義	P534	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	田中　敬一		後期	火曜日	1時限	

①授業方針・テーマ	ファイナンスに必要な確率解析を修得するとともに、関連トピックスで代表的な論文等を輪読する。 金融経済学特別研究で得た知識を活用して、最新の研究論文の輪読およびその内容の検討を行う。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ファイナンスに必要な確率解析
③授業計画・内容 授業方法	【授業内容】 理論展開の本質を理解し、その内容の拡張の可能性を探ることや、数値計算を再現し、その特徴を把握することなどを試みる。このような作業を経て、理論・数値計算・実証に関する論文執筆の準備を行うことが目標である。 分野としては デリバティブ、金利期間構造モデル、クレジットリスク、リスク管理 等である。 必要に応じてテキストに挙げた書籍の輪読もしくは講義を行う。
④授業外学習	論文発表の準備
⑤テキスト・参考書等	Nunno et al., Malliavin Calculus for Levy Processes with Applications to Finance Touzi, Optimal Stochastic Control, Stochastic Target Problems, and Backward SDE
⑥成績評価方法	発表および授業への貢献度により評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	アポイントメント
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	日本経済論特別研究	P0546	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経済学特別演習	P503	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	村田　啓子		前期	月曜日	2時限	

①授業方針・テーマ	日本経済の実証分析。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	日本経済の実証分析についての先行研究を学び、実証研究を行う能力を身につける。
③授業計画・内容 授業方法	受講者の意向も考慮するが、まずは家計行動（消費・貯蓄）の実証研究（英文、サーベイ論文含む。必要があれば理論の文献で補強）についての文献を輪読する予定。
④授業外学習	論文を事前に読み内容を理解する。解らなかった点があれば可能な限り自分で調べる。人数にもよるが、論文の概要を簡潔に報告し、かつ不明な点を要領よく質問できるよう準備する。事後は復習し、さらに理解を深める。余力があれば関連論文を読む。
⑤テキスト・参考書等	授業時に提示する。
⑥成績評価方法	平常点及びレポート。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	基本的に講義内で受け付けるか、メールも可
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	特になし。

2018年度以降入学生	日本経済論特別演習	P0547	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経済学特別演習	P504	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	村田　啓子		後期	月曜日	2時限	

①授業方針・テーマ	日本経済の実証分析。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	日本経済の実証分析についての先行研究を学び、実証研究を行う能力を身につける。
③授業計画・内容 授業方法	受講者の意向も考慮するが、まずは労働市場（日本的雇用慣行とその変化、近年の課題）に関する実証研究（英文、サーベイ論文含む。必要があれば理論の文献で補強）についての文献を輪読する予定。
④授業外学習	論文を事前に読み内容を理解する。解らなかった点があれば可能な限り自分で調べる。人数にもよるが、論文の概要を簡潔に報告し、かつ不明な点を要領よく質問できるよう準備する。事後は復習し、さらに理解を深める。余力があれば関連論文を読む。
⑤テキスト・参考書等	授業時に提示する。
⑥成績評価方法	平常点及びレポート。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	基本的に講義内で受け付けるか、メールも可
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	特になし。

2018年度以降入学生	ゲーム理論特別研究	P0548	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	ゲーム理論特別講義	P513	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	渡辺　隆裕		前期	火曜日	4時限	

①授業方針・テーマ	まず、経済数学等のテキストの講義と輪読と演習を行い、ゲーム理論を学ぶために必要な数学を身につけます。 次に、ゲーム理論の講義と輪読によって、高度で専門的なゲーム理論の知識を身につけることを目的とします。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	集合、制約条件付き最適化、動的計画などの数学力を身につける。合理的アプローチのゲーム理論の発展（戦略形ゲーム、展開形ゲーム、支配戦略、ナッシュ均衡）を学ぶ。数学による形式化を完全に行うこと、基本的な定理の証明などができる力を身につけることを目標とする。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画】 数学の基礎：集合・二項関係・順序関係、制約条件付き最適化、動的計画 ゲーム理論基礎：戦略形ゲーム、展開形ゲームの基礎 【授業方法】 テキストと教材を定めて、演習と輪読を繰り返してゆく形式で講義を行います。
④授業外学習	輪読で当番となった部分は、内容をよく理解し、レジメを作って発表の準備をすることが求められます。 また、宿題となった演習問題を自宅で解くことが求められます。
⑤テキスト・参考書等	S. Taldes, Game Theory: An Introduction, Princeton University Press. R. K. Sundaram, A First Course in Optimization Theory, Cambridge University Press, 1996.
⑥成績評価方法	普段の出席・参加状況と演習課題の解答により評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは特に設定しませんが、質問は積極的に受け付けます。 事前にメール,kibacoでアポイントメントをとり、私の研究室（3号館4F411号室）へ来て下さい。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	ゲーム理論特別演習	P0549	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	ゲーム理論特別講義	P514	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	渡辺　隆裕		後期	火曜日	4時限	

①授業方針・テーマ	ゲーム理論の講義と輪読によって、前期のゲーム理論特別講義よりも、さらに発展した内容のゲーム理論を身につけることを目的とします。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ゲーム理論の発展的内容（均衡の精緻化、不完備情報の戦略形ゲーム、不完備情報の展開形ゲーム、繰り返しゲーム、交渉ゲーム、進化ゲーム、協力ゲーム）を学ぶ。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画】 第1回　ガイダンス 第2回－第3回　一般の展開形ゲームと均衡の精緻化 第4回－第5回　不完備情報の戦略形ゲーム 第6回－第7回　不完備情報の展開形ゲーム・シグナリングゲーム 第8回－第9回　繰り返しゲーム 第10回　交渉ゲーム 第11回　進化ゲーム 第12回－第13回　協力ゲーム 第14回－第15回　まとめ 【授業方法】 テキストと教材を定めて、演習と輪読を繰り返してゆく形式で講義を行います。
④授業外学習	輪読で当番となった部分は、内容をよく理解し、レジメを作って発表の準備をすることが求められます。 また、宿題となった演習問題を自宅で解くことが求められます。
⑤テキスト・参考書等	【参考書】 S. Taldes, Game Theory: An Introduction, Princeton University Press.
⑥成績評価方法	普段の出席・参加状況と演習課題の解答により評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは特に設定しませんが、質問は積極的に受け付けます。 事前にメール,kibacoでアポイントメントをとり、私の研究室（3号館4F411号室）へ来て下さい。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	数理統計学特別研究	P0550	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	統計学特別講義	P501	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	小方　浩明		前期	木曜日	3時限	

①授業方針・テーマ	経済時系列データの特色、ならびに時系列データの基本的な解析方法について学ぶ。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	時系列データの特徴を理解する。 さまざまな時系列データ解析の方法を理解する。
③授業計画・内容　授業方法	テキスト（洋書）を輪読する。テキストは相談のうえ決めるが、例えば［テキスト・参考書等］の欄に挙げられたものなどが考えられる。
④授業外学習	輪読するテキストを事前に読み、内容を理解し、授業中に発表できる状態にしておくこと。
⑤テキスト・参考書等	Ruey S. Tsay.（2010）. Analysis of Financial time series. 3rd ed. Wiley.
⑥成績評価方法	出席、授業への参加状況を総合的に評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは特に指定しないのでメール等で事前にアポイントメントを取ってください 【E-mail】hiroakiogata@tmu.ac.jp
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	統計学Ⅰ・Ⅱで扱われるような基本的な統計学の知識を前提とする。また、数理的側面の強い統計学のテキストを読むことを前提としている。なお、初回の授業に必ず出席すること。

2018年度以降入学生	数理統計学特別演習	P0551	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	統計学特別講義	P502	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	小方　浩明		後期	木曜日	3時限	

①授業方針・テーマ	時系列データの特色、ならびに時系列データの基本的な解析方法について学ぶ。 自ら興味のあるデータを取得し、実際に解析を行う。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	時系列データの特徴を理解する。 さまざまな時系列データ解析の方法を理解する。 統計ソフトウェアRにより時系列解析が行える。
③授業計画・内容　授業方法	自らが取得したデータを、統計ソフトウェアRを用いて解析し、進捗状況を授業中に報告する形で進める。
④授業外学習	データの解析。
⑤テキスト・参考書等	特に指定しない。
⑥成績評価方法	出席、授業への参加状況を総合的に評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは特に指定しないのでメール等で事前にアポイントメントを取ってください 【E-mail】hiroakiogata@tmu.ac.jp
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	数理統計学特別研究を受講済みのこと。

2018年度以降入学生	公共経済学特別研究	P0552	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	公共経済特別講義	P665	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	森本　脩平		前期	火曜日	5時限	

①授業方針・テーマ	大学院レベルの公共経済学について学ぶ。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	公共経済学の専門的知識と分析手法の習得を目標とする。
③授業計画・内容 授業方法	公共経済学関連の専門書の輪読や講義を主に行う。
④授業外学習	授業中に指示する文献に目を通し授業内容の予習と復習を行うこと。
⑤テキスト・参考書等	受講者と相談の上決定する。
⑥成績評価方法	授業に取り組む姿勢、討論への参加状況、授業での報告、レポートなどにより評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	【オフィスアワー】水曜3限
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。

2018年度以降入学生	公共経済学特別演習	P0553	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	公共経済特別講義	P666	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	森本　脩平		後期	火曜日	5時限	

①授業方針・テーマ	大学院レベルの公共経済学について学ぶ。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	公共経済学の専門的知識と分析手法の習得を目標とする。
③授業計画・内容 授業方法	公共経済学関連の専門書の輪読や問題演習を主に行う。
④授業外学習	授業中に指示する文献に目を通し授業内容の予習と復習を行うこと。
⑤テキスト・参考書等	受講者と相談の上決定する。
⑥成績評価方法	授業に取り組む姿勢、討論への参加状況、授業での報告、レポートなどにより評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	【オフィスアワー】水曜3限
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。

2018年度以降入学生	国際金融論特別研究	P0554	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	国際金融特別講義	P527	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ		2単位
担当教員	荒戸　寛樹		前期	月曜日		1時限

①授業方針・テーマ	マクロ経済学・国際マクロ経済学についての基本文献を読む。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	マクロ経済学・国際マクロ経済学についての文献を読み、その貢献や新奇性を理解することができるようになる。
③授業計画・内容 授業方法	《授業計画・内容》 Handbook of Macroeconomics, Handbook of Economic Growth, Handbook of Monetary Economics, Handbook of International Economics等の文献から各自の興味に合わせて論文を選定し、学生が内容を報告する。 《授業方法》 輪読形式で行う。
④授業外学習	文献の内容を理解し、報告の準備を行うこと。 その際、先行研究のレビューも行うと望ましい。
⑤テキスト・参考書等	上述のHandbookシリーズを用いる。
⑥成績評価方法	報告の内容やディスカッションへの参加度を総合的に判断する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	特定の時間を設定することはないが、質問がある場合は遠慮なくメールでアポイントメントを取ること。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	・経済学プログラム科目「マクロ経済学」「ミクロ経済学」「経済数学」「計量経済学」を全て履修済みか、それと同等の知識を持っていることが履修の前提となる。 ・履修希望者は1回目の授業の前日までにメールで荒戸まで連絡すること。 メールアドレス：h-arato@tmu.ac.jp

2018年度以降入学生	国際金融論特別演習	P0555	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	国際金融特別講義	P528	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ		2単位
担当教員	荒戸　寛樹		後期	月曜日		1時限

①授業方針・テーマ	マクロ経済学・国際マクロ経済学についての基本文献を読む。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	マクロ経済学・国際マクロ経済学についての文献を読み、その貢献や新奇性を理解することができるようになる。
③授業計画・内容 授業方法	《授業計画・内容》 Handbook of Macroeconomics, Handbook of Economic Growth, Handbook of Monetary Economics, Handbook of International Economics等の文献から各自の興味に合わせて論文を選定し、学生が内容を報告する。 《授業方法》 輪読形式で行う。
④授業外学習	文献の内容を理解し、報告の準備を行うこと。 その際、先行研究のレビューも行うと望ましい。
⑤テキスト・参考書等	上述のHandbookシリーズを用いる。
⑥成績評価方法	報告の内容やディスカッションへの参加度を総合的に判断する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	特定の時間を設定することはないが、質問がある場合は遠慮なくメールでアポイントメントを取ること。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	・経済学プログラム科目「マクロ経済学」「ミクロ経済学」「経済数学」「計量経済学」を全て履修済みか、それと同等の知識を持っていることが履修の前提となる。 ・履修希望者は1回目の授業の前日までにメールで荒戸まで連絡すること。 メールアドレス：h-arato@tmu.ac.jp

2018年度以降入学生	都市環境経済学特別研究	P0556	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経済学特別演習 （環境経済学特論）	P539	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	朝日　ちさと		前期	水曜日	1時限	

①授業方針・テーマ	人口減少・技術革新・災害リスク等による社会経済環境の構造変化のなかで、都市・地域の持続可能性のための政策の形成や実施において、資源配分への影響をエビデンス（根拠）に基づいて分析し評価することの重要性が増しています。 本講義では、都市・地域・環境経済学の理論と分析事例を学ぶことにより、政策介入の経済的分析、事業評価、規制インパクト分析の基礎となる考え方を身につけます。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	以下を習得します。 ①　都市・地域・環境に関する経済学の理論と分析手法 ②　①を応用した政策の分析・評価の事例研究（費用便益分析／環境・リスクの経済的評価／地域経済分析等）
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 第1回　　イントロダクション 第2～10回　都市・地域・環境に関する経済学のテキストの講読 第11～14回　事例研究：環境・リスクに関する政策の経済的分析・評価 第15回　　事例研究まとめ、レポート提出 （※受講者の状況に応じて構成を変更することがあります。） 【授業方法】 テキストを輪読・報告し、後半に理解の確認とディスカッションを行います。 ※授業が対面で実施できない状況等の際には、オンラインで配信し、受講生は自宅等においてリアルタイムで授業に参加する形式を採ります。
④授業外学習	以下の授業外学習を必要とします。 ①　テキスト・事例の次回の範囲を予習する。 ②　自らの研究テーマに関連させたディスカッションの準備をする。
⑤テキスト・参考書等	【テキスト】 開講時に指示します（受講者の知識・研究テーマ・関心に基づいて決定します）。 【参考文献】 朝日ちさと・堀江典子編「生活者のための地域マネジメント入門」昭和堂（2018年） 金本良嗣・藤原徹「都市経済学（第2版）」東洋経済新報社（2016年） 金本良嗣ほか「政策評価ミクロモデル」東洋経済新報社（2006年） 柘植 隆宏ほか「環境評価の最新テクニック：表明選好法・顕示選好法・実験経済学」勁草書房（2011年） 石倉智樹・横松宗太「公共事業評価のための経済学」コロナ社（2013年） 柳川範之編著「インフラを科学する―波及効果のエビデンス」（2018年） グリーンインフラ研究会編「決定版　グリーンインフラ」日経BP社（2017年） 宇都正哲ほか「人口減少下のインフラ整備」東京大学出版会（2013年）
⑥成績評価方法	評価対象とウェイトは次の通りです。 授業への関与【40%】　期末レポート【60%】
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	授業に関する質問・連絡がある場合には、事前にメールでアポイントをとってください。 e-mail：asahi@tmu.ac.jp
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	ミクロ経済学の既修が望ましい。

2018年度以降入学生	都市環境経済学特別演習	P0557	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経済学特別演習 （環境経済学特論）	P631	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	朝日　ちさと		後期	水曜日	1時限	

①授業方針・テーマ	人口減少・技術革新・災害リスク等による社会経済環境の構造変化のなかで、都市・地域の持続可能性のための政策の形成や実施において、資源配分への影響をエビデンス（根拠）に基づいて分析し評価することの重要性が増しています。 本講義では、都市環境経済学特論で習得した都市・地域・環境に関する経済学の理論および分析手法を用いて、受講者自らが設定したテーマについて経済学的な分析を行います。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	受講者のテーマに応じて、以下の両方またはいずれかを習得します。 ①　都市・地域・環境に関する経済学分析 ②　政策の効果に関する実証分析（費用便益分析／環境・リスクの経済的評価／地域経済分析等）
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 第1回　　イントロダクション 第2～8回　テーマの設定、既往研究の報告、理論的分析、データ収集と予備的分析 第9回　　中間報告会 第10～14回　データ分析、レポート執筆 第15回　　まとめ、レポート提出 （※受講者の状況に応じて構成を変更することがあります。） 【授業方法】 受講者が自らの研究テーマに基づく作業を進め、適宜進捗の報告およびディスカッションを行います。 ※授業が対面で実施できない状況等の際には、オンラインで配信し、受講生は自宅等においてリアルタイムで授業に参加する形式を採ります。
④授業外学習	以下の授業外学習を必要とします。 ・テーマに関連する文献調査 ・分析に必要な理論や手法の確認・データ収集。 ・授業での報告およびディスカッションの準備をする。
⑤テキスト・参考書等	【テキスト】 使用しません。 【参考文献】 朝日ちさと・堀江典子編「生活者のための地域マネジメント入門」昭和堂（2018年） 金本良嗣・藤原徹「都市経済学（第2版）」東洋経済新報社（2016年） 金本良嗣ほか「政策評価ミクロモデル」東京経済新報社（2006年） 柘植 隆宏ほか「環境評価の最新テクニック：表明選好法・顕示選好法・実験経済学」勁草書房（2011年） 柳川範之編著「インフラを科学する―波及効果のエビデンス―」（2018年） 石倉智樹・横松宗太「公共事業評価のための経済学」コロナ社（2013年） グリーンインフラ研究会編「決定版　グリーンインフラ」日経BP社（2017年） 宇都正哲ほか「人口減少下のインフラ整備」東京大学出版会（2013年）
⑥成績評価方法	評価対象とウェイトは次の通りです。 授業への関与【30%】　期末レポート【70%】
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	授業に関する質問・連絡がある場合には、事前にメールでアポイントをとってください。 e-mail：asahi@tmu.ac.jp
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	原則として、都市環境経済学講義を履修済みであること。

2018年度以降入学生	財政学特別研究	P0558	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経済学特別演習 （財政学ー公共政策分析）	P507	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	金子　憲		後期	火曜日	1時限	

①授業方針・テーマ	財政学の理論を概説した上で、現在の日本が直面している様々な政策課題に焦点をあてながら、国や地方公共団体などの公共部門が果たす役割を、理論面・制度面・政策面から分析を行う。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	財政の役割とその仕組みに関する理解を深めるとともに、政策論に必要な分析手法を重点的に修得することによって、今後の日本の政治・経済・財政全般に関する幅広い視野と政策形成に資する能力を身に付けることを目標とする。
③授業計画・内容 授業方法	国や地方公共団体などの公共部門が行う政策を、財政構造と関連させながら政策的観点から分析を行う。本年度は、主に日本の住宅政策を取り上げる予定である。
④授業外学習	講義前：事前配布資料を一読し、論点をまとめておくこと。 講義後：講義内に提示する課題について、レポートを作成して提出すること。
⑤テキスト・参考書等	講義の際、適宜紹介する。必要に応じてレジュメ等を配布する。
⑥成績評価方法	講義中に実施する課題・報告内容・期末レポートを基に総合的に評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	講義終了後、教室で対応する。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	財政学特別演習	P0559	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経済学特別演習 （財政学ー公共政策分析）	P508	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	金子　憲		後期	火曜日	2時限	

①授業方針・テーマ	現在の日本が直面している様々な政策課題に焦点をあてながら、国や地方公共団体などの公共部門が果たす役割を、理論面・制度面・政策面から分析を行う。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	財政の役割とその仕組みに関する理解を深めるとともに、政策論に必要な分析手法を重点的に修得することによって、今後の日本の政治・経済・財政全般に関する幅広い視野と政策形成に資する能力を身に付けることを目標とする。
③授業計画・内容 授業方法	国や地方公共団体などの公共部門が行う政策を、財政構造と関連させながら政策的観点から分析を行う。本年度は、主に日本の住宅政策を取り上げる予定である。
④授業外学習	講義前：事前配布資料を一読し、論点をまとめておくこと。 講義後：講義内に提示する課題について、レポートを作成して提出すること。
⑤テキスト・参考書等	講義の際、適宜紹介する。必要に応じてレジュメ等を配布する。
⑥成績評価方法	講義中に実施する課題・報告内容・期末レポートを基に総合的に評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	講義終了後、教室で対応する。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	労働経済学特別研究	P0243	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	ー	ー	ー	ー	ー	
担当教員	宮本　弘暁		前期	月曜日	5時限	

①授業方針・テーマ	講義によってマクロ労働経済学の知識を身につけることを目的とします。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	サーチ・マッチング理論、摩擦の存在する労働市場がある動学的一般均衡モデル、および労働力フローに関する実証分析の手法を身につけることを目標とします。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画】 第1回　ガイダンス 第2回　サーチモデル 第3回　サーチ・マッチングモデル 第4回ー第8回　サーチ・マッチングモデルの応用 第9回　サーチ・マッチングモデルの推計 第10回　動学的一般均衡モデルの基礎 第11回　動学的一般均衡モデルの応用 第12回　労働力フローアプローチ 第13回　時系列分析の基礎 第14回　時系列分析の労働市場分析への応用 第15回　期末試験 【授業方法】 テキストと教材を定め、講義を行います。講義に使用するスライドは指定するホームページからダウンロードが可能です。
④授業外学習	宿題を自宅で解くことが求められます。
⑤テキスト・参考書等	Pissarides, Christopher A., Equilibrium Unemployment Theory, 2nd edition, 2000, MIT Press.
⑥成績評価方法	期末試験と宿題によって成績をつけます。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	週に1時間オフィスアワーを設けます。詳細は第1回の授業時に発表します。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	労働経済学特別演習	P0244	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	ー	ー	ー	ー	ー	
担当教員	宮本　弘暁		後期	月曜日	4時限	

①授業方針・テーマ	講義と輪読によって、前期の労働経済特別講義よりもさらに発展した、マクロ労働経済学の内容を理解し、論文が書けるように知識とスキルを身につけることを目的とします。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	サーチ・マッチング理論、摩擦の存在する労働市場がある動学的一般均衡モデル、および労働力フローに関する実証分析の手法を身につけることを目標とします。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画】 第1回　　ガイダンス 第2－4回　景気循環と労働市場 第5－7回　経済成長と労働市場 第9－11回　マクロ経済政策と労働市場 第12－13回　労働力フロー分析 第14－15回　まとめ 【授業方法】 テキストと教材を定め、講義および輪読を行います。講義に使用するスライドは指定するホームページからダウンロードが可能です。
④授業外学習	宿題を自宅で解くことが求められます。また、輪読の当番となった場合は、内容をよく理解し、発表の準備をすることが求められます。
⑤テキスト・参考書等	Pissarides, Christopher A., Equilibrium Unemployment Theory, 2nd edition, 2000, MIT Press.
⑥成績評価方法	普段の参加状況と課題の解答により評価します。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	週に1時間オフィスアワーを設けます。詳細は第1回の授業時に発表します。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	日本経済史特別研究	P0560	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	日本経済史特別講義	P542	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	小林　延人		前期	金曜日	3時限	

①授業方針・テーマ	近世後期～現在に至るまで（19～21世紀）の日本経済史を扱う。本授業では、経済史の応用的な方法論を学ぶとともに、修士論文の執筆に向けた準備をする。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	・先行研究を正確に理解し、通説として受け入れられている歴史的事実を知識として習得するとともに、先行研究を批判的に検討する姿勢を学ぶ。 ・文献や重要語句の意味を自身で検索し、また短い期間で論文の主旨や問題点を析出する訓練を積むことで、修士論文執筆の上で必要な基礎的技能を身につけることができる。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 第1回　近世日本の制度的基盤 第2回　幕府財政 第3回　開港に伴う経済構造の変容 第4回　近世後期の貨幣制度 第5回　明治維新と維新政府の経済政策 第6回　松方財政 第7回　地方自治と農村経済 第8回　官営事業と殖産興業政策 第9回　産業革命論 第10回　日清戦後経営 第11回　戦間期の日本経済 第12回　戦時統制経済 第13回　戦後復興 第14回　高度経済成長 第15回　現代日本経済 【授業方法】 ・主として講義形式で授業を実施するが、あらかじめリーディングリストを配布し、課題論文を提示する。 ・講義を行った後、講義内容を踏まえた短時間のディスカッションを行う。
④授業外学習	参加者には毎回、課題論文に対するコメントを用意してもらう。事前に課題論文を講読していることを前提として授業を進める。
⑤テキスト・参考書等	リーディングリストを配布し、課題論文を提示する。
⑥成績評価方法	議論への参加〔30%〕、期末レポート〔70%〕 ・レポートについては、適切に課題が設定されているか、先行研究と関連付けて課題が説明されているか、史料的根拠に立脚して自身の見解を述べているか等を評価項目とし、構成と論理性を重視して評価する。 ・正当な理由がなく4回以上授業を欠席した場合は、原則として成績評価の対象としない。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	原則として毎週木曜2限に設定する。メールで事前に連絡すること。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	日本経済史に関わる修士論文を執筆する学生対象の授業であるが、それ以外の学生の参加も認める。

2018年度以降入学生	日本経済史特別演習	P0561	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	日本経済史特別講義	P543	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	小林　延人		後期	金曜日	3時限	

①授業方針・テーマ	主として、近世中期～昭和戦前期（18世紀～20世紀前半）の日本経済史を扱う。本演習では、経済史の応用的な方法論を学ぶとともに、修士論文の執筆に向けた準備をする。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	・先行研究を整理し、通説として受け入れられている歴史的事実を知識として習得するとともに、先行研究を批判的に検討する姿勢を学ぶ。 ・個人研究報告を行い、批判を受けることで、自己の研究を見直してさらに議論を深めることができる。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 第1回　江戸期商人の活躍と取引、商慣行 第2回　商人と商業組織 第3回　近世後期における信用制度、交易、交通、インフラの成立と商業 第4回　開国にともなう貿易・社会インフラ･流通機構の変容 第5回　近代的商業経営の成立 第6回　近代商業の発展と貿易の拡大 第7回　近代日用品市場の成立と展開 第8回　新たな小売業態の発展と中小小売商 第9回　生産の量的・質的拡大に対する商業者の反応 第10回　戦時配給統制とヤミ市の相克 第11回　戦時配給組織化と商業機能の喪失 第12回　戦争と商業経営者の存亡 第13回　個人研究報告（1）※ 第14回　個人研究報告（2）※ 第15回　個人研究報告（3）※ ※ 履修者の人数に応じて、個人研究報告の時間を設定する。 【授業方法】 ①テキストの輪読（第1回～第12回）、②個人研究報告（第13回～第15回）、を組み合わせて実施する。 ①を通じて、基礎的知識の習得と文献を批判的に読み解く能力を養う。 ②を通じて、修士論文の執筆につながるような、研究テーマを探る。研究テーマは、教員が直接的には提示せず、演習参加者が自身の関心に沿って選択する方法を採る。
④授業外学習	①の輪読では、毎回報告者を定め、文献の要約・論点をレジュメに作成してきてもらう。報告者以外の演習参加者も事前に文献を講読していることを前提として授業を進める。②では45分～60分程度の報告を行うために、報告者にはレジュメおよびパワーポイント資料を作成することが求められる。
⑤テキスト・参考書等	テキスト：廣田誠･山田雄久･木山実･長廣利崇･藤岡里圭『日本商業史―商業･流通の発展プロセスをとらえる』（有斐閣、2017年）定価2,500円＋税 演習参加者には、テキストを事前に入手することを求める。
⑥成績評価方法	議論への参加〔20%〕、個人研究報告〔40%〕、期末レポート〔40%〕 ・レポートについては、適切に課題が設定されているか、先行研究と関連付けて課題が説明されているか、史料的根拠に立脚して自身の見解を述べているか等を評価項目とし、構成と論理性を重視して評価する。 ・正当な理由がなく4回以上授業を欠席した場合は、原則として成績評価の対象としない。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	原則として毎週木曜2限に設定する。メールで事前に連絡すること。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	日本経済史に関わる修士論文を執筆する学生対象の授業であるが、それ以外の学生の参加も認める。

2018年度以降入学生	社会経済史特別研究	P0575	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	社会経済史特別講義	P554	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	岩間　俊彦		前期	月曜日	2時限	

①授業方針・テーマ	・近年の欧米における社会や経済の歴史に関する歴史的分析方法について学びます。 ・学術論文・学術書・資料の収集方法・整理・文書化（論文執筆の作法）について演習します。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	・歴史的分析方法に基づく研究を実証的かつ理論的にすすめる能力を高めます。 ・社会科学研究に必要な一次資料や学術文献の収集・整理・考察・表記・論文作成に関するスキルを高めます。
③授業計画・内容 授業方法	・論文作成に関するテキストや社会科学研究における一次資料（archives）の特徴を解説したテキストを読解しながら、欧米の社会や経済の歴史に関する研究方法の理解を深めます。 ・研究方法に関する演習の成果を確認するために、参加者各自の研究課題に即して資料作成と報告を行います。 ・論文作成や基礎的調査方法に関する演習を中心に行います。 ・予定 1　授業の案内 2－14　講読と演習 15　授業のまとめ
④授業外学習	授業前に、テキストを予習したうえで、授業後、要点を確認・整理し、必要に応じて、関連する参考文献を参照しつつ、課題を準備してください。
⑤テキスト・参考書等	テキスト　吉田健正『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方 第2版』ナカニシヤ出版 参 考 書　佐藤郁哉『フィールドワーク 増訂版』新曜社、石井寛治他編『日本経済史6』東京大学出版会、小川千代子他編著『アーカイブ事典』大阪大学出版会、S. Gunn and L. Faire (eds.), Research Methods for History (2011)。必要に応じて、授業時に指示します。
⑥成績評価方法	授業への参加（授業態度、授業への貢献、演習内容、4割）と課題提出（6割）によります。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	質問等のためのオフィスアワーを設置します。初回に説明します。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	社会経済史特別演習	P0576	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	社会経済史特別講義	P555	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	岩間　俊彦		後期	月曜日	1時限	

①授業方針・テーマ	・近年の欧米における社会や経済の歴史に関する歴史的分析方法について学びます。 ・学術論文・学術書・資料の収集方法・整理・文書化（論文執筆の作法）について演習します。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	・歴史的分析方法に基づく研究を実証的かつ理論的にすすめる能力を高めます。 ・社会科学研究に必要な一次資料や学術文献の収集・整理・考察・表記・論文作成に関するスキルを高めます。
③授業計画・内容 授業方法	・論文作成に関するテキストや社会科学研究における一次資料（archives）の特徴を解説したテキストを読解しながら、欧米の社会や経済の歴史に関する研究方法の理解を深めます。 ・研究方法に関する演習の成果を確認するために、参加者各自の研究課題に即して資料作成と報告を行います。 ・論文作成や基礎的調査方法に関する演習を中心に行います。 ・予定 1　授業の案内 2－14　講読と演習 15　授業のまとめ
④授業外学習	授業前に、テキストを予習したうえで、授業後、要点を確認・整理し、必要に応じて、関連する参考文献を参照しつつ、課題を準備してください。
⑤テキスト・参考書等	テキスト　吉田健正『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方 第2版』ナカニシヤ出版 参 考 書　佐藤郁哉『フィールドワーク 増訂版』新曜社、石井寛治他編『日本経済史6』東京大学出版会、小川千代子他編著『アーカイブ事典』大阪大学出版会、S. Gunn and L. Faire (eds.), Research Methods for History (2011)。必要に応じて、授業時に指示します。
⑥成績評価方法	授業への参加（授業態度、授業への貢献、演習内容、4割）と課題提出（6割）によります。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	質問等のためのオフィスアワーを設置します。初回に説明します。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	西洋経済史特別研究	P0564	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	ー	ー	ー	ー	ー	
担当教員	井澤　龍		前期	火曜日	3時限	

①授業方針・テーマ	西洋経済史・グローバル経済史の代表的なテキストの研究成果を批判的に読み込み、近年の経済史研究における研究成果の吸収と、研究動向の把握を行います。また、論文執筆（特に経済史系）に必要な調査法、リサーチ・デザインについて学びます。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	・経済史研究をおこなう上での基礎的素養の習得 ・近年の西洋経済史・グローバル経済史研究成果の把握 ・社会科学系・人文学系学術論文作成のための方法論の習得
③授業計画・内容 授業方法	※コロナ対応等により、授業の実施場所・成績評価の仕方などが変わります。 Onlineシラバス、kibaco、教員HP(https://sites.google.com/site/ryoizawahome/lecture/lecture2021)の確認をお願いします。 テキスト・学術誌の輪読を行います。発表者を決め、テキストの各章を要約し、疑問点・論点を提示してもらいます。それらに基づいて、参加者同士で議論をし、理解を深めます。 1．授業ガイダンス 2～15. 関心のある章・節について訳出し、輪読 Vol.1 (1700－1870) 1 － Understanding growth in Europe, 1700–1870: theory and evidence 2 － The demographic transition and human capital 3 － State and private institutions 4 － Trade and empire 5 － Business cycles 6 － Agriculture 7 － Industry 8 － The services sector 9 － Standards of living 10 － Urbanization 11 － Europe in an Asian mirror: the Great Divergence Vol.2 (1870 － present) 1 － Globalization, 1870–1914 2 － Aggregate growth, 1870–1914: growing at the production frontier 3 － Sectoral developments, 1870–1914 4 － Business cycles, 1870–1914 5 － Population and living standards, 1870–1914 6 － War and disintegration, 1914–1950 7 － Business cycles and economic policy, 1914–1945 8 － Aggregate growth, 1913–1950 9 － Sectoral developments, 1914–1945 10 － Population and living standards, 1914–1945 11 － The economic impact of European integration 12 － Aggregate growth, 1950–2005 13 － Sectoral developments, 1945–2000 14 － Business cycles and economic policy, 1945–2007 15 － Population and living standards, 1945–2005
④授業外学習	受講者は、テキスト・論文を事前に読み、発表する場合は、発表準備（重要箇所について訳出を含む）を行ってください。
⑤テキスト・参考書等	Broadberry, S., & O'Rourke, K. H. (2010). The Cambridge economic history of modern Europe: Volume 1, 1700-1870. Cambridge University Press. Broadberry, S., & O'Rourke, K. H. (2010). The Cambridge economic history of modern Europe: Volume 2, 1870 to the present. Cambridge University Press.
⑥成績評価方法	平常点（発表の水準、授業中の参加姿勢等）により評価します。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	初回に説明します。前日までにメールで予約してください(ryoizawa@tmu.ac.jp)。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	履修する場合には、必ず初回授業に参加してください。

2018年度以降入学生	西洋経済史特別演習	P0565	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	ー	ー	ー	ー	ー	
担当教員	井澤　龍		後期	火曜日	3時限	

①授業方針・テーマ	西洋経済史・グローバル経済史の代表的なテキストの研究成果を批判的に読み込み、近年の経済史研究における研究成果の吸収と、研究動向の把握を行います。また、論文執筆（特に経済史系）に必要な調査法、リサーチ・デザインについて学びます。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	・経済史研究をおこなう上での基礎的素養の習得 ・近年の西洋経済史・グローバル経済史研究成果の把握 ・社会科学系・人文学系学術論文作成のための方法論の習得
③授業計画・内容 授業方法	※コロナ対応等により、授業の実施場所・成績評価の仕方などが変わります。 Onlineシラバス、kibaco、教員HP（https://sites.google.com/site/ryoizawahome/lecture/lecture2021）の確認をお願いします。 テキスト・学術誌の輪読を行います。発表者を決め、テキストの各章を要約し、疑問点・論点を提示してもらいます。それらに基づいて、参加者同士で議論をし、理解を深めます。 学術誌の輪読にあたっては、受講者の関心に従って論文を選びます。 なお、テキストに関しては、教員が示すのはあくまで例です。受講生の関心を聴取しながら、テキストあるいは論文の選定を第1回目で行います。 1．授業ガイダンス 2．【テキスト 序　章】序　章　グローバル化の経済史 3．【テキスト 第1章】グローバル化以前の世界経済（～15世紀） 4．【テキスト 第2章】グローバル化の開始（16世紀） 5．【テキスト 第3章】危機の時代（17世紀） 6．【テキスト 第4章】近世経済の成立（18世紀） 7．【テキスト 第5章】工業化の開始と普及 8．【テキスト 第6章】ヒト・モノ・カネの移動の拡大と制度的枠組みの変化 9．【テキスト 第7章】植民地体制の変容とラテンアメリカ，アジアの工業化 10.【テキスト 第8章】工業化の新しい波と世界大戦 11.【テキスト 第9章】世界大恐慌とグローバル化の停滞 12.【テキスト 第10章】再始動するグローバル化 13.【テキスト 第11章】グローバル化と開発 14.【テキスト 第12章】加速するグローバル化 15.【テキスト 終章】グローバル化の行方
④授業外学習	受講者は、テキスト・論文を事前に読み、発表する場合は、発表準備を行ってください。
⑤テキスト・参考書等	河崎信樹・村上衛・山本千映『グローバル経済の歴史』有斐閣アルマ、2020年。
⑥成績評価方法	平常点（発表の水準、授業中の参加姿勢等）により評価します。
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	初回に説明します。前日までにメールで予約してください（ryoizawa@tmu.ac.jp）。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	履修する場合には、必ず初回授業に参加してください。

2018年度以降入学生	アジア経済史特別研究	P0566	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	アジア経済史特別講義	P645	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	竹内　祐介		前期	金曜日	3時限	

①授業方針・テーマ	アジア経済史の最新の研究成果を批判的に検討することが目的。（1）ヨーロッパ経済とアジア経済の比較、（2）ヨーロッパ経済とアジア経済の関係、および（3）アジア内の経済関係という視角から、アジア各国史ではない、地域横断的なアジア経済史像を検討する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	・経済史研究をおこなう上での基礎的素養の習得 ・帝国論、グローバルヒストリー等、近年のアジア経済史研究を巡る新しい方法論の習得 ・国際交流に不可欠な、日本と世界とのかかわりについての理解を歴史的・経済的側面から深めること
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 1　授業ガイダンス、グローバル経済史入門 2　アジアとヨーロッパ：経済発展の国際比較 3　銀と大航海時代 4　近世グローバル経済と日本 5　アジア経済とイギリス産業革命 6　世界商品の登場 7　開発と人口 8　グローバル経済の緊密化 9　開発の進行と人の移動 10　国際金融と金本位制度 11　グローバル経済の深化とライフスタイル 12　エネルギー 13　経済発展の多径路性 ＊指定テキスト各章を扱う（1－13のタイトルはそれぞれテキストの章番号・章題に対応している） 【授業方法】 テキストの輪読をおこなう。毎回発表者を決め（教員も発表者として参加）、テキストの各章を要約し、疑問点・論点を提示してもらう。それらにもとづいて、参加者同士で議論をし、理解を深める。
④授業外学習	テキストの該当範囲を事前に読んでくる。発表者は発表の準備をする。
⑤テキスト・参考書等	水島司・島田竜登［2018］『グローバル経済史』放送大学教育振興会
⑥成績評価方法	平常点により評価する。（特に議論への参加度合いを重視する。）
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	メールで質問すること。原則、水曜日昼休みを目途に返信する。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	履修を希望する場合には、必ず事前に教員宛てにメールすること。

2018年度以降入学生	アジア経済史特別演習	P0567	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	アジア経済史特別講義	P646	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	竹内　祐介		後期	金曜日	3時限	

①授業方針・テーマ	アジア経済史の最新の研究成果を批判的に検討することが目的。対象とするのは、主に18〜20世紀で、アジア各国史ではない、地域横断的な研究成果を検討し、マクロ的視野でアジア経済の歴史および現状を考えられるようにする。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	・経済史研究をおこなう上での基礎的素養の習得 ・帝国論、グローバルヒストリー等、近年のアジア経済史研究を巡る新しい方法論の習得 ・国際交流に不可欠な、日本と世界とのかかわりについての理解を歴史的・経済的側面から深めること
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 1　ガイダンス 2　「長期の18世紀」から「東アジアの経済的再興」へ 3　グローバルヒストリー：比較と関係性（1） 4　グローバルヒストリー：比較と関係性（2） 5　「長期の18世紀」におけるアジア（1） 6　「長期の18世紀」におけるアジア（2） 7　「長期の18世紀」におけるアジア（3） 8　「長期の18世紀」におけるアジア（4） 9　前半部のまとめ 10　「東アジアの経済的再興」の歴史的起源（1） 11　「東アジアの経済的再興」の歴史的起源（2） 12　「東アジアの経済的再興」の歴史的起源（3） 13　グローバルヒストリー研究の現在（1） 14　グローバルヒストリー研究の現在（2） 15　後半部のまとめ ＊第2〜12回は指定テキスト各章を扱う。第13〜14回は別の論文を扱う。具体的指示は講義中に行う。 【授業方法】 テキストの輪読をおこなう。毎回発表者を決め、テキストの各章を要約し、疑問点・論点を提示してもらう（発表はパワーポイントでおこなう）。それらにもとづいて、参加者同士で議論をし、理解を深める。
④授業外学習	テキストの該当範囲を事前に読んでくる。発表者は発表の準備（パワーポイントで作成）をする。
⑤テキスト・参考書等	秋田茂編［2013］『アジアからみたグローバルヒストリー：「長期の18世紀」から「東アジアの経済的再興」へ』ミネルヴァ書房
⑥成績評価方法	平常点により評価する。（特に議論への参加度合いを重視する。）
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	原則として、毎週水曜日昼休み。メールで事前予約が必要。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	履修を希望する場合には、必ず初回授業日までにメールで連絡すること（takeuchi-yusuke@tmu.ac.jp）

2018年度以降入学生	経済学特別演習（マクロ経済学）	P0220	経営学C	経済学必修（選択）	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経済学特別演習（マクロ経済学）	P697	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	村田　啓子、脇田　成、 松岡　多利思、荒戸　寛樹		後期	水曜日	6時限	

①授業方針・テーマ	マクロ経済学および隣接分野において修士論文を作成することを希望する学生が、それに必要な能力を習得する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	・マクロ経済学および隣接分野に関する文献を読みこなす能力を養う。 ・論文の結果を再現する解析的手法・数値解法に習熟する。 ・仮定の変更に対する結果の頑健性を調べることができるようになる。
③授業計画・内容 授業方法	《授業計画・内容》 第1回の授業で、扱う文献を決定し、参加学生に報告を割り当てる。 第2回以降は参加学生による報告とディスカッションを行う。 【第1回】ガイダンス 【第2回～第5回】文献1 【第6回～第9回】文献2 【第10回】中間発表会（予定） 【第11回～第14回】文献3 【第15回】最終報告会 ※参加する学生の人数によって計画は変更される可能性があるので、第1回の授業に必ず参加すること。 《授業方法》 ・経済学特別演習はゼミナール形式で行う。学生による報告が主体となるので、予習は必須である。 ・4人の教員がリレー形式で行うが、ガイダンス・中間報告会・最終報告会は3人の教員が参加する。また、その他の回でも複数の教員が参加する場合がある。
④授業外学習	与えられた論文・文献を熟読・理解した上で報告を準備すること。 その際、先行研究についてもレビューするのが望ましい。
⑤テキスト・参考書等	第1回の授業にて参加者に文献を指定する。
⑥成績評価方法	報告の水準およびディスカッションへの参加度を総合的に判断して評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	特に設定しないが、質問がある場合は各教員が受け付ける。メール等でアポイントメントを取ること。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	大学院経済学プログラム提供科目の「マクロ経済学」・「ミクロ経済学」・「計量経済学」・「経済数学」の単位を取得済みであることを履修の前提とする。

2018年度以降入学生	経済学特別演習（ミクロ経済学）	P0221	経営学C	経済学必修（選択）	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経済学特別演習（ミクロ経済学）	P698	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	飯村　卓也、渡辺　隆裕、 森本　脩平		後期	月曜日	5時限	

①授業方針・テーマ	ミクロ経済学の応用：サーベイと試論、三人の教員によるオムニバス演習
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	本演習の目的は、ミクロ経済学の応用例に幅広く触れ、自らモデルを構築し、解析する能力を涵養することである。受講生は、紹介される種々のExamplesを理解し、発展の方向を考え、最終的にはモデルを使った応用ミクロ経済分析の試論を試みる。この経験によって、受講生は修士論文執筆のための基礎を獲得することが期待される。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画】 以下の計画で行う。なお、2021年度のテキストは「産業組織」を予定している。 １．　ガイダンス ２－４．テキスト講読Part A. ５－７．テキスト講読Part B. ８－９．テキスト講読Part C. 10.　中間報告 11－13.　試論作成 14－15.　最終報告 【授業方法】 ガイダンスのあとの8回は、ミクロ経済学分野の三人の教員がA,B,Cの各パートを一人一つずつ担当して、テキスト講読を主体とした演習を行う。受講生はこの間に、自分が取り組む試論のテーマを決定する。なお受講生には各パートの最後に、簡単なレポートを提出してもらう。第10回の中間報告では、各自のテーマを報告してもらう。続く3回は試論作成に向けて、受講生の報告を主体とした演習を行う。最後に、受講生による試論の発表会を行う。これらの演習を通じて、受講生は修士論文に向けた準備を行うことになる。
④授業外学習	レポート作成、テーマの策定、中間報告の準備、最終報告の準備は、いずれも授業外の時間で行う。
⑤テキスト・参考書等	テキスト：Oz Shy（1996）, Industrial Organization：Theory and Applications, MIT Press; Jean Tirole（1988）, The Theory of Industrial Organization, MIT Press、 などのなかから選んで開講時に指示をする。その他参考にすべき必要な文献は随時指示をする。
⑥成績評価方法	各パートのレポートの評価（20% x 3）と中間・最終報告の評価40%で行う。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	質問をしたい教員に、メール等でアポイントメントをとって下さい。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	経済学特別演習（計量経済学）	P0222	経営学C	経済学必修（選択）	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経済学特別演習（計量経済学）	P699	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	飯星　博邦、田中　敬一、 小方　浩明、宮本　弘暁		後期	火曜日	6時限	

①授業方針・テーマ	本演習は、前期で履修したコアコースであるミクロ経済学・マクロ経済学・計量経済学の内容を、いかに実証分析に応用していくかについて学んでいきます。履修者の研究対象についてマクロ経済学やミクロ経済学の分野の如何を問わず、修士論文の基礎となる実証分析の手法の習得・修練を目指します。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	修士論文執筆のために必要な、論文の読み方・書き方、分析方法やその注意点、データの入手・処理方法などを会得することが目標である。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 演習を前半と後半に二分し、前半では計量経済分析の基礎・土台部分を、教科書とそれに付随するデータとプログラムを使った演習を行う。後半では、マクロ経済学とミクロ経済学の両分野からテーマを一つずつ選択し、より高度な応用問題について教科書ならびに既存研究論文を教材とし、これらのデータとプログラムを使ったリプリケーション（再現）を行い最新の計量手法の習得を目指す。なお、テーマについては講義の1回目に、履修予定の学生と相談して決める。応用問題として、マクロ動学モデル（景気循環・金融財政政策もしくは年金シミュレーション）、パネルデータ分析、プログラム評価（傾向スコア推定法）などを予定しています。 1回　ガイダンス 2－7回　前半：計量経済分析の基礎演習 教科書とそれに付随するデータとプログラムを使った演習 8回　履修学生の実習の進捗状況を報告（1回目） 9－14回　後半：応用問題の演習 既存研究論文を教材としたデータとプログラムによる研究結果の再現演習 15回　履修学生の実習の進捗状況を報告（2回目）報告、レポート提出
④授業外学習	【授業外学習】 教科書や既存研究論文の予習と復習。教科書等に付随するデータ解読と計量ソフトによる実証分析の演習作業は授業外で行うこと。また、実際にレポートを執筆するのは授業外の時間である。
⑤テキスト・参考書等	参考文献は授業中に指示する。 予定教科書 西山・新谷・川口・奥井『計量経済学』有斐閣
⑥成績評価方法	15回目授業の提出レポートの内容、2回の進捗報告、授業への貢献等から総合的に判断する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーについては、初回の講義で案内する。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	計量経済学・経済数学を履修済みであることを前提とする。 計量ソフトウエアは『Stata』『R』『Matlab』『EViews』のいずれかを使うことを推奨する。 開講前に計量ソフトウエアや研究内容について相談に応じるので、履修を希望する学生は7月下旬～8月上旬に担当教員に相談されたい。

2018年度以降入学生	経済学特別演習（経済史）	P0223	経営学C	経済学必修（選択）	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経済学特別演習（経済史）	P700	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅲ	2単位	
担当教員	岩間　俊彦、竹内　祐介、小林　延人、井澤　龍		後期	水曜日	5時限	

①授業方針・テーマ	この授業では、経済史、経済学史・思想史の論文を書くための技法を習得するとともに、実際に短い論文（レポート）を教員と一緒に作成することで、2年次に執筆する修士論文の作成過程の参考にしてもらうことを狙いとする。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	・経済史、経済学史・思想史研究の技法を習得する。 ・上記技法に従って、自ら設定したテーマに関する先行研究の到達点や問題点を理解し、それを乗り越えるための研究レポートを作成する。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 1　　ガイダンス 2－4　経済史の技法 5　　レポート構想の発表（1）：期末レポート課題の発表 6－9　テーマに関する先行研究の輪読 10　　レポート構想の発表（2）：先行研究の整理と批判 11－14　資料の収集と分析 15　　レポート構想の発表（3）：分析結果の発表と先行研究との対比 【授業方法】 （1）「経済史の技法」（第2～4回）では、指定のテキストに依拠しながら、経済史の論文の書き方を習得する。 （2）「テーマに関する先行研究の輪読」（第6～9回）では、設定したレポート課題に関する先行研究（論文）を調査し、その論文を教員とともに精読することで、先行研究の問題点を発見していく。 （3）「資料の収集と分析」（第11～14回）では、（2）でみつけた先行研究の問題点を解決するために必要な資料と分析方法を教員とともに考え、実際に分析をしてみる。 また、第5回、第10回、第15回では、それまでの進捗状況をまとめ、発表する機会を設ける。
④授業外学習	・指定されたテキストや論文を事前に読み、疑問点や論点を考えてくること。 ・第5回、第10回、第15回における研究進捗状況の発表を準備すること。
⑤テキスト・参考書等	＜テキスト＞武田晴人［2010］「経済史の技法」（石井寛治・原朗・武田晴人編『日本経済史6 日本経済史研究入門』東京大学出版会）。その他、輪読する論文については、参加者の設定した論文テーマに応じて相談しながら決定する。
⑥成績評価方法	授業への参加（授業態度、授業への貢献、演習内容）50%　期末レポート50%
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	【岩間】初回授業で説明します。 【竹内】原則として、毎週水曜3限。前日までにメールで予約をした上で南大沢C研究室（3号館316室）まで。もしくは授業中の議論の時間や、授業前後の時間にも質問などを受け付ける。 【小林】原則として授業前後の時間に設定する。メールで事前に連絡すること。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	前期の「経済史演習」の内容を前提として進める。

2018年度以降入学生	資産運用論	P0701	経営学C	経済学C	ファイナンスA	2単位
2017年度以前入学生	資産運用論	P701	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅰ	2単位	
担当教員	加藤　康之		前期	木曜日	6時限	

①授業方針・テーマ	資産運用に関する基礎的な理論とその実務への応用を習得する。特に実務への応用に重点を置く。具体的な実務テーマを設定した上で、その背景にある理論を学習し具体的な実証研究を行う。対象の分野は資産配分、ファクターモデル、スマートベータ、債券ポートフォリオ、ESG投資、パフォーマンス評価、リスク管理などを予定している。講義に加え、実際のデータを使った課題演習を毎回行う。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	資産運用に関する基礎理論、データ分析手法が習得できる。目標は、実務的な資産運用テーマに対して、自分で理論やデータや分析手法を選択し、結果を出すことができる能力を身に着けること。
③授業計画・内容 授業方法	1．機関投資家の運用プロセス①ALMとリスク、リターンの推定 2．機関投資家の運用プロセス②資産配分 3．機関投資家の運用プロセス③ポートフォリオ構築と評価 4．マルチファクターモデルとその構築法 5．マルチファクターモデルの活用 6．リスクベースポートフォリオとスマートベータの構築 7．不確実下のキャッシュフロー評価 8．資本コストと企業価値評価モデル 9．債券分析の基礎とイールドカーブの推定 10. LDI(負債指向投資）と債券ポートフォリオの構築 11. モンテカルロシミュレーションの実務 12. 資産運用のリスク管理－VaRとリスクバジェティング 13. 為替リスクの管理 14. イベントスタディ 15. ESG投資とポートフォリオ構築 ［授業方法］授業は、講義と演習課題（宿題）のセットで進める。特に講義毎の演習課題（発表を含む）を重視し、具体的な分析手法の習得を狙う。
④授業外学習	毎回の授業終了時に示す課題について、レポートを作成して提出すること。
⑤テキスト・参考書等	各テーマに沿った書籍や論文をその都度紹介する。
⑥成績評価方法	提出された講義毎の演習課題およびその発表。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	随時受け付けますが、メールにて事前アポを取ってからお願いします。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	ポートフォリオ理論	P0702	経営学C	経済学C	ファイナンスA	2単位
2017年度以前入学生	ポートフォリオ理論	P702	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅰ	2単位	
担当教員	内山　朋規		後期	火曜日	6時限	

①授業方針・テーマ	本講義では資産運用理論を体系的に学習する。前半では、投資家の選好（効用、目的関数）、ポートフォリオの最適化を扱う。後半では、ポートフォリオ（取引戦略）の構築に重要なリスクとリターンの関係を扱う。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ポートフォリオの最適化や均衡、ファクターなどの資産運用理論を習得する。資産価格理論（アセットプライシング）の知識を得ることができる。
③授業計画・内容 授業方法	1．イントロダクション ファイナンス数学の基礎、資産価格理論の基礎 2．（テキスト 2 章）Preference 期待効用、規範vs実証、各種の効用関数 3－4．（テキスト 3 章）Mean-variance investing 分散効果、平均分散最適化、Black-Littermanモデル、平均分散最適化の欠点、代替的なウェイト法 5－6．（テキスト 4 章）Investing for the long run 動的最適ポートフォリオ、動的計画法、マルチンゲール法、リバランスプレミアム、取引コスト、負債の考慮 7．（テキスト 5 章）Investing over the life cycle 人的資本の考慮、ライフサイクル、投資ホライズンの効果 8－9．（テキスト 6 章）Factor theory ファクター理論、CAPM、均衡、プライシングカーネル、マルチファクターモデル、多期間における数理モデル、リスクプレミアムの数理モデル、効率的市場仮説 10.（テキスト 7 章）Factor マクロファクター、ボラティリティ、Fama-Frenchファクターモデル、バリュー、サイズ、モメンタム 11.（テキスト 8 章）Equities エクイティプレミアム、disasterリスクモデル、ロングランリスクモデル、予測可能性 12－13.（テキスト 9 章）Bonds アフィンモデル、金融政策、マクロファクター、インフレリスク、クレジット 14.（テキスト10章）Alpha（and the low-risk anomaly） アルファ、低リスクアノマリー 15.（テキスト14章）Factor investing ファクター投資 [授業方法] 各回の講義のほか、事例や新聞記事などをもとにしたディスカッションがある。
④授業外学習	予習および復習、課題（数回程度）
⑤テキスト・参考書等	Andrew Ang（2014）Asset Management: A Systematic Approach to Factor Investing, Oxford Univ Pr.（邦訳：『資産運用の本質－ファクター投資への体系的アプローチ』、金融財政事情研究会、2016年） 上記のテキストを利用するので、授業に持参のこと。講義ノートも配布する。 以下のテキストも参考になる。 John Campbell（2017）Financial Decisions and Markets: A Course in Asset Pricing, Princeton Univ Pr. John Cochrane（2005）Asset Pricing, Revised Ed., Princeton Univ Pr. Darrell Duffie（2001）Dynamic Asset Pricing Theory, Third Ed., Princeton Univ Pr. John Campbell and Luis Viceira（2002）Strategic Asset Allocation: Portfolio Choice for Long-Term Investors, Oxford Univ Pr.（邦訳：『戦略的アセットアロケーション―長期投資のための最適資産配分の考え方』、東洋経済、2004年） Antti Ilmanen（2011）Expected Returns: An Investor's Guide to Harvesting Market Rewards, John Wiley & Sons.
⑥成績評価方法	課題レポート、最終レポート
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	原則として木曜以外。在席時には随時、不在時にはメールで受け付ける。場所は丸の内サテライトキャンパス。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	ファイナンス数学の基本的な知識が必要なため、講義内でも解説するが、苦手なものは数学関連の講義も受講し、数学面の理解に取り組むこと。

2018年度以降入学生	オプション理論	P0705	経営学C	経済学C	ファイナンスA	2単位
2017年度以前入学生	オプション理論	P705	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅰ	2単位	
担当教員	竹原　浩太		前期Ⅱ	水曜日 土曜日	6時限 4時限	

①授業方針・テーマ	本講義では、金融工学におけるもっとも重要なテーマの一つであるオプション理論における基礎的事項を、 平易な設定やモデルの下で、その概念や重要性、関連性を理解できるように留意しつつ解説する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	オプションの価格付け理論におけるもっとも基本的な手法であるリスク中立化法や測度変換について、自らプライシングの際に適切に利用できるレベルで理解することを目標とする。 また、BS公式の導出を複数の異なるアプローチで行うことを通して、 デリバティブ評価における重要な諸概念を関連付けつつ学び、理解することを目標とする。
③授業計画・内容 授業方法	第１－２回　オプション概論 　様々なオプションやその性質、及び無裁定評価の枠組み等について概説する。 第３回　二項モデル① 　二項モデルによる原資産価格過程の表現等について概説する。 第４－５回　二項モデル② 　二項モデルによるデリバティブの価格付け、及びリスク中立確率等について学ぶ。 第６回　二項モデル③ 　多期間モデル及びダイナミック・ヘッジや条件付き期待値等について学ぶ。 第７－８回　無裁定と状態価格、測度変換 　無裁定条件とリスク中立確率や状態価格、測度変換等の関係について学ぶ。 第９－10回　確率解析基礎 　ブラック・ショールズモデルの理解に必要な確率解析の基礎を学ぶ。 第11回　ブラック・ショールズモデル 　ブラック・ショールズモデルやその性質等について学ぶ。 第12－14回　BS公式の導出 　BS公式の導出を複数のアプローチで行う。 　・２項モデルの極限 　・BS偏微分方程式の導出 　・Feynman-Kac定理の利用 　・Maruyama-Girsanov定理による測度変換の利用、等 第15回　関連する話題 　Greeks（リスク感応度）の導出や、インプライド・ボラティリティ等関連する話題を取り上げる。 ［授業方法］ 基本的に講義による。
④授業外学習	適宜課題等を講義内にて提示する。また、学習効果を高めるため講義前に前回範囲を復習することを強く推奨する。
⑤テキスト・参考書等	S.E.Shreve, 'Stochastic Calculus for Finance II, Continuous-Time Models,' Springer 2004. 木島正明・田中敬一 、'資産の価格付けと測度変換、' 朝倉書店、2007。 村上秀記、'金融実務講座：マルチンゲールアプローチ入門'、近代科学社、2015。
⑥成績評価方法	出席状況・レポート等により判断する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	原則として毎週月曜５限（夜）をオフィスアワーとして設定する。 それ以外の時間帯に来訪する場合には、事前にメールでアポイントメントを取ること。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	期間構造モデル	P0706	経営学C	経済学C	ファイナンスA	2単位
2017年度以前入学生	期間構造モデル	P706	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅰ	2単位	
担当教員	室町　幸雄		後期Ⅰ	土曜日	3、4時限	

①授業方針・テーマ	金融資産の現在価値は将来キャッシュフローを金利で割り引くことで算出されるので、金利のモデル化は非常に重要なテーマである。また、金利には観測可能な期間構造が存在するので、観測と整合的でかつ一貫性のあるモデルの構築が求められる。本講義では、代表的な金利期間構造モデルとそれを用いた金利デリバティブの価格付けについて説明する。また、最近この分野にはさまざまな変化が生じているので、それらの動向も簡単に紹介する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	代表的な金利期間構造モデルとそれを用いたデリバティブなどの価格付けに関する知識を習得し、金利デリバティブの価格評価を自分で行えるようになることを目指す。
③授業計画・内容 授業方法	1．さまざまな金利 ［単利と複利、スポットレート、フォワードレート、LIBOR、スワップ、OIS、債券と金利など］ 2－3．金利期間構造の推定 ［代表的な推定方法、LIBOR/SWAP市場のブートストラップ法など］ 4－5．デリバティブの価格付け ［複製、伊藤の公式、マルチンゲール、リスク中立化法、リスクの市場価格など］ 6－7．スポットレートモデル ［Vasicek、CIR、Hull-White、債券価格など］ 8．アフィンモデルと金利期間構造の実証分析 ［割引債価格、期間プレミアム、状態変数モデルなど］ 9－10．債券と金利デリバティブ ［先渡価格、先物価格、フォワード中立化法、フォワードLIBOR、Blackの公式など］ 11－12．HJMモデル ［無裁定のフォワードレートモデル、マルコフモデルなど］ 13．マーケットモデル ［BGMモデル、LIBORマーケットモデル、SWAPマーケットモデルなど］ 14－15．最近のトピック、予備 ［ネガティブ金利モデル、マルチカーブモデル、LIBOR廃止など］ ただし、理解の定着度をみて一部の項目をスキップすること、逆に、解説を増やすこともある。 ［授業方法］ 講義中心であるが、簡単な演習も行う。
④授業外学習	毎回の授業後の復習は知識の定着に欠かせない。複数回のレポート提出を求める。
⑤テキスト・参考書等	期間構造モデルと金利デリバティブ、木島正明、朝倉書店。 Interest Rate Modeling, Andersen and Piterbarg, Atlantic Financial Press. Interest Rate Models - Theory and Practice:with Smile, Inflation and Credit, Brigo and Mercurio, Springer.
⑥成績評価方法	講義への参加姿勢・宿題等（40%）、最終レポートの内容（60%）をもとに評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	質問等は講義の前後に受け付ける。あるいは、事前にメールで muromachi-yukio@tmu.ac.jp 宛てに連絡し、アポイントメントをとること。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	参加者は「オプション理論」を履修していること、または「オプション理論」で扱う知識を既に持っていること。

2018年度以降入学生	金融リスク管理概論	P0709	経営学C	経済学C	ファイナンスA	2単位
2017年度以前入学生	金融リスク管理概論	P709	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅰ	2単位	
担当教員	吉羽　要直		前期Ⅱ	火曜日	5、6時限	

①授業方針・テーマ	本講義では、金融機関でのリスク管理実務全般を視野に入れ、金融リスクとは何か、どのような枠組みでリスク管理が行われているのか、その背景にある考え方などについて整理する。特にバーゼル銀行監督委員会による国際合意など、最近の国際的な金融監督規制の変化を踏まえ、従来の定量的なリスク管理手法に加え、金融機関のリスク管理実務に及ぼしている影響について議論する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	多様化する金融リスクを理解し、定量的なリスク管理を中心にリスク管理実務に応用可能な考え方を身につけることを目指す。変化する金融規制を踏まえ個別金融機関でのリスク管理に関する理解を深めるとともに、金融システム全体でのリスク管理の議論についての関心も深める。講義では、各種論点についての議論を通じて問題意識を深めることも目指す。
③授業計画・内容 授業方法	講義では、情報の整理に加えて双方向の議論をなるべく重視して行う。内容に応じて、最近の内外における事例紹介などの報告課題を出す予定。 各講義の主な内容： 1．金融リスクとは何か（リスクと収益性、リスクと不確実性など） 2．金融リスクのカテゴリーとリスク管理の実務的アプローチ（引当と資本、自己資本比率規制、経済資本と規制資本など） 3．リスクの定量化とリスク量指標（Value-at-Riskと期待ショートフォール） 4．国際的な金融規制の変化 5．市場リスク定量化モデルの概要 6．信用リスク定量化モデルの概要 7．信用リスク、オペレーショナルリスクの把握と自己資本比率規制 8．オペレーショナルリスクと流動性リスクの把握 9．リスク量の統合と全社的リスク管理 10．リスクモデルの検証とモデルリスク 11．個別金融機関でのリスク把握の取組み 12．ストレステスト 13．リスクガバナンス（リスクコミュニケーションとリスクアペタイト・フレームワーク） 14．金融システムの安定性（システミックリスクの把握） 15．全体を通じた議論 授業方法：上記の各内容に関して講義資料および関連資料に言及しつつ、最近の金融実務における動向なども含めて講義する。講義では、内外の監督当局や金融機関が公表した資料をもとにしたケーススタディを多く取り込みたい。
④授業外学習	講義で扱った事項について復習しておくほか、自分自身の問題意識に基づいて報告課題に取り組む。
⑤テキスト・参考書等	以下の参考書の他に適宜講義中に参考文献を紹介する。 （参考書）Risk Management and Financial Institutions, 5 th Edition（Hull, 2018, Wiley）、Quantitative Risk Management: Concepts, Techniques and Tools, Revised Edition（McNeil, Frey, and Embrechts, 2015, Princeton University Press）
⑥成績評価方法	課題・レポートの提出・報告（70%）、講義における議論への貢献（30%）
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは特に設定しない。質問･相談等については、事前にメールで日程を調整のうえで、研究室04かオンライン会議で対応する。メールの宛先：tyoshiba@tmu.ac.jp
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	リスク管理に関する導入的講義であるため、他のリスク管理関連の講義の受講を特に前提としない。微積分・線形代数・確率論と金融実務に関して基本的な知識を持っていること。講義の内容は、部分的に入れ替え・変更になることがある。

2018年度以降入学生	金融経済学	P0720	経営学C	経済学C	ファイナンスA	2単位
2017年度以前入学生	金融経済学	P720	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅱ	2単位	
担当教員	原　千秋		前期	金曜日	5時限	

①授業方針・テーマ	本講義では、ファイナンスと経済学の接点に位置する、金融経済学を概観する。ミクロ経済学と一般均衡理論の初等的な概念に触れつつ、証券価格とリスク配分を予測するための分析の枠組と、意思決定主体の効用関数（リスクに対する態度や時間割引率を含む）の特性とその含意を探る。均衡モデルの解釈や応用も随時紹介する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	簡単な証券市場の均衡モデルの証券価格とリスク配分を解く技法を習得することを目標とする。また、意思決定主体の効用関数の変化が、証券価格やリスク配分に与える影響を把握することも目指す。実務への応用のため、均衡モデルを正しく解釈することも重要である。
③授業計画・内容 授業方法	講義内容を以下の通りに計画しているが、実際の進度は受講生のバックグラウンドなどに応じて決める。 ①　効用最大化と均衡 ［効用最大化の定式化と解の一階の条件、完備市場、など］ ②　線形関数による証券の価格付け ［一物一価の法則、状態価格の定義、など］ ③　裁定取引と正値線形関数による証券の価格付け ［裁定取引の定義、状態価格の正値性と裁定取引の非存在の同値性、など］ ④　証券価格の評価 ［ファイナンスの基本定理、不完備市場における証券の評価額の幅、など］ ⑤〜⑥　状態価格とリスク中立的確率 ［ファイナンスの基本定理の証明、割引債とリスク中立的確率、など］ ⑦　期待効用 ［独立性公理、曖昧さ回避的効用関数、など］ ⑧〜⑨　リスク回避的態度 ［リスク回避度と効用関数の凹性、線形リスク許容度を持つ効用関数、など］ ⑩　リスク尺度 ［確率論的独立性、確率的支配、など］ ⑪〜⑫　最適ポートフォリオ ［平均分散効率的ポートフォリオ、リスクプレミアムなど］ ［授業方法］ 授業内容に関連する数学的問題より成る宿題を毎週課す。受講生は問題を独力で解くことを試み、その解法を次週の講義で確認することが求められる。なお、再度授業計画が変更されるかもしれないので、随時 Kibaco をチェックすること。
④授業外学習	指定した教科書を授業前に読んでおくこと、また、授業では網羅しなかった証明の細部を授業後に確認すること。
⑤テキスト・参考書等	Principles of Financial Economics' second edition, Stephen LeRoy and Werner, Cambridge University Pressと'Dynamic Asset Pricing Theory' third edition, Darrell Duffie, Princeton University Pressは、標準的参考書である。'Microeconomic Theory', Andreu Mas-Colell, Michael Whinston, Jerry Green, Oxford University Press, 'Microeconomic Foundations 1 : Choice and Competitive Markets$, David M. Kreps, および神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社は、ミクロ経済学（特に需要理論、期待効用、一般均衡理論）の標準的参考書である。 Jean-Pierre Danthine, John B. Donaldson著、日本証券アナリスト協会編集、祝迫・可児・佐野・中田訳、ときわ総合サービス刊「現代フェナンス分析 投資価格理論」も、本講義の内容を網羅する有用な参考書である。
⑥成績評価方法	数理的な問題より成る、期末テストの点数に基づいて評価する予定である。受講生の適性や希望に応じて、期末テストは持ち帰り形式とする。場合によっては、宿題の点数を加味することもある。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	面談希望者は、メールにて連絡すること。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	学部レベルのミクロ経済学の知識を有していることが望ましいが、それがなくても、内容を十分に理解できるように、講義を進める予定である。

2018年度以降入学生	企業価値論	P0736	ー	ー	ファイナンスA	2単位
2017年度以前入学生	ー	ー	ー	ー	ー	
担当教員	浅野　敬志		前期	月曜日	6時限	

①授業方針・テーマ	スチュワードシップ・コード、伊藤レポート（2.0含む）、コーポレートガバナンス・コードが公表され、わが国のガバナンス改革が加速し、資本コストを意識した経営、機関投資家によるエンゲージメント（目的を持った対話）、社外取締役によるモニタリングなど、企業外部者の論理が反映されやすい経営やガバナンス体制が構築されようとしている。ROE、ROA、資本コストなどの会計指標（KPI）を企業評価の視点から再確認するとともに、これらを意識した経営やガバナンス体制が企業価値の向上や日本経済の再生にとって望ましいのかどうかを検討する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	アベノミクスの三大ガバナンス改革であるスチュワードシップ・コード、伊藤レポート（2.0を含む）、コーポレートガバナンス・コードについて企業価値の視点から理解を深めるとともに、企業外部者の論理が反映されやすい経営やガバナンス体制の是非について、自ら仮説を立て、検証できるようになること。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 1．なぜ企業価値評価が必要か？ 2．企業価値の評価方法（1） 3．企業価値の評価方法（2） 4．企業価値評価の実践（1） 5．企業価値評価の実践（2） 6．会計指標（KPI）と企業価値評価 7．機関投資家のガバナンス改革と企業価値（スチュワードシップ・コード） 8．企業のガバナンス改革と企業価値（コーポレートガバナンス・コード） 9．現金保有と企業価値 10．資本構成と企業価値 11．株主還元策と企業価値 12．インセンティブと企業価値 13．エンゲージメント（企業と投資家の対話）と企業価値 14．ESG（環境、社会、ガバナンス）と企業価値 15．まとめ 【授業方法】 講義、グループディスカッションを組み合わせて授業を行う。
④授業外学習	リーディング・アサインメントを事前に読み授業に臨むこと。
⑤テキスト・参考書等	スティーブン・ペンマン『アナリストのための財務諸表分析とバリュエーション』（有斐閣、2018年） ラッセル・ランドホルム、リチャード・スローン『企業価値評価』（マグロウヒル・エデュケーション、2015年） スティーブン・ボーゲル『日本経済のマーケットデザイン』（日本経済新聞社、2018年） 浅野敬志『会計情報と資本市場：変容の分析と影響』（中央経済社、2018年） 伊藤邦雄『新・企業価値評価』（日本経済新聞、2014年） 手島直樹『ROEが奪う競争力』（日本経済新聞社、2015年） 柳良平『ROE革命の財務戦略』（中央経済社、2015年） 菊地正俊『日本株を動かす外国人投資家の設け方と発想法』（日本実業出版社、2017年） 水口剛『ESG投資』（日本経済新聞社、2017年） 日本証券アナリスト協会『価値向上のための対話』（日本経済新聞出版社、2017年） 池尾和人・幸田博人『日本経済再生25年の計』（日本経済出版社、2017年） その他、企業価値評価やガバナンスに関する書籍・論文
⑥成績評価方法	ディスカッション（40%）、レスポンスペーパー（30%）、期末レポート（30%）によって評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	授業後をオフィスアワーとする。また、メールによる質問も随時受け付ける。 【連絡先】 takasano@tmu.ac.jp
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	経営学プログラム及び経済学プログラムの学生は受講できない。

2018年度以降入学生	コーポレートファイナンス理論	P0751	経営学C	経済学C	ファイナンスA	2単位
2017年度以前入学生	ー	ー	ー	ー	ー	
担当教員	新井　富雄		前期	金曜日	6時限	

①授業方針・テーマ	コーポレート・ファイナンスの様々なトピックについて理論と実践の両面から検討する。この科目では、（1）伝統的なファイナンス理論の広範な実務への具体的な応用の学習、（2）情報の非対称性やエージェンシー問題、契約の不完備性などに関連するコーポレート・ファイナンス理論の概要の理解、を通じて実践的な問題の解決に役立つ分析力と思考能力を養うことを目的にする。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	コーポレート・ファイナンスの基礎理論を習得し、それを適用して投資決定、資本コスト推定、企業価値評価、資本構成、M&A、リスク管理等の具体的な問題について数量的に分析できる能力を身につける。ケーススタディを通じて企業が実際に直面する状況のもとでの問題発見・分析能力を磨く。
③授業計画・内容 授業方法	1．財務分析の基礎 2．資産価格評価の基本原理 3．投資意思決定 4．投資プロジェクトの評価：ケーススタディ 5．投資家の行動とCAPM 6．資本コストの推定 7．企業価値の評価 8．資本構成：MM理論 9．負債と税金、財務的困窮状態 10. 情報の非対称性、エージェンシー問題と資金調達 11. 分配政策 12. リスク管理 13. M&A 14. M&A：ケーススタディ 15. まとめ ［授業方法］基礎的概念については講義。理解を深め応用力を付けるためいくつかのトピックスに関してはハーバード・ビジネススクール等のケースを使ってクラス討論を行う。
④授業外学習	複数回課題を提示して、レポート提出を求める。
⑤テキスト・参考書等	Berk/DeMarzo, 'Corporate Finance (5 th ed.)', Pearson, 2019. McKinsey & Co., 'Valuation: Measuring and Managing the Value of Companies (7 th ed.)', Wiley, 2020. 新井富雄/高橋文郎/芹田敏夫「コーポレート・ファイナンス：基礎と応用」中央経済社、2016年 その他講義中に適宜紹介する。
⑥成績評価方法	数回のレポート課題、クラス討論での貢献などに基づき総合的に評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは特に設定しない。事前にメールで t-arai@e.u-tokyo.ac.jp 宛てに連絡して、アポイントメントをとること。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	経済・経営学部レベルの微分積分、線形代数、確率・統計、会計学の基礎的な知識およびエクセルを用いた分析知識があることが望ましい。

2018年度以降入学生	確率解析Ⅰ	P0715	経営学C	経済学C	ファイナンスA	2単位
2017年度以前入学生	確率解析	P715	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅱ	2単位	
担当教員	足立　高徳		前期Ⅰ	月曜日 水曜日	5時限 5時限	

①授業方針・テーマ	金融工学、数理ファイナンスの理解に必要な基礎的な数学（特に初等確率論）を学び、確率解析に必要な基礎的計算力を固める。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	確率統計についての盤石な知識をもとに科学的に推定・検定を行えるようになる。
③授業計画・内容 授業方法	1．講義概観、高校数学の復習（順列と組み合わせ、集合と写像、等差数列、等比数列、２項定理） 2．確率論の基礎概念（確率空間、確率変数、期待値、分散） 3．離散確率分布I(ベルヌーイ分布、２項分布、幾何分布） 4．離散確率分布II(離散一様分布、ポアソン分布、超幾何分布） 5．連続確率分布I(確率密度関数、確率分布関数） 6．連続確率分布II(ガンマ関数、ベータ関数） 7．連続確率分布III(一様分布、指数分布、正規分布、ガンマ分布、ベータ分布） 8．連続確率分布IV(Ｘ二乗分布、t分布、F分布、対数正規分布） 9．連続確率分布V(確率母関数、モーメント母関数） 10. 連続確率分布VI(大数の法則、中心極限定理、多次元連続確率分布） 11. 連続確率分布VII(確率分布の和・差・積・商） 12. 統計（統計量、区間推定、検定、最尤推定、回帰分析） 13. 期末試験 [授業方法] 板書を用いた講述
④授業外学習	演習問題に取り組む。
⑤テキスト・参考書等	（テキスト） 配布プリントおよび 藤田岳彦「弱点克服・大学生の確率・統計」、東京図書 2010。 （参考書） E. Kopp, J. Malczak and T. Zastawniak, ''Probability for Finance'', Cambridge U. Press, 2014. K.L. Chung, ''A Course in Probability Theory'', 3 rd ed., Academic Press, 2001. M. Capinski and E. Kopp, ''Measure, Integral and Probability'', 2 nd ed., Springer, 2004. D. Williams, ''Probability and Martingales'', Cambridge University Press, 1991. 原啓介「測度・確率・ルベーグ積分」、講談社、2017。 G. Casella and R.L. Berger, ''Statistical Inference'', 2 nd ed., Duxbury, 2002.
⑥成績評価方法	課題レポート＋期末試験＋若干の平常点 対面で期末試験が行えないときは、期末レポートに置き換える。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	不定。事前にメール（taka.adachi@tmu.ac.jp）にて予約すること。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	テキスト１章－６章 の基本＋標準問題（47単元）を解く。 授業中に解けなかった問題は必ず復習して解き、課題も必ず提出すること。 ４月にZoomで行う勉強会「確率解析」に参加していることが望ましい。またこの勉強会に参加できないときは、別途公開する勉強会の模様を記録したストリーミング・ビデオを授業開始前に観ておくこと。 2020年度まで「確率解析」として開講されていた科目である。2020年度までに「確率解析」を既に単位取得済みの場合、本科目は重複して履修できない。

2018年度以降入学生	確率解析Ⅱ	P0716	経営学C	経済学C	ファイナンスA	2単位
2017年度以前入学生	上級確率解析	P716	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅱ	2単位	
担当教員	足立　高徳		前期Ⅱ	月曜日 水曜日	5時限 5時限	

①授業方針・テーマ	伊藤解析の基礎を学ぶ。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	伊藤の公式を使いこなし、ギルサノフ・丸山の定理やキャメロン・マルティンの定理を使ってデリバティブの価格を計算できる力を身につける。
③授業計画・内容 授業方法	1．授業概観、デリバティブ、現在価値、無裁定 2．2項1期間モデル、2項2期間モデル 3．リスク中立確率、ブラック・ショールズ偏差分方程式 4．ランダムウォーク、条件付き期待値 5．マルチンゲール、マルチンゲール表現定理 6．離散伊藤公式、2項T期間モデルでのデリバティブ価格理論 7．離散から連続へ 8．ブラウン運動、マルチンゲール 9．伊藤の公式 10. 確率微分方程式 11. コルモゴロフ偏微分方程式、ギルサノフ・丸山の定理、キャメロン・マルティンの定理 12. ブラック・ショールズ・モデル、エキゾティック・オプション 13. 期末試験 【授業方法】 板書を用いた講述
④授業外学習	授業中に理解が不十分だった例題や問題は必ず復習して解き、課題も必ず提出すること。
⑤テキスト・参考書等	（テキスト） 配布プリントおよび 藤田岳彦「新版 ファイナンスの確率解析入門」、講談社 2017。 （参考書） S.E. Shreve, ''Stochastic Calculus for Finance I, The Binomial Asset Pricing Model'', Springer, 2005. S.E. Shreve, ''Stochastic Calculus for Finance II, Continuous-Time Models'', Springer, 2004. M. Capinski and E Kopp, ''Discrete Models of Financial Markets'', Cambridge U. Press, 2012 J.M. Steele, ''Stochastic Calculus and Financial Applications'', Springer, 2001.
⑥成績評価方法	課題レポート＋期末試験＋若干の平常点 対面で期末試験が行えないときは、期末レポートに置き換える。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	不定。事前にメール（taka.adachi@tmu.ac.jp）にて予約すること。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	「確率解析」を履修していること。 2020年度まで「上級確率解析」として開講されていた科目である。2020年度までに「上級確率解析」を既に単位取得済みの場合、本科目は重複して履修できない。

2018年度以降入学生	金融数値解法	P0713	経営学C	経済学C	ファイナンスA	2単位
2017年度以前入学生	金融数値解法	P713	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅰ	2単位	
担当教員	八木　恭子		後期Ⅰ	土曜日	1、2時限	

①授業方針・テーマ	高度に発達した今日の金融市場において、また複雑化した金融派生証券をはじめとする諸問題について、例えばBlack=Scholes式のような解析解を得ることは大変困難である。こうした諸問題に対応するため、多くの数値計算手法が学界・実務の双方から提案・適用されている。本講義では、主に金融派生証券の価格評価を念頭に、さまざまな数値解法について理解するとともに、実際の問題への応用を通してその手法を身につけることを目標とする。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ツリーモデル・偏微分方程式の数値解法について学び、その原理を理解するとともに応用上の諸問題についても、実際に自ら数値実験を行うことを通して身につける。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 第1－7回　ツリーモデル ヨーロピアンオプションに対して2項ツリーの構築及びオプション価格の計算法・原理及び諸注意を学び、バリアオプションやアメリカンオプションに対する2項ツリーを用いた価格評価について学ぶ。また、2項ツリーモデルを用いたリスク感応度（Greeks）の評価について学ぶ。 実際にプログラムを作成し数値計算を行うことで、さまざまな性質や注意について実際に学ぶ。 第8－14回　偏微分方程式の数値解法 有限差分法（陽解法、陰解法、Crank=Nicolson法等）による偏微分方程式の数値解法やその特性について学習する。さらに、自由境界値問題に対する解法を学習する。 実際にプログラムを作成し数値計算を行うことで、さまざまな性質や注意について実際に学ぶ。 第15回 まとめ 【授業方法】 各項目の講義を行った後、演習を実施する。
④授業外学習	演習終了時に出す課題について、レポートを作成して提出すること。
⑤テキスト・参考書等	kibacoへアップロードするレジュメに沿って講義を行う。 参考書：森平爽一郎･小暮厚之著「コンピュテーショナル・ファイナンス」(朝倉書店1997年)定価4,620円 他にも講義中に適宜指示する。
⑥成績評価方法	数回のレポート課題で総合的に評価する。 ・レポート課題については、到達目標に基づき、ツリーモデル・常微分方程式及び偏微分方程式の数値解法について、その原理を理解するとともに応用上の諸問題についても、実際に自ら数値実験を行うことができているかを判断し、評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは特に設定しないが、質問等がある場合は事前にメールでアポイントメントをとること。【連絡先】kyagi@tmu.ac.jp
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	「プログラミング基礎」を履修済みであることが望ましい。

2018年度以降入学生	シミュレーション	P0714	経営学C	経済学C	ファイナンスA	2単位
2017年度以前入学生	シミュレーション	P714	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅰ	2単位	
担当教員	八木　恭子		後期Ⅱ	土曜日	1、2時限	

①授業方針・テーマ	金融工学の研究／実務への応用を行うときには多次元の問題に直面することが多く、解析解で解決できる問題は限られており多くの場合には数値計算が必要となる。多次元での数値計算ではモンテカルロ法によるシミュレーションが有効である。本講義ではモンテカルロ法を自らプログラミングできるようになることを目標として計算手法の解説と数値実験演習を行う。プログラミング言語はC言語を用いる。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	モンテカルロ法について、原理の理解、応用方法および注意点を理解し、自らの問題を解くためのプログラムが作成できる基礎力を身につける。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 第1回　モンテカルロ法の原理 モンテカルロシミュレーションの原理や大数の法則、信頼区間等について学習し、 ヨーロピアンオプションの価格評価を学ぶ。 第2回　エキゾチック・オプションの評価 ルックバック、アベレージ、バリアオプション等のエキゾチックオプションや、多変数に依存するデリバティブについてモンテカルロ法を用いた価格評価を学ぶ。 第3回　乱数生成 与えられた一様（疑似）乱数から、目的の分布に従う乱数を得る方法について学ぶ。 第4－8回　分散減少法 負の相関法、層化抽出法、制御変量法等の分散減少法について学び、実際にプログラムを作成し数値計算を行うことで、様々な性質や注意について実際に学ぶ。 第9－10回　Greeks モンテカルロ法によるリスク感応度（Greeks）の計算手法について学ぶ。 第11－12回　アメリカン・オプションの評価① アメリカン・オプションに対するモンテカルロ法の応用として、バックワードサーチ法を中心に学ぶ。 第13－14回　アメリカン・オプションの評価② アメリカン・オプションに対するモンテカルロ法の応用として、最小二乗モンテカルロ法を中心に学ぶ。 第15回　まとめ 【授業方法】 各項目の講義を行った後、演習を実施する。
④授業外学習	演習終了後に出す課題について、レポートを作成して提出すること。
⑤テキスト・参考書等	授業中に配布するレジュメに沿って講義を行う。 参考書：湯前祥二・鈴木輝好著「モンテカルロ法の金融工学への応用」（朝倉書店 2000年）定価3,960円 他にも講義中に適宜指示する。
⑥成績評価方法	数回のレポート課題で総合的に評価する。 ・レポート課題については、モンテカルロ法の原理の理解、応用方法および注意点の理解、自らプログラムを作成する力が出来ているか判断し、評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは特に設定しないが、質問等がある場合は事前にメールでアポイントメントをとること。【連絡先】kyagi@tmu.ac.jp
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	「プログラミング基礎」を履修済みであることが望ましい。

2018年度以降入学生	金融データサイエンス	P0718	経営学C	経済学C	ファイナンスA	2単位
2017年度以前入学生	金融データサイエンス	P718	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅱ	2単位	
担当教員	林　高樹		前期	木曜日	5時限	

①授業方針・テーマ	・多変量解析を中心に、金融データの分析に有用な統計的データ分析の方法について学習する。 ・今日学術研究や産業界への応用が進んでいる機械学習の手法についても理解を広げ、金融分野への応用可能性について考える。 ・講義に加えて、授業内で適宜実習を行う。統計ソフトウェアとしてRを使用する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	・多変量解析を中心とした統計的データ分析や機械学習の主な手法について理解し、目的に応じた分析手法を選べるようになる。 ・分析に使用するデータを自らの手で加工し、適切な手順で分析ができるようになる。 ・分析内容に関する口頭や文書によるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力が向上する。
③授業計画・内容 授業方法	1 ：導入 ・統計的仮説検定、分散分析 2－6 ：教師あり学習（1）：回帰問題 ・線形回帰、質的説明変数を持つ回帰 ・ロジスティック回帰、ポアソン回帰 ・一般化線形モデル、一般化加法モデル ・変数選択、正則化 ・変数加工、モデル評価、交差検証 7－11：教師あり学習（2）：分類問題 ・判別分析：線形判別、二次判別 ・K近傍法、単純ベイズ法 ・決定木 ・アンサンブル学習：ランダムフォレスト、勾配ブースティング ・サポートベクターマシーン 12－14：教師なし学習：次元縮約、クラスタリング、ルール抽出 ・主成分分析、因子分析 ・クラスター分析：階層型クラスタリング、K平均法 ・アソシエーション分析 15：課題プレゼンテーション、まとめ ※ 授業内容は、受講生の理解度等に応じて更新される可能性がある。 ※ 随時kibacoを参照し、授業内容や日程の変更、宿題の出題等に注意すること。 授業方法 ・講義とRによる実習を並行して授業を進める。授業内容の理解度を測定し、かつ理解を深めるために授業内容を踏まえた宿題を適宜出題する。
④授業外学習	・授業終了後、授業内容を講義資料や参考書等で復習するとともに、授業内で出題された宿題に取り組み、指定された期日までに提出すること。 ・授業の内容理解を深め、コミュニケーション能力を高めるために、クラスメートとの間で授業内容に関する不明点や疑問点は積極的に（Zoom等を利用して）話し合い、解消・解決に努めること。
⑤テキスト・参考書等	・講義資料は、授業内で適宜配布する。 ・参考書（必ずしも購入は必要ない） （1）金明哲. Rによるデータサイエンス（第2版）. 森北出版, 2017. （2）山田剛史, 杉澤武俊, 村井潤一郎. Rによるやさしい統計学, オーム社, 2008. （3）Everitt, B.; Hothorn, T. An Introduction to Applied Multivariate Analysis with R, Springer, 2011. （4）James, G., *et al*. An Introduction to Statistical Learning with Applications in R, Springer, 2013. （落海浩, 首藤信通(訳). Rによる統計的学習入門, 朝倉書店, 2018.）
⑥成績評価方法	・授業貢献（出席、発言等）10%、宿題30%、期末レポート60% ・期末レポートとして、データ分析課題（テーマ自由）を出題する。 ・期末レポートは、目的と結果の整合性、内容の新規性、分析手法の選択の妥当性、分析手順の正確性、分析結果の解釈の的確性・客観性、結論の有用性・説得性、文章表現の巧拙等を総合的に判断して評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	・質問・相談がある場合にはメールで対応する。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	（他の授業科目との関連性） ・後期「金融時系列解析」履修希望者は、あらかじめ当科目を履修することが望ましい。

2018年度以降入学生	実証ファイナンス	P0703	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	実証ファイナンス	P703	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅰ	2単位	
担当教員	内山　朋規		前期	木曜日	6時限	

①授業方針・テーマ	理論と実証は両輪であり、近年は実証分析の発展が目覚ましい。本講義では、資産価格（アセットプライシング）の理論をもとに、金融市場における'ファクト'(実証証拠）を学び、金融市場への理解を深める。 株式や金利、通貨、デリバティブといった各アセットクラスのリターンや、ファンドのパフォーマンスに関する重要な論文を学習する。教員による講義のほかに、参加者は指定された論文を簡潔にまとめて発表することも行う（1人1回あたり20分程度を予定、数回)。また、実証分析の統計学的手法の解説とMatlabなどを使った実習も行う。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	投資理論の実践に役立つ、理論をもとにした実証研究に関する知識や、実証分析スキルを獲得できる。
③授業計画・内容 授業方法	1．イントロダクション 講義の概要、資産価格理論、リスクプレミアム、ファクターモデル、リターンの予測可能性 2－5．分析手法の統計学：Matlabなどによる実習 回帰分析（時系列、クロスセクション、パネル)、分位別ポートフォリオ、イベントスタディ、自己相関や不均一分散の考慮、クラスター頑健法、GRS検定、など 6－7．株式：バリュー Fama and French（1998）Value versus Growth: The International Evidence, JF. など 8．株式：モメンタム Jegadeesh and Titman（1993）Returns to buying winners and selling losers: Implications for stock market efficiency, JF. など 9．株式：収益性、投資 Novy-Marx（2013）The other side of value: The gross profitability premium, JF. など 10. ファンドパフォーマンス Elton and Gruber（2013）Mutual Funds, Handbook of the Economics of Finance. など 11. 金利 期待仮説、予測可能性 Cochrane and Piazzesi（2005）Bond Risk Premia, AER. など 12. 通貨 Burnside, Eichenbaum and Rebelo（2011）Carry Trade and Momentum in Currency Markets, ARFE. など 13. クロスアセット Asness, Moskowitz and Pedersen（2013）Value and momentum everywhere, JF. など 14. オーバーフィッティング、p値ハッキング Harvey, Liu and Zhu（2016）... and the Cross-Section of Expected Returns, RFS. など 15. 機械学習 Gu, Kelly and Xiu（2020）Empirical Asset Pricing via Machine Learning", RFS. など [授業方法] 講義、プログラム計算演習、文献発表。
④授業外学習	予習および復習、課題（数回程度)。
⑤テキスト・参考書等	講義ノートを毎回配布する。 初回講義で発表論文を指定する。 以下のテキストも参考になる。 John Cochrane（2005）Asset Pricing, Revised Ed., Princeton Univ Pr. John Campbell, Andrew Lo, and A. Craig MacKinlay（1997）The Econometrics of Financial Markets, Princeton Univ Pr.（邦訳：『ファイナンスのための計量分析』, 共立出版, 2003年） William H. Greene（2011）Econometric Analysis, International 7 th Ed, Pearson Education. Turan G. Bali, Robert F. Engle, and Scott Murray（2016）Empirical Asset Pricing: The Cross Section of Stock Returns, Wiley.
⑥成績評価方法	論文発表、課題レポート
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	原則として木曜以外。在席時には随時、不在時にはメールで受け付ける。場所は丸の内サテライトキャンパス。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	「ポートフォリオ理論」を履修していることが望ましい。もし履修していない場合には教員の許可が必要。また、ファイナンス数学の基本的な知識が必要なため、講義内でも解説するが、苦手なものは数学関連の講義も受講し、数学面の理解に取り組むこと。

2018年度以降入学生	債券投資とＡＬＭ	P0704	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	債券投資とＡＬＭ	P704	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅰ	2単位	
担当教員	市川　達夫*		後期	木曜日	5時限	

①授業方針・テーマ	機関投資家にとっての債券投資のあり方を学ぶ。まずは、金利の概念（リスク・リターン）を学習し、様々な分析手法や投資戦略を理解する。次にALM（Asset-Liability-Management）の枠組みにおける債券投資の位置づけを習得し、最終的には規制や会計などの定性要因などを考慮した上での債券投資の実際を概観する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	債券投資の基礎の理解を理論的な観点でだけではなく、実務の世界での課題や制約、ALMの枠組みや定性的なリスク要因などを把握することを目的とし、定性要因も加えた総合的な視点から投資判断を行えることを目標とする。
③授業計画・内容 授業方法	第１～４回：債券投資の基礎 時間価値、デュレーション、コンベクシティ、金利の期間構造など債券投資の基本について講義する。 第５～８回：債券投資の実践 デリバティブや外債投資の実際やリスク・リターン分析、投資手法について講義する。 第９～11回：定性的なリスク要因 金利変動要因となる金融政策や財政政策、投資家動向、規制・会計動向について解説する。 第12～13回：ポートフォリオ戦略とALM 銀行、保険会社、年金基金にとってのマルチアセットのポートフォリオやALM戦略の枠組みにおける債券の位置付けについて講義する。 第13～15回：ケーススタディ、課題発表 債券市場における過去の変動幅が大きく特異な動きがあった局面について解説、ディスカッションを行う。ケーススタディを通じながら投資戦略の立案プロセスを習得する。 【授業方法】 各回ではできるだけ実務での応用例や最新のトピックスや課題にも触れながら講義を進めていく。また、２～３回に１度は演習またはディスカッションを含めた双方向の講義形式の時間を作る予定している。ディスカッションのテーマとしては、受講者が幅広い債券投資とALMの様々なテーマの中から興味あるものを自由に選び問題提起や投資戦略の立案をしてもらうアクティブ・ラーニング。
④授業外学習	ブルームバーグ等の情報端末からマーケット・データを取得し、講義で習得した市場動向を復習し、分析手法を応用して投資戦略について考察する。
⑤テキスト・参考書等	テキスト・参考書の指定は特になし。 ノートを毎回配布する。
⑥成績評価方法	出席状況、ディスカッション・演習の参加状況およびレポートによる総合評価
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは、原則として毎週木曜日時５限前後のみとしますが、メールでの問い合わせは随時受け付けます。メールアドレスは講義時に伝えます。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	クレジットデリバティブ	P0707	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	クレジットデリバティブ	P707	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅰ	2単位	
担当教員	竹原　浩太		後期Ⅱ	土曜日	3、4時限	

①授業方針・テーマ	金融市場において近年特に発達の著しい分野の一つがクレジット（信用）に関わる証券である。社債のプライシングに始まり、倒産に対する保険と言えるCDS(クレジット・デフォルト・スワップ)、そしてリーマン・ショックの引き金ともなったCDO(債務担保証券）といった多くの証券に於いて、クレジットリスクの評価は重要な課題である。 本講義では、標準的なクレジットリスクのモデリング・計量手法から発展的な内容、さらには近年注目されているCVA(信用価格調整）も含むxVA等について、理解を深め様々な手法を身につけることを目的としている。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	本講義では構造モデル・誘導モデルといった代表的なクレジットモデルやコピュラを用いた相互依存関係を考慮したクレジットリスクの計量や証券の価格付け、及びCVAをはじめとするxVAと呼ばれる概念等について学ぶ。
③授業計画・内容 授業方法	第1回　クレジット・デリバティブのプライシング概説 社債、優先・劣後証券、CDS、CDO等様々なクレジット証券に対するプライシングの枠組みについて概説する。 第2－4回　ハザード関数 ハザード関数と社債価格やクレジット・スプレッドの関係等について解説する。 第5－7回　誘導型モデル 斉時・非斉時ポワソン過程やCox過程、その応用について解説する。 第8－9回　構造型モデル① Mertonモデル、Black-Coxモデルなどの構造型モデルについて解説する。 第10回　構造型モデル② Lelandモデル等、より発展的な構造型モデルやその応用について解説する。 第11回　マルチ・ネーム・デリバティブ 複数の企業に関するクレジット・デリバティブのプライシングについて概説する。 第12−13回　デフォルトの相互依存関係 コピュラを用いたデフォルトの相互関係の創出やインプライド相関等について学ぶ。 第14回　CDO CDO(債務担保証券）の価格付けに関する理論について解説する。 第15回　CVA CVA(信用価格調整）について概説する。 [授業方法] 基本的に講義による。
④授業外学習	適宜課題等を講義内にて提示する。
⑤テキスト・参考書等	F. J. シェーンブッハー『クレジット・デリバティブ』東洋経済新聞社 2005年 D. ダフィー、K. J. シングルトン『クレジット・リスク』共立出版 2009年 Bielecki, Jeanblanc, Rutkowski, 'Credit Risk Modeling', Osaka University Press, 2009 富安弘毅『カウンターパーティーリスクマネジメント』金融財政事情研究会 2010年
⑥成績評価方法	出席状況・レポート等により判断する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	原則として毎週月曜5限（夜）をオフィスアワーとして設定する。 それ以外の時間帯に来訪する場合には、事前にメールでアポイントメントを取ること。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	上級オプション理論	P0708	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	上級オプション理論	P708	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅰ	2単位	
担当教員	竹原　浩太		前期	木曜日	5時限	

①授業方針・テーマ	2項ツリーモデルやBlack-Scholse-Mertonらのモデル・公式の発見によりめざましい発展を遂げたオプション市場は、その後徐々にこれらのモデルの仮定とは不整合をきたすようになっていった。また、オプション自体の構造もより複雑化し、そうした状況に対応するようにより実際的なモデル・洗練された手法が開発され続けている。 本講義では、こうしたエキゾチック・オプションに対するプライシングや、様々なモデリング手法について学ぶ。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	本講義ではアメリカン・オプションや、バリアオプション等のエキゾチック・オプションに対する価格付け、及び発展的なモデル（局所ボラティリティモデル、確率的ボラティリティモデル、ジャンプモデル）等について学ぶ。
③授業計画・内容 授業方法	第1－2回　基礎的事項の復習 Black-Scholesモデルやリスク中立評価法・オプション価格公式の復習、及びバリアオプションのプライシング等について解説をする。 第3回　アメリカン・オプションの評価 アメリカン・オプションについて、評価の枠組みを概説する。 第4－5回　局所ボラティリティ・モデル① 局所ボラティリティ・モデルの枠組みやインプライド・ボラティリティとの関係等について解説する。 第6－7回　局所ボラティリティ・モデル② CEVモデルやDisplaced Diffusion Model等やその応用について解説する。 第8－9回　確率的ボラティリティ・モデル① HestonモデルやStochastic Skew Model等について解説する。 第10回　確率的ボラティリティ・モデル② 近年多くの分野で導入されているSABRモデルと、その応用について解説する。 第11回　ジャンプ・モデル① Mertonモデルを中心にジャンプを導入したモデルについて解説する。 第12－13回　ジャンプ・モデル② より一般のジャンプモデルやLevy過程等について解説をする。 第14－15回　近似手法 複雑なモデル下での金融派生証券の価格付けに対する近似手法について、『漸近展開法』を含め解説する。 [授業方法] 基本的に講義による。
④授業外学習	適宜課題等を講義内にて提示する。
⑤テキスト・参考書等	S.E.Shreve, 'Stochastic Calculus for Finance II, Continuous-Time Models,' Springer 2004. J.Gatheral, 'The Volatility Surface,' John Wiley & Sons, Inc., 2006.
⑥成績評価方法	出席状況・レポート等により判断する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	原則として毎週月曜5限（夜）をオフィスアワーとして設定する。 それ以外の時間帯に来訪する場合には、事前にメールでアポイントメントを取ること。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	市場リスク管理	P0710	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	マーケットリスク管理	P710	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅰ	2単位	
担当教員	吉羽　要直		後期	木曜日	6時限	

①授業方針・テーマ	本講義では、価格が観察可能な金融資産が有する価格変動を市場リスクとして定量的に把握し、運用方針のもとで適切な管理を行うための基礎知識を整理する。リスク計測手法については、複数の確率的アプローチによるリスク計量化手法を比較することで各手法の利点・注意点を明らかにすることを目指す。同時に、市場リスク管理を巡る様々な環境変化について、特にバーゼル銀行監督委員会による自己資本規制の変化の影響など、制度的要因についても理解を深める。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	市場リスク管理に関する汎用的な基礎知識を得ることを主目的とし、金融リスクの多面的な理解とリスク管理の実践に応用可能な考え方を身につけることを目指す。具体的には、実際の資産価格データからRなどの統計分析ソフトでリスク量の計測を行うことができ、かつ計算したリスク量の解釈、活用上の留意点を考察できるようにする。
③授業計画・内容 授業方法	本講義では、リスク管理実務で用いられている手法を想定し、その数学的な根拠や性質について整理する。市場リスクの定量化に関しては、扱いが比較的容易な株式を想定して実際の計算を行うなどのケーススタディを行う。 各講義の主な内容： 1．導入：市場リスクとその把握・管理の枠組み 2．市場リスクの定量化：概論 3．分散共分散法と正規分布近似 4．ヒストリカル法とカーネル平滑化 5．バーゼル自己資本規制における市場リスクの扱い（標準的手法） 6．バーゼル自己資本規制における市場リスクの扱い（内部モデル手法） 7．金利リスクの計測：序論 8．銀行勘定の金利リスク 9．無条件モデルと条件付モデル：極値理論でのリスク分析 10. 条件付（ボラティリティ変動）モデルでのリスク計測 11. リスク量のバックテスト 12. 接合関数を用いたリスクファクターのモデル化 13. 接合関数の利用とポートフォリオリスク 14. 状態変化を伴うモデル 15. 計量ファイナンス分析の潮流 授業方法：上記の各内容に関して講義資料および関連資料に言及しつつ、最近の金融実務における動向に沿って講義するほか、各種ケーススタディやレポート課題に対する議論に焦点を当てて、実際に市場リスク管理を行える素地を養う。
④授業外学習	講義で学んだ手法などを用いて、実際の市場データを用いて自分の興味のあるポートフォリオを作成し、統計分析ソフトRを用いてその市場リスクを把握する。
⑤テキスト・参考書等	以下の参考書の他に適宜講義中に参考文献を指定する。 （参考書）Risk Management and Financial Institutions, 5 th Edition（Hull, 2018, Wiley）、Quantitative Risk Management: Concepts, Techniques and Tools, Revised Edition（McNeil, Frey, and Embrechts, 2015, Princeton University Press）
⑥成績評価方法	課題・レポートの提出・報告（60%）、講義における議論への貢献（40%）
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは特に設定しない。質問･相談等については、メールないしメール後のオンライン面談で対応する。メールの宛先：tyoshiba@tmu.ac.jp
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	リスク管理の入門である「金融リスク管理概論」と定量的リスク管理で用いる確率論を取得するため「確率解析Ⅰ」「確率解析Ⅱ」を事前に受講されたい。このほか、市場データを用いたリスクの定量化を実践的に行えるようにするため、「ファイナンス特別講義（Bloombergを活用した定量分析）」、統計分析ソフトRでのデータ分析を扱う「金融データサイエンス」を事前に受講することが望ましい。講義の内容は部分的に入れ替え・変更になることがある。 2020年度まで「マーケットリスク管理」として開講されていた科目である。2020年度までに「マーケットリスク管理」を既に単位取得済みの場合、本科目は重複して履修できない。

2018年度以降入学生	信用リスク管理	P0711	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	信用リスク管理	P711	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅰ	2単位	
担当教員	室町　幸雄		前期	月曜日	6時限	

①授業方針・テーマ	金融商品の発行体や取引先が債務を履行できなくなる状態をデフォルトと呼び、デフォルトにより被る直接的あるいは間接的な損失の可能性を信用リスクという。本講義では、金融機関における信用リスクの計量化手法について金融工学の立場から説明する。また、最新のテーマも適宜取り上げる。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	企業の信用リスク評価ツールとして使われるさまざまな手法を理解する。さらに、ポートフォリオの信用リスク量の評価手法を、近似法もあわせて習得する。 これらの知識や経験は、論理的思考力、総合的問題思考力、情報活用能力の向上につながると考えている。
③授業計画・内容 授業方法	1．講義の概観 1－3．デフォルトと信用リスク、デフォルト確率とその期間構造 ［デフォルトと信用リスク、生存時間解析、データの種類と推定手法など］ 4－6．企業の信用リスク評価モデル ［線形判別分析、一般化線形モデル、二項ロジット・プロビットモデル、逐次モデル、順序モデル、比例ハザードモデル、サポートベクターマシンなど］ 7．リスクの尺度 ［VaR(バリューアットリスク)、期待ショートフォールなど］ 8．デフォルトのモデル化 ［構造型モデル、誘導型モデルなど］ 9－11．デフォルト相関のモデル化 ［デフォルト相関、デフォルト時刻の同時分布、条件付独立モデル、伝播デフォルトモデル、コピュラモデルなど］ 12．CreditMetrics ［単一資産の場合、ポートフォリオの場合、CM2Sモデルなど］ 13－14．ファクターコピュラモデル ［1ファクター・ガウシアンコピュラモデル、コリレーション・スマイルなど］ 15．極限損失分布とBIS規制 ［大数の法則、極限損失分布、バーゼルIIのフォーミュラなど］ 上記の内容はやや盛り沢山なので、理解の定着度をみて取り扱う項目の取捨選択を行う。また、当初に履修生の興味を聞き、話の順番を大きく入れ替えることも考えている。 ［授業方法］ 講義中心であるが、簡単な演習も行う。特に、CreditMetricsの演習は、信用リスクの計測に対する心理的ハードルを下げるためにも有効と考えているので、必須である。
④授業外学習	知識の定着には毎回の講義後の復習が必須である。複数回のレポート提出を求める。
⑤テキスト・参考書等	室町幸雄（2007)、信用リスク計測とCDOの価格付け、朝倉書店。 木島正明・小守林克哉（1999)、信用リスク評価の数理モデル、朝倉書店。 A.McNeil, R.Frey, P.Embrechts, Quantitative Risk Management - concepts, techniques and tools -, Princeton University Press.
⑥成績評価方法	講義への参加姿勢・宿題等（30%)、中間・最終レポートの内容（70%）をもとに評価する。
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	メールで muromachi-yukio@tmu.ac.jp 宛てに連絡すること。対応は質問ごとに考える。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	「金融リスク管理概論」「確率解析」「上級確率解析」を履修していること、または、これらの講義で扱う知識を既に持っていること。経済学部水準の数学および統計学の知識を有することが講義内容の理解のためには必要である。「オプション理論」も履修していることが望ましい。 開講後にさまざまな変更もありうるので、kibaco も適宜参照してほしい。

2018年度以降入学生	オプション理論と コーポレートファイナンス	P0721	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	ファイナンス特別講義 （コーポレートファイナンス）	P721	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅱ	2単位	
担当教員	芝田　隆志		後期	火曜日	5時限	

①授業方針・テーマ	本講義は、数理ファイナンスのオプション価格式を用いたコーポレートファイナンス理論について概説する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	本講義では、オプション理論を用いて、コーポレートファイナンスの中心課題である投資行動と資金調達との間の相互作用について考察する。特に、本講義では、オプション理論を用いたコーポレートファイナンスの基礎的なモデルから最新のモデルまでを解説する。
③授業計画・内容 授業方法	1　イントロダクション 講義内容について概説する。また、コーポレートファイナンスの中心課題について紹介する。 2－5　最適投資戦略 企業の資金調達を所与とした上で、投資プロジェクト、株式、負債価値の評価や企業の最適投資問題について紹介する。 6－7　資金調達問題 企業の投資行動を所与と上で、構造型モデルに基づく企業の資金調達方法について紹介する。また、企業の最適レバレッジ水準、負債のクレジットスプレッド、企業の倒産確率などの財務指標の計測方法について紹介する。 8－9　完全競争下での投資と資金調達との間の相互作用 市場の摩擦がない完全競争市場において、企業の投資行動と資金調達との間の相互作用について紹介する。特に、投資行動と資金調達の双方を考慮した上で、企業の株式価値、負債価値、最適レバレッジ、負債のクレジットスプレッド、倒産確率などの財務指標の計測方法について紹介する。 10－12　不完全競争下での投資と資金調達との間の相互作用 市場の摩擦（非対称情報、資金調達の取引費用、資金制約）が存在する不完全競争市場において、企業の投資行動と資金調達との間の相互作用について紹介する。特に、市場の摩擦が企業の財務指標にどのような影響を与えるかについて考察する。 13－15　最新研究の輪読（受講生による論文紹介） 投資行動と資金調達との間の相互作用についての最新の研究について紹介する。
④授業外学習	講義資料を予め読んでおくこと。 受講生による論文紹介の場合には、論文の内容をレジメに纏め、レジメに沿って論文を紹介すること。
⑤テキスト・参考書等	特に指定しない。適宜、参考文献を紹介する。
⑥成績評価方法	平常点（出席や発表など）による評価
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	火曜17：50－18：20（メールにて事前予約すること）
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	2020年度まで「コーポレートファイナンス」として開講されていた科目である。2020年度までに「コーポレートファイナンス」を既に単位取得済みの場合、本科目は重複して履修できない。

2018年度以降入学生	金融における最適化	P0717	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	金融における最適化	P717	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅱ	2単位	
担当教員	吉羽　要直		前期Ⅰ	土曜日	3、4時限	

①授業方針・テーマ	本講義では、金融実務において求められる最適化問題として、どのような問題があるかを整理したうえで、その解法について議論する。解法については、Pythonを中心とした計算ソフトウェアの利用により、実際に金融実務で生じることが多い具体的な最適化問題の解法に取り組む。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	金融実務で生じる様々な最適化の問題を数理的な問題として定式化するにはどうすればよいか。定式化した問題を実際に解くにはどうしたらよいのか。その背景や理論を学ぶとともに、実際に最適化ソフトウェアを用いて金融実務の問題に対処するための基礎的な技術を習得する。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 1．金融における最適化の諸問題：制約付き期待効用最大化など 2．Pythonのインストールの最適化ソフト 3．回帰分析：線形回帰とロジスティック回帰 4．線形計画法：定式化と単体法 5．線形計画法：緩和問題と双対定理 6．線形計画の実践 7．非線形計画問題：ポートフォリオ選択、判別分析、最尤推定 8．非線形計画法：最急降下法とニュートン法 9．制約付き非線形最適化：最適性の条件と双対定理 10. 制約付き非線形最適化の解法1：有効制約法、バリア関数法、拡張ラグランジュ法 11. 制約付き非線形最適化の解法2：内点法と逐次2次計画法 12. 近似解法と発見的解法 13. 非線形計画の実践 14. 資産価格付けと動的計画法 15. 整数計画と組合せ最適化 【授業方法】 金融実務で生じる最適化問題を整理したうえで、ExcelとPythonの利用を前提として、ソルバーやライブラリの利用で問題を解けるようにする。講義では最適化の数学的な考え方を解説したうえで、ソフトウェアの利用法にも言及する。金融に関連する実際の最適化問題を定式化し解くことを報告課題とする。
④授業外学習	Pythonと関連ライブラリ、Excelのソルバーを私用PCにインストールし、授業で扱われる問題・課題に自主的に取り組む。
⑤テキスト・参考書等	以下の参考書の扱われている問題のうち金融実務で用いることが多い問題を中心に扱う。理論面については適宜講義中に補足の参考文献を紹介する。 （参考書）Optimization Methods in Finance（Cornuejols, G. and Tutuncu,R., 2006, Cambridge University Press）、しっかり学ぶ数理最適化（梅谷俊治、2020、講談社）、最適化手法入門（寒野善博、2019、講談社）
⑥成績評価方法	課題・レポートの提出（70%）、講義における議論への貢献（30%）
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは特に設定しない。質問･相談等については、事前にメールで日程を調整のうえで、研究室04かオンライン会議で対応する。メールの宛先：tyoshiba@tmu.ac.jp
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	微分・積分（多変量の微分）、線形代数（行列演算）、確率論（確率分布、期待値演算）の基本的な知識を前提とする。講義の内容は、部分的に入れ替え・変更になることがある。

2018年度以降入学生	プログラミング基礎	P0712	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	プログラミング基礎	P712	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅰ	2単位	
担当教員	八木　恭子		前期Ⅱ	土曜日	1、2時限	

①授業方針・テーマ	まず、インタプリタ言語及び商用ソフトウエアの例としてMathematicaやPythonを採用し、プログラミング基礎に関する講義および演習を行う。次にコンパイラ言語の代表例としてC言語を採用し、プログラミング基礎に関する講義および演習を行う。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	MathematicaとPython、C言語の基礎を習得することを目的とする。それらを学ぶことで、他のプログラミング言語や商用ソフトウェアを効率的に学習・導入できるようになることが、授業の目標である。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 第1回　プログラミングとは インタプリタ型言語とコンパイラ型言語について説明し、これらの言語がファイナンスにおいてどのように用いられているかを講義する。また、開発環境と商用ソフトウェアについてその概要を解説する。 第2回　Mathematicaの基本と演習 インタプリタ型言語や商用ソフトウェアの例として数式処理ソフト Mathematica（Mathematica Online）を用いて、代数計算、微積分、グラフィックス、リスト、関数、数値積分、シミュレーション、最適化計算の演習を行う。 第3～4回　C言語によるプログラミングの基本とプログラムの流れの分岐と繰返し コンパイラ型言語の代表としてC言語を採用し、開発環境を準備する。のちに簡単なプログラムの実装とコンパイルを行う。 第5～6回　C言語における配列と関数 第7～8回　C言語における基本型といろいろなプログラム（関数形式マクロ・再帰・入出力・文字） 第9～10回　C言語におけるポインタと構造体 第11～12回　C言語における有効範囲とファイル処理 第13～14回　Pythonの基本と演習 インタプリタ型言語や商用ソフトウェアの例としてPythonを用いて、C言語で学んだ内容を実装する。 第15回　まとめ 【授業方法】 各項目の講義を行った後、演習を実施する。
④授業外学習	毎回の授業終了時に出す課題について、レポートを作成して提出すること。
⑤テキスト・参考書等	kibacoへアップロードするレジュメに沿って講義を行う。 参考書：柴田望洋著「新・明解C言語 入門編」（SBクリエイティブ 2014年）定価2530円 他にも講義中に適宜指示する。
⑥成績評価方法	数回のレポート課題で総合的に評価する。 ・レポート課題については、到達目標に基づき、プログラミング言語や商用ソフトウェアを効率的に学習・導入できているかを判断し、評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは特に設定しないが、質問等がある場合は事前にメールでアポイントメントをとること。【連絡先】kyagi@tmu.ac.jp
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	プログラミングに関する特別な予備知識は仮定しない。

2018年度以降入学生	金融時系列解析	P0719	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	金融時系列解析	P719	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅱ	2単位	
担当教員	林　高樹		後期	金曜日	6時限	

①授業方針・テーマ	・金融時系列解析の主要な概念や方法について学ぶ。 ・理論や方法を理解するだけでなく、実際のデータを分析する実践力を身につけることを目指す。 ・統計ソフトウェアとしてRを使用する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	・金融時系列解析の諸手法について理解を広げ、目的に応じたモデルや分析方法を選べるようになる。 ・自ら手を動かして、適切な手順で時系列解析を実践できるようになる。 ・分析内容に関する口頭や文書によるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力が向上する。
③授業計画・内容 授業方法	1．導入 時系列解析の基礎、金融時系列データの実証的特徴等。Rの時系列オブジェクト等。 2－6．線形時系列モデル 定常性、自己相関関数、白色ノイズ、ARMAモデル、単位根非定常性、ARIMAモデル、季節性モデル、時系列誤差を持つ回帰モデル、長期記憶モデル等。モデルの同定・推定・診断・予測。 7－8．非線形時系列モデル TARモデル、マルコフ・スイッチング・モデル等。 9－11．ボラティリティ・モデル 分散不均一性、ARCH/GARCHモデル、GARCHモデルの拡張、確率ボラティリティ・モデル等。 12－14．多変量時系列モデル クロス相関行列、VARモデル、Granger因果性、インパルス応答、見せかけの相関、共和分、誤差修正モデル。多変量GARCHモデル等。 15．課題プレゼンテーション、その他発展的内容 ※ 授業内容は、受講生の理解度等に応じて更新される可能性がある。 ※ 随時kibacoを参照し、授業内容や日程の変更、宿題の出題等に注意すること。 授業方法 ・講義とRによる実習を並行して授業を進める。授業内容の理解度を測定し、かつ理解を深めるために授業内容を踏まえた宿題を適宜出題する。
④授業外学習	・授業終了後、授業内容を講義資料や参考書等で復習するとともに、授業内で出題された宿題に取り組み、指定された期日までに提出すること。 ・授業の内容理解を深め、コミュニケーション能力を高めるために、クラスメートとの間で授業内容に関する不明点や疑問点は積極的に（Zoom等を利用して）話し合い、解消・解決に努めること。
⑤テキスト・参考書等	・講義資料は、授業内で適宜配布する。 ・参考書（必ずしも購入は必要ない） （1）Ruey S. Tsay. An Introduction to Analysis of Financial Data with R, Wiley, 2013. （2）Ruey S. Tsay. Multivariate Time Series Analysis:With R and Finacial Applications, Wiley, 2014.
⑥成績評価方法	・授業貢献（出席、発言等）10%、宿題30%、期末プレゼンテーション&レポート60% ・期末プレゼンテーション&レポートとして、データ分析課題（テーマ自由）を出題する。 ・期末プレゼンテーション&レポートは、目的と結果の整合性、内容の新規性、分析手法の選択の妥当性、分析手順の正確性、分析結果の解釈の的確性・客観性、結論の有用性・説得性、文章表現やプレゼンテーションの巧拙等を総合的に判断して評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	・質問・相談がある場合にはメールで対応する。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	（他の授業科目との関連性） ・前期「金融データサイエンス」を履修済であることが望ましい。

2018年度以降入学生	アルゴリズム取引	P0737	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	アルゴリズム取引	P737	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅱ	2単位	
担当教員	足立　高徳		前期	火曜日	5時限	

①授業方針・テーマ	本講義のテーマは、近年金融市場でのプレゼンスを増しているアルゴリズム取引である。投資や取引の微細構造を実務に沿って詳述しながら、数学モデルを積み重ね、実際の自動取引に必要な要素技術をひとつひとつ観ていく。数学的な完全さと実際の取引とのトレードオフという間（はざま）でどのように取引システムを設計・運用していくかについて解説する。金融取引の現場で、どのように数理的な技術が使われているかを学んでもらいたい。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	アルゴリズム取引で用いられる数理的なモデルや技術を習得する。 実際の取引の現場で注意すべき点を理解し、職務でも利用することを目標にする。
③授業計画・内容 授業方法	以下の内容を板書を中心に通常の講義形式で行う。また、適宜レポート課題を出す。 １．授業概観・アルゴリズム取引入門 ２－４．アルゴリズム取引と市場微細構造 ５－７．アルファの数理 ８．機械学習とアルファ ９－11．戦略の数理 12．アルゴリズム取引の将来 なお、適宜最新のトピックなども取り入れ内容を変更する可能性もある。
④授業外学習	与えられた課題（プログラミングを含む可能性あり）を着実にこなす。
⑤テキスト・参考書等	足立高徳「アルゴリズム取引」（朝倉書店、2018）
⑥成績評価方法	平常点と提出課題によって評価する。
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	不定。事前にメール（taka.adachi@tmu.ac.jp）にて予約すること。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	「確率解析」および「上級確率解析」を事前に履修していること。

2018年度以降入学生	ファイナンス特別講義 （証券市場の均衡分析）	P0722	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	ファイナンス特別講義 （証券市場の均衡分析）	P722	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅱ	2単位	
担当教員	原　千秋		後期	金曜日	5時限	

①授業方針・テーマ	本講義は、同じ担当者による前期開講科目「金融経済学」に引き続き、金融経済学の諸問題のうち、多期間モデル等、若干高度な内容を概観することを目的とする。ミクロ経済学と一般均衡理論の初等的な概念に触れつつ、不完備市場、平均分散分析、同値マルチンゲール測度等を解説する。均衡モデルの解釈や応用も随時紹介する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	証券市場の均衡モデルのうち、標準的だが若干複雑なモデルで証券価格とリスク配分を解く技法を習得することを目標とする。また、均衡分析から政策的含意を導く際の考え方を体得する。実務への応用のため、どのモデルがいかなる状況でもっとも良く当てはまるかを正しく理解することも重要である。
③授業計画・内容 授業方法	講義内容を以下の通りに計画しているが、実際の進度は受講生のバックグラウンドなどに応じて決める。 ① 消費に基づく証券価格付け ［シャープ比、マーケットポートフォリオなど］ ② 完備市場とパレート最適なリスク配分 ［完備市場におけるオプションの役割、線形リスク許容度のパレート最適配分など］ ③ 不完備市場における最適性 ［制約条件付き最適性、実質的完備市場、など］ ④ 平均分散分析 ［価格付けカーネル、確率的割引因子、など］ ⑤ 平均分散フロンティア ［平均分散フロンティアの導出、平均分散効率性、など］ ⑥ 資産価格形成モデル（CAPM） ［平均分散効用関数、正規分布に従う証券リターン、など］ ⑦ ファクターによる価格付け ［ファクター構造、価格付け誤差、など］ ⑧ 多期間証券市場モデルにおける均衡 ［フィルトレーション、効用最大化問題の定式化、など］ ⑨ 多期間モデルにおける裁定取引と正値線形関数による証券の価格付け ［一物一価の法則、線形価格付け、など］ ⑩ 動学的に完備な市場 ［二項モデルにおける動学的に完備な市場、パレート最適な均衡配分、など］ ⑪ 多期間モデルにおける証券価格の評価 ［多期間モデルにおける評価関数、ファイナンスの基本定理、など］ ⑫ 多期間モデルにおけるリスク中立的確率と価格付けカーネル ［リスク中立的確率の下での期待リターン、証券の評価額の幅、など］ ⑬ ポートフォリオ収益のマルチンゲール性 ［収益過程の定義、自己充足的ポートフォリオの収益、など］ ⑭ 多期間モデルにおける消費に基づく証券価格付け ［条件付き分散、時間に関して加法分離的な効用関数による価格付け、など］ ⑮ 多期間の資産価格形成モデル ［二次効用関数による価格付け、マーケットポートフォリオなど］ ［授業方法］ 授業内容に関連する数学的問題より成る宿題を毎週課す。受講生は問題を独力で解くことを試み、その解法を次週の講義で確認することが求められる。
④授業外学習	指定した教科書を授業前に読んでおくこと、また、授業では網羅しなかった証明の細部を授業後に確認すること。
⑤テキスト・参考書等	'Principles of Financial Economics' second edition, Stephen LeRoy and Werner, Cambridge University Pressと'Dynamic Asset Pricing Theory' third edition, Darrell Duffie, Princeton University Pressは、標準的参考書である。'Microeconomic Theory', Andreu Mas-Colell, Michael Whinston, Jerry Green, Oxford University Press, 'Microeconomic Foundations 1 : Choice and Competitive Markets$, David M. Kreps, および神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社は、ミクロ経済学（特に需要理論、期待効用、一般均衡理論）の標準的参考書である。Jean-Pierre Danthine, John B. Donaldson著、日本証券アナリスト協会編集、祝迫・可児・佐野・中田訳、ときわ総合サービス刊「現代フェナンス分析 投資価格理論」も、本講義の内容を網羅する有用な参考書である。
⑥成績評価方法	数理的な問題より成る、期末テストの点数に基づいて評価する予定である。受講生の適性や希望に応じて、期末テストは持ち帰り形式とする。場合によっては、宿題の点数を加味することもある。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	面談希望者は、授業終了後に直接その旨を告げること。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	前期開講の「金融経済学」を受講したことを前提として、講義は進められる。

2018年度以降入学生	ファイナンス特別講義 (Bloombergを活用した定量分析)	P0725	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	ファイナンス特別講義 (Bloombergを活用した定量分析)	P725	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅱ	2単位	
担当教員	内山　朋規、竹原　浩太、室町　幸雄		夏季集中	―	―	

①授業方針・テーマ	金融の実務において頻繁に使用されるBloombergの端末で、実際にデータにアクセスしながらさまざまな基本的テーマに関する演習を行う。金融実務では適切なデータへのアクセスと定量分析手法の選択が重要であり、広範な種類のデータを保有し、かつ広範な分析ツールを備えたBloombergがよく使われるが、その使い方は決して簡単ではない。そこで、エキスパートの指導のもと、自分で端末を操作しながらさまざまなテーマの演習を行うことで、データへのアクセス方法と定量分析手法の取り扱いに習熟する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	Bloombergの端末によるデータへのアクセスとデータ分析の具体的な手法を習得する。Bloomberg端末は実務における必須ツールの一つと位置付けられるもので、これをどの程度有効に活用できるかは実務家にとって重要な技能の一つである。端末の機能を十分に活用できるようになることは決して容易ではないが、基本的な機能を自分で使えるようになることを目指す。
③授業計画・内容 授業方法	毎回、1テーマごとに2コマ連続で講義を行う。前半に教員が理論的な説明を行い、後半にBloombergを用いた実習を行う。 1．債券 金利スワップ、アセットスワップ、Zスプレッド、OAS 2．物価連動債とインフレスワップ 物価連動債、インフレスワップ 3．クレジットデリバティブ クレジット・デフォルト・スワップ（CDS）、クレジットリンク債 4．オプションとインプライド・ボラティリティ 上場オプション、Blackモデル、Normalモデル、インプライド・ボラティリティ（IV） 5．スワップション Cap, Floor, スワップション、キャリブレーション 6．金利モデル Hull-Whiteモデル、Libor Market Model（LMM） 7．株式ポートフォリオ ポートフォリオの最適化、ファクターモデル、リスク管理、リターンの寄与度分解 8．VIX、バリアンススワップ モデルフリー・インプライド・ボラティリティ（MFIV）、ボラティリティ・デリバティブ
④授業外学習	毎回のテーマの基礎知識の予習と授業内容の復習は必須である。資料をもとに復習をすること。特に、演習課題に関する復習は必須である。
⑤テキスト・参考書等	講義前あるいは講義時に配布。
⑥成績評価方法	毎回の演習課題の内容で評価する。
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	集中講義のため、オフィスアワーは特に設定しない。必要があれば講義の前後の時間を使うこと。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	ファイナンス特別講義 （金融市場の先端的諸問題）	P0727	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	―	―	―	―	―	
担当教員	内山　朋規、芝田　隆志、室町　幸雄		後期	水曜日（隔週）	5、6時限	

①授業方針・テーマ	金融市場の拡大や金融実務の変化は急速であり、これに伴いファイナンスや金融工学の理論と実証に関する研究も日進月歩である。本講義では、毎回異なる専門家（実務家や研究者）を講師として招き、それぞれのテーマに関する先端的なトピックを学習する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	リスク管理や中央銀行の役割、金融監督、トレーディング、資産運用、企業金融など、金融市場における幅広いテーマに関する先端的な研究や実務の動向を習得する。
③授業計画・内容 授業方法	第1回は担当教員によるガイダンスで、第2回以降は毎回異なるテーマで専門家による講義（2コマ連続）を行う。詳細はガイダンス時に説明する。 1－2．ガイダンス／講義 3－4．講義 5－6．講義 7－8．講義 9－10．講義 11－12．講義 13－14．講義 15．まとめ、もしくは講義 講義のテーマは以下の中から選ぶ予定であるが、変更もありえる。 ・金融機関のリスク管理 ・バーゼル対応 ・中央銀行 ・金融監督 ・トレーディング（高頻度、アルゴなど） ・スマートベータ ・ESG投資 ・テキスト分析 ・集中清算機関 ・運用戦略（フィクスト・インカム） ・運用戦略（エクイティ） ・コモディティ ・企業金融 ・ETF ・LIBOR廃止
④授業外学習	各テーマの基礎的事項について下調べしておくことが望ましい。
⑤テキスト・参考書等	講義時に指示する。
⑥成績評価方法	授業への参加態度やレポートなどによる評価。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは特に設定しない。質問等は担当の専任教員へのメールで受け付ける。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	ファイナンス特別講義 （機械学習）	P0753	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	―	―	―	―	―	
担当教員	高橋　大志		後期	水曜日（隔週）	5、6時限	

①授業方針・テーマ	ファイナンスにおける機械学習に関するトピックを取り扱う。 講義においては、理論的な内容に加え、データ分析のための分析手法についても触れる予定である。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	本講義の目標は、ファイナンス理論および機械学習等の手法を用いて、データ等を利活用した分析ができるようになることである。
③授業計画・内容 授業方法	授業は講義およびデータ等を用いた実習を予定している。 内容： 1－2：機械学習概観 3－4：教師有学習1（Calssifier System、Naïve Bayes等） 5－6：教師有学習2（Support Vector Machine、評価方法等） 7－8：教師無学習1（階層的クラスタリング、非階層的クラスタリング等） 9－10：教師無学習2（主成分分析等） 11－12：機械学習応用1（アンサンブル学習、Random Forest等） 13－14：機械学習応用2（ニューラルネット、パーセプトロン、深層学習等） 15：まとめ ※状況、進度等により変更の可能性がある。
④授業外学習	授業の予習、復習および課題レポート等。
⑤テキスト・参考書等	必要に応じて講義中において指示を行う。
⑥成績評価方法	授業貢献およびレポート等により評価を行う。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	質問はメールにて受け付けます。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	ファイナンス特別講義 （ファイナンス数学）	P0752	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	―	―	―	―	―	
担当教員	今井　悠人*		前期Ⅰ	火曜日	5、6時限	

①授業方針・テーマ	ファイナンス分野において必要とされる必要最低限の数学に関する内容について紹介する。集合や関数といった基礎的な内容からはじめ、1変数の微分積分、多変数関数解析の基礎、線形代数の基礎について取り扱う。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ファイナンス分野で必要とされる数学の基礎を身につけることができる。
③授業計画・内容 授業方法	1．集合、関数 2．数列、極限、連続性 3．微係数、導関数、積・商・合成関数の微分 4．対数微分、高階導関数 5．l'Hôpitalの定理、Taylor展開 6．偏導関数、高次偏導関数、Taylorの定理、多変数関数の微分 7．不定積分、置換積分、部分積分 8．リーマン和、定積分、微積分の基本定理 9．連立方程式、行列の演算、逆行列 10. 行列の基本変形、行列式 11. 逆行列 12. 一次独立、階数 13. 固有値・固有ベクトル 14. 対角化と行列の分解 15. 期末試験・問題解説 上記を進行の目安とするが、進度に合わせて内容が前後することがある。
④授業外学習	講義中に指示する課題やレポート等に取り組むこと。
⑤テキスト・参考書等	講義中に適宜紹介する。
⑥成績評価方法	試験80%、平常点（授業態度・提出物の有無等）20%
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	講義時間前後及びメールにて受け付ける。メールアドレスは初回に伝える。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	ファイナンス分野において必要とされる必要最低限の数学に関する内容について紹介する。学部等において十分な知識を身につけている場合には受講する必要はないが、数学について苦手意識や知識が不足していると感じる場合には受講を勧める。

2018年度以降入学生	金融工学特別研究	P0568	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	金融工学特別講義	P548	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅱ	2単位	
担当教員	内山　朋規		前期	金曜日	4時限	

①授業方針・テーマ	本講義では、金融工学やファイナンスに関する最新の論文を輪読したり、学生自身の研究を発表する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	金融工学やファイナンスに関する知識・能力を習得する。到達目標は、最新の論文を輪読し、独創性に富んだ新しい論文を執筆できる能力を養うことにある。
③授業計画・内容 授業方法	毎回、出席者による報告
④授業外学習	論文輪読や研究報告・発表の準備
⑤テキスト・参考書等	特になし
⑥成績評価方法	毎回の報告内容と参加態度による総合評価
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	原則として木曜以外。在席時には随時、不在時にはメールで受け付ける。場所は丸の内サテライトキャンパス。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	ファイナンス・金融工学では、動学的かつ確率的な枠組みのもとで理論が展開されるため、確率過程や確率解析、統計などで相応のレベルの数学が必須である。例えば以下のテキストのレベルの数学を理解できることが求められる。 Darrell Duffie（2001）Dynamic Asset Pricing Theory, Third Ed., Princeton Univ Pr. ただし、講義では経済学的なインプリケーションを重視する。

2018年度以降入学生	金融工学特別演習	P0569	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	金融工学特別講義	P549	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅱ	2単位	
担当教員	内山　朋規		後期	金曜日	4時限	

①授業方針・テーマ	本講義では、金融工学やファイナンスに関する最新の論文を輪読したり、学生自身の研究を発表する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	金融工学やファイナンスに関する知識・能力を習得する。到達目標は、最新の論文を輪読し、独創性に富んだ新しい論文を執筆できる能力を養うことにある。
③授業計画・内容 授業方法	毎回、出席者による報告
④授業外学習	論文輪読や研究報告・発表の準備
⑤テキスト・参考書等	特になし
⑥成績評価方法	毎回の報告内容と参加態度による総合評価
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	原則として木曜以外。在席時には随時、不在時にはメールで受け付ける。場所は丸の内サテライトキャンパス。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	ファイナンス・金融工学では、動学的かつ確率的な枠組みのもとで理論が展開されるため、確率過程や確率解析、統計などで相応のレベルの数学が必須である。例えば以下のテキストのレベルの数学を理解できることが求められる。 Darrell Duffie（2001）Dynamic Asset Pricing Theory, Third Ed., Princeton Univ Pr. ただし、講義では経済学的なインプリケーションを重視する。

2018年度以降入学生	金融リスク特別研究	P0570	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	金融リスク特別講義	P511	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅱ	2単位	
担当教員	室町　幸雄		前期	金曜日	1時限	

①授業方針・テーマ	金融リスクの定量的評価に関する文献の輪読による基礎知識の習得
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	金融リスクの定量的評価に必要な基礎知識を習得し、実際に使えるようになることを目指す。
③授業計画・内容 授業方法	金融リスクの定量的評価に関する英語テキストの輪読を行う。毎回、担当者がテキストの内容を発表する。担当者は内容を吟味しながら読み進め、レジュメなどを使用しながら参加者に説明する。数式に関しては逐一追跡する。必要があれば、参考文献として他のテキストや論文も読み進める。発表者以外の参加者も、事前にテキストを一読し、疑問点を整理しておくこと。 使用するテキストは初回に参加者と話し合って決定する。ちなみに、以前使用していたテキストは、 McNeil, Frey, Embrechts, Quantitative Risk Management:Concepts, Techniques and Tools である。
④授業外学習	予習と復習は必須である。特に、発表担当者は入念な準備が必要である。
⑤テキスト・参考書等	初回に決定する。
⑥成績評価方法	講義への参加姿勢と内容の習得度をもとに評価する。
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	オフィスアワー：特に設定しない。メール（muromachi-yukio@tmu.ac.jp）で必ずアポイントメントをとること。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	数理的な面が強い講義になるので、参加者は基礎的な数学、統計学、ファイナンスの知識を習得していることが必要である。

2018年度以降入学生	金融リスク特別演習	P0571	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	金融リスク特別講義	P512	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材Ⅱ	2単位	
担当教員	室町　幸雄		後期	金曜日	1時限	

①授業方針・テーマ	金融リスクの定量的評価に関する文献の輪読による基礎知識の習得
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	金融リスクの定量的評価に必要な基礎知識を習得し、実際に使えるようになることを目指す。
③授業計画・内容 授業方法	金融リスクの定量的評価に関する英語テキストの輪読を行う。毎回、担当者がテキストの内容を発表する。担当者は内容を吟味しながら読み進め、レジュメなどを使用しながら参加者に説明する。数式に関しては逐一追跡する。必要があれば、参考文献として他のテキストや論文も読み進める。発表者以外の参加者も、事前にテキストを一読し、疑問点を整理しておくこと。 使用するテキストは初回に参加者と話し合って決定する。ちなみに、以前使用していたテキストは、 McNeil, Frey, Embrechts, Quantitative Risk Management:Concepts, Techniques and Tools である。 やや演習の色合いを強める。
④授業外学習	予習と復習は必須である。特に、発表担当者は入念な準備が必要である。
⑤テキスト・参考書等	初回に決定する。
⑥成績評価方法	講義への参加姿勢と内容の習得度をもとに評価する。
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	オフィスアワー：特に設定しない。メール（muromachi-yukio@tmu.ac.jp）で必ずアポイントメントをとること。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	数理的な面が強い講義になるので、参加者は基礎的な数学、統計学、ファイナンスの知識を習得していることが必要である。

2018年度以降入学生	ファイナンス演習	P0729	経営学C	経済学C	ファイナンス 必修	2 単位
2017年度以前入学生	ファイナンス演習	P729	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材 必修	2 単位	
担当教員	浅野　敬志、足立　高徳、内山　朋規、 芝田　隆志、竹原　浩太、室町　幸雄、 八木　恭子、吉羽　要直		後期	月曜日	5 時限	

①授業方針・テーマ	学生自らが興味関心のある問題の中から課題を設定し、検討内容を報告し、参加者と議論することを通して問題の解決を図る。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	問題の発見と解決の手順を経験的に学ぶ。この演習を経験することで、修士論文の研究の土台となる知識・能力を習得する。
③授業計画・内容 授業方法	[授業方法] 授業内容は参加者の発表とそれに関する議論であり、常に自発的な行動が求められる。 まず、関心のある話題の中から特に惹かれるものを選び、その件に関する調査（テキストや論文などを読む）を行い、現状（何がどこまでわかっていて、何がわかっていないか）を把握する。次に、現状をもとに、さらに何がわかれば有益か、何を知りたいかを考えて、問題を設定する。そしてそれぞれの問題に適した手法を選択し、解決を図る。また、他のメンバーの発表を聞き、議論に参加することにより、知見を広め、自身の問題の解決に役立てる。 具体的には以下を予定しているが、個々の参加者の関心のあるテーマや進捗状況、水準によって適宜、柔軟に変更する。なお、関心のある分野・手法に応じて適宜グループ分けを行うこともある。2020年度は、途中から 3 グループに分かれて行った。 第 1 回　オリエンテーション：本演習の説明、テーマ設定・サーベイ方法の説明 第 2 、3 回　テーマの設定：学生が関心のあるテーマについて発表し、参加者で議論し、テーマを決定 第 4 － 7 回　研究論文のサーベイ：テーマに沿った研究サーベイ 第 8 －11回　論文発表：選んだ論文を精読し、説明 第12回　整理：研究の進捗状況の説明、成果発表の準備。 第13－15回　発表：これまでの成果の発表 原則として、発表者は前日までに資料をkibacoにアップすること。
④授業外学習	上記の準備。毎回、入念な準備が必要である。
⑤テキスト・参考書等	全体としては特に設定しない。テーマに応じて都度指示する。
⑥成績評価方法	発表内容や取り組み姿勢などをみて総合的に評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは特に設定しない。メールで連絡すること。質問・相談等は各教員がそれぞれに対応する。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	ファイナンスプログラム一年次向けで、必修科目である。

2018年度以降入学生	ファイナンス考究	P0731	経営学C	経済学C	ファイナンス 必修	2 単位
2017年度以前入学生	ファイナンス考究	P731	高度専門職業人Ⅲ	高度金融人材 必修	2 単位	
担当教員	足立　高徳、内山　朋規、竹原　浩太、 室町　幸雄、八木　恭子、吉羽　要直		前期	金曜日	5 時限	

①授業方針・テーマ	本講義では、高度な金融専門人材としての金融理論の応用能力の向上、金融実務に応用可能な各種スキルの向上を図る目的で、複数の具体的かつ実務的な課題を設定し、その問題に対して様々な角度から考察を加え、適切な答えを探すケーススタディを行う。 講義では、投資運用、オプション理論、リスク管理、金融経済学などの分野において課題を設定し、考察を加える。研究成果の発表・討議を経て、最終発表、討議を行う。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	上記の 3 つの分野におけるこれまでの習得知識を再確認し、具体的な課題を解くことを通じて問題発見・解決能力の向上を促し、実務に応用可能なレベルでの知識活用のあり方を学ぶ。
③授業計画・内容 授業方法	授業方法： 講義では、特定分野（例：投資運用、オプション理論、リスク管理、金融経済学）における研究課題を予め設定し、複数のグループに分かれて各課題についてのグループ内でのディスカッションや各自の考察を通じて研究を深め、その成果をグループごとにまとめて発表し、質疑応答する。ただし、課題によっては個人で進めてもらう場合もある。 スケジュールは以下を予定しているが、個々の参加者の関心のあるテーマや進捗状況、水準によって適宜、柔軟に変更する。また、各ケースの回数も変更することがある。 各講義の主な内容： １．オリエンテーション、ケースAの説明、チーム編成 ２－４．中間発表（１）～（３） ５．最終発表 ６．ケースBの説明、チーム編成 ７－９．中間発表（１）～（３） 10. 最終発表 11. ケースCの説明、チーム編成 12−14. 中間発表（１）～（３） 15. 最終発表 ケースA, B, C に関しては、初回の講義までに連絡する。
④授業外学習	各講義で適宜事前の考察、ディスカッションを行っておくこと。入念な準備が必要である。特に、オンライン講義の場合、その場での臨機応変な対応が難しい可能性もあるので、より入念な準備が必要と考えてほしい。
⑤テキスト・参考書等	参考資料が必要な場合は、講義において適宜指定・配布する。
⑥成績評価方法	課題の発表内容・レポートの提出等（60%）、講義における議論への貢献（40%）
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	オフィスアワーは特に設定しないが、質問･相談等はメールあるいはオンラインで対応する。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	本科目は原則として二年次より履修可能となる、ファイナンスプログラムの必修科目である。 コロナ禍のためさまざまな変更がありうるので、kibaco を適宜参照してほしい。

Ⅲ 授 業 概 要
（博士後期課程）

2018年度以降入学生	経営学特殊研究		P0401	2単位
2017年度以前入学生	経営学特殊講義		P623	2単位
担当教員	桑田　耕太郎	前期	金曜日	5、6時限

①授業方針・テーマ	企業の戦略行動と組織のダイナミックな関係について研究する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	企業行動のダイナミクスを理解するための、組織の学習やイノベーションのメカニズムに関する基礎知識を習得し、理論的な論文を作成する能力の養成を目的とする。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画】 1．経営戦略、組織学習、イノベーション、サイエンス・イノベーションに関する基礎的文献、最近の先端研究に関する論文を輪読する。 2．参加者の研究テーマにそって、論文の執筆をおこなう。 【授業方法】 1．文献の輪読、ディスカッションを通じて、理解を深める。 2．参加者の論文執筆を促し、授業内で進捗状況を報告してもらい、それに対して指導を行う。 【授業外学習】 授業で取り上げる文献はもちろん、各自の研究テーマにそった文献の精読、論文執筆に必要なデータの収集・整理、論文の執筆をおこなうことが求められる。
④授業外学習	指定された文献を熟読するとともに、問題点や議論を必要とする論点をもって授業に参加すること。
⑤テキスト・参考書等	Academy of Management, Human Relations, Organization Scienceなど最先端の文献 組織学習、サイエンス・イノベーションに関する文献をそれぞれ取り上げる。
⑥成績評価方法	報告・ディスカッションを通じた授業への貢献と、論文の執筆状況によって評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	【オフィスアワー】メールにて事前にアポイントメントを取って下さい。質問等がある場合には、kkuwada@tmu.ac.jpにメールして下さい。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	経営戦略、経営組織に関する基礎科目を履修していることが望ましい。

2018年度以降入学生	経営学特殊演習		P0402	2単位
2017年度以前入学生	経営学特殊講義		P624	2単位
担当教員	桑田　耕太郎	後期	金曜日	5、6時限

①授業方針・テーマ	企業の戦略行動と組織のダイナミックな関係について研究する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	企業行動のダイナミクスを理解するための、組織の学習やイノベーションのメカニズムに関する基礎知識を習得し、理論的な論文を作成する能力の養成を目的とする。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画】 1．経営戦略、組織学習、イノベーション、サイエンス・イノベーションに関する基礎的文献、最近の先端研究に関する論文を輪読する。 2．参加者の研究テーマにそって、論文の執筆をおこなう。 【授業方法】 1．文献の輪読、ディスカッションを通じて、理解を深める。 2．参加者の論文執筆を促し、授業内で進捗状況を報告してもらい、それに対して指導を行う。 【授業外学習】 授業で取り上げる文献はもちろん、各自の研究テーマにそった文献の精読、論文執筆に必要なデータの収集・整理、論文の執筆をおこなうことが求められる。
④授業外学習	指定された文献を熟読するとともに、問題点や議論を必要とする論点をもって授業に参加すること。
⑤テキスト・参考書等	Academy of Management, Human Relations, Organization Scienceなど最先端の文献 組織学習、サイエンス・イノベーションに関する文献をそれぞれ取り上げる。
⑥成績評価方法	報告・ディスカッションを通じた授業への貢献と、論文の執筆状況によって評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	【オフィスアワー】メールにて事前にアポイントメントを取って下さい。質問等がある場合には、kkuwada@tmu.ac.jpにメールして下さい。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	経営戦略、経営組織に関する基礎科目を履修していることが望ましい。

2018年度以降入学生	組織理論特殊研究		P0403	2単位
2017年度以前入学生	組織理論特殊研究		P596	2単位
担当教員	高尾　義明	前期	火曜日	4時限

①授業方針・テーマ	組織理論・組織行動論を中心に、経営組織論の文献を講読する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営組織論の古典的文献を踏まえつつ、最新のジャーナルを講読することを通じて、古典と最新のリサーチ・クエスチョンの連続性／非連続性を理解するとともに、研究方法論の変化を把握することを本講義の目的とする。
③授業計画・内容 授業方法	経営組織論の古典的文献（たとえば、Simon[1997] など）を取り上げた後に、ジャーナル論文の講読に移る。講読する論文は受講生の研究テーマを踏まえて決定するが、Academy of Management Review/Journal、Organization Science、Journal of Organizational Behaviorなどの英文ジャーナル掲載論文を主に取り上げる。 【授業方法】文献の発表及びそれに基づくディスカッションによって授業が行われる。
④授業外学習	毎回、リーディング・アサイメント（講読文献）を精読して授業に臨むことが求められる。
⑤テキスト・参考書等	講読する文献及び参考書は都度指定する。
⑥成績評価方法	文献講読における発表（75%）及びディスカッションへの貢献（25%）をもとに総合的に評価する。
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	オフィスアワーは特に設定しないが、直接質問したい場合は随時受け付けるので、事前にメールでアポイントメントを取ること。 【連絡先】ytakao@tmu.ac.jp
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	組織理論特殊演習		P0404	2単位
2017年度以前入学生	組織理論特殊研究		P597	2単位
担当教員	高尾　義明	後期	火曜日	4時限

①授業方針・テーマ	組織理論・組織行動論を中心に、経営組織論の文献を講読する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営組織論の古典的文献を踏まえつつ、最新のジャーナルを講読することを通じて、古典と最新のリサーチ・クエスチョンの連続性／非連続性を理解するとともに、研究方法論の変化を把握することを本演習の目的とする。
③授業計画・内容 授業方法	講読する論文は受講生の研究テーマを踏まえて決定するが、Academy of Management Review/Journal、Organization Science、Journal of Organizational Behaviorなどの英文ジャーナル掲載論文を主に取り上げる。 【授業方法】文献の発表及びそれに基づくディスカッションによって授業が行われるが、ディスカッションを重視した授業となる。
④授業外学習	毎回、リーディング・アサイメント（講読文献）を精読して授業に臨むことが求められる。
⑤テキスト・参考書等	講読する文献及び参考書は都度指定する。
⑥成績評価方法	文献講読における発表（50%）及びディスカッションへの貢献（50%）をもとに総合的に評価する。
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	オフィスアワーは特に設定しないが、直接質問したい場合は随時受け付けるので、事前にメールでアポイントメントを取ること。 【連絡先】ytakao@tmu.ac.jp
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	意思決定特殊研究		P0407	2単位
2017年度以前入学生	組織理論特殊研究		P574	2単位
担当教員	長瀬　勝彦	前期	水曜日	2時限

①授業方針・テーマ	行動意思決定論に関する研究
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	行動意思決定論の主な概念と、そのそれぞれが導出された諸研究について深く理解し、また批判できるようになること。
③授業計画・内容 授業方法	文献講読を中心に進行する。
④授業外学習	次回の授業で扱う英語論文の要約とその論文への批判的なコメントを作成する。
⑤テキスト・参考書等	原則として行動意思決定論に関する英文の研究論文を使用する。
⑥成績評価方法	提出されたレポートや授業のディスカッションへの参加などで評価する。試験はおこなわない。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	原則として火曜6限をオフィスアワーに設定する。ただしメールもしくは授業前後の直接の申し出による予約制とする。メールでの質問も受け付ける。 【連絡先】nagase@tmu.ac.jp
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	修士レベルの行動意思決定論の知識があることを受講の条件とする。

2018年度以降入学生	意思決定特殊演習		P0408	2単位
2017年度以前入学生	組織理論特殊研究		P575	2単位
担当教員	長瀬　勝彦	後期	水曜日	2時限

①授業方針・テーマ	行動意思決定論に関する研究
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	行動意思決定論の主な概念と、そのそれぞれが導出された諸研究について深く理解し、また批判できるようになること。
③授業計画・内容 授業方法	文献講読を中心に進行する。
④授業外学習	次回の授業で扱う英語論文の要約とその論文への批判的なコメントを作成する。
⑤テキスト・参考書等	原則として行動意思決定論に関する英文の研究論文を使用する。
⑥成績評価方法	提出されたレポートや授業のディスカッションへの参加などで評価する。試験はおこなわない。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	原則として火曜6限をオフィスアワーに設定する。ただしメールもしくは授業前後の直接の申し出による予約制とする。メールでの質問も受け付ける。 【連絡先】nagase@tmu.ac.jp
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	修士レベルの行動意思決定論の知識があることを受講の条件とする。

2018年度以降入学生	ベンチャービジネス特殊研究		P0409	2単位
2017年度以前入学生	経営学特殊講義		P627	2単位
担当教員	高橋　勅徳	前期	金曜日	5、6時限

①授業方針・テーマ	企業家研究に基づいた研究論文を作成する上で必要な、理論的系譜と調査方法論について、必読文献の精読を通じて学んでいく。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営組織論、企業家研究に関する必読文献および先端的研究に関する知識と、これらの知見に基づいてフィールドワークを実践するための方法論について、学ぶことを目標とする。
③授業計画・内容 授業方法	授業内容 桑田・松嶋・高橋（編）『制度的企業家』の輪読および、論文執筆に向けた研究進捗の報告を中心に指導を行う。 授業計画 第1回　ガイダンス 第2回　『制度的企業家』第1章の輪読 第3回　『制度的企業家』第2章の輪読 第4回　『制度的企業家』第3章の輪読 第5回　『制度的企業家』第4章の輪読 第6回　『制度的企業家』第5章の輪読 第7回　研究進捗状況報告 第8回　『制度的企業家』第6章の輪読 第9回　『制度的企業家』第7章の輪読 第10回　『制度的企業家』第8章の輪読 第11回　『制度的企業家』第9章の輪読 第12回　『制度的企業家』第10章の輪読 第13回　『制度的企業家』第11章の輪読 第14回　『制度的企業家』第12章の輪読 第15回　研究進捗状況報告 授業外学習 各回の課題テキストを当日までに熟読すること。 輪読の担当者は、1時間程度の報告レジュメを用意すること。
④授業外学習	受講生は各講義で指定されたテキストの熟読とA4用紙2頁のレジュメを作成して講義に臨むこと。
⑤テキスト・参考書等	テキスト・参考書については桑田・松嶋・高橋（編）『制度的企業家』、および必要に応じてその都度指定する。
⑥成績評価方法	授業への出席 30%、報告プレゼンの完成度 30%、期末レポート 40%の割合で評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーについては、misanori@tmu.ac.jpに連絡の上、スケジュールを調整し随時受け付ける。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	特になし

2018年度以降入学生	ベンチャービジネス特殊演習		P0410	2単位
2017年度以前入学生	経営学特殊講義		P628	2単位
担当教員	高橋　勅徳	後期	金曜日	5、6時限

①授業方針・テーマ	企業家研究に基づいた研究論文を作成する上で必要な、理論的系譜と調査方法論について、必読文献の精読を通じて学んでいく。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営組織論、企業家研究に関する必読文献および先端的研究に関する知識と、これらの知見に基づいてフィールドワークを実践するための方法論について，学ぶことを目標とする。
③授業計画・内容 授業方法	授業内容 バーニー・G. グレイザー・アンセルム・L. ストラウス（著）『データ対話型理論の発見―調査からいかに理論をうみだすか』の輪読および、論文作成に向けた研究進捗報告を行う。 授業計画 第1回　ガイダンス 第2回　『データ対話型理論の発見―調査からいかに理論をうみだすか』第1章の輪読 第3回　『データ対話型理論の発見―調査からいかに理論をうみだすか』第2章の輪読 第4回　『データ対話型理論の発見―調査からいかに理論をうみだすか』第3章の輪読 第5回　『データ対話型理論の発見―調査からいかに理論をうみだすか』第4章の輪読 第6回　『データ対話型理論の発見―調査からいかに理論をうみだすか』第5章の輪読 第7回　研究進捗状況報告 第8回　『データ対話型理論の発見―調査からいかに理論をうみだすか』第6章の輪読 第9回　『データ対話型理論の発見―調査からいかに理論をうみだすか』第7章の輪読 第10回　『データ対話型理論の発見―調査からいかに理論をうみだすか』第8章の輪読 第11回　『データ対話型理論の発見―調査からいかに理論をうみだすか』第9章の輪読 第12回　『データ対話型理論の発見―調査からいかに理論をうみだすか』第10章の輪読 第13回　『データ対話型理論の発見―調査からいかに理論をうみだすか』第11章の輪読 第14回　研究進捗状況報告 第15回　研究進捗状況報告 授業外学習 各回の課題テキストを当日までに熟読すること。 輪読の担当者は、1時間程度の報告レジュメを用意すること。
④授業外学習	テキストで指定された章を熟読し、A4用紙2頁程度のレジュメを作成して講義に臨むこと。
⑤テキスト・参考書等	バーニー・G. グレイザー・アンセルム・L. ストラウス（著）『データ対話型理論の発見―調査からいかに理論をうみだすか』および、必要に応じてその都度指定する。
⑥成績評価方法	授業への出席30%、報告プレゼンの完成度30%、期末レポート40%の割合で評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーについては、misanori@tmu.ac.jpに連絡の上、スケジュールを調整し随時受け付ける。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	特になし

2018年度以降入学生	経営戦略特殊研究		P0411	2単位
2017年度以前入学生	経営戦略特殊研究		P673	2単位
担当教員	竹田　陽子	前期	火曜日	3時限

①授業方針・テーマ	経営学の理論構築とリサーチデザイン、論文作成の方法を学ぶ。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	研究方法論を理論構築からリサーチデザインまで身につけ、本格的な学術研究のための研究計画書作成ができるようになる。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・授業方法】 受講者と相談の上設定した研究課題について、文献精査、レビュー論文（小レポート）の作成、リサーチデザイン、研究計画書作成までのプロセスを実習する。
④授業外学習	文献レビュー、実証研究の実施（プリテストなど）、レポート執筆に毎週精力的にとりくむ必要がある。 受講者の学位論文作成プロセスとできうる限りシナジーを効かせてよい。
⑤テキスト・参考書等	授業中に紹介する
⑥成績評価方法	授業貢献50%、期末レポート（研究計画書）50%
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは特に設定しませんが、質問等はメール（ytakeda@tmu.ac.jp）で受けつけます。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	経営学の修士号を保持していない受講者は、修士レベルの経営戦略と経営組織に関する授業、学部レベルのミクロ経済学、統計学に関する授業を履修していることを前提とする。

2018年度以降入学生	経営戦略特殊演習		P0412	2単位
2017年度以前入学生	経営戦略特殊研究		P674	2単位
担当教員	竹田　陽子	後期	火曜日	2時限

①授業方針・テーマ	経営学の理論構築とリサーチデザインについて学び、実証研究を実施しながら論文作成の方法を学ぶ。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	研究方法論を理論構築から実証研究実施まで身につけ、本格的な学術論文作成ができるようになる。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・授業方法】 受講者と相談の上設定した研究課題について、文献精査、リサーチデザイン、実証研究実施、論文作成までのプロセスを実習する。
④授業外学習	文献レビュー、実証研究の実施、論文執筆に毎週精力的にとりくむ必要がある。 受講者の学位論文作成プロセスとできうる限りシナジーを効かせてよい。
⑤テキスト・参考書等	授業中に紹介する
⑥成績評価方法	授業貢献50%、期末レポート（ワーキングペーパー）50%
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは特に設定しませんが、質問等はメール（ytakeda@tmu.ac.jp）で受けつけます。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	経営学の修士号を保持していない受講者は、修士レベルの経営戦略と経営組織に関する授業、学部レベルのミクロ経済学、統計学に関する授業を履修していることを前提とする。

2018年度以降入学生	経営戦略特殊研究		P0413	2単位
2017年度以前入学生	経営戦略特殊研究		P469	2単位
担当教員	松田　千恵子	前期	土曜日	1時限

①授業方針・テーマ	本講義は、研究手法の理解、および学会等における研究内容発表の推進に重点を置きながら進められる。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	受講者の積極的な参加によって、経営戦略、財務戦略を中心とした経営学分野における研究を深め、学会等での研究発表や学会誌への論文投稿など具体的な活動を行っていくための知見を身に付けることを目的とする。
③授業計画・内容 授業方法	＜事業計画＞ 受講者の関心に合わせて決定する。 ＜授業方法＞ 毎回、事前に定められた内容に関し、講義、発表、ディスカッション等を行う。
④授業外学習	各自の研究計画を主体的に進めていくことが求められる。学会等における研究内容発表についても奨励する。
⑤テキスト・参考書等	講義中に適宜指示する。
⑥成績評価方法	講義への積極的な参加、ディスカッション等への貢献を総合的に評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	授業前後の時間、メール等の活用いずれも可。事前にメールでのアポイントを取得することにより、随時面談も受け付ける。オンラインでの面談等も行う。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	丸の内サテライトオフィスにて開講予定である。オンラインの活用も行う。

2018年度以降入学生	経営戦略特殊演習		P0414	2単位
2017年度以前入学生	経営戦略特殊研究		P470	2単位
担当教員	松田　千恵子	後期	土曜日	1時限

①授業方針・テーマ	本講義は、研究手法の理解、および学会等における研究内容発表の推進に重点を置きながら進められる。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	受講者の積極的な参加によって、経営戦略、財務戦略を中心とした経営学分野における研究を深め、学会等での研究発表や学会誌への論文投稿など具体的な活動を行っていくための知見を身に付けることを目的とする。
③授業計画・内容 授業方法	＜事業計画＞ 受講者の関心に合わせて決定する。 ＜授業方法＞ 毎回、事前に定められた内容に関し、講義、発表、ディスカッション等を行う。
④授業外学習	各自の研究計画を主体的に進めていくことが求められる。学会等における研究内容発表についても奨励する。
⑤テキスト・参考書等	講義中に適宜指示する。
⑥成績評価方法	講義への積極的な参加、ディスカッション等への貢献を総合的に評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	授業前後の時間、メール等の活用いずれも可。事前にメールでのアポイントを取得することにより、随時面談も受け付ける。オンラインでの面談等も行う。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	丸の内サテライトオフィスにて開講予定である。オンライン活用も行う。

2018年度以降入学生	マーケティング・サイエンス特殊研究		P0419	2単位
2017年度以前入学生	マーケティング・サイエンス特殊研究		P582	2単位
担当教員	中山　厚穂	前期	木曜日	3時限

①授業方針・テーマ	現在の情報社会において、求められている能力の一つは、データの背後に存在している関係や傾向を読み解くための分析力です。特に、客観的なデータにもとづいた分析力がグローバルで情報があふれる社会において重要視されています。よって、本講義では、市場におけるマーケティング現象を理解するための代表的なモデルと、マーケティング意思決定に利用される方法論について学び、効果的な意思決定を行うための方法を身につけることを目指します。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	事例と例題通じて、どのように各手法がSTP戦略やマーケティング・ミックスなどを立案するために活用されるのかについて体験することを目標とします。また、講義を通じて、市場におけるマーケティング現象をどのように読み解くことができるのかということについての理解を深めるとともに、データ分析を通じて客観性をもって論証するための数学的な論証能力を身につけることを目標とします。
③授業計画・内容 授業方法	第1回　ガイダンス：マーケティング・サイエンスとは 第2回　市場反応分析とは1：散布図と相関係数（入門） 第3回　市場反応分析とは1：散布図と相関係数（応用） 第4回　市場反応分析とは1：散布図と相関係数（実習） 第5回　市場反応分析とは2：単回帰分析（入門） 第6回　市場反応分析とは2：単回帰分析（応用） 第7回　市場反応分析とは2：単回帰分析（実習） 第8回　市場反応分析とは3：回帰分析（入門） 第9回　市場反応分析とは3：回帰分析（応用） 第10回　市場反応分析とは3：回帰分析（実習） 第11回　市場反応分析とは4：非集計データの分析（入門） 第12回　市場反応分析とは4：非集計データの分析（応用） 第13回　市場反応分析とは4：非集計データの分析（実習） 第14回　市場反応分析：総括 第15回　まとめ
④授業外学習	講義での実習のための準備、実習課題、レポート課題を適宜設定する予定である。
⑤テキスト・参考書等	【テキスト】 ［1］島崎哲彦（編著）・中山厚穂（著）・大竹延幸（著）・鈴木芳雄（著）「マーケティング・リサーチに従事する人のためのデータ分析・解析法」学文社、2020。 ［2］照井伸彦・佐藤忠彦「現代マーケティング・リサーチ－市場を読み解くデータ分析」有斐閣、2013。 【参考文献】 ［1］朝野熙彦「入門多変量解析の実際」、講談社サイエンティフィク、2000。 ［2］古川一郎・守口剛・阿部誠「マーケティング·サイエンス入門」有斐閣アルマ、2011。 ［3］豊田裕貴「ポジショニングの理論と実践」講談社、2013。
⑥成績評価方法	講義への出席、発表の内容、討論への参加程度、研究レポートにより評価します。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	毎週、木曜日12：00～13：00をオフィスアワーに設定するので、質問等があれば事前にメールでアポイントメントをとるようにして下さい。これ以外の時間帯に担当教員に会いたい場合も同様に事前にメールでアポイントメントをとって下さい。またメールによる質問も随時受け付けます。 連絡先：atsuho@tmu.ac.jp
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	履修にあたっては、高校レベルの数学と学部教養レベルの統計学についての基礎知識が前提知識として必要になります。

2018年度以降入学生	マーケティング・サイエンス特殊演習		P0420	2単位
2017年度以前入学生	マーケティング・サイエンス特殊研究		P583	2単位
担当教員	中山　厚穂	後期	木曜日	3時限

①授業方針・テーマ	現在の情報社会において、求められている能力の一つは、データの背後に存在している関係や傾向を読み解くための分析力です。特に、客観的なデータにもとづいた分析力がグローバルで情報があふれる社会において重要視されています。よって、本講義では、市場におけるマーケティング現象を理解するための代表的なモデルと、マーケティング意思決定に利用される方法論について学び、効果的な意思決定を行うための方法を身につけることを目指します。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	事例と例題通じて、どのように各手法がSTP戦略やマーケティング・ミックスなどを立案するために活用されるのかについて体験することを目標とします。また、講義を通じて、市場におけるマーケティング現象をどのように読み解くことができるのかということについての理解を深めるとともに、データ分析を通じて客観性をもって論証するための数学的な論証能力を身につけることを目標とします。
③授業計画・内容 授業方法	第1回　ガイダンス：マーケティング・サイエンスとは 第2回　データ解析の基礎1（視覚化と計量化） 第3回　データ解析の基礎2（散布図と相関係数） 第4回　データ解析の基礎3（実習） 第5回　市場反応分析 第6回　市場反応分析（回帰モデル） 第7回　市場反応分析（回帰モデル）の実習1 第8回　市場反応分析（回帰モデル）の実習2 第9回　市場セグメンテーションとは 第10回　市場セグメンテーション（クラスター分析）の実習1 第11回　市場セグメンテーション（クラスター分析）の実習2 第12回　市場の発見と知覚マップとは 第13回　市場の発見と知覚マップ（因子分析）の実習1 第14回　市場の発見と知覚マップ（因子分析）の実習2 第15回　まとめ 実習では、フリーの統計ソフトウェアRを用いた演習と、分析結果についてのディスカッションを行う予定です。
④授業外学習	講義での実習のための準備、実習課題、レポート課題を適宜設定する予定である。
⑤テキスト・参考書等	【テキスト】 島崎哲彦（編著）・日本マーケティング・リサーチ協会（監修）・中山厚穂・大竹延幸・鈴木芳雄（著）「マーケティング・リサーチに従事する人のためのデータ分析・解析法」学文社、2020。 【参考文献】 ［1］照井伸彦・佐藤忠彦「現代マーケティング・リサーチ－市場を読み解くデータ分析」有斐閣、2013。 ［2］朝野熙彦「入門多変量解析の実際」、講談社サイエンティフィク、2000。 ［3］古川一郎・守口剛・阿部誠「マーケティング·サイエンス入門」有斐閣アルマ、2011。
⑥成績評価方法	講義への出席、発表の内容、討論への参加程度、研究レポートにより評価します。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	毎週、木曜日12：00～13：00をオフィスアワーに設定するので、質問等があれば事前にメールでアポイントメントをとるようにして下さい。これ以外の時間帯に担当教員に会いたい場合も同様に事前にメールでアポイントメントをとって下さい。またメールによる質問も随時受け付けます。 連絡先：atsuho@tmu.ac.jp
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	履修にあたっては、高校レベルの数学と学部教養レベルの統計学についての基礎知識が前提知識として必要になります。

2018年度以降入学生	テクノロジー・マネジメント特殊研究		P0415	2単位
2017年度以前入学生	経営戦略特殊研究		P639	2単位
担当教員	松尾　隆	前期	土曜日	1時限

①授業方針・テーマ	技術戦略に関する最新の理論文献を輪読する
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	技術戦略の新しい展開に関する理解を深め、自らの研究の指針とする。
③授業計画・内容 授業方法	毎回、文献を指定して、それを輪読し、参加者で検討する。 主にStrategic Management Journal等の論文雑誌から課題文献を選択する。 （事前に文献を精読することが必要となる）
④授業外学習	課題論文を読み、論点をまとめてくること
⑤テキスト・参考書等	別途指示する。
⑥成績評価方法	講義への参加、課題への取組、講義中の発言などにより評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	講義の前後、またはメールでアポイントをとること
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	特になし

2018年度以降入学生	テクノロジー・マネジメント特殊演習		P0416	2単位
2017年度以前入学生	経営戦略特殊研究		P640	2単位
担当教員	松尾　隆	後期	土曜日	1時限

①授業方針・テーマ	技術戦略に関する最新の理論文献を輪読する
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	技術戦略の新しい展開に関する理解を深め、自らの研究の指針とする。
③授業計画・内容 授業方法	毎回、文献を指定して、それを輪読し、参加者で検討する。 主にStrategic Management Journal等の論文雑誌から課題文献を選択する。 （事前に文献を精読することが必要となる） 参加者の興味に応じたテーマで文献サーベイを行う
④授業外学習	論文を読み、論点をまとめてくること
⑤テキスト・参考書等	別途指示する。
⑥成績評価方法	講義への参加、課題への取組、講義中の発言などにより評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	講義の前後、またはメールでアポイントメントをとること
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	特に無し

2018年度以降入学生	マーケティング特殊研究		P0417	2単位
2017年度以前入学生	組織理論特殊研究		P600	2単位
担当教員	水越　康介	前期	水曜日	2時限
①授業方針・テーマ	マーケティング論、マーケティング方法論			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	マーケティング論の理論体系の習得			
③授業計画・内容 授業方法	マーケティング論に関する専門書、研究論文の精読、および批判的考察			
④授業外学習	予習、復習、レポート作成など			
⑤テキスト・参考書等	授業内に適宜指示			
⑥成績評価方法	授業態度および試験			
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	授業中に提示するメールアドレスに連絡をし、予約をとること			
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）				

2018年度以降入学生	マーケティング特殊演習		P0418	2単位
2017年度以前入学生	組織理論特殊研究		P601	2単位
担当教員	水越　康介	後期	水曜日	2時限
①授業方針・テーマ	マーケティング論、マーケティング方法論			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	マーケティング論の理論体系の習得			
③授業計画・内容 授業方法	マーケティング論に関する専門書、研究論文の精読、および批判的考察			
④授業外学習	予習、復習、レポート作成など			
⑤テキスト・参考書等	授業内に適宜指示			
⑥成績評価方法	授業態度および試験			
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	授業中に提示するメールアドレスに連絡をし、予約をとること			
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）				

2018年度以降入学生	統計学特殊研究		P0421	2単位
2017年度以前入学生	統計学特殊研究		P570	2単位
担当教員	森　治憲	前期	金曜日	2時限

①授業方針・テーマ	数理統計学の理論とその応用
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	数理統計学の理論と、そこで学習する様々な手法を現実の問題に応用する能力。
③授業計画・内容 授業方法	数理統計学に関する専門書の輪読が中心となる。ただし、必要に応じて講義も行う。
④授業外学習	毎回の復習は必須である。発表者が予習をするのは当然だが、担当になっていない受講者も予習をすることが望ましい。
⑤テキスト・参考書等	一回目の授業で受講者と相談して決める。
⑥成績評価方法	出席状況と授業での発表内容を総合的に評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	質問は授業終了後に受け付けます。金曜日5時限をオフィスアワーとする。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	本講座は統計学の入門ではない。学部レベルの統計学の知識を有していることが前提である。

2018年度以降入学生	統計学特殊演習		P0422	2単位
2017年度以前入学生	統計学特殊研究		P571	2単位
担当教員	森　治憲	後期	金曜日	2時限

①授業方針・テーマ	数理統計学の理論とその応用
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	数理統計学の理論と、そこで学習する様々な手法を現実の問題に応用する能力。
③授業計画・内容 授業方法	数理統計学の文献を輪読する。
④授業外学習	毎回の復習は必須である。発表者が予習をするのは当然だが、担当になっていない受講者も予習をすることが望ましい。
⑤テキスト・参考書等	一回目の授業で受講者と相談して決める。
⑥成績評価方法	出席状況と授業での発表内容を総合的に評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	質問は授業終了後に受け付けます。金曜日5時限をオフィスアワーとする。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	本講座は統計学の入門ではない。学部レベルの統計学の知識を有していることが前提である。

2018年度以降入学生	経営科学特殊研究		P0423	2単位
2017年度以前入学生	経営科学特殊研究		P590	2単位
担当教員	山下　英明	前期	水曜日	3時限

①授業方針・テーマ	待ち行列は、あるサービスに対して客が待つ現象で、店舗・病院でのサービスだけでなく、工場の生産ライン、情報ネットワーク、道路交通等でも発生する。待ち行列理論は、待ち行列を確率論に基づいた数理モデルとして表し、待ち時間等の特性を解明する理論である。本講義では、テキストの理論展開、証明等をフォローすることにより、待ち行列理論やその計算手法を理解するとともに、実際の待ち行列現象のモデル化についても学ぶ。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	待ち行列理論の学習を通して、論理的思考力を養うとともに、確率モデルを本質的に理解し、解析する能力を身につける。 実際の待ち行列現象のモデル化を通して、不確定な要因を含むシステムに対する問題解決能力を養う。 テキストの内容をわかり易く発表し、質問に対して的確に回答することにより、コミュニケーション能力を身につける。
③授業計画・内容 授業方法	第1回～第11回　反転授業 授業時間内では、前もって学習してきたテキストの内容についての質問に対し、教員が回答することによって理解を深める。講義内容に関する課題について解答を導く時間も設ける。授業時間後には、授業で学習した方法についての演習問題を解き、次の授業において解答を確認し、理解を深める。 1．イントロダクション、待ち行列モデル 2．リトルの公式 3．再生過程 4．確率過程 5．出生死滅過程 6．M/M/1待ち行列モデル 7．離散マルコフ連鎖 8．相型分布を用いた待ち行列モデル 9．準出生死滅過程 10．待ち行列ネットワーク 11．非マルコフモデル 第12回～第13回　学生発表中心の授業 テキストにある実際のシステムの解析例について発表し、討論する。 ハンバーガーショップの待ち行列モデル かんばん方式による在庫管理 コールセンターのリソース設定 無線LANの性能評価
④授業外学習	反転授業では、授業前にテキストを熟読し、理解できなかった点を明確にして授業に出席する。 毎回、授業で学習した解法についての演習問題を課す。このうち、2週間に1度程度提出を義務づける。 学生発表中心の授業では、テキストの内容を理解し、分かり易く発表する準備を行う。
⑤テキスト・参考書等	テキスト：塩田茂雄他『待ち行列理論の基礎と応用』共立出版（2014） 参 考 書：尾崎敏治『確率モデル入門』朝倉書店（1996） 森雅夫、宮沢政清他『オペレーションズ・リサーチⅡ』朝倉書店（1989） 森雅夫、松井知己『オペレーションズ・リサーチ』朝倉書店（2004） 尾崎俊治『確率モデル入門』朝倉書店 1996。 L.クラインロック（手塚慶一他訳）『待ち行列システム理論（上下）』マグロウヒル好学社 1978。 豊田秀樹『マルコフ連鎖モンテカルロ法』朝倉書店 2008。 牧本直樹『ビジネスへの確率モデルアプローチ』朝倉書店 2006。 宮沢政清、『確率と確率過程』近代科学社 1993。
⑥成績評価方法	授業での質疑応答、授業中の発表、課題によって評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	授業内容の質問については、まず質問者がメールで教員に連絡し、必要があれば教員が面談の日時を質問者と相談の上設定する方式をとる。 【連絡先】hideak@tmu.ac.jp
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	初歩的な確率過程論を修得していることが必要である。

2018年度以降入学生	経営科学特殊演習		P0424	2単位
2017年度以前入学生	経営科学特殊研究		P591	2単位
担当教員	山下　英明	後期	水曜日	3時限

①授業方針・テーマ	この講義では、経営科学、オペレーションズ・リサーチの簡単な事例や最近の事例研究をサーベイし、経営科学が実社会にどのように役立っているかを学習することを目的とする。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営科学の理論的解析について本質的に理解し、論理的思考力を身につける。 経営戦略を科学的に決定することの理解を深め、実際の問題を確率モデルにモデル化し、総合的問題思考力を身につける。 テキストの内容をわかり易く発表し、質問に対して的確に回答することにより、コミュニケーション能力を身につける。
③授業計画・内容 授業方法	第1回～第14回 上記の目的で選定した解説記事、研究論文などを受講生に割り当て、授業中は受講生各自がその内容について解説する輪読方式を採用する。 （1）総論、待ち行列窓口の最適サービス配分 （2）線形計画問題：物資の輸送を例として 発見的解法：収集/配送経路問題への適用 （3）最適配置の理論：都市施設の場所について グラフ・ネットワーク・OR （4）大規模施設の混雑現象 （5）生産システムにおけるさまざまな待ち （6）キャッシュのモデル化とその応用 （7）待ち行列理論の応用：コールセンター （8）ゲーム理論を用いたねじれ国会分析 （9）DEAを用いたプロ野球投手の評価 (10) 大学業務におけるシフトスケジューリング (11) 機関車の基地内留置計画 (12) 鉄道の通勤利用モデルと混雑緩和策 (13) 列車ダイヤ乱れ時の再スケジューリングアルゴリズム (14) 施設容量を考慮した救急医療施設の最適配置 第15回　学生発表の授業 各自が実際の問題を経営科学の手法を用いて分析することを想定しモデル化を行い、 その内容を発表し、討論する。
④授業外学習	割り当てられた解説記事の発表を準備するとともに、他の受講生が発表する記事についてはあらかじめ熟読し、不明な部分を明らかにしておくことが求められる。
⑤テキスト・参考書等	テキスト：上記の解説記事、研究論文を教材として用いる。出典は以下の通り。 （2）～（3）、（7）～（10）：オペレーションズ・リサーチ、vol.54、no.12、2009。 （4）～（6）：オペレーションズ・リサーチ、vol.49、no.7、2004。 (11)：オペレーションズ・リサーチ、vol.55、no.2、2010。 参 考 書：高井英造､真鍋龍太郎『問題解決のためのオペレーションズ・リサーチ入門』日本評論社 2000。 高橋幸雄、森村英典『混雑と待ち』朝倉書店 2001。 福島雅夫『数理計画入門』朝倉書店 1996。 伏見正則『確率と確率過程』朝倉書店 2004。 牧本直樹『ビジネスへの確率モデルアプローチ』朝倉書店 2006。 森雅夫、松井知己『オペレーションズ・リサーチ』朝倉出版 2004。 森雅夫、宮沢政清他『オペレーションズ・リサーチⅡ 意思決定モデル』朝倉書店 1989。 森雅夫、森戸晋他『オペレーションズ・リサーチⅠ 数理計画モデル』朝倉書店 1991。 森戸晋、逆瀬川浩『システムシミュレーション』朝倉書店 2000。
⑥成績評価方法	授業での質疑応答、授業中の発表、課題によって評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	授業内容の質問については、まず質問者がメールで教員に連絡し、必要があれば教員が面談の日時を質問者と相談の上設定する方式をとる。Zoomでの面談にも対応します。 【連絡先】hideak@tmu.ac.jp
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	初歩的な確率過程論を修得していることが必要である。

2018年度以降入学生	経営科学特殊研究		P0425	2単位
2017年度以前入学生	経営科学特殊研究		P659	2単位
担当教員	増山　博之	前期	金曜日	3時限

①授業方針・テーマ	この講義では、マルコフ解析について学習する。マルコフ解析は、経営科学や工学の諸分野に渡る幅広い応用をもつ。例えば、マルコフ連鎖の定常分布に関する理論と数値計算法は、サービスシステム、情報通信システム、在庫システム、生産システムといった不確実性システムの時間平均的な性能評価に利用される。また、極限分布への収束速度に関する理論は、遺伝的アルゴリズムや、シミュレーティッド・アニーリング、機械学習などで用いられるMCMC法といった、確率的アルゴリズムの性能解析に用いられる。他にも、グループを構成するヒト・モノ・情報に関する「重要度」や「序列」の定量化にもマルコフ連鎖の理論が応用されている。具体例としては、広告の貢献度分析、ランキング（Googleページランク）などが挙げられる。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	マルコフモデリングによる理論解析と性能評価指標の数値計算法について理解を深め、不確実性を考慮した意思決定やシステムの性能評価への応用力を習得する。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 学生の興味を考慮し、以下のテーマに関するテキストを選定する。 ・構造化マルコフ連鎖の解析と数値計算法 ・マルコフ連鎖を中心とする確率過程論 ・マルコフ解析とその応用 【授業方法】 マルコフ連鎖や関連する確率モデルのテキストあるいは論文を輪読し、数式の導出過程、定理の証明、応用例について議論する。また、適宜、テキストの章末問題などを課題とし、理解の確認と知識の定着を図る。
④授業外学習	発表者は、輪読における担当箇所を予習して内容を整理するだけなく、適宜、参考書や論文などを参照し、予備知識も含めてレジュメを作成することが求められる。特に、数式の導出過程、および証明の「行間」を埋める補足説明の記載は必須である。他の受講生も、テキストの内容を予習し、理解できなかった点を事前に整理しておく必要がある。また、すべての受講生は授業の後、輪読した内容の復習に加え、議論の結果得られた知見について整理し、検討することが望まれる。
⑤テキスト・参考書等	・G. Latouche and V. Ramaswami,“Introduction to Matrix Analytic Methods in Stochastic Modeling,”ASA-SIAM, 1999. ・Dario A. Bini and Guy Latouche,“Numerical Methods for Structured Markov Chains,”Oxford Science Publications, 2005 ・Pierre Bremaud,“Markov Chains: Gibbs Fields, Monte Carlo Simulation and Queues,” 2nd ed., Springer, 2020 ・森村英典・高橋幸雄「マルコフ解析」日科技連、1979 ・尾畑伸明「確率モデル要論 ―確率論の基礎からマルコフ連鎖へ―」牧野書店、2012
⑥成績評価方法	授業への出席状況、課題への取り組み、発表の内容、および、発表に関する討論への参加状況などによって評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	質問がある場合は、前日までに必ずメールでアポイントメントをとること（メールでの質問も可）。 メールアドレスは、授業中に周知する。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	経営科学特殊演習		P0426	2単位
2017年度以前入学生	経営科学特殊研究		P660	2単位
担当教員	増山　博之	後期	金曜日	3時限

①授業方針・テーマ	この講義では、マルコフ解析について学習する。マルコフ解析は、経営科学や工学の諸分野に渡る幅広い応用をもつ。例えば、マルコフ連鎖の定常分布に関する理論と数値計算法は、サービスシステム、情報通信システム、在庫システム、生産システムといった不確実性システムの時間平均的な性能評価に利用される。また、極限分布への収束速度に関する理論は、遺伝的アルゴリズムや、シミュレーティッド・アニーリング、機械学習などで用いられるMCMC法といった、確率的アルゴリズムの性能解析に用いられる。他にも、グループを構成するヒト・モノ・情報に関する「重要度」や「序列」の定量化にもマルコフ連鎖の理論が応用されている。具体例としては、広告の貢献度分析、ランキング（Googleページランク）などが挙げられる。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	マルコフモデリングによる理論解析と性能評価指標の数値計算法について理解を深め、不確実性を考慮した意思決定やシステムの性能評価への応用力を習得する。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 学生の興味を考慮し、以下のテーマに関するテキストを選定する。 ・構造化マルコフ連鎖の解析と数値計算法 ・マルコフ連鎖を中心とする確率過程論 ・マルコフ解析とその応用 【授業方法】 マルコフ連鎖や関連する確率モデルのテキストあるいは論文を輪読し、数式の導出過程、定理の証明、応用例について議論する。また、適宜、テキストの章末問題などを課題とし、理解の確認と知識の定着を図る。
④授業外学習	発表者は、輪読における担当箇所を予習して内容を整理するだけなく、適宜、参考書や論文などを参照し、予備知識も含めてレジュメを作成することが求められる。特に、数式の導出過程、および証明の「行間」を埋める補足説明の記載は必須である。他の受講生も、テキストの内容を予習し、理解できなかった点を事前に整理しておく必要がある。また、すべての受講生は授業の後、輪読した内容の復習に加え、議論の結果得られた知見について整理し、検討することが望まれる。
⑤テキスト・参考書等	・G. Latouche and V. Ramaswami,“Introduction to Matrix Analytic Methods in Stochastic Modeling,”ASA-SIAM, 1999. ・Dario A. Bini and Guy Latouche,“Numerical Methods for Structured Markov Chains,”Oxford Science Publications, 2005 ・Pierre Bremaud,“Markov Chains: Gibbs Fields, Monte Carlo Simulation and Queues,” 2nd ed., Springer, 2020 ・森村英典・高橋幸雄「マルコフ解析」日科技連、1979 ・尾畑伸明「確率モデル要論 ―確率論の基礎からマルコフ連鎖へ―」牧野書店、2012
⑥成績評価方法	授業への出席状況、課題への取り組み、発表の内容、および、発表に関する討論への参加状況などによって評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	質問がある場合は、前日までに必ずメールでアポイントメントをとること（メールでの質問も可）。 メールアドレスは、授業中に周知する。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	会計学特殊研究		P0431	2単位
2017年度以前入学生	会計学特殊研究		P653	2単位
担当教員	野口　昌良	前期	水曜日	3時限

①授業方針・テーマ	公会計イノベーションの理解に必要と思われる知識・分析視点の修得を目標とする。これから自身の研究手法を確立しようと考えている博士前期課程の学生には強固な礎を整備するための一助として、すでに一定の手法を身につけている博士後期課程の学生にはその幅を拡張するための一助として、本講義を活用してもらいたい。公会計研究の手引書からセレクトしたいくつかの論文をとりあげ、基礎的な知識・分析手法の修得に努めた後に、PA, PAR, JPAM, AOS、MAR, FAM等に掲載された諸論文を検討することによってその研究方法を理解してもらいたい。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	1．公会計研究に必要と思われる知識・分析視点を修得することができる。 2．1.をベースにした公会計研究・研究手法を修得することができる。 3．1.および2.をベースにした論文作成方法を修得することができる。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 新型コロナウィルスによる休講措置のため、12回の講義に代えて編成する。指定したテキストの構成は次のとおり。10.以降はパブリック・セクターに関する現在進行中の研究テーマに該当する。 1．Defining the Concepts 2．The History of Performance Management 3．Performance Measurement 4．Incorporation of Performance Information 5．The Use of Performance Information 6．Users 7．Non-use 8．The Effects of Using Performance Information 9．The Future of Performance Management 10. NSW's Integrated Planning & Reporting 11. NHS's Cost Improvement Programme 12. DHB's Strategic Plan 【授業方法】 講義は基本Zoom（グループミーティングアプリ）を使用したオンラインで実施する。各学生は必要な機材を準備したうえで講義に参加すること。5月の授業開始前に、指定したテキストの「introduction」の箇所を一読しておくこと。指定したテキストおよび論文の内容に関する、履修学生によるプレゼンテーションとディスカッションを中心とした授業を実施するが、適宜レポート課題（一部グループワークの形式も取り入れる予定）も実施して、学生の理解度を確認しながら、到達目標に必要な知識の修得に努める。
④授業外学習	【授業外学習】 指定したテキストの内容の予習・復習（レポート課題の実施を含む）が必要となる。
⑤テキスト・参考書等	【テキスト】 Dooren, W. V., Bouckaert, G. and Halligan, J.（2010）Performance Management in the Public Sector（Routledge Masters in Public Management）, Routledge. 【参考書等】 適宜指示する予定である。
⑥成績評価方法	プレゼンテーション（60%）とディスカッション（40%）のクオリティに基づいて評価する。レポート課題が提示された場合は、プレゼンテーションに加算するかたちで調整する。 到達目標に照らして、公会計イノベーションに関する必要な知識を修得しているか否かが重要な評価ポイントとなる。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	【オフィスアワー】 メールによる質問を受け付ける。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	【他の授業科目との関連性】 学部レベルの財務会計に関する知識を前提にディスカッションを実施するため、そうした知識の事前修得が望ましい。

2018年度以降入学生	会計学特殊演習		P0432	2単位
2017年度以前入学生	会計学特殊研究		P654	2単位
担当教員	野口　昌良	後期	水曜日	3時限

①授業方針・テーマ	パブリック・セクターにおける業績評価の理解に必要と思われる知識・分析視点の修得を目標とする。これから自身の研究手法を確立しようと考えている博士前期課程の学生には強固な礎を整備するための一助として、すでに一定の手法を身につけている博士後期課程の学生にはその幅を拡張するための一助として、本講義を活用してもらいたい。公会計研究の手引書からセレクトしたいくつかの論文をとりあげ、基礎的な知識・分析手法の修得に努めた後に、PA, PAR, JPAM, AOS、MAR, FAM等に掲載された諸論文を検討することによってその研究方法を理解してもらいたい。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	1．パブリック・セクターにおける業績評価の理解に必要と思われる知識・分析視点を修得することができる。 2．1．をベースにした公会計研究・分析手法を修得することができる。 3．1．および2．をベースにした論文作成方法を修得することができる。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 指定したテキストの構成は次のとおり。 1．Introduction: Using Public Sector Performance Information 2．Nothing New Under the Sun? Change and Continuity in the Twentieth-Century Performance Movements 3．Advocacy and Learning: An Interactive-Dialogue Approach to Performance Information Use 4．Performance Information and Performance Steering: Integrated System or Loose Coupling? 5．Performance Measurement Beyond Instrumental Use 6．Comparing Performance across Public Sectors 7．Hitting the Target and Missing the Point? Developing an Understanding of Organizational Gaining 8．Performance Management Systems: Providing Accountability and Challenging Collaboration 9．Determinants of Performance Information Utilization in Political Decision Making 10. UK Parliamentary Scrutiny of Public Service Agreements: A Challenge Too Far? 11. Performance Information and Educational Policy Making 12. Rational, Political and Cultural Uses of Performance Monitors: The Case of Dutch Urban Policy 13. Reporting Public Performance Information: The Promise and Challenges of Citizen Involvement 14. Publishing Performance Information: An Illusion of Control? 15. Epilogue: The Many Faces of Use 【授業方法】 講義は基本Zoom（グループミーティングアプリ）を使用したオンラインで実施する。各学生は必要な機材を準備したうえで講義に参加すること。 指定したテキストおよび論文の内容に関する、履修学生によるプレゼンテーションとディスカッションを中心とした授業を実施するが、適宜レポート課題（一部グループワークの形式も取り入れる予定）も実施して、学生の理解度を確認しながら、到達目標に必要な知識の修得に努める。
④授業外学習	【授業外学習】 指定したテキストの内容の予習・復習（レポート課題の実施を含む）が必要となる。
⑤テキスト・参考書等	【テキスト】 Dooren, W. V. and de Walle, S. V. (eds.) (2008) Performance Information in the Public Sector: how it is used, Basingstoke : Palgrave Macmillan. 【参考書等】 適宜指示する予定である。
⑥成績評価方法	プレゼンテーション（60%）とディスカッション（40%）のクオリティに基づいて評価する。レポート課題が提示された場合は、プレゼンテーションに加算するかたちで調整する。 到達目標に照らして、パブリック・セクターにおける業績評価を理解するのに必要な知識を修得しているか否かが重要な評価ポイントとなる。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	【オフィスアワー】 水曜日の4時限目とするが、メールによる質問も受け付ける。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	【他の授業科目との関連性】 学部レベルの財務会計に関する知識を前提にディスカッションを実施するため、そうした知識の事前修得が望ましい。

2018年度以降入学生	財務会計特殊研究		P0433	2単位
2017年度以前入学生	財務会計特殊研究		P609	2単位
担当教員	浅野　敬志	前期	月曜日	4時限

①授業方針・テーマ	IFRS（国際財務報告基準）適用の影響について検討する。IFRSの適用後、会計処理や情報開示における経営者の裁量余地が増えている。経営者は裁量余地が拡大するなかで、どのような会計目的に基づき、どのような私的選択（会計処理選択、情報開示選択）を行うのか。また経営者の私的選択を考慮してもなお、IFRSの適用が会計目標を達成するような会計情報を供給しているのか。国内外の先行研究のレビューを通じて、これらの疑問に対する客観的かつ公平な議論を行う。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	IFRS適用の影響について、主に資本市場の視点から理解を深めるとともに、上記の疑問に対する仮説を自ら立て、検証できるようになること。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 IFRS適用の影響に関する書籍・論文を取り上げ、それらを題材にディスカッションする。 1．オリエンテーション 2．IFRS適用の背景 3．IFRSの特徴 4．IFRS採用企業のケース分析 5．IFRSが財務報告の質に及ぼす影響（1） 6．IFRSが財務報告の質に及ぼす影響（2） 7．IFRSが資本市場に及ぼす影響（1） 8．IFRSが資本市場に及ぼす影響（2） 9．IFRSが企業の意思決定に及ぼす影響 10. IFRSがコーポレートガバナンスに及ぼす影響（1） 11. IFRSがコーポレートガバナンスに及ぼす影響（2） 12. IFRS研究のリサーチデザイン（1） 13. IFRS研究のリサーチデザイン（2） 14. IFRS研究のリサーチデザイン（3） 15. まとめ 【授業方法】 書籍・論文の輪読やディスカッションを通じて授業を行う。
④授業外学習	【授業外学習】 リーディング・アサインメントを事前に読み、授業に臨むこと。
⑤テキスト・参考書等	1．スコット著『財務会計の理論と実証』（中央経済社、2008年） 2．パレプ・ヒーリー・バーナード著『企業分析入門（第2版）』（東京大学出版会、2007年） 3．柴健次・薄井彰・須田一幸編著『現代のディスクロージャー －市場と経営を革新する－』（中央経済社、2008年） 4．伊藤邦雄・桜井久勝責任編集『会計情報の有用性』（中央経済社、2013年） 5．George,E.T., Xi Li, and L.Shivakumar, 'A Review of the IFRS Adoption Literature,' Review of Accounting Studies 21, 2016. など
⑥成績評価方法	出席状況、授業態度、発表内容などを総合的に勘案して評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	授業後をオフィスアワーとする。また、メールによる質問も随時受け付ける。 【連絡先】 takasano@tmu.ac.jp
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	講義形式ではなく、演習形式で授業を進めるが、必要に応じて講義形式の授業をすることもある。

2018年度以降入学生	財務会計特殊演習		P0434	2単位
2017年度以前入学生	財務会計特殊研究		P610	2単位
担当教員	浅野　敬志	後期	月曜日	4時限

①授業方針・テーマ	近年出版された会計ファイナンス関係の書籍・学術雑誌から、参加者の問題関心に即した論文を取り上げ、その内容や分析手法について参加者全員で議論する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	会計ファイナンスについて最新の研究動向（内容、分析手法）を理解できるようになる。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 会計ファイナンスに関する論文を取り上げ、それらを題材に内容と分析手法について議論する。 参考までに、ヨーロッパ会計学会（European Accounting Association）は年次大会（Annual Congress）において研究発表を以下の12カテゴリーに分類している。 ① 監査（Auditing） ② 会計教育（Accounting Education） ③ 財務分析（Financial Analysis） ④ 財務報告（Financial Reporting） ⑤ 会計とガバナンス（Accounting and Governance） ⑥ 会計史（History） ⑦ 学際的/批判的（Interdisciplinary/Critical） ⑧ 会計情報システム（Accounting and Information Systems） ⑨ 管理会計（Management Accounting） ⑩ 公会計（Public Sector Accounting and Not-for-Profit Accounting） ⑪ 社会環境会計と会計倫理（Social and Environment Accounting, and Ethical Issues in Accounting） ⑫ 税務（Taxation） 【授業方法】 書籍・論文の輪読や議論を通じて授業を行う。
④授業外学習	【授業外学習】 リーディング・アサインメントを事前に読み、授業に臨むこと。
⑤テキスト・参考書等	＊海外の主要な会計・ファイナンス雑誌 The Accounting Review, Journal of Accounting Research, Journal of Accounting and Economics, Review of Accounting Studies, Contemporary Accounting Research, Accounting Organization and Society, Journal of Finance, Journal of Financial Ecnomicsなど ＊国内の主要な会計・ファイナンス雑誌 『會計』、『企業会計』、『産業経理』、『会計・監査ジャーナル』、『証券アナリストジャーナル』、学会の査読誌（日本経済会計学会『現代ディスクロージャー』など）
⑥成績評価方法	出席状況、授業態度、発表内容などを総合的に勘案して評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	授業後をオフィスアワーとする。また、メールによる質問も随時受け付ける。 【連絡先】 takasano@tmu.ac.jp
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	講義形式ではなく、演習形式で授業を進めるが、必要に応じて講義形式の授業をすることもある。

2018年度以降入学生	管理会計特殊研究		P0435	2単位
2017年度以前入学生	会計学特殊研究		P641	2単位
担当教員	細海　昌一郎	前期	土曜日	3時限

①授業方針・テーマ	本研究では、隣接諸科学とも関連する管理会計の新たな研究分野の英語論文や研究書を講読しながら、実証的研究方法の理解と実践を目指します。特に、知的資本（intellectual capital）の研究に関連する英語論文や研究書の講読を中心とします。また、マルチレベル分析（multilevel analysis）などの近年の研究手法についても検討します。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	本研究では、管理会計の領域で近年注目されている知的資本研究等に関連する英語論文等を中心に取り上げて講読することによって、研究を実践する能力を養うことが期待されます。また、そうした研究で用いられている実証的研究方法を理解し、実際に、博士論文等の論文作成に役立てることを目標としています。
③授業計画・内容 授業方法	具体的には、次のような英文ジャーナルや研究書の中から知的資本や研究手法に関連する英語論文を選択し購読する予定です。また、テキスト・参考書等であげている研究手法に関する研究書から選択することもあります。 [List of Journals] ABACUS：A Journal of Accounting and Business Studies Accounting and Business Research Journal of Accounting and Organizational Change Journal of Accounting Research Journal of Applied Accounting Research Journal of Business Finance and Accounting Journal of Intellectual Capital Journal of Management Accounting Research Qualitative Research in Accounting and Management
④授業外学習	・取り上げた論文や課題についてよく復習しておいてください。
⑤テキスト・参考書等	[1] Alan Bryan and Emma Bell (2011) Business Research Methods 3rd Edition, Oxford University Press. [2] John Buglear(2014)Practical Statistics, Kogan page. [3] Joop Hox(2003)Multilevel Analysis Techniques and Applications, Lawrence Erlbaum Associates, Publishers.
⑥成績評価方法	・英語論文やテキストにより管理会計の研究方法について検討しますが、その発表内容等により評価します。
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	・オフィスアワー：原則として木曜日6時限目としますので、質問等があれば研究室（3-233）に来てください（ただし、新型コロナウイルスの感染拡大で、前期はメール等により連絡を取りたいと思います）。 ・連絡先：hosomi@tmu.ac.jp
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	・管理会計を専攻とする学生以外の履修も歓迎します。また、取り上げる英語論文等により、具体的な実証的研究分析方法を演習形式で検討することがあります。 ※演習の内容を一部変更することがあります（新型コロナウイルスの影響で流動的なため）。

2018年度以降入学生	管理会計特殊演習		P0436	2単位
2017年度以前入学生	会計学特殊研究		P642	2単位
担当教員	細海　昌一郎	後期	土曜日	4時限

①授業方針・テーマ	管理会計では、理論と実務の乖離の原因を究明したり、ある管理会計技法が企業業績に与える影響を検証したりといった研究が行われますが、近年、その研究方法において実証的研究方法の重要性が増しています。 すなわち、財務会計を含む会計学の領域では、会計の原理や技術的特徴のあるべき姿を探求する規範的研究も必要ですが、現行の会計実務を一応肯定的に受け止めてその背後にある理論から仮説を設定し、その存在理由を説明するために統計手法を用いて行う実証的研究の重要性が増しています。また、こうした傾向は会計学研究に限ったことではないと思われます。 そこで、本演習では、こうした認識を前提に、論文作成に役立つ研究方法としてよく用いられる統計的手法について、PCを用いた演習形式で理解を深めることを目的としています。 なお、前述のように、こうした傾向は会計学研究に限ったことではないと思われますので、研究方法や実務の参考にしたいと考えている会計学専攻以外の学生の参加も歓迎します。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	本演習では、博士論文作成を念頭に、代表的な実証的研究手法について検討し、研究の実践に役立てることを目的としています（ただし、すべての手法の検討はできないので、より高度な研究手法については各自検討されたい）。
③授業計画・内容 授業方法	[主な内容] （1）実証的研究方法の基礎 （2）記述統計 （3）統計的検定 （4）回帰分析 （5）その他多変量解析 本演習では実証的研究手法の基礎について概説したのち、Rなどの統計ソフトの利用を前提とした実践的な内容を検討します。
④授業外学習	・毎回の講義内容と演習課題について、よく復習しておいてください。
⑤テキスト・参考書等	・レジュメを配布して行います。 [参考文献] [1] 逸見功著『統計ソフトR超入門』講談社、2018。 [2] 川端・岩間・鈴木『Rによる多変量解析入門』オーム社、2019。 [3] 鈴木功一監訳『ビジネス統計学（上）(下)』ダイヤモンド社、2007。 [4] ダン・レメニイ他著『社会科学系大学院生のための研究の進め方ー修士・博士論文を書くまえにー』同文館出版、2002。 [5] 長島・石田・李著『Rで統計を学ぼう! 文系のためのデータ分析入門』中央経済社、2018。 [6] 永吉希久子著『行動科学の統計学』共立出版、2016。 [7] 山田・杉澤・井村共著『Rによるやさしい統計学』オーム社、2008。 [8] Malcolm, Smith, Research Methods in Accounting 2nd Edition, SAGE, 2012.
⑥成績評価方法	・演習参加度と演習課題等に基づいて評価します。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	・オフィスアワー：原則として木曜日6時限目としますので、質問等があれば研究室（3-233）に来てください（事前に、下記連絡先に連絡頂ければ幸いです）。 ・連絡先：hosomi@tmu.ac.jp
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	・PCの基本的な能力を前提にして行います。

2018年度以降入学生	ミクロ経済学特殊研究		P0437	2単位
2017年度以前入学生	ミクロ経済学特殊研究		P605	2単位
担当教員	飯村　卓也	前期	火曜日	2時限

①授業方針・テーマ	中級から上級のミクロ理論を学ぶ。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ミクロ理論の内容とともに、よく使われる分析技術の習得を目標にする。
③授業計画・内容 授業方法	消費者・生産者の最適化行動から市場均衡に至るまで、標準的な理論を体系的に学んでゆく。 【授業方法】講義と演習により行う。
④授業外学習	【授業外学習】次回の授業範囲を予習しておくこと。
⑤テキスト・参考書等	Varian, H. Microeconomic Analysis, 3rd ed., Norton
⑥成績評価方法	取り組み方、達成度など、総合的に見て判断する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	【オフィスアワー】 毎週金曜5限の時間帯
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	履修する人は初回授業の時間に必ず出席のこと。

2018年度以降入学生	ミクロ経済学特殊演習		P0438	2単位
2017年度以前入学生	ミクロ経済学特殊研究		P606	2単位
担当教員	飯村　卓也	後期	火曜日	2時限

①授業方針・テーマ	中級から上級のミクロ理論を学ぶ。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ミクロ理論の内容とともに、よく使われる分析技術の習得を目標にする。
③授業計画・内容 授業方法	消費者・生産者の最適化行動から市場均衡に至るまで、標準的な理論を体系的に学んでゆく。 【授業方法】講義と演習により行う。
④授業外学習	【授業外学習】次回の授業範囲を予習しておくこと。
⑤テキスト・参考書等	Varian, H. Microeconomic Analysis, 3rd ed., Norton
⑥成績評価方法	取り組み方、達成度など、総合的に見て判断する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	【オフィスアワー】 毎週金曜5限の時間帯
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	履修する人は初回授業の時間に必ず出席のこと。

2018年度以降入学生	マクロ経済学特殊研究		P0439	2単位
2017年度以前入学生	マクロ経済学特殊研究		P611	2単位
担当教員	脇田　成	前期	木曜日	1時限

①授業方針・テーマ	本講義は大学院レベルのマクロ経済学を概説する。なお受講者は学部レベルのマクロ経済学を理解し、初歩の線形代数·静学的最適化問題の理解が必須である。これらの準備の不十分なものは学部レベルの教科書などで講義に先立って補充しておくこと。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	講義では教科書に沿って、能率良く現在のマクロ経済学を展望するが、単位取得のためには計算問題の宿題ならびに課題を課す。
③授業計画・内容 授業方法	第1回　ケインズ経済学と新古典派的マクロ経済学：マクロ経済学の課題と歴史 学部レベルのマクロ経済学の復習と近年のマクロ経済学の発展を概観した後、数学ならびにエコノメトリックスの最低限に解説を加える。ただしこれらの準備の不充分なものは必ず先立って補充しておくこと。 第2回　基本的動学モデル1：新古典派最適成長理論·RBCモデルと時間を通じた選択 第3回　基本的動学モデル2：世代重複モデルと高齢化·少子化 以上が一般均衡動学モデルの基礎であり、また変分法·DP·MPなどの動学的最適化理論の解説は動学モデルに即して適宜行う。このあと部分均衡的な動学モデルを検討する。以下の諸モデルは実証分析が盛んな分野でもあることに注意。 第4回　主体均衡分析1：家計の通時的最適化と消費関数の理論：高すぎる株式収益率のパズル 第5回　主体均衡分析2：企業の通時的最適化と投資関数の理論：タイミングを決める理論 以上を基礎編とする。さらに応用編として、時間の許す限り 第6回　新ケインジアン経済学と協調の失敗：財市場における不完全競争と名目価格硬直性 第7回　契約とサーチの理論：労働市場と実質賃金硬直性の理論 第8回　貨幣と信用の諸モデル·金融仲介ならびに国際金融：日本のバブルの物語 第9回　内生的成長理論：ますます富める国と貧しいままの国 第10回　カオスと複数均衡 第11回　マクロ経済政策分析：ゲーム理論の応用 第12回　マクロ経済学と実証分析：非定常時系列分析 第13回　マクロ経済学と日本的労働慣行 第14回　マクロ経済学と日本的経済システム 第15回　期末試験と解説 の講義も行う予定。なお詳細な講義予定·文献リストは講義の初回に配布する。 授業外学習　テキストをよく読むこと
④授業外学習	授業外学習　テキストをよく読むこと
⑤テキスト・参考書等	教科書：脇田成（1998）『マクロ経済学のパースペクティブ』日本経済新聞社。 参考書：Blanchard, O. J., and S. Fischer, Lectures on Macroeconomics,（MIT Press, 1989）. Lucas R. E., Jr., Models of Business Cycles, Oxford: Basil Blackwell, 1987（邦訳「マクロ経済学のフロンティア」清水訳東洋経済新報社）。 岩井克人·伊藤元重編（1994）『現代の経済理論』東京大学出版会。
⑥成績評価方法	期末試験70%　宿題30%
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは木曜4限 質問は随時受け付けるのでメールでアポイントを取ること
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	受講希望者はテキストを調整するのでwakita@tmu.ac.jpに第1回の授業前に前もってメールすること

2018年度以降入学生	マクロ経済学特殊演習		P0440	2単位
2017年度以前入学生	マクロ経済学特殊研究		P612	2単位
担当教員	脇田　成	後期	木曜日	1時限

①授業方針・テーマ	本講義は大学院レベルのマクロ経済学を概説し、問題演習並びに関連論文の輪読を行う。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	講義では教科書に沿って、能率良く現在のマクロ経済学を展望するが、単位取得のためには計算問題の宿題ならびに課題を課す。
③授業計画・内容 授業方法	第1回　ケインズ経済学と新古典派的マクロ経済学：マクロ経済学の課題と歴史 学部レベルのマクロ経済学の復習と近年のマクロ経済学の発展を概観した後、数学ならびにエコノメトリックスの最低限に解説を加える。ただしこれらの準備の不充分なものは必ず先立って補充しておくこと。 第2回　基本的動学モデル1：新古典派最適成長理論·RBCモデルと時間を通じた選択 第3回　基本的動学モデル2：世代重複モデルと高齢化·少子化 以上が一般均衡動学モデルの基礎であり、また変分法·DP·MPなどの動学的最適化理論の解説は動学モデルに即して適宜行う。このあと部分均衡的な動学モデルを検討する。以下の諸モデルは実証分析が盛んな分野でもあることに注意。 第4回　主体均衡分析1：家計の通時的最適化と消費関数の理論：高すぎる株式収益率のパズル 第5回　主体均衡分析2：企業の通時的最適化と投資関数の理論：タイミングを決める理論 以上を基礎編とする。さらに応用編として、時間の許す限り 第6回　新ケインジアン経済学と協調の失敗：財市場における不完全競争と名目価格硬直性 第7回　契約とサーチの理論：労働市場と実質賃金硬直性の理論 第8回　貨幣と信用の諸モデル·金融仲介ならびに国際金融：日本のバブルの物語 第9回　内生的成長理論：ますます富める国と貧しいままの国 第10回　カオスと複数均衡 第11回　マクロ経済政策分析：ゲーム理論の応用 第12回　マクロ経済学と実証分析：非定常時系列分析 第13回　マクロ経済学と日本的労働慣行 第14回　マクロ経済学と日本的経済システム 第15回　期末試験と解説 の講義も行う予定。なお詳細な講義予定·文献リストは講義の初回に配布する。 授業外学習　テキストをよく読むこと
④授業外学習	授業外学習　テキストをよく読むこと
⑤テキスト・参考書等	教科書：脇田成（1998）『マクロ経済学のパースペクティブ』日本経済新聞社。 参考書：Blanchard, O. J., and S. Fischer, Lectures on Macroeconomics,（MIT Press, 1989）. Lucas R. E., Jr., Models of Business Cycles, Oxford: Basil Blackwell, 1987（邦訳「マクロ経済学のフロンティア」清水訳東洋経済新報社）。 岩井克人·伊藤元重編（1994）『現代の経済理論』東京大学出版会。
⑥成績評価方法	期末試験70%　宿題30%
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	オフィスアワーは木曜4限 質問は随時受け付けるのでメールでアポイントを取ること
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	受講希望者はテキストを調整するのでwakita@tmu.ac.jpに第1回の授業前に前もってメールすること

2018年度以降入学生	計量経済学特殊研究		P0441	2単位
2017年度以前入学生	計量経済学特殊研究		P615	2単位
担当教員	飯星　博邦	前期	火曜日	2時限

①授業方針・テーマ	本科目では、大学院の修士課程で履修すべき計量経済学の基本的項目について扱う。具体的には、線形回帰モデルの推定と検定の行列計算を中心に、非線形モデルの推定法である一般化モーメント法（GMM）や最尤推定法に敷衍する。また、理論的な理解だけでなく、実際にデータ分析ができるように、Stata, MATLAB、Rなどの計量ソフトウェアの利用法についても講義していく予定である。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	・計量経済学の基本的項目である古典的線形回帰モデルの小標本と大標本の性質を理解できる。 ・非線形モデルに拡張できるGMM（一般化モーメント法）と最尤法の推定法や検定法、漸近的特性が理解できる。 ・Sata, MATLABやRなどの計量ソフトウェアを使い、古典的線形回帰モデル、GMM、最尤法によるデータ分析ができる。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 各回の講義予定は教科書であるAngrist and Pischke（2009）Mostly Harmless Econometrics, ならびにHayashi（2000）Econometricsに基づき、以下のとおりであるが、講義の進捗状況により、前後する場合がある。 1回　ランダム化比較実験と因果推論 2回　回帰モデルと欠落変数バイアス、変数選択 3回　回帰分析と因果推論 4回　古典的線形回帰モデル（OLS）とその行列表現（OLSの小標本の特性＃1） 5回　OLSにおける仮説検定、最尤法とGMM（OLSの小標本の特性＃2） 6回　大標本理論（大数の法則と中心極限定理） 7回　大標本理論（OLS推定値での漸近分布） 8回　大標本理論（仮説検定） 9回　大標本理論（不均一分散） 10回　GMM（一般化モーメント法）と操作変数法 11回　GMM（一般化モーメント法）の大標本理論 12回　GMM（一般化モーメント法）尤度比検定 13回　GMM（一般化モーメント法）の不均一分散 14回　GMM（一般化モーメント法）と同時方程式体系 15回　試験と解説
④授業外学習	【授業外学習】 毎回の講義ノートはあらかじめEラーニングシステム「KIBACO」にアップロードするので、教科書と合わせて予習しておくこと。また、レポートとして、教科書にある演習問題と計量ソフトウェア「Matlab」もしくは「R」を利用したデータ分析の出題を行う。
⑤テキスト・参考書等	教科書 ［1］Angrist and Pischke（2009）Mostly Harmless Econometrics, Princeton Univ. Press ［2］Hayashi（2000）Econometrics, Princeton Univ. Press 参考書 ［3］西山・新谷・川口・奥井（2019）計量経済学、有斐閣
⑥成績評価方法	講義中に出題するレポート2題（50%）および期末試験（50%）により評価を行う。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーについては、初回の講義で案内する予定である。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	・計量ソフトウェアとして「Stata」「Matlab」「R」の3つを利用する。 レポートでは3つのうち1つを選択すること。 ・本科目は、後期に実施予定の「経済学特別演習（計量経済学）」の前提科目である。

2018年度以降入学生	計量経済学特殊演習		P0442	2単位
2017年度以前入学生	計量経済学特殊研究		P616	2単位
担当教員	飯星　博邦	後期	火曜日	2時限

①授業方針・テーマ	本科目では、大学院の修士課程で履修すべき計量経済学の基本的項目について扱う。具体的には、線形回帰モデルの推定と検定の行列計算を中心に、非線形モデルの推定法である一般化モーメント法（GMM）や最尤推定法に敷衍する。また、理論的な理解だけでなく、実際にデータ分析ができるように、Stata, MATLAB、Rなどの計量ソフトウェアの利用法についても講義していく予定である。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	・計量経済学の基本的項目である古典的線形回帰モデルの小標本と大標本の性質を理解できる。 ・非線形モデルに拡張できるGMM（一般化モーメント法）と最尤法の推定法や検定法、漸近的特性が理解できる。 ・Sata, MATLABやRなどの計量ソフトウェアを使い、古典的線形回帰モデル、GMM、最尤法によるデータ分析ができる。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 各回の講義予定は教科書であるAngrist and Pischke（2009）Mostly Harmless Econometrics, ならびにHayashi（2000）Econometricsに基づき、以下のとおりであるが、講義の進捗状況により、前後する場合がある。 1回　ランダム化比較実験と因果推論 2回　回帰モデルと欠落変数バイアス、変数選択 3回　回帰分析と因果推論 4回　古典的線形回帰モデル（OLS）とその行列表現（OLSの小標本の特性＃1） 5回　OLSにおける仮説検定、最尤法とGMM（OLSの小標本の特性＃2） 6回　大標本理論（大数の法則と中心極限定理） 7回　大標本理論（OLS推定値での漸近分布） 8回　大標本理論（仮説検定） 9回　大標本理論（不均一分散） 10回　GMM（一般化モーメント法）と操作変数法 11回　GMM（一般化モーメント法）の大標本理論 12回　GMM（一般化モーメント法）尤度比検定 13回　GMM（一般化モーメント法）の不均一分散 14回　GMM（一般化モーメント法）と同時方程式体系 15回　試験と解説
④授業外学習	【授業外学習】 毎回の講義ノートはあらかじめEラーニングシステム「KIBACO」にアップロードするので、教科書と合わせて予習しておくこと。また、レポートとして、教科書にある演習問題と計量ソフトウェア「Matlab」もしくは「R」を利用したデータ分析の出題を行う。
⑤テキスト・参考書等	教科書 ［1］Angrist and Pischke（2009）Mostly Harmless Econometrics, Princeton Univ. Press ［2］Hayashi（2000）Econometrics, Princeton Univ. Press 参考書 ［3］西山・新谷・川口・奥井（2019）計量経済学、有斐閣
⑥成績評価方法	講義中に出題するレポート2題（50%）および期末試験（50%）により評価を行う。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーについては、初回の講義で案内する予定である。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	・計量ソフトウェアとして「Stata」「Matlab」「R」の3つを利用する。 レポートでは3つのうち1つを選択すること。 ・本科目は、後期に実施予定の「経済学特別演習（計量経済学）」の前提科目である。

2018年度以降入学生	金融経済学特殊研究		P0445	2単位
2017年度以前入学生	金融経済学特殊研究		P598	2単位
担当教員	田中　敬一	前期	火曜日	1時限

①授業方針・テーマ	ファイナンスに必要な確率解析を修得する。 英語テキストを用いて、確率論・確率解析・ファイナンスについて講義する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ファイナンスに必要な確率解析 ファイナンスの各分野における論文で用いられている数学的手法やファイナンスの概念等を広く理解できることを目標とする。
③授業計画・内容 授業方法	【授業内容】 確率論・確率解析・ファイナンスについて講義する。 内容は、確率解析・ジャンプ過程・マルコフ過程・レジームスイッチング・金利モデル・信用リスクモデル・CAPM・無差別価格等である。
④授業外学習	論文発表の準備
⑤テキスト・参考書等	Nunno et al., Malliavin Calculus for Levy Processes with Applications to Finance Touzi, Optimal Stochastic Control, Stochastic Target Problems, and Backward SDE
⑥成績評価方法	発表および授業への貢献度により評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	アポイントメント
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	金融経済学特殊演習		P0446	2単位
2017年度以前入学生	金融経済学特殊研究		P599	2単位
担当教員	田中　敬一	後期	火曜日	1時限

①授業方針・テーマ	ファイナンスに必要な確率解析を修得するとともに、関連トピックスで代表的な論文等を輪読する。 金融経済学特殊研究で得た知識を活用して、最新の研究論文の輪読およびその内容の検討を行う。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ファイナンスに必要な確率解析
③授業計画・内容 授業方法	【授業内容】 理論展開の本質を理解し、その内容の拡張の可能性を探ることや、数値計算を再現し、その特徴を把握することなどを試みる。このような作業を経て、理論・数値計算・実証に関する論文執筆の準備を行うことが目標である。 分野としては デリバティブ、金利期間構造モデル、クレジットリスク、リスク管理 等である。 必要に応じてテキストに挙げた書籍の輪読もしくは講義を行う。
④授業外学習	論文発表の準備
⑤テキスト・参考書等	Nunno et al., Malliavin Calculus for Levy Processes with Applications to Finance Touzi, Optimal Stochastic Control, Stochastic Target Problems, and Backward SDE
⑥成績評価方法	発表および授業への貢献度により評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	アポイントメント
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	日本経済論特殊研究		P0447	2単位
2017年度以前入学生	経済学特殊演習		P568	2単位
担当教員	村田　啓子	前期	月曜日	2時限

①授業方針・テーマ	日本経済の実証分析。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	日本経済の実証分析についての先行研究を学び、実証研究を行う能力を身につける。
③授業計画・内容 授業方法	受講者の意向も考慮するが、まずは家計行動（消費・貯蓄）の実証研究（英文、サーベイ論文含む。必要があれば理論の文献で補強）についての文献を輪読する予定。
④授業外学習	論文を事前に読み内容を理解する。解らなかった点があれば可能な限り自分で調べる。人数にもよるが、論文の概要を簡潔に報告し、かつ不明な点を要領よく質問できるよう準備する。事後は復習し、さらに理解を深める。余力があれば関連論文を読む。
⑤テキスト・参考書等	授業時に提示する。
⑥成績評価方法	平常点及びレポート。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	基本的に講義内で受け付けるか、メールも可
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	特になし。

2018年度以降入学生	日本経済論特殊演習		P0448	2単位
2017年度以前入学生	経済学特殊演習		P569	2単位
担当教員	村田　啓子	後期	月曜日	2時限

①授業方針・テーマ	日本経済の実証分析。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	日本経済の実証分析についての先行研究を学び、実証研究を行う能力を身につける。
③授業計画・内容 授業方法	受講者の意向も考慮するが、まずは労働市場（日本的雇用慣行とその変化、近年の課題）に関する実証研究（英文、サーベイ論文含む。必要があれば理論の文献で補強）についての文献を輪読する予定。
④授業外学習	論文を事前に読み内容を理解する。解らなかった点があれば可能な限り自分で調べる。人数にもよるが、論文の概要を簡潔に報告し、かつ不明な点を要領よく質問できるよう準備する。事後は復習し、さらに理解を深める。余力があれば関連論文を読む。
⑤テキスト・参考書等	授業時に提示する。
⑥成績評価方法	平常点及びレポート。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	基本的に演習内で受け付けるが、メールも可
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	特になし。

2018年度以降入学生	ゲーム理論特殊研究		P0449	2単位
2017年度以前入学生	ゲーム理論特殊研究		P578	2単位
担当教員	渡辺　隆裕	前期	火曜日	4時限

①授業方針・テーマ	まず、経済数学等のテキストの講義と輪読と演習を行い、ゲーム理論を学ぶために必要な数学を身につけます。 次に、ゲーム理論の講義と輪読によって、大学院レベルのゲーム理論を身につけることを目的とします。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	集合、制約条件付き最適化、動的計画などの数学力を身につける。合理的アプローチのゲーム理論の発展（戦略形ゲーム、展開形ゲーム、支配戦略、ナッシュ均衡）を学ぶ。数学による形式化を完全に行うこと、基本的な定理の証明などができる力を身につけることを目標とする。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画】 数学の基礎：集合、制約条件付き最適化、動的計画 ゲーム理論基礎：戦略形ゲーム、展開形ゲームの基礎 【授業方法】 テキストと教材を定めて、演習と輪読を繰り返してゆく形式で講義を行います。
④授業外学習	輪読で当番となった部分は、内容をよく理解し、レジメを作って発表の準備をすることが求められます。 また、宿題となった演習問題を自宅で解くことが求められます。
⑤テキスト・参考書等	【参考書】 S. Taldes, Game Theory: An Introduction, Princeton University Press. R. K. Sundaram, A First Course in Optimization Theory, Cambridge University Press, 1996.
⑥成績評価方法	普段の出席・参加状況と演習課題の解答により評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	火曜5限（16：30－1750）をオフィスアワーとします。 メールでアポイントメントを取り、もし空いている時間があれば、他の曜日・時間でも質問を受けつけることが可能です。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	オフィスアワーは特に設定しませんが、質問は積極的に受け付けます。 事前にメール,kibacoでアポイントメントをとり、私の研究室（3号館4F411号室）へ来て下さい。

2018年度以降入学生	ゲーム理論特殊演習		P0450	2単位
2017年度以前入学生	ゲーム理論特殊研究		P579	2単位
担当教員	渡辺　隆裕	後期	火曜日	4時限

①授業方針・テーマ	ゲーム理論の講義と輪読によって、前期のゲーム理論特殊講義よりも、さらに発展した内容のゲーム理論を身につけることを目的とします。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ゲーム理論の発展的内容（均衡の精緻化、不完備情報の戦略形ゲーム、不完備情報の展開形ゲーム、繰り返しゲーム、交渉ゲーム、進化ゲーム、協力ゲーム）を学ぶ。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画】 第1回 ガイダンス 第2回－第3回　一般の展開形ゲームと均衡の精緻化 第4回－第5回　不完備情報の戦略形ゲーム 第6回－第7回　不完備情報の展開形ゲーム・シグナリングゲーム 第8回－第9回　繰り返しゲーム 第10回　交渉ゲーム 第11回　進化ゲーム 第12回－第13回　協力ゲーム 第14回－第15回　まとめ 【授業方法】 テキストと教材を定めて、演習と輪読を繰り返してゆく形式で講義を行います。
④授業外学習	輪読で当番となった部分は、内容をよく理解し、レジメを作って発表の準備をすることが求められます。また、宿題となった演習問題を自宅で解くことが求められます。
⑤テキスト・参考書等	【参考書】 S. Taldes, Game Theory: An Introduction, Princeton University Press.
⑥成績評価方法	普段の出席・参加状況と演習課題の解答により評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	火曜5限（16：30－1750）をオフィスアワーとします。 メールでアポイントメントを取り、もし空いている時間があれば、他の曜日・時間でも質問を受けつけることが可能です。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	オフィスアワーは特に設定しませんが、質問は積極的に受け付けます。 事前にメール,kibacoでアポイントメントをとり、私の研究室（3号館4F411号室）へ来て下さい。

2018年度以降入学生	労働経済学特殊研究		P0801	2単位
2017年度以前入学生	ー		ー	ー
担当教員	宮本　弘暁	前期	月曜日	4時限

①授業方針・テーマ	講義によってマクロ労働経済学の知識を身につけることを目的とします。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	サーチ・マッチング理論、摩擦の存在する労働市場がある動学的一般均衡モデル、および労働力フローに関する実証分析の手法を身につけることを目標とします。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画】 第1回　ガイダンス 第2回　サーチモデル 第3回　サーチ・マッチングモデル 第4回ー第8回　サーチ・マッチングモデルの応用 第9回　サーチ・マッチングモデルの推計 第10回　動学的一般均衡モデルの基礎 第11回　動学的一般均衡モデルの応用 第12回　労働力フローアプローチ 第13回　時系列分析の基礎 第14回　時系列分析の労働市場分析への応用 第15回　期末試験 【授業方法】 テキストと教材を定め、講義を行います。講義に使用するスライドは指定するホームページからダウンロードが可能です。
④授業外学習	宿題を自宅で解くことが求められます。
⑤テキスト・参考書等	Pissarides, Christopher A., Equilibrium Unemployment Theory, 2nd edition, 2000, MIT Press.
⑥成績評価方法	期末試験と宿題によって成績をつけます。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	週に1時間オフィスアワーを設けます。詳細は第1回の授業時に発表します。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	労働経済学特殊演習		P0802	2単位
2017年度以前入学生	ー		ー	ー
担当教員	宮本　弘暁	後期	月曜日	4時限

①授業方針・テーマ	講義と輪読によって、前期の労働経済特殊講義よりもさらに発展した、マクロ労働経済学の内容を理解し、論文が書けるように知識とスキルを身につけることを目的とします。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	サーチ・マッチング理論、摩擦の存在する労働市場がある動学的一般均衡モデル、および労働力フローに関する実証分析の手法を身につけることを目標とします。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画】 第1回　ガイダンス 第2－4回　景気循環と労働市場 第5－7回　経済成長と労働市場 第9－11回　マクロ経済政策と労働市場 第12－13回　労働力フロー分析 第14－15回　まとめ 【授業方法】 テキストと教材を定め、講義および輪読を行います。講義に使用するスライドは指定するホームページからダウンロードが可能です。
④授業外学習	宿題を自宅で解くことが求められます。また、輪読の当番となった場合は、内容をよく理解し、発表の準備をすることが求められます。
⑤テキスト・参考書等	Pissarides, Christopher A., Equilibrium Unemployment Theory, 2nd edition, 2000, MIT Press.
⑥成績評価方法	普段の参加状況と課題の解答により評価します。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	週に1時間オフィスアワーを設けます。詳細は第1回の授業時に発表します。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	数理統計学特殊研究		P0451	2単位
2017年度以前入学生	統計学特殊研究		P566	2単位
担当教員	小方　浩明	前期	木曜日	3時限

①授業方針・テーマ	時系列データの特色、ならびに時系列データの高度な解析方法について学ぶ。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	時系列データの特徴を理解する。 高度な時系列データ解析の方法を理解する。
③授業計画・内容　授業方法	テキスト（洋書）を輪読する。テキストは相談のうえ決めるが、例えば［テキスト・参考書等］の欄に挙げられたものなどが考えられる。
④授業外学習	輪読するテキストを事前に読み、内容を理解し、授業中に発表できる状態にしておくこと。
⑤テキスト・参考書等	Ruey S. Tsay.（2010）. Analysis of Financial time series. 3rd ed. Wiley.
⑥成績評価方法	出席、授業への参加状況を総合的に評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは特に指定しないのでメール等で事前にアポイントメントを取ってください 【E-mail】hiroakiogata@tmu.ac.jp
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	数理統計学の知識を前提とする。また、数理的側面の強い統計学のテキストを読むことを前提としている。なお、初回の授業に必ず出席すること。

2018年度以降入学生	数理統計学特殊演習		P0452	2単位
2017年度以前入学生	統計学特殊研究		P567	2単位
担当教員	小方　浩明	後期	木曜日	3時限

①授業方針・テーマ	時系列データの特色、ならびに時系列データの高度な解析方法について学ぶ。 自ら興味のあるデータを取得し、実際に解析を行う。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経済時系列データの特徴を理解する。 さまざまな時系列データ解析の方法を理解する。
③授業計画・内容　授業方法	時系列データの特徴を理解する。 高度な時系列データ解析の方法を理解する。 統計ソフトウェアRにより時系列解析が行える。
④授業外学習	時系列データを探し、解析を行う。
⑤テキスト・参考書等	特に指定しない。
⑥成績評価方法	出席、授業への参加状況を総合的に評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは特に指定しないのでメール等で事前にアポイントメントを取ってください 【E-mail】hiroakiogata@tmu.ac.jp
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	数理統計学特殊研究を受講済みのこと。

2018年度以降入学生	公共経済学特殊研究		P0453	2単位
2017年度以前入学生	公共経済特殊研究		P667	2単位
担当教員	森本　脩平	前期	火曜日	5時限

①授業方針・テーマ	大学院レベルの公共経済学について学ぶ。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	公共経済学の専門的な研究を行うために必要となる知識や分析手法の習得を目標とする。
③授業計画・内容 授業方法	公共経済学関連の論文の輪読や講義を主に行う。
④授業外学習	授業中に指示する文献に目を通し授業内容の予習と復習を行うこと。
⑤テキスト・参考書等	受講者と相談の上決定する。
⑥成績評価方法	授業に取り組む姿勢、討論への参加状況、授業での報告、レポートなどにより評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	【オフィスアワー】水曜3限
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。

2018年度以降入学生	公共経済学特殊演習		P0454	2単位
2017年度以前入学生	公共経済特殊研究		P668	2単位
担当教員	森本　脩平	後期	火曜日	5時限

①授業方針・テーマ	大学院レベルの公共経済学について学ぶ。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	公共経済学の専門的な研究を行うために必要となる知識や分析手法の習得を目標とする。
③授業計画・内容 授業方法	公共経済学関連の論文の輪読や問題演習を主に行う。
④授業外学習	授業中に指示する文献に目を通し授業内容の予習と復習を行うこと。
⑤テキスト・参考書等	受講者と相談の上決定する。
⑥成績評価方法	授業に取り組む姿勢、討論への参加状況、授業での報告、レポートなどにより評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	【オフィスアワー】水曜3限
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。

2018年度以降入学生	国際金融論特殊研究		P0455	2単位
2017年度以前入学生	国際金融特殊研究		P592	2単位
担当教員	荒戸　寛樹	前期	月曜日	1時限

①授業方針・テーマ	マクロ経済学・国際マクロ経済学についての基本文献を読む。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	マクロ経済学・国際マクロ経済学についての文献を読み、その貢献や新奇性を理解することができるようになる。
③授業計画・内容 授業方法	《授業計画・内容》 Handbook of Macroeconomics, Handbook of Economic Growth, Handbook of Monetary Economics, Handbook of International Economics等の文献から各自の興味に合わせて論文を選定し、学生が内容を報告する。 《授業方法》 輪読形式で行う。
④授業外学習	文献の内容を理解し、報告の準備を行うこと。 その際、先行研究のレビューも行うと望ましい。
⑤テキスト・参考書等	上述のHandbookシリーズを用いる。
⑥成績評価方法	報告の内容やディスカッションへの参加度を総合的に判断する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	特定の時間を設定することはないが、質問がある場合は遠慮なくメールでアポイントメントを取ること。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	・経済学プログラム科目「マクロ経済学」「ミクロ経済学」「経済数学」「計量経済学」を全て履修済みか、それと同等の知識を持っていることが履修の前提となる。 ・履修希望者は1回目の授業の前日までにメールで荒戸まで連絡すること。 メールアドレス：h-arato@tmu.ac.jp

2018年度以降入学生	国際金融論特殊演習		P0456	2単位
2017年度以前入学生	国際金融特殊研究		P593	2単位
担当教員	荒戸　寛樹	後期	月曜日	1時限

①授業方針・テーマ	マクロ経済学・国際マクロ経済学についての基本文献を読む。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	マクロ経済学・国際マクロ経済学についての文献を読み、その貢献や新奇性を理解することができるようになる。
③授業計画・内容 授業方法	《授業計画・内容》 Handbook of Macroeconomics, Handbook of Economic Growth, Handbook of Monetary Economics, Handbook of International Economics等の文献から各自の興味に合わせて論文を選定し、学生が内容を報告する。 《授業方法》 輪読形式で行う。
④授業外学習	文献の内容を理解し、報告の準備を行うこと。 その際、先行研究のレビューも行うと望ましい。
⑤テキスト・参考書等	上述のHandbookシリーズを用いる。
⑥成績評価方法	報告の内容やディスカッションへの参加度を総合的に判断する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	特定の時間を設定することはないが、質問がある場合は遠慮なくメールでアポイントメントを取ること。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	・経済学プログラム科目「マクロ経済学」「ミクロ経済学」「経済数学」「計量経済学」を全て履修済みか、それと同等の知識を持っていることが履修の前提となる。 ・履修希望者は1回目の授業の前日までにメールで荒戸まで連絡すること。 メールアドレス：h-arato@tmu.ac.jp

2018年度以降入学生	都市環境経済学特殊研究		P0457	2単位
2017年度以前入学生	経済学特殊演習		P604	2単位
担当教員	朝日　ちさと	前期	木曜日	5時限

①授業方針・テーマ	都市経済学・地域経済学・環境経済学の分野のテキストおよび論文を購読し、受講生自らの研究テーマに関する基礎知識および方法論を習得します。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	都市・地域・環境問題に関する経済学的分析の基礎知識および方法論を習得することを目的とします。
③授業計画・内容 授業方法	受講者が自らの研究テーマを設定し、段階的に学会発表および論文執筆を行うことを念頭に置いた研究指導を行います。 テキストおよび論文の購読をレジュメにより報告し、方法論・結論等を習得するとともに、自らの研究テーマに即した応用について議論します。 ※授業が対面で実施できない状況等の際には、オンラインで配信し、受講生は自宅等においてリアルタイムで授業に参加する形式を採ります。
④授業外学習	授業外学習として、テキスト・論文の内容について、知識の確認、レジュメの作成、自らの研究テーマとの関係についての考察等を行います。
⑤テキスト・参考書等	テキストおよび論文は、受講者のテーマ設定に応じて初回講義時に決定します。 参考書類については随時紹介します。
⑥成績評価方法	授業における報告、レポート等によって評価します。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	質問・連絡がある場合には、事前にメールでアポイントをとってください。 e-mail：asahi@tmu.ac.jp
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	都市環境経済学特殊演習		P0458	2単位
2017年度以前入学生	経済学特殊演習		P638	2単位
担当教員	朝日　ちさと	後期	木曜日	5時限

①授業方針・テーマ	都市環境経済学特殊研究によって検討してきた自らの研究テーマについて、個別の調査および分析を進めます。その進捗状況を報告し、受講者間の討論によって調査分析の改善をはかります。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	自らの調査分析の報告を通じて分析内容の改善を図るとともに、受講者間の討論によって、関連分野の知見を蓄積し、調査分析に関する客観的批判的な視座を養います。
③授業計画・内容 授業方法	受講者が自らの研究テーマを設定し、関連学会での発表および論文執筆に向けての研究指導を行います。また、博士論文執筆を進めていくための指導も行います。 ※授業が対面で実施できない状況等の際には、オンラインで配信し、受講生は自宅等においてリアルタイムで授業に参加する形式を採ります。
④授業外学習	授業外学習として、知識の確認、関連する既往研究のレビュー、研究テーマとの関連の考察等を行い、それらに関するレジュメを作成します。
⑤テキスト・参考書等	受講者の研究テーマに応じた参考文献を随時紹介します。
⑥成績評価方法	授業における報告、レポート等によって評価します。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	質問・連絡がある場合には、事前にメールでアポイントをとってください。 e-mail：asahi@tmu.ac.jp
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	財政学特殊研究		P0459	2単位
2017年度以前入学生	経済学特殊演習（財政学ー公共政策分析）		P572	2単位
担当教員	金子　憲	後期	火曜日	1時限

①授業方針・テーマ	財政学の理論を概説した上で、現在の日本が直面している様々な政策課題に焦点をあてながら、国や地方公共団体などの公共部門が果たす役割を、理論面・制度面・政策面から分析を行う。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	財政の役割とその仕組みに関する理解を深めるとともに、政策論に必要な分析手法を重点的に修得することによって、今後の日本の政治・経済・財政全般に関する幅広い視野と政策形成に資する能力を身に付けることを目標とする。
③授業計画・内容 授業方法	国や地方公共団体などの公共部門が行う政策を、財政構造と関連させながら政策的観点から分析を行う。本年度は、主に日本の住宅政策を取り上げる予定である。
④授業外学習	講義前：事前配布資料を一読し、論点をまとめておくこと。 講義後：講義内に提示する課題について、レポートを作成して提出すること。
⑤テキスト・参考書等	講義の際、適宜紹介する。必要に応じてレジュメ等を配布する。
⑥成績評価方法	講義中に実施する課題・報告内容・期末レポートを基に総合的に評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	講義終了後、教室で対応する。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	財政学特殊演習		P0460	2単位
2017年度以前入学生	経済学特殊演習（財政学ー公共政策分析）		P573	2単位
担当教員	金子　憲	後期	火曜日	2時限

①授業方針・テーマ	現在の日本が直面している様々な政策課題に焦点をあてながら、国や地方公共団体などの公共部門が果たす役割を、理論面・制度面・政策面から分析を行う。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	財政の役割とその仕組みに関する理解を深めるとともに、政策論に必要な分析手法を重点的に修得することによって、今後の日本の政治・経済・財政全般に関する幅広い視野と政策形成に資する能力を身に付けることを目標とする。
③授業計画・内容 授業方法	国や地方公共団体などの公共部門が行う政策を、財政構造と関連させながら政策的観点から分析を行う。本年度は、主に日本の住宅政策を取り上げる予定である。
④授業外学習	講義前：事前配布資料を一読し、論点をまとめておくこと。 講義後：講義内に提示する課題について、レポートを作成して提出すること。
⑤テキスト・参考書等	講義の際、適宜紹介する。必要に応じてレジュメ等を配布する。
⑥成績評価方法	講義中に実施する課題・報告内容・期末レポートを基に総合的に評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	講義終了後、教室で対応する。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	日本経済史特殊研究		P0461	2単位
2017年度以前入学生	日本経済史特殊研究		P607	2単位
担当教員	小林　延人	前期	金曜日	3時限

①授業方針・テーマ	近世後期～現在に至るまで（19～21世紀）の日本経済史を扱う。本授業では、経済史の応用的な方法論を学ぶとともに、博士論文の執筆に向けた準備をする。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	・先行研究を正確に理解し、通説として受け入れられている歴史的事実を知識として習得するとともに、先行研究を批判的に検討する姿勢を学ぶ。 ・文献や重要語句の意味を自身で検索し、また短い期間で論文の主旨や問題点を析出する訓練を積むことで、博士論文執筆の上で必要な基礎的技能を身につけることができる。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 第1回　近世日本の制度的基盤 第2回　幕府財政 第3回　開港に伴う経済構造の変容 第4回　近世後期の貨幣制度 第5回　明治維新と維新政府の経済政策 第6回　松方財政 第7回　地方自治と農村経済 第8回　官営事業と殖産興業政策 第9回　産業革命論 第10回　日清戦後経営 第11回　戦間期の日本経済 第12回　戦時統制経済 第13回　戦後復興 第14回　高度経済成長 第15回　現代日本経済 【授業方法】 ・主として講義形式で授業を実施するが、あらかじめリーディングリストを配布し、課題論文を提示する。 ・講義を行った後、講義内容を踏まえた短時間のディスカッションを行う。
④授業外学習	参加者には毎回、課題論文に対するコメントを用意してもらう。事前に課題論文を講読していることを前提として授業を進める。
⑤テキスト・参考書等	リーディングリストを配布し、課題論文を提示する。
⑥成績評価方法	議論への参加〔30%〕、期末レポート〔70%〕 ・レポートについては、適切に課題が設定されているか、先行研究と関連付けて課題が説明されているか、史料的根拠に立脚して自身の見解を述べているか等を評価項目とし、構成と論理性を重視して評価する。 ・正当な理由がなく4回以上授業を欠席した場合は、原則として成績評価の対象としない。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	原則として毎週木曜2限に設定する。メールで事前に連絡すること。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	日本経済史に関わる博士論文を執筆する学生対象の授業であるが、それ以外の学生の参加も認める。

2018年度以降入学生	日本経済史特殊演習		P0462	2単位
2017年度以前入学生	日本経済史特殊研究		P608	2単位
担当教員	小林　延人	後期	金曜日	3時限

①授業方針・テーマ	主として、近世中期～昭和戦前期（18世紀～20世紀前半）の日本経済史を扱う。本演習では、経済史の応用的な方法論を学ぶとともに、博士論文の執筆に向けた準備をする。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	・先行研究を整理し、通説として受け入れられている歴史的事実を知識として習得するとともに、先行研究を批判的に検討する姿勢を学ぶ。 ・個人研究報告を行い、批判を受けることで、自己の研究を見直してさらに議論を深めることができる。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 第1回　江戸期商人の活躍と取引、商慣行 第2回　商人と商業組織 第3回　近世後期における信用制度、交易、交通、インフラの成立と商業 第4回　開国にともなう貿易・社会インフラ·流通機構の変容 第5回　近代的商業経営の成立 第6回　近代商業の発展と貿易の拡大 第7回　近代日用品市場の成立と展開 第8回　新たな小売業態の発展と中小小売商 第9回　生産の量的・質的拡大に対する商業者の反応 第10回　戦時配給統制とヤミ市の相克 第11回　戦時配給組織化と商業機能の喪失 第12回　戦争と商業経営者の存亡 第13回　個人研究報告（1）※ 第14回　個人研究報告（2）※ 第15回　個人研究報告（3）※ ※ 履修者の人数に応じて、個人研究報告の時間を設定する。 【授業方法】 ①テキストの輪読（第1回～第12回）、②個人研究報告（第13回～第15回）、を組み合わせて実施する。 ①を通じて、基礎的知識の習得と文献を批判的に読み解く能力を養う。 ②を通じて、修士論文の執筆につながるような、研究テーマを探る。研究テーマは、教員が直接的には提示せず、演習参加者が自身の関心に沿って選択する方法を採る。
④授業外学習	①の輪読では、毎回報告者を定め、文献の要約・論点をレジュメに作成してきてもらう。報告者以外の演習参加者も事前に文献を講読していることを前提として授業を進める。②では45分～60分程度の報告を行うために、報告者にはレジュメおよびパワーポイント資料を作成することが求められる。
⑤テキスト・参考書等	テキスト：廣田誠·山田雄久·木山実·長廣利崇·藤岡里圭『日本商業史―商業·流通の発展プロセスをとらえる』（有斐閣、2017年）定価2,500円＋税 演習参加者には、テキストを事前に入手することを求める。
⑥成績評価方法	議論への参加〔20%〕、個人研究報告〔40%〕、期末レポート〔40%〕 ・レポートについては、適切に課題が設定されているか、先行研究と関連付けて課題が説明されているか、史料的根拠に立脚して自身の見解を述べているか等を評価項目とし、構成と論理性を重視して評価する。 ・正当な理由がなく4回以上授業を欠席した場合は、原則として成績評価の対象としない。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	原則として毎週木曜2限に設定する。メールで事前に連絡すること。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	日本経済史に関わる博士論文を執筆する学生対象の授業であるが、それ以外の学生の参加も認める。

2018年度以降入学生	アジア経済史特殊研究		P0467	2単位
2017年度以前入学生	アジア経済史特殊研究		P647	2単位
担当教員	竹内　祐介	前期	金曜日	3時限

①授業方針・テーマ	アジア経済史の最新の研究成果を批判的に検討することが目的。（1）ヨーロッパ経済とアジア経済の比較、（2）ヨーロッパ経済とアジア経済の関係、および（3）アジア内の経済関係という視角から、アジア各国史ではない、地域横断的なアジア経済史像を検討する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	・経済史研究をおこなう上での基礎的素養の習得 ・帝国論、グローバルヒストリー等、近年のアジア経済史研究を巡る新しい方法論の習得 ・国際交流に不可欠な、日本と世界とのかかわりについての理解を歴史的・経済的側面から深めること
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 1　授業ガイダンス、グローバル経済史入門 2　アジアとヨーロッパ：経済発展の国際比較 3　銀と大航海時代 4　近世グローバル経済と日本 5　アジア経済とイギリス産業革命 6　世界商品の登場 7　開発と人口 8　グローバル経済の緊密化 9　開発の進行と人の移動 10　国際金融と金本位制度 11　グローバル経済の深化とライフスタイル 12　エネルギー 13　経済発展の多径路性 ＊指定テキスト各章を扱う（1－13のタイトルはそれぞれテキストの章番号・章題に対応している） 【授業方法】 テキストの輪読をおこなう。毎回発表者を決め（教員も発表者として参加）、テキストの各章を要約し、疑問点・論点を提示してもらう。それらにもとづいて、参加者同士で議論をし、理解を深める。
④授業外学習	テキストの該当範囲を事前に読んでくる。発表者は発表の準備をする。
⑤テキスト・参考書等	水島司・島田竜登［2018］『グローバル経済史』放送大学教育振興会
⑥成績評価方法	平常点により評価する。（特に議論への参加度合いを重視する。）
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	メールで質問すること。原則、水曜日昼休みを目途に返信する。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	履修を希望する場合には、必ず事前に教員宛てにメールすること。

2018年度以降入学生	アジア経済史特殊演習		P0468	2単位
2017年度以前入学生	アジア経済史特殊研究		P648	2単位
担当教員	竹内　祐介	後期	金曜日	3時限

①授業方針・テーマ	アジア経済史の最新の研究成果を批判的に検討することが目的。対象とするのは、主に18〜20世紀で、アジア各国史ではない、地域横断的な研究成果を検討し、マクロ的視野でアジア経済の歴史および現状を考えられるようにする。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	・経済史研究をおこなう上での基礎的素養の習得 ・帝国論、グローバルヒストリー等、近年のアジア経済史研究を巡る新しい方法論の習得 ・国際交流に不可欠な、日本と世界とのかかわりについての理解を歴史的・経済的側面から深めること
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 1　ガイダンス 2　「長期の18世紀」から「東アジアの経済的再興」へ 3　グローバルヒストリー：比較と関係性（1） 4　グローバルヒストリー：比較と関係性（2） 5　「長期の18世紀」におけるアジア（1） 6　「長期の18世紀」におけるアジア（2） 7　「長期の18世紀」におけるアジア（3） 8　「長期の18世紀」におけるアジア（4） 9　前半部のまとめ 10　「東アジアの経済的再興」の歴史的起源（1） 11　「東アジアの経済的再興」の歴史的起源（2） 12　「東アジアの経済的再興」の歴史的起源（3） 13　グローバルヒストリー研究の現在（1） 14　グローバルヒストリー研究の現在（2） 15　後半部のまとめ ＊第2〜12回は指定テキスト各章を扱う。第13〜14回は別の論文を扱う。具体的指示は講義中に行う。 【授業方法】 テキストの輪読をおこなう。毎回発表者を決め、テキストの各章を要約し、疑問点・論点を提示してもらう（発表はパワーポイントでおこなう）。それらにもとづいて、参加者同士で議論をし、理解を深める。
④授業外学習	テキストの該当範囲を事前に読んでくる。発表者は発表の準備（パワーポイントで作成）をする。
⑤テキスト・参考書等	秋田茂編［2013］『アジアからみたグローバルヒストリー：「長期の18世紀」から「東アジアの経済的再興」へ』ミネルヴァ書房
⑥成績評価方法	平常点により評価する。（特に議論への参加度合いを重視する。）
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	原則として、毎週水曜日昼休み。メールで事前予約が必要。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	履修を希望する場合には、必ず初回授業日までにメールで連絡すること（takeuchi-yusuke@tmu.ac.jp）

2018年度以降入学生	金融工学特殊研究		P0469	2単位
2017年度以前入学生	金融工学特殊研究		P613	2単位
担当教員	内山　朋規	前期	金曜日	4時限
①授業方針・テーマ	本講義では、金融工学やファイナンスに関する最新の論文を輪読したり、学生自身の研究を発表する。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	金融工学やファイナンスに関する知識・能力を習得する。到達目標は、最新の論文を輪読し、独創性に富んだ新しい論文を執筆できる能力を養うことにある。			
③授業計画・内容 授業方法	毎回、出席者による報告			
④授業外学習	論文輪読や研究報告・発表の準備			
⑤テキスト・参考書等	特になし			
⑥成績評価方法	毎回の報告内容と参加態度による総合評価			
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	原則として木曜以外。在席時には随時、不在時にはメールで受け付ける。場所は丸の内サテライトキャンパス。			
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	ファイナンス・金融工学では、動学的かつ確率的な枠組みのもとで理論が展開されるため、確率過程や確率解析、統計などで相応のレベルの数学が必須である。例えば以下のテキストのレベルの数学を理解できることが求められる。 Darrell Duffie（2001）Dynamic Asset Pricing Theory, Third Ed., Princeton Univ Pr. ただし、講義では経済学的なインプリケーションを重視する。			

2018年度以降入学生	金融工学特殊演習		P0470	2単位
2017年度以前入学生	金融工学特殊研究		P614	2単位
担当教員	内山　朋規	後期	金曜日	4時限
①授業方針・テーマ	本講義では、金融工学やファイナンスに関する最新の論文を輪読したり、学生自身の研究を発表する。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	金融工学やファイナンスに関する知識・能力を習得する。到達目標は、最新の論文を輪読し、独創性に富んだ新しい論文を執筆できる能力を養うことにある。			
③授業計画・内容 授業方法	毎回、出席者による報告			
④授業外学習	論文輪読や研究報告・発表の準備			
⑤テキスト・参考書等	特になし			
⑥成績評価方法	毎回の報告内容と参加態度による総合評価			
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	原則として木曜以外。在席時には随時、不在時にはメールで受け付ける。場所は丸の内サテライトキャンパス。			
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	ファイナンス・金融工学では、動学的かつ確率的な枠組みのもとで理論が展開されるため、確率過程や確率解析、統計などで相応のレベルの数学が必須である。例えば以下のテキストのレベルの数学を理解できることが求められる。 Darrell Duffie（2001）Dynamic Asset Pricing Theory, Third Ed., Princeton Univ Pr. ただし、講義では経済学的なインプリケーションを重視する。			

2018年度以降入学生	金融リスク特殊研究		P0471	2単位
2017年度以前入学生	金融リスク特殊研究		P576	2単位
担当教員	室町　幸雄	前期	金曜日	1時限

①授業方針・テーマ	金融リスクの定量的評価に関する文献の輪読による基礎知識の習得
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	金融リスクの定量的評価に必要な基礎知識を習得し、実際に使えるようになることを目指す。
③授業計画・内容 授業方法	金融リスクの定量的評価に関する英語テキストの輪読を行う。毎回、担当者がテキストの内容を発表する。担当者は内容を吟味しながら読み進め、レジュメなどを使用しながら参加者に説明する。数式に関しては逐一追跡する。必要があれば、参考文献として他のテキストや論文も読み進める。発表者以外の参加者も、事前にテキストを一読し、疑問点を整理しておくこと。 使用するテキストは初回に参加者と話し合って決定する。ちなみに、以前使用していたテキストは、 McNeil, Frey, Embrechts, Quantitative Risk Management:Concepts, Techniques and Tools である。
④授業外学習	予習と復習は必須である。特に、発表担当者は入念な準備が必要である。
⑤テキスト・参考書等	初回に決定する。
⑥成績評価方法	講義への参加姿勢と内容の習得度をもとに評価する。
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	オフィスアワー：特に設定しない。メール（muromachi-yukio@tmu.ac.jp）で必ずアポイントメントをとること。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	数理的な面が強い講義になるので、参加者は基礎的な数学、統計学、ファイナンスの知識を習得していることが必要である。

2018年度以降入学生	金融リスク特殊演習		P0472	2単位
2017年度以前入学生	金融リスク特殊研究		P577	2単位
担当教員	室町　幸雄	後期	金曜日	1時限

①授業方針・テーマ	金融リスクの定量的評価に関する文献の輪読による基礎知識の習得
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	金融リスクの定量的評価に必要な基礎知識を習得し、実際に使えるようになることを目指す。
③授業計画・内容 授業方法	金融リスクの定量的評価に関する英語テキストの輪読を行う。毎回、担当者がテキストの内容を発表する。担当者は内容を吟味しながら読み進め、レジュメなどを使用しながら参加者に説明する。数式に関しては逐一追跡する。必要があれば、参考文献として他のテキストや論文も読み進める。発表者以外の参加者も、事前にテキストを一読し、疑問点を整理しておくこと。 使用するテキストは初回に参加者と話し合って決定する。ちなみに、以前使用していたテキストは、 McNeil, Frey, Embrechts, Quantitative Risk Management:Concepts, Techniques and Tools である。 やや演習の色合いを強める。
④授業外学習	予習と復習は必須である。特に、発表担当者は入念な準備が必要である。
⑤テキスト・参考書等	初回に決定する。
⑥成績評価方法	講義への参加姿勢と内容の習得度をもとに評価する。
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	オフィスアワー：特に設定しない。メール（muromachi-yukio@tmu.ac.jp）で必ずアポイントメントをとること。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	数理的な面が強い講義になるので、参加者は基礎的な数学、統計学、ファイナンスの知識を習得していることが必要である。

2018年度以降入学生	金融リスク特殊研究		P0840	2単位
2017年度以前入学生	―		―	―
担当教員	吉羽　要直	前期	金曜日	5時限
①授業方針・テーマ	本講義では、金融リスクの定量化に関する最新の論文を輪読したり、学生自身の研究を発表する。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	金融リスク管理に関する知識・能力を習得する。最新の論文を輪読することで、独創性と新規性の高い論文を執筆できる能力を養うことを到達目標とする。			
③授業計画・内容　授業方法	初回を除き、毎回、出席者による報告を原則とする。金融リスク把握の基礎として、下記の教科書の内容は事前に理解しておくこと。 Hull (2018), Risk Management and Financial Institutions, 5th Edition, Wiley.			
④授業外学習	予習と復習は必須である。特に、発表担当者は入念な準備が必要である。			
⑤テキスト・参考書等	教科書を輪読する場合には初回に参加者と話し合って決定する。上記のHull (2018)の内容は事前に理解しておくこと。			
⑥成績評価方法	講義への参加姿勢と内容の習得度をもとに評価する。			
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワー：特に設定しない。在席時には随時、不在時にはメール（tyoshiba@tmu.ac.jp）で受け付ける。場所は丸の内サテライトキャンパス。			
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	ファイナンスプログラムの前期課程で修得すべきファイナンス、確率過程や確率解析、統計学や計量経済学の知識を習得していることは必須である。			

2018年度以降入学生	金融リスク特殊演習		P0841	2単位
2017年度以前入学生	―		―	―
担当教員	吉羽　要直	後期	月曜日	5時限
①授業方針・テーマ	本講義では、金融リスクの定量化に関する最新の論文を輪読したり、学生自身の研究を発表する。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	金融リスク管理に関する知識・能力を習得する。最新の論文を輪読することで、独創性と新規性の高い論文を執筆できる能力を養うことを到達目標とする。			
③授業計画・内容　授業方法	演習の色彩を強め、毎回、出席者による報告を原則とする。金融リスク把握の基礎として、下記の教科書の内容は事前に理解しておくこと。 Hull (2018), Risk Management and Financial Institutions, 5th Edition, Wiley.			
④授業外学習	予習と復習は必須である。特に、発表担当者は入念な準備が必要である。			
⑤テキスト・参考書等	教科書を輪読する場合には初回に参加者と話し合って決定する。上記のHull (2018)の内容は事前に理解しておくこと。			
⑥成績評価方法	講義への参加姿勢と内容の習得度をもとに評価する。			
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワー：特に設定しない。在席時には随時、不在時にはメール（tyoshiba@tmu.ac.jp）で受け付ける。場所は丸の内サテライトキャンパス。			
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	ファイナンスプログラムの前期課程で修得すべきファイナンス、確率過程や確率解析、統計学や計量経済学の知識を習得していることは必須である。			

2018年度以降入学生	オプション理論特殊研究		P0473	2単位
2017年度以前入学生	ー		ー	ー
担当教員	竹原　浩太	前期	火曜日	1時限

①授業方針・テーマ	高度なオプションの評価、リスク管理
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	高度なオプションの評価、リスク管理に必要な知識や理論、また最新の知見を学ぶ。
③授業計画・内容 授業方法	オプション評価やリスク管理に関するテキストの輪読を行う。 対象となる文献については、書籍・論文を問わずできる限り最新のもの、 また英文のものを中心とする予定である。 担当者が発表を行う形とするが、主にレジュメやホワイトボードを使用し、 単に文献の主張や成果をそのまま述べるのではなく、批判的な視点から検討を行う。
④授業外学習	論文精読、発表準備
⑤テキスト・参考書等	L. Bergomi, 'Stochastic Volatility Modeling',Chapman and Hall/CRC, 2016.
⑥成績評価方法	出席及び自身の発表を含む全体への貢献で評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	原則として毎週月曜5限（夜）をオフィスアワーとして設定する。 それ以外の時間帯に来訪する場合には、事前にメールでアポイントメントを取ること。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	オプション理論特殊演習		P0474	2単位
2017年度以前入学生	ー		ー	ー
担当教員	竹原　浩太	後期	火曜日	1時限

①授業方針・テーマ	高度なオプションの評価、リスク管理
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	高度なオプションの評価、リスク管理に必要な知識や理論、また最新の知見を学ぶ。
③授業計画・内容 授業方法	オプション評価やリスク管理に関するテキストの輪読を行う。 対象となる文献については、書籍・論文を問わずできる限り最新のもの、 また英文のものを中心とする予定である。 担当者が発表を行う形とするが、主にレジュメやホワイトボードを使用し、 単に文献の主張や成果をそのまま述べるのではなく、批判的な視点から検討を行う。
④授業外学習	論文精読、発表準備
⑤テキスト・参考書等	Antonov, Konikov, Spector, 'Modern SABR Analytics',Springer, 2019.
⑥成績評価方法	出席及び自身の発表を含む全体への貢献で評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	原則として毎週月曜5限（夜）をオフィスアワーとして設定する。 それ以外の時間帯に来訪する場合には、事前にメールでアポイントメントを取ること。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	社会経済史特殊研究		P0838	2単位
2017年度以前入学生	―		―	―
担当教員	岩間　俊彦	前期	月曜日	2時限

①授業方針・テーマ	・近年の欧米における社会や経済の歴史に関する歴史的分析方法について学びます。 ・学術論文・学術書・資料の収集方法・整理・文書化（論文執筆の作法）について演習します。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	・歴史的分析方法に基づく研究を実証的かつ理論的にすすめる能力を高めます。 ・社会科学研究に必要な一次資料や学術文献の収集・整理・考察・表記・論文作成に関するスキルを高めます。
③授業計画・内容 授業方法	・論文作成に関するテキストや社会科学研究における一次資料（archives）の特徴を解説したテキストを読解しながら、欧米の社会や経済の歴史に関する研究方法の理解を深めます。 ・研究方法に関する演習の成果を確認するために、参加者各自の研究課題に即して資料作成と報告を行います。 ・論文作成や基礎的調査方法に関する演習を中心に行います。 ・予定 1　授業の案内 2－14　講読と演習 15　授業のまとめ
④授業外学習	授業前に、テキストを予習したうえで、授業後、要点を確認・整理し、必要に応じて、関連する参考文献を参照しつつ、課題を準備してください。
⑤テキスト・参考書等	テキスト　吉田健正『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方 第2版』ナカニシヤ出版 参 考 書　佐藤郁哉『フィールドワーク 増訂版』新曜社、石井寛治他編『日本経済史6』東京大学出版会、小川千代子他編著『アーカイブ事典』大阪大学出版会、S. Gunn and L. Faire (eds.), Research Methods for History (2011)。必要に応じて、授業時に指示します。
⑥成績評価方法	授業への参加（授業態度、授業への貢献、演習内容、4割）と課題提出（6割）によります。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	質問等のためのオフィスアワーを設置します。初回に説明します。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	社会経済史特殊演習		P0839	2単位
2017年度以前入学生	―		―	―
担当教員	岩間　俊彦	後期	月曜日	1時限

①授業方針・テーマ	・近年の欧米における社会や経済の歴史に関する歴史的分析方法について学びます。 ・学術論文・学術書・資料の収集方法・整理・文書化（論文執筆の作法）について演習します。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	・歴史的分析方法に基づく研究を実証的かつ理論的にすすめる能力を高めます。 ・社会科学研究に必要な一次資料や学術文献の収集・整理・考察・表記・論文作成に関するスキルを高めます。
③授業計画・内容 授業方法	・論文作成に関するテキストや社会科学研究における一次資料（archives）の特徴を解説したテキストを読解しながら、欧米の社会や経済の歴史に関する研究方法の理解を深めます。 ・研究方法に関する演習の成果を確認するために、参加者各自の研究課題に即して資料作成と報告を行います。 ・論文作成や基礎的調査方法に関する演習を中心に行います。 ・予定 1　授業の案内 2－14　講読と演習 15　授業のまとめ
④授業外学習	授業前に、テキストを予習したうえで、授業後、要点を確認・整理し、必要に応じて、関連する参考文献を参照しつつ、課題を準備してください。
⑤テキスト・参考書等	テキスト　吉田健正『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方 第2版』ナカニシヤ出版 参 考 書　佐藤郁哉『フィールドワーク 増訂版』新曜社、石井寛治他編『日本経済史6』東京大学出版会、小川千代子他編著『アーカイブ事典』大阪大学出版会、S. Gunn and L. Faire (eds.), Research Methods for History (2011)。必要に応じて、授業時に指示します。
⑥成績評価方法	授業への参加（授業態度、授業への貢献、演習内容、4割）と課題提出（6割）によります。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	質問等のためのオフィスアワーを設置します。初回に説明します。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	西洋経済史特殊研究		P0465	2単位
2017年度以前入学生	西洋経済史特殊研究		P619	2単位
担当教員	井澤　龍	前期	火曜日	3時限

①授業方針・テーマ	西洋経済史・グローバル経済史の代表的なテキストの研究成果を批判的に読み込み、近年の経済史研究における研究成果の吸収と、研究動向の把握を行います。また、論文執筆（特に経済史系）に必要な調査法、リサーチ・デザインについて学びます。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	・経済史研究をおこなう上での基礎的素養の習得 ・近年の西洋経済史・グローバル経済史研究成果の把握 ・社会科学系・人文学系学術論文作成のための方法論の習得
③授業計画・内容 授業方法	※コロナ対応等により、授業の実施場所・成績評価の仕方などが変わります。 Onlineシラバス、kibaco、教員HP(https://sites.google.com/site/ryoizawahome/lecture/lecture2021)の確認をお願いします。 テキスト・学術誌の輪読を行います。発表者を決め、テキストの各章を要約し、疑問点・論点を提示してもらいます。それらに基づいて、参加者同士で議論をし、理解を深めます。 1．授業ガイダンス 2～15. 関心のある章・節について訳出し、輪読 Vol.1 (1700 – 1870) 1 – Understanding growth in Europe, 1700–1870: theory and evidence 2 – The demographic transition and human capital 3 – State and private institutions 4 – Trade and empire 5 – Business cycles 6 – Agriculture 7 – Industry 8 – The services sector 9 – Standards of living 10 – Urbanization 11 – Europe in an Asian mirror: the Great Divergence Vol.2 (1870 – present) 1 – Globalization, 1870–1914 2 – Aggregate growth, 1870–1914: growing at the production frontier 3 – Sectoral developments, 1870–1914 4 – Business cycles, 1870–1914 5 – Population and living standards, 1870–1914 6 – War and disintegration, 1914–1950 7 – Business cycles and economic policy, 1914–1945 8 – Aggregate growth, 1913–1950 9 – Sectoral developments, 1914–1945 10 – Population and living standards, 1914–1945 11 – The economic impact of European integration 12 – Aggregate growth, 1950–2005 13 – Sectoral developments, 1945–2000 14 – Business cycles and economic policy, 1945–2007 15 – Population and living standards, 1945–2005
④授業外学習	受講者は、テキスト・論文を事前に読み、発表する場合は、発表準備（重要箇所について訳出を含む）を行ってください。
⑤テキスト・参考書等	Broadberry, S., & O'Rourke, K. H. (2010). The Cambridge economic history of modern Europe: Volume 1, 1700-1870. Cambridge University Press. Broadberry, S., & O'Rourke, K. H. (2010). The Cambridge economic history of modern Europe: Volume 2, 1870 to the present. Cambridge University Press.
⑥成績評価方法	平常点（発表の水準、授業中の参加姿勢等）により評価します。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	初回に説明します。前日までにメールで予約してください(ryoizawa@tmu.ac.jp)。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	履修する場合には、必ず初回授業に参加してください。

2018年度以降入学生	西洋経済史特殊演習		P0466	2単位
2017年度以前入学生	西洋経済史特殊研究		P620	2単位
担当教員	井澤　龍	後期	火曜日	3時限

①授業方針・テーマ	西洋経済史・グローバル経済史の代表的なテキストの研究成果を批判的に読み込み、近年の経済史研究における研究成果の吸収と、研究動向の把握を行います。また、論文執筆（特に経済史系）に必要な調査法、リサーチ・デザインについて学びます。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	・経済史研究をおこなう上での基礎的素養の習得 ・近年の西洋経済史・グローバル経済史研究成果の把握 ・社会科学系・人文学系学術論文作成のための方法論の習得
③授業計画・内容 授業方法	※コロナ対応等により、授業の実施場所・成績評価の仕方などが変わります。 Onlineシラバス、kibaco、教員HP（https://sites.google.com/site/ryoizawahome/lecture/lecture2021）の確認をお願いします。 テキスト・学術誌の輪読を行います。発表者を決め、テキストの各章を要約し、疑問点・論点を提示してもらいます。それらに基づいて、参加者同士で議論をし、理解を深めます。 学術誌の輪読にあたっては、受講者の関心に従って論文を選びます。 なお、テキストに関しては、教員が示すのはあくまで例です。受講生の関心を聴取しながら、テキストあるいは論文の選定を第1回目で行います。 1．授業ガイダンス 2．【テキスト 序　章】序　章　グローバル化の経済史 3．【テキスト 第1章】グローバル化以前の世界経済（～15世紀） 4．【テキスト 第2章】グローバル化の開始（16世紀） 5．【テキスト 第3章】危機の時代（17世紀） 6．【テキスト 第4章】近世経済の成立（18世紀） 7．【テキスト 第5章】工業化の開始と普及 8．【テキスト 第6章】ヒト・モノ・カネの移動の拡大と制度的枠組みの変化 9．【テキスト 第7章】植民地体制の変容とラテンアメリカ，アジアの工業化 10.【テキスト 第8章】工業化の新しい波と世界大戦 11.【テキスト 第9章】世界大恐慌とグローバル化の停滞 12.【テキスト 第10章】再始動するグローバル化 13.【テキスト 第11章】グローバル化と開発 14.【テキスト 第12章】加速するグローバル化 15.【テキスト 終章】グローバル化の行方
④授業外学習	受講者は、テキスト・論文を事前に読み、発表する場合は、発表準備を行ってください。
⑤テキスト・参考書等	河崎信樹・村上衛・山本千映『グローバル経済の歴史』有斐閣アルマ、2020年。
⑥成績評価方法	平常点（発表の水準、授業中の参加姿勢等）により評価します。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	初回に説明します。前日までにメールで予約してください（ryoizawa@tmu.ac.jp）。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	履修する場合には、必ず初回授業に参加してください。

2018年度以降入学生	金融論特殊研究		P0443	2単位
2017年度以前入学生	金融特殊研究		P643	2単位
担当教員	松岡　多利思	前期	水曜日	4時限

①授業方針・テーマ	本講義では、貨幣経済学（マネタリー・エコノミックス）に関するテキストおよび論文を講義・輪読する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	習得できる知識は動学的一般均衡の枠組みで貨幣の役割や金融政策の効果等を分析する手法である。到達目標は、最先端の論文を読み、独自性のある新しい論文を執筆できる能力を養うことにある。
③授業計画・内容 授業方法	貨幣理論についてのテキストおよび論文を輪読する。基礎的な事項から最先端の研究に至るまで、包括的に扱う予定である。 初回：イントロダクション 初回以降は講義および参加者による輪読で進める。
④授業外学習	授業内容の予習と復習。
⑤テキスト・参考書等	■Modeling Monetary Economics, 4th Edition, by B.Champ, S. Freeman, and J. Haslag, Cambridge University Press ■Money, Payments, and Liquidity, 2nd Edition, by G. Rocheteau and E. Nosal, The MIT Press.
⑥成績評価方法	取り組み方、達成度など総合的に判断する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは木曜日3限。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	経済学プログラム科目「マクロ経済学」「ミクロ経済学」「経済数学」「計量経済学」を全て履修済みか、それと同等の知識を持っていること。 今後また変更がある場合はkibacoを通じてお知らせします。 オンライン授業になった場合の授業方法の詳細もkibacoに掲示しますのでそちらをご覧ください。

2018年度以降入学生	金融論特殊演習		P0444	2単位
2017年度以前入学生	金融特殊研究		P644	2単位
担当教員	松岡　多利思	後期	水曜日	4時限

①授業方針・テーマ	本講義では、貨幣経済学（マネタリー・エコノミックス）に関するテキストおよび論文を講義・輪読する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	習得できる知識は動学的一般均衡の枠組みで貨幣の役割や金融政策の効果等を分析する手法である。到達目標は、最先端の論文を読み、独自性のある新しい論文を執筆できる能力を養うことにある。
③授業計画・内容 授業方法	貨幣理論についてのテキストおよび論文を輪読する。基礎的な事項から最先端の研究に至るまで、包括的に扱う予定である。 初回：イントロダクション 初回以降は講義および参加者による輪読で進める。
④授業外学習	授業内容の予習と復習。
⑤テキスト・参考書等	■Modeling Monetary Economics, 4th Edition, by B.Champ, S. Freeman, and J. Haslag, Cambridge University Press ■Money, Payments, and Liquidity, 2nd Edition, by G. Rocheteau and E. Nosal, The MIT Press.
⑥成績評価方法	取り組み方、達成度など総合的に判断する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは木曜日3限。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	経済学プログラム科目「マクロ経済学」「ミクロ経済学」「経済数学」「計量経済学」を全て履修済みか、それと同等の知識を持っていること。

2018年度以降入学生	企業金融論特殊研究		P0429	2単位
2017年度以前入学生	企業金融特殊研究		P455	2単位
担当教員	芝田　隆志	前期	月曜日	1時限

①授業方針・テーマ	本講義では、企業金融に関するテキストおよび論文を輪読する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	●習得できる知識はファイナンス理論および金融工学の手法である。 ●到達目標は、国際学術誌に掲載された最新論文を読みこなす能力、かつ国際学術誌に掲載されるレベルの論文を執筆する能力を養うことにある。
③授業計画・内容 授業方法	ファイナンス理論について、基礎的な事項から最先端の研究に至るまで、テキストおよび論文を輪読する。 1　イントロダクション 2－15　輪読
④授業外学習	輪読する論文を事前に読んでおくこと
⑤テキスト・参考書等	ファイナンスに関する論文
⑥成績評価方法	平常点
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	月曜12：00－13：00(メールにて事前予約すること)
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	企業金融論特殊演習		P0430	2単位
2017年度以前入学生	企業金融特殊研究		P456	2単位
担当教員	芝田　隆志	後期	月曜日	1時限

①授業方針・テーマ	本講義では、企業金融に関するテキストおよび論文を輪読する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	●習得できる知識はファイナンス理論および金融工学の手法である。 ●到達目標は、国際学術誌に掲載された最新論文を読みこなす能力、かつ国際学術誌に掲載されるレベルの論文を執筆する能力を養うことにある。
③授業計画・内容 授業方法	ファイナンス理論について、基礎的な事項から最先端の研究に至るまで、テキストおよび論文を輪読する。 1　イントロダクション 2－15　輪読
④授業外学習	輪読する論文を事前に読んでおくこと
⑤テキスト・参考書等	ファイナンスに関する論文
⑥成績評価方法	平常点
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	月曜12：00－13：00(メールにて事前予約すること)
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

2018年度以降入学生	数理ファイナンス特殊研究		P0478	2単位
2017年度以前入学生	数理ファイナンス特殊研究		P400	2単位
担当教員	足立　高徳	前期	月曜日	5時限

①授業方針・テーマ	研究者を目指すために必要な、数理ファイナンスに関する高度な知識と技術を習得する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	従来の確率微分方程式等を使った技術のみでなく、機械学習や量子情報技術も使ってファイナンスを数理的に科学する力をつけることを目指す。
③授業計画・内容 授業方法	発表者の研究テーマに沿った数理ファイナンスに関する理論研究や演習を行う。 具体的には関連する英語書籍の輪講、論文の精読を行うが、実験の追試にとどまらず、金融工学研究センターが所持する最新のデータを使ってさらに発展した実験を行い報告することが期待されている。 発表者は、自分の手で理論を咀嚼し、プログラミングを含む技法を使って、先行研究の発展的体得を目指す。 またスライド等も使う発表の訓練も行う。
④授業外学習	予習と復習は必須である。特に、発表担当者は入念な準備が必要である。
⑤テキスト・参考書等	適宜選定する。
⑥成績評価方法	講義への参加姿勢と内容の習得度をもとに評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	不定。事前にメール（taka.adachi@tmu.ac.jp）にて予約すること。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	数理的な面が極めて強い講義になるので、参加者は十分な数学、統計学、ファイナンス及びプログラミングの知識と技術を習得していることが必須である。 また講義の性格上、自身のテーマをしっかりと持っていなければ、参加を認めることはできない。

2018年度以降入学生	数理ファイナンス特殊演習		P0479	2単位
2017年度以前入学生	数理ファイナンス特殊研究		P401	2単位
担当教員	足立　高徳	後期	月曜日	5時限

①授業方針・テーマ	研究者を目指すために必要な、数理ファイナンスに関する高度な知識と技術を習得する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	従来の確率微分方程式等を使った技術のみでなく、機械学習や量子情報技術も使ってファイナンスを数理的に科学する力をつけることを目指す。
③授業計画・内容 授業方法	発表者の研究テーマに沿った数理ファイナンスに関する理論研究や演習を行う。 具体的には関連する英語書籍の輪講、論文の精読を行うが、実験の追試にとどまらず、金融工学研究センターが所持する最新のデータを使ってさらに発展した実験を行い報告することが期待されている。 発表者は、自分の手で理論を咀嚼し、プログラミングを含む技法を使って、先行研究の発展的体得を目指す。 またスライド等も使う発表の訓練も行う。
④授業外学習	予習と復習は必須である。特に、発表担当者は入念な準備が必要である。
⑤テキスト・参考書等	適宜選定する。
⑥成績評価方法	講義への参加姿勢と内容の習得度をもとに評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	不定。事前にメール（taka.adachi@tmu.ac.jp）にて予約すること。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	数理的な面が極めて強い講義になるので、参加者は十分な数学、統計学、ファイナンス及びプログラミングの知識と技術を習得していることが必須である。 また講義の性格上、自身の研究テーマをしっかりと持っていなければ、参加を認めることはできない。

2018年度以降入学生	金融数値解法特殊研究		P0475	2単位
2017年度以前入学生	ー		ー	ー
担当教員	八木　恭子	前期	金曜日	4時限
①授業方針・テーマ	金融数値解法に関するテキストの輪読による理論的な知識や能力の習得			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	金融数値解法に関する理論的な知識や能力を習得し、独創性のある新たな論文を執筆する基礎的な能力を養う。			
③授業計画・内容 授業方法	金融数値解法に関するテキストの輪読を行う。			
④授業外学習	テキストの輪読の準備。担当範囲は講義内で指示する。			
⑤テキスト・参考書等	初回に決定する。			
⑥成績評価方法	講義への参加態度と内容の習得度をもとに総合的に評価する。			
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは特に設定しないが、質問等がある場合は事前にメールでアポイントメントをとること。 【連絡先】kyagi@tmu.ac.jp			
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	金融数値解法を学ぶためには、金融工学の基礎と理系学部程度の数学の知識は必要不可欠である。また、テキスト内の数値計算やシミュレーションを再現するために、基礎的なコンピュータ技術を必要とする。			

2018年度以降入学生	金融数値解法特殊演習		P0476	2単位
2017年度以前入学生	ー		ー	ー
担当教員	八木　恭子	後期	月曜日	4時限
①授業方針・テーマ	金融数値解法に関する最新の論文を輪読し、金融数値解法に関する能力を高める。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	金融数値解法特殊研究を通じて養った知識や能力を用いて、金融数値解法に関する最新の論文を輪読し、金融数値解法に関する能力を高め、学術論文を執筆する。			
③授業計画・内容 授業方法	金融数値解法に関する最新の論文の輪読と研究報告			
④授業外学習	論文輪読と研究報告の準備。			
⑤テキスト・参考書等	特になし			
⑥成績評価方法	毎回の報告内容と参加態度をもとに総合的に評価する。			
⑦質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは特に設定しないが、質問等がある場合は事前にメールでアポイントメントをとること。 【連絡先】kyagi@tmu.ac.jp			
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	金融数値解法を学ぶためには、金融工学の基礎と理系学部程度の数学の知識は必要不可欠である。また、最新の論文内の数値計算やシミュレーションを再現するために、基礎的なコンピュータ技術を必要とする。			

Ⅳ　時間割とkibaco等について

丸の内サテライトキャンパス及び南大沢キャンパスの授業時間は以下のとおりです。平日と土曜日で授業時間が異なります。またキャンパスごとも授業時間が異なりますのでご注意ください。

1　丸の内サテライトキャンパス

【月曜日～金曜日】

時限	授業時間	主な授業実施プログラム
5時限	18:20 ～ 19:50	経営学プログラム（高度専門職業人養成プログラム※）及び経済学プログラム、ファイナンスプログラム（高度金融専門人材養成プログラム）
6時限	20:00 ～ 21:30	

※2015年度までの高度専門職業人養成プログラムの1時限及び2時限は、2016年度から5時限及び6時限という表記に変更しました。授業時間に変更はありません。

【土曜日】

時限	授業時間	主な授業実施プログラム
1時限	10:30 ～ 12:00	経営学プログラム（高度専門職業人養成プログラム）及び経済学プログラム、ファイナンスプログラム（高度金融専門人材養成プログラム）
2時限	13:00 ～ 14:30	
3時限	14:40 ～ 16:10	
4時限	16:20 ～ 17:50	

2　南大沢キャンパス

【月曜日～金曜日】

時限	授業時間
1時限	8 :50 ～ 10:20
2時限	10:30 ～ 12:00
3時限	13:00 ～ 14:30
4時限	14:40 ～ 16:10
5時限	16:20 ～ 17:50
6時限	18:00 ～ 19:30

3　大学メール／ kibaco（教育研究用情報システム）のパスワードを忘れないために

大学メール、kibacoおよび学生ポータルは、本学の教育研究用情報システム上のメニューで、すべて同じユーザーIDとパスワードで管理されています（CAMPUSSQUARE for WEBは違うID・パスワード）。パスワードを失念したり有効期限が切れたりすると、kibacoにログインできないなど授業参加に支障がでるため、「パスワード再設定用メールアドレス登録」と「電子メールの転送先設定」を行い確実にパスワードの管理してください。

●「パスワード再設定用メールアドレス登録」を行いましょう。

パスワード再設定用アドレスを登録することで、パスワード忘れの際自分でリセットすることができます。また、電子メールの転送先設定をしておくと、期限切れ2週間前にくるパスワード有効期限の通知メールを受信できます。

上記の設定方法は「東京都立大学 教育研究用情報システムの総合案内サイト」TMUNERの、利用者メニューやシステム利用方法から確認してください。

http://www.comp.tmu.ac.jp/tmuner/riyoshamenu.html

●大学メール使用を推奨します。

kibacoやキャンパスからのメールは、大学メールあてにしか送信されないため、上記の設定で大学メールを常に確認できるようにしておきましょう。

キャンパスからのメールには履修登録、論文提出についてなど締切を伴う重要なお知らせが含まれています。メールの内容は必ず確認してください。

また、学内関係者や大学外部に本学学生としてメールする場合、極力大学メール（ed.tmu.ac.jpドメイン）を使用してください。ac.jpドメインは高等教育機関に所属する者に付与されるもので、フリーメールに比べてある程度の信頼性を伴うとされています。ac.jpアカウントはだれでも持てるものではないので、学生であるうちに有効に利用することを推奨します。

Ⅴ　交通機関運休の場合等の授業の取り扱いについて

○丸の内サテライトキャンパスにおける交通機関運休の場合等の授業の取り扱いについて

丸の内サテライトキャンパスにおける授業の休講について、取り扱いは次のとおりとします。

1　休講等を検討する場合

（1）　ＪＲ線及び地下鉄各線が著しく「運休」し、通学に支障をきたす場合

（2）　東京23区に気象警報（大雨、洪水、暴風、暴風雪、大雪等）が発令されている場合

（3）　首都圏を対象とした「大規模地震の警戒宣言」が発令された場合

→（1）、（2）の場合は状況をもとに休講について検討する。（3）の場合は発令された時点で休講とする。

（注）「運休」とは、テレビ及びラジオ等により当該路線の全線の運転休止が確認されているものをいう。

2　休講を決定する時刻

平日　　第5時限～第6時限（18:20 ～21:30）については午後4時までに決定する。

土曜日　第1時限（10:30 ～12:00）については午前8時までに決定する。
第2時限から第4時限（13:00 ～17:50）については午前10時30分までに決定する。

3　周知方法

上記各項に基づく休講措置については、原則としてメール配信にて提供する。

○丸の内サテライトキャンパス内における緊急時の対応について

授業中等に地震や火災の発生により防災センターから避難放送が流れる場合があります。その場合は避難放送の指示に従い行動します。避難指示があるまでは教室で待機してください。

なお、待機中は、永楽ビルディング内の他テナント所有部分等に立ち入ることのないよう、注意して下さい。

○南大沢キャンパスにおける交通機関運休の場合等の授業の取扱いについて

博士後期課程及び博士前期課程B2科目などの南大沢キャンパスで開講される授業について、交通機関が、積雪、風水害、事故、ストライキ等により運休した場合等の授業の取り扱いは、次のとおりとし、（4）の方法により確認することができます。

（注）「運休」とは、テレビ及びラジオ等により当該路線の全線の運転休止が確認されているものをいう。

（1） 午前6時現在、京王相模原線・京王線、ＪＲ横浜線、小田急小田原線のいずれかが運休している場合は、第1時限～第2時限（8:50～12:00）を休講とする。
（2） 前項に掲げる各路線及び小田急多摩線、ＪＲ南武線・中央線・山手線、多摩モノレールのいずれかの全部又は一部の運休など、通学に著しい支障をもたらす状況が生じている場合、若しくは生じることが予想される場合には、その都度休講等を決定する。

休講を決定する時刻

第1時限、第2時限については、午前6時までに決定する。
第3時限、第4時限（13:00～16:10）については、午前10時までに決定する。
第5時限、第6時限（16:20～19:30）については、午後1時までに決定する。

（3） 定期試験等についても、授業と同様の扱いとする。別途事後措置を行うことがある。
（4） 確認の方法
東京都立大学公式Twitter（https://twitter.com/TMU_PR）により、確認することができる。

Ⅵ　学生生活の手引き（博士前期課程用）

1　社会科学研究科・経営学研究科の学籍に関する事務は、文系学務課大学院担当が行う。

2　学生への連絡は掲示により行うので、日常丸の内サテライトキャンパスの掲示板、Campus Squareに充分注意すること。また、学内メールも随時必ず確認すること。

3　Webで成績等の確認をしたり、学内メールアドレスを使用する際にはパスワードが必要です。入学時に登録したパスワードを忘れないようにして下さい。

4　新学期用書類は、４月上旬の入学ガイダンスにて新入生に配布する。

5　授業料の納入期日は、前期分は５月中、後期分は 10 月中となっているので、この期間内に納入すること。

6　住所（本人または保証人）、本籍地、保証人等を変更した場合は速やかに丸の内サテライトキャンパス事務室窓口に届け出ること。

7　健康診断の受診については丸の内サテライトキャンパスの掲示板で周知する。

8　各種証明書の交付は、「証明書発行願」用紙により申請すること。発行は申し込みの原則として翌日となります。証明書の種類によっては発行までに数日かかる場合があります。
　なお、証明書等の受領時には、学生証を提出すること。

9　授業料の減免・分納の申請については、５月上旬と10月上旬、丸の内サテライトキャンパス事務室で受付ける。申請期間や申請方法は変更になることもあるので、掲示板や学生サポートセンターHPに注意すること。

10　奨学金については、学生サポートセンターHPを確認すること。

11　期の初日から休学を許可された場合は、授業料は免除される。ただし、復学した日の属するその期分の授業料は徴収する。

12　退学する場合は、その期分の授業料を納入していなければならない。

Ⅵ　学生生活の手引き（博士後期課程用）

1　社会科学研究科・経営学研究科の学籍に関する事務は、文系学務課大学院担当が行う。
　ただし、学籍以外の施設に関すること等（院生室の使用、備品の使用等）は、指導教員が所属する関連学部等が行うので十分に注意すること。

2　学生への連絡は掲示により行うので、日常インフォメーションギャラリーの社会科学研究科及び経営学研究科掲示板、Campus Square及びメールに充分注意すること。また、文系の事務室前にも簡易掲示板あり。

3　Webで成績等の確認をしたり、学内メールアドレスを使用する際にはパスワードが必要です。入学時に登録したパスワードを忘れないようにして下さい。

4　新学期用書類は、４月上旬（入学式以降の日）日時を決めて配布する。
　なお、この時同時に
　①日本学生支援機構の申請書類を配布する。
　②日本学術振興会特別研究員の募集予約を受付ける。

5　授業料の納入期日は、前期分は５月中、後期分は 10 月中となっているので、この期間内に納入すること。

6　住所（本人または保証人）、本籍地、保証人等を変更した場合は速やかに文系学務課に届け出ること。

7　毎年４月下旬に行われる健康診断は必ず受診すること。

8　各種証明書の交付は、「証明書発行願」用紙により申請すること。発行は申し込みの翌日の午後以降、英文の証明書は１週間後となるので余裕を見て申請すること。また、南大沢キャンパスの自動発行機が使用できる。
　なお、証明書等の受領時には、学生証を提出すること。

9　授業料の減免・分納の申請については、４月上旬と10月上旬、学生サポートセンターで受付ける。HPまたは掲示板に注意すること。

10　期の初日から休学を許可された場合は、授業料は免除される。ただし、復学した日の属するその期分の授業料は徴収する。

11　退学する場合は、その期分の授業料を納入していなければならない。

Ⅶ　東京都立大学学位規則（抜粋）

（目的）
第１条　この規則は、学位規則（昭和 28 年文部省令第 9 号）第13条第１項の規定に基づき、東京都立大学の学位に関する事項を定めることを目的とする。

（学位の種類）
第２条　授与する学位は、次のとおりとする。
（１）学士
（２）修士
（３）博士
（４）法務博士（専門職）
２　学士、修士及び博士の学位を授与するに当たっては、別表第１に定めるところにより、専攻分野の名称を付記するものとする。
（平17規則202・平19規則79・別表改正、平20規則78・一部改正・別表改正、平21規則49・平23規則27・別表改正）

（修士の学位授与要件）
第４条　東京都立大学大学院学則（平成17年度法人規則第49号。以下「大学院学則」という。）第35条第１項の規定により、博士前期課程を修了した者に対し、修士の学位を授与する。

（博士の学位授与要件）
第５条　大学院学則第35条第１項の規定により、博士後期課程を修了した者に対し、博士の学位を授与する。
２　大学院学則第35条第２項の規定により学位論文の審査及び試験に合格し、前項の博士後期課程を修了した者と同等以上の学力を試問によって確認された者に対し博士の学位を授与する。

（学位申請の方法、時期等）
第７条　学位申請の方法及び時期は、別表第２のとおりとする。

（修士の学位申請資格）
第８条　第４条の規定により修士の学位を得るため学位論文（特定の課題の研究成果を含む。以下同じ。）の審査を申請し得る者は、博士前期課程に在学し、既に所定の単位を修得した者又は学位論文審査終了までに所定の単位を修得し得ると認められたものに限る。

（博士の学位申請資格）
第９条　第５条第１項の規定により博士の学位を得るため学位論文審査を申請し得る者は、博士後期課程に在学し、既に所定の単位を修得した者又は学位論文審査終了までに所定の単位を修得し得ると認められたものに限る。ただし、第５条第２項の規定により学位の申請をする場合は、この限りでない。

（論文博士の申請等）
第10条　第５条第２項の規定により博士の学位を得るための申請をする者は、第７条で定める申請書類及び関連書類に学位論文審査手数料を添えて、第２条第２項に規定する専攻分野を指定し、当該研究科を経て、学長に申請する。
２　学位論文審査手数料の額、免除その他の事項は、別に定めるところによる。

（学位申請の受理）
第11条　第４条の規定により修士の学位を得るための申請及び第５条第１項の規定により博士の学位を得るための申請の受理は、関連研究科において行う。
２　第５条第２項の規定により博士の学位を得るための申請の受理は、研究科の教授会（以下「研究科教授会」という。）において審査可能な論文であるか否かを審査の上、受理又は不受理を決定する。
３　前項の規定により、受理を決定したときは、申請受理証を交付する。
４　学長は、前２項の規定により学位申請の受理を決定したときは、その学位の専攻分野に応じて当該研究科教授会に審査させる。

（学位論文）
第12条　学位論文は、主論文１編とする。ただし、参考論文を添付することができる。
２　論文の用語は、研究科教授会において定める。
３　一旦受理した学位論文は、いかなる事由があっても返付しない。

（審査会）
第13条　学位論文の審査は、研究教授会に審査会を設置し、その審査報告に基づいて決定する。
２　前項に定める学位論文の審査会は次のとおりに構成する。
（１）第８条及び第９条による学位論文については、指導教員を持って主査とし、当該研究科教授会を構成する教員の中から研究科教授会の推薦により学長の指名する２名以上の教員を加えたものとする。
（２）第10条の規定による学位論文については、当該研究科教授会を構成する教員の中から主査１名、委員２名以上により構成するものとし、研究科教授会の推薦により学長が指名する。
３　研究科教授会は必要と認めたときは、前項の規定にかかわらず他の研究科の教員又は他の大学院若しくは研究所等の教員等を審査委員に推薦することができる。

（審査期間）
第14条　第８条及び第９条による学位論文については在学中に提出させ審査を修了するものとする。
２　第10条の規定による学位論文の審査は、学位の授与の申請を受理した後１年以内に終了しなければならない。
３　特別の理由があるときは、前２項の規定にかかわらず、研究科教授会の議を経てその期間を延長することができる。

（試験）
第15条　審査会は、学位論文審査と同時に学位論文を中心として、その関連科目について最終試験又は試験を行う。
2　前項の最終試験又は試験は、口頭又は筆頭により行うものとする。

（試問）
第16条　第５条第２項の規定による試問は、口頭及び筆頭により行うものとする。
2　本学博士課程に１年以上在学し、所定の単位を修得した者が、退学後第５条第２項の規定により博士の学位を得るための申請をする場合は、当該各研究科であらかじめ定めるところにより、前項の試問を免除することができる。

（公聴会）
第17条　研究科教授会は、あらかじめ定めるところにより、最終試験又は試験の一部として、公開の発表会（以下「公聴会」という。）を開催し、学位論文提出者に公聴会での発表等を課すことができる。公聴会の実施に関する事項は、審査会で定める。

（研究科教授会への報告）
第18条　審査会は、審査終了後ただちにその結果を研究科教授会に報告しなければならない。
2　研究科教授会は、学位論文審査に必要なときは学位論文の副本、邦訳、模型又は標本等を提出させ、場合によっては、学位論文提出者に対し、当該学位論文について説明を求めることができる。

（合否の決定）
第19条　研究科教授会は、審査会の報告に基づいて無記名投票により学位論文及び最終試験等の合否を決定する。
2　前項の研究科教授会を開くためには、当該研究科教授会の３分の２以上の出席を要し、合格の決定をするには、出席者の３分の２以上の賛成を要する。ただし、公務のための欠席者は、前記の定数に参入しない。
第20条　前条の研究科教授会において合格と決定したときは、研究科長は学位論文に関する審査の要旨及び最終試験又は試験の成績を添えて学長に報告する。
2　第５条第２項の規定により学位の申請をする者については、試問の成績も添えなければならない。
3　不合格と決定したときも、また前項に準ずる。ただし、審査要旨の添付を要しない。

（学位の授与）
第21条　学長は、学部又は研究科の教授会の報告に基づいて、別記様式により、学位を授与するものとする。
2　学士の学位授与の時期は、３月とする。ただし、本学に４年以上在学し、教授会が特に必要と認めた者については、学位授与の時期を９月とすることができる。
3　修士の学位授与の時期は、３月及び９月の年２回とする。
4　博士の学位授与の時期は、そのつど定める。
5　法務博士（専門職）の学位授与の時期は、３月及び９月の年２回とする。
（平17規則202・平19規則79・平20規則78・別記様式改正、平21規則 49・一部改正・別記様式改正、平22規則15・別記様式改正）

（学位論文要旨の公表）

第22条　本学は、博士の学位を授与したときは、当該博士の学位を授与した日から３月以内に、その学位論文の内容の要旨及び学位論文審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表するものとし、その方法については、別に定める。

（平25規則５・一部改正）

（学位論文の公表）

第23条　博士の学位を授与された者は、授与された日から１年以内に、その学位論文の全文を公表しなければならない。ただし、学位を授与される前に既に公表したときは、この限りでない。

２　前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、当該研究科教授会の承認を得て、当該学位論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。この場合において、当該研究科は、当該学位論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

３　博士の学位を授与された者が行う前２項の規定のよる公表は、本学の協力を得て、インターネットの利用により行うものとし、その方法については、別に定める。

４　前３項の規定により学位授与以降に学位論文を公表する場合は、その学位論文に「東京都立大学審査学位論文（博士）」と明記しなければならない。

（学位の名称）

第24条　この規則の定めるところにより学位を授与された者が学位の名称を用いるときは、東京都立大学の名称を付記するものとする。

（学位の取消）

第25条　不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは、学長は当該研究科教授会の議に基づいて学位を取り消すことができる。

２　研究科教授会が前項の議決を行う場合は、出席者の４分の３以上の賛成を得なければならない。出席者数その他に関する事項は、第19条の規定を準用する。

別表第１（第２条関係）

社会科学研究科及び経営学研究科の学位の種類等

専　　攻	修士の学位の名称	博士の学位の名称
経　営　学　専　攻	修士（経営学）	博士（経営学）
	修士（経済学）＊	博士（経済学）＊
	修士（ファイナンス）＊２	

＊は2009年度入学者から
＊２は2016年度入学者から

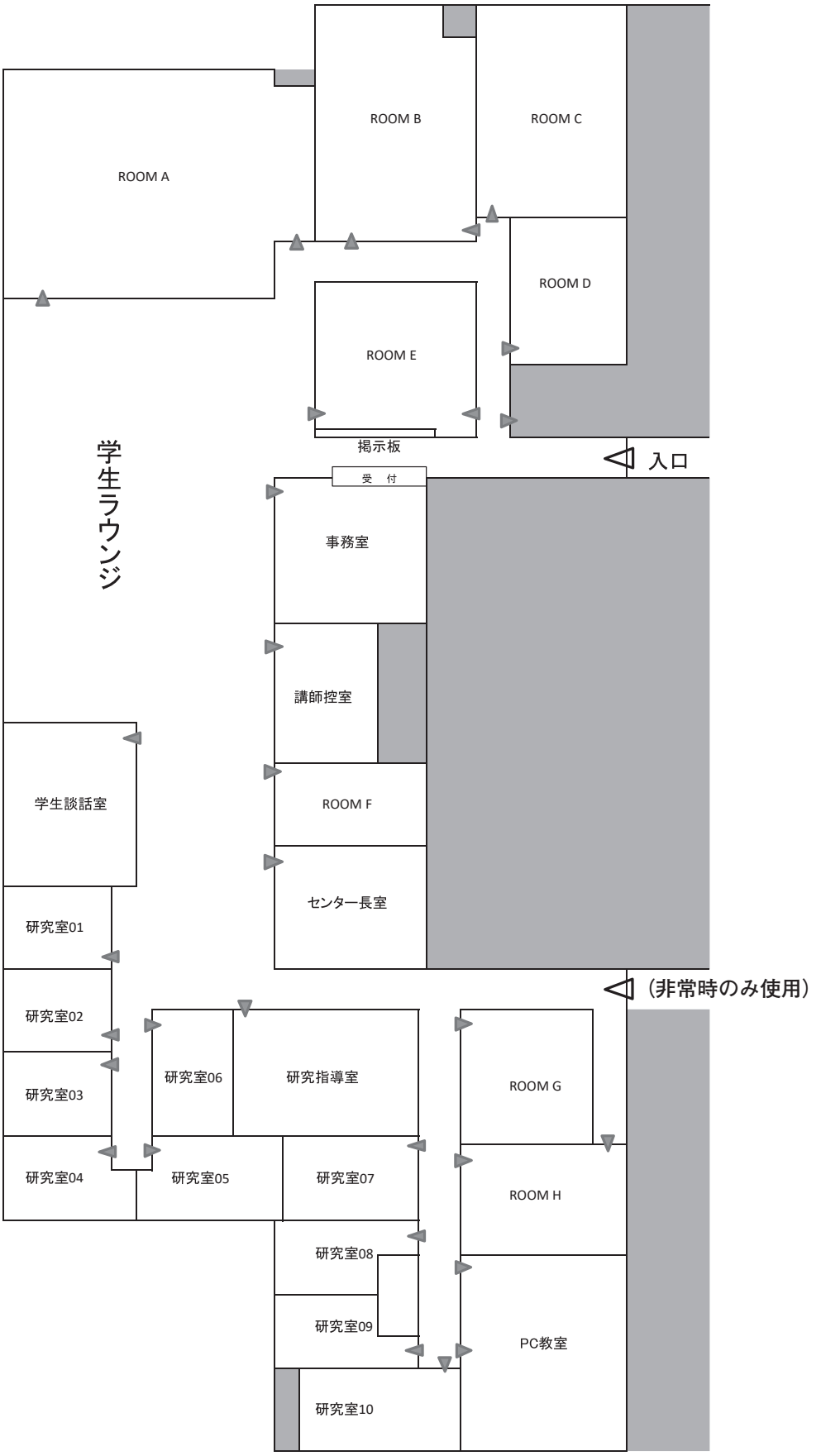
別表第２（第７条関係）

区　　分	申請日（原則として）	学位授与日	申請書類等	部数
第４条の規定による学位（修士） 博士前期課程に２年以上在学（見込）中で30単位以上修得（見込）の者	７月31日	９月30日	１　学位申請書 ２　学位論文 ３　学位論文要旨	１ ３ １
	１月10日	３月25日		
第５条第１項の規定による学位（課程による博士） 博士後期課程に３年以上在学（見込）中で20単位以上修得（見込）の者	４月30日	９月30日	１　学位申請書 ２　学位論文 ３　学位論文要旨 ４　研究業績一覧 ５　履歴書	１ ３ ３ ２ ２
	10月31日	３月25日		
第５条第２項の規定による学位（論文による博士）	４月末日 及び ８月末日	９月下旬 及び ２月下旬 （予定）	１　学位申請書 ２　学位論文 ３　学位論文要旨 ４　学位論文目録 ５　研究業績一覧 ６　履歴書 ７　住民票記載事項証明書	１ ３ ３ １ ２ ２ １

〔注記〕
①学位申請者は、指導教員との連絡を十分に行うこと。
②経営学専攻博士後期課程の学生で平成21年度以降の入学者は、学位申請に先行して博士候補者（candidate）資格の申請が必要となる。
③その他詳細は、文系学務課（大学院担当）に照会のこと。

Ⅷ　丸の内サテライトキャンパス平面図

（1）東京都立大学エリア（拡大図）



（２）丸の内永楽ビルディング18階（全体図）

2021年度
経営学研究科
社会科学研究科経営学専攻
授業概要・履修案内

2021年4月1日発行

発　行　　東京都立大学大学院経営学研究科
東京都八王子市南大沢一丁目1番地
〒192-0397　電話　042（677）2303

印　刷　　株式会社　サンニチ印刷
東京都渋谷区代々木2－10－8
〒151-0053　電話　042（567）6233

R80
古紙配合率80%再生紙を使用しています
石油系溶剤を含まないインキを使用しています